

せたな町 大成区

都 遺 跡

— 道道北檜山大成線(地交-68)工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成26年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 遺跡周辺の空中写真 昭和22年(1947)9月27日 米軍撮影



2 遺跡周辺の空中写真 平成5年(1993)7月14日 国土地理院撮影
(1・2は国土地理院発行のものを複製し加筆したものである)



1 遺跡遠景（南西から）



2 A・B地区全景（西から）



1 H-4 (南東から)



2 盛土遺構調査状況 (南から)



1 遺構出土の土器（縄文時代中期～後期前葉）



2 盛土遺構出土の土器（縄文時代後期前葉）

例 言

- 1 本書は、道道北檜山大成線（地交-68）工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成24年度にせたな町大成区で実施した都遺跡の埋蔵文化財発掘調査についての報告書である。
- 2 平成24年度の調査・整理は第1調査部第4調査課が、平成25年度・26年度の整理は第2調査部第2調査課が担当した。
- 3 本書の執筆は笠原 興・新家水奈・佐藤 剛が担当し、遺構調査担当者がそれぞれの遺構の事実記載を行った。土器の整理は笠原・佐藤、石器の整理は新家が担当した。文責は各項目文末に示した。本書の編集は笠原・新家が行った。
- 4 現場の写真は笠原・新家・佐藤が撮影し、遺物写真の撮影および写真版作成は第2調査部第2調査課中山昭大と第1調査部第1調査課吉田裕史洋が行った。
- 5 VI章の自然科学的分析は、放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所、テフラ分析・炭化材の樹種同定・プラントオパール分析・黒曜石製石器の産地推定を株式会社パレオ・ラボ、植物遺存体種実同定・動物遺存体同定をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
- 6 調査の実施にあたり、下記の諸機関・諸氏にご教示・ご協力いただいたことをここに記し、感謝申し上げます。

北海道渡島総合振興局
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
せたな町教育委員会 福土裕謙 辻 雄一 杉村輝明
南北海道考古学情報交換会
今金町教育委員会 寺崎康史 宮本雅通
厚沢部町教育委員会 石井淳平
乙部町教育委員会 藤田 巧
上ノ国町教育委員会 塚田直哉
八雲町郷土資料館 柴田信一
函館市教育委員会 野村祐一
七飯町教育委員会 山田 央
札幌市埋蔵文化財センター 榑田朋広
(順不同・敬称略)

記号等の説明

1 地区名称について

平成24年度の都遺跡の現地調査の便宜上、北側からA地区、B地区、C地区に分けて行った（図I-2）。このため本文中に地区名の呼称が出てくることもある。

2 遺構名について

遺構の名称表現には以下のアルファベットを使用したものと、日本語をそのまま名称としたものがある。

住居跡→H 住居にともなう柱穴・土坑→HP 住居に伴う焼土→HF 土坑→P 柱穴状小土坑→SP
焼土→F 配石・集石→S 石組炉→石組炉 遺物集中→遺物集中 盛土遺構→M

また、盛土遺構以外には、アルファベットと遺構番号との間にはハイフン「-」をいれ、発掘区（グリッド）名の表記と区別した。

3 遺構図等について

遺構平面図・断面図の縮尺はH-7が50分の1、その他の遺構は40分の1である。遺物出土状況図などの拡大図は20分の1である。図面にはそのつど縮尺を表すスケールを付した。

平面図の天方向は、N-50° -Eである。平面図にはそのつど北を示す方位印を付した。

遺構平面図中の「+」は、5m方格の大グリッドラインの交点で、傍らのアルファベット・アラビア数字が発掘区（グリッド）名である。

遺構平面図内の「・」付き小アラビア数字は、その地点の標高（m）を表す。

遺構図中の破線-----は、輪郭線がオーバーハングや他の遺構の下に隠れていることを表し、一点鎖線-----は調査区の境界線、視乱、風倒木等の範囲を示す。

遺構図中の遺物分布を示すシンボルマークは、土器を○●、剥片・剥片石器を△▲、礫・礫石器を□■、炭化物を*で示した。白抜きは床面や坑底面から出土したことを示す。断面図内の遺物掲載番号については土器がゴチック、石器は明朝数字で区別した。また、図中のPは土器を、Sは礫を表す。

4 遺物図について

遺物図の縮尺は、復元土器・拓影土器片・礫石器・軽石製品は3分の1、土製品・剥片石器・石斧・石製品・金属製品は2分の1である。図には全て縮尺のスケールを付した。また、版面の都合で4分の1で掲載した大型の礫もある。変則的なものについても随時スケールを入れている。

個々の遺物図右下のゴチックアラビア数字は掲載番号であり、本文中のアラビア数字と対応している。後続する小文字のアルファベットがある場合は、同一個体を示す。

土器の計測値は「口径×底径×高さ」、石器等は、「長さ（最大長）×幅（最大幅）×厚さ（最大厚）、重さ」を記した。欠損しているものは現存長の数値を（丸括弧）でくくった。

石器の実測図中で、たたき痕は∨_____∨、すり痕は|←_____→|で表した。

5 写真図版について

遺物写真中の遺物右下のゴチックアラビア数字は、遺物図の掲載番号を示す。遺物写真の縮尺は原則的に以下のとおりであるが、大型の遺物については任意で掲載したものもある。

土器 約1:3 剥片石器 約1:2 礫石器 約1:3 土製品・石斧・石製品 約1:2
金属製品 約1:2 古銭 約等倍 陶磁器 約1:2

目 次

口絵

例言・記号等の説明

目次

挿図目次・表目次・写真図版目次

I 緒言

- 1 調査要項 1
- 2 調査体制 1
- 3 調査にいたる経緯 1
- 4 調査結果の概要 2

II 遺跡の位置と環境

- 1 遺跡の位置と環境 7
- 2 周辺の遺跡 7

III 調査の方法

- 1 発掘調査の方法 13
 - (1) 発掘区の設定と座標値 13
 - (2) 土層の区分と基本層序 13
 - (3) 現地での掘削調査、記録等 14
- 2 整理の方法 17
- 3 遺物の分類 17
 - (1) 土器等 17
 - (2) 石器等 18
 - (3) 金属製品・陶磁器類・自然遺物 18

IV 遺構と遺構出土の遺物

- 1 概要 19
 - (1) 竪穴住居跡 20
 - (2) 土坑 24
 - (3) 柱穴状小土坑 32
 - (4) 石組炉 33
 - (5) 焼土 35
 - (6) 配石・集石 37
 - (7) 遺物集中 38
 - (8) 盛土遺構 38

- 2 遺構出土の遺物 80
 - (1) 土器等 80
 - (2) 石器等 90
- 3 盛土遺構出土の遺物 111
 - (1) 土器等 111
 - (2) 石器等 196

V 包含層出土の遺物

- 1 概要 223
- 2 包含層出土の遺物 223
 - (1) 土器等 223
 - (2) 石器等 226
 - (3) 金属製品、陶磁器類 229

VI 自然科学的分析等

- 1 都遺跡における放射性炭素年代
(AMS測定) 267
- 2 都遺跡のテフラ分析 271
- 3 都遺跡出土炭化材の樹種同定 277
- 4 都遺跡のプラント・オパール分析および
放射性炭素年代測定 280
- 5 都遺跡出土試料の炭化種実同定 286
- 6 都遺跡出土試料の動物遺存体同定 290
- 7 都遺跡出土黒曜石製石器の産地推定 294

VII まとめ 299

引用・参考文献 305

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

I 緒言

図 I-1 遺跡の位置と周辺の地形	4
図 I-2 遺跡周辺の現況図	5
図 I-3 遺構位置図	6

II 遺跡の位置と環境

図 II-1 遺跡周辺の旧地形図	9
図 II-2 「東西蝦夷山川地理取調図三」・「東西蝦夷山川地理取調図四」	10
図 II-3 大成区内の遺跡	11

III 調査の方法

図 III-1 発掘区の設定	13
図 III-2 基本土層模式図	14
図 III-3 断面観察位置図および IV層上面地形図	14
図 III-4 包含層および盛土遺構Aトレンチ (M1~M3) 土層断面図	15
図 III-5 盛土遺構Cトレンチ (M2・M4・M5) 土層断面図	16

IV 遺構と遺構出土の遺物

図 IV-1 遺構分布範囲図	40
図 IV-2 遺構位置図 45~62ライン	41
図 IV-3 遺構位置図 62~71ライン	42
図 IV-4 盛土範囲図	43
図 IV-5 H-1	44
図 IV-6 H-2	45
図 IV-7 H-3 (1)	46
図 IV-8 H-3 (2)	47
図 IV-9 H-4 (1)	48
図 IV-10 H-4 (2)	49
図 IV-11 H-5 (1)	50
図 IV-12 H-5 (2)	51
図 IV-13 H-6	52
図 IV-14 H-7 (1)	53
図 IV-15 H-7 (2)	54
図 IV-16 H-7 (3)	55

図 IV-17 H-8・9	56
図 IV-18 H-10	57
図 IV-19 H-11	58
図 IV-20 P-1~4	59
図 IV-21 P-5~8	60
図 IV-22 P-9~13	61
図 IV-23 P-14	62
図 IV-24 P-15~17	63
図 IV-25 P-18~20	64
図 IV-26 P-21~23	65
図 IV-27 P-24~26	66
図 IV-28 P-27~30	67
図 IV-29 P-31・32	68
図 IV-30 SP (1)	69
図 IV-31 SP (2)	70
図 IV-32 SP (3)	71
図 IV-33 石組炉1~3	72
図 IV-34 石組炉4~6	73
図 IV-35 石組炉7~9	74
図 IV-36 F-1~4	75
図 IV-37 F-5~8	76
図 IV-38 S-1~4	77
図 IV-39 遺物集中1・2	78
図 IV-40 遺物集中3	79
図 IV-41 遺構出土の土器 (1)	83
図 IV-42 遺構出土の土器 (2)	84
図 IV-43 遺構出土の土器 (3)	85
図 IV-44 遺構出土の土器 (4)	86
図 IV-45 遺構出土の土器 (5)	87
図 IV-46 遺構出土の土器 (6)	88
図 IV-47 遺構出土の土器 (7)	89
図 IV-48 遺構出土の石器 (1)	93
図 IV-49 遺構出土の石器 (2)	94
図 IV-50 遺構出土の石器 (3)	95
図 IV-51 遺構出土の石器 (4)	96
図 IV-52 遺構出土の石器 (5)	97
図 IV-53 遺構出土の石器 (6)	98
図 IV-54 遺構出土の石器 (7)	99

図IV-55	遺構出土の石器 (8) ……………	100	図IV-95	盛土出土の土器 (28) ……………	161
図IV-56	遺構出土の石器 (9) ……………	101	図IV-96	盛土出土の土器 (29) ……………	162
図IV-57	M2層出土地点計測掲載遺物…	123	図IV-97	盛土出土の土器 (30) ……………	163
図IV-58	M3層出土地点計測掲載遺物…	124	図IV-98	盛土出土の土器 (31) ……………	164
図IV-59	M4層出土地点計測掲載遺物…	125	図IV-99	盛土出土の土器 (32) ……………	165
図IV-60	M5層出土地点計測掲載遺物…	126	図IV-100	盛土出土の土器 (33) ……………	166
図IV-61	盛土遺物出土状況図 (1) ……………	127	図IV-101	盛土出土の土器 (34) ……………	167
図IV-62	盛土遺物出土状況図 (2) ……………	128	図IV-102	盛土出土の土器 (35) ……………	168
図IV-63	盛土出土層位別計測遺物(1)…	129	図IV-103	盛土出土の土器 (36) ……………	169
図IV-64	盛土出土層位別計測遺物(2)…	130	図IV-104	盛土出土の土器 (37) ……………	170
図IV-65	盛土出土層位別計測遺物(3)…	131	図IV-105	盛土出土の土器 (38) ……………	171
図IV-66	盛土出土層位別計測遺物(4)…	132	図IV-106	盛土出土の土器 (39) ……………	172
図IV-67	盛土出土層位別計測遺物(5)…	133	図IV-107	盛土出土の土器 (40) ……………	173
図IV-68	盛土出土の土器 (1) ……………	134	図IV-108	盛土出土の土器 (41) ……………	174
図IV-69	盛土出土の土器 (2) ……………	135	図IV-109	盛土出土の土器 (42) ……………	175
図IV-70	盛土出土の土器 (3) ……………	136	図IV-110	盛土出土の土器 (43) ……………	176
図IV-71	盛土出土の土器 (4) ……………	137	図IV-111	盛土出土の土器 (44) ……………	177
図IV-72	盛土出土の土器 (5) ……………	138	図IV-112	盛土出土の土器 (45) ……………	178
図IV-73	盛土出土の土器 (6) ……………	139	図IV-113	盛土出土の土器 (46) ……………	179
図IV-74	盛土出土の土器 (7) ……………	140	図IV-114	盛土出土の土器 (47) ……………	180
図IV-75	盛土出土の土器 (8) ……………	141	図IV-115	盛土出土の土器 (48) ……………	181
図IV-76	盛土出土の土器 (9) ……………	142	図IV-116	盛土出土の土器 (49) ……………	182
図IV-77	盛土出土の土器 (10) ……………	143	図IV-117	盛土出土の土器 (50) ……………	183
図IV-78	盛土出土の土器 (11) ……………	144	図IV-118	盛土出土の土器 (51) ……………	184
図IV-79	盛土出土の土器 (12) ……………	145	図IV-119	盛土出土の土器 (52) ……………	185
図IV-80	盛土出土の土器 (13) ……………	146	図IV-120	盛土出土の土器 (53) ……………	186
図IV-81	盛土出土の土器 (14) ……………	147	図IV-121	盛土出土の土器 (54) ……………	187
図IV-82	盛土出土の土器 (15) ……………	148	図IV-122	盛土出土の土器 (55) ……………	188
図IV-83	盛土出土の土器 (16) ……………	149	図IV-123	盛土出土の土器 (56) ……………	189
図IV-84	盛土出土の土器 (17) ……………	150	図IV-124	盛土出土の土器 (57) ……………	190
図IV-85	盛土出土の土器 (18) ……………	151	図IV-125	盛土出土の土製品 ……………	191
図IV-86	盛土出土の土器 (19) ……………	152	図IV-126	盛土層位別土器分布図(1) ……	192
図IV-87	盛土出土の土器 (20) ……………	153	図IV-127	盛土層位別土器分布図(2) ……	193
図IV-88	盛土出土の土器 (21) ……………	154	図IV-128	盛土層位別土器分布図(3) ……	194
図IV-89	盛土出土の土器 (22) ……………	155	図IV-129	盛土土器分布・エレベーション図	195
図IV-90	盛土出土の土器 (23) ……………	156			
図IV-91	盛土出土の土器 (24) ……………	157	図IV-130	盛土出土の石器 (1) ……………	198
図IV-92	盛土出土の土器 (25) ……………	158	図IV-131	盛土出土の石器 (2) ……………	199
図IV-93	盛土出土の土器 (26) ……………	159	図IV-132	盛土出土の石器 (3) ……………	200
図IV-94	盛土出土の土器 (27) ……………	160	図IV-133	盛土出土の石器 (4) ……………	201

図IV-134 盛土出土の石器 (5)	202
図IV-135 盛土出土の石器 (6)	203
図IV-136 盛土出土の石器 (7)	204
図IV-137 盛土層位別石器分布図	205
図IV-138 盛土器種別分布図	206

V 包含層出土の遺物

図V-1 包含層土器出土地点分布図(1)...	230
図V-2 包含層土器出土地点分布図(2)...	231
図V-3 包含層土器出土地点分布図(3)...	232
図V-4 包含層出土土器分布図 (1)	233
図V-5 包含層出土土器分布図 (2)	234
図V-6 包含層出土土器分布図 (3)	235
図V-7 包含層出土の土器 (1)	236
図V-8 包含層出土の土器 (2)	237
図V-9 包含層出土の土器 (3)	238
図V-10 包含層出土の土器 (4)	239
図V-11 包含層出土の土器 (5)	240
図V-12 包含層出土の土器 (6)・土製品	241
図V-13 包含層出土土器分布図 (1)	242
図V-14 包含層出土土器分布図 (2)	243
図V-15 包含層出土土器分布図 (3)	244
図V-16 包含層出土の石器 (1)	245
図V-17 包含層出土の石器 (2)	246
図V-18 包含層出土の石器 (3)	247
図V-19 包含層出土の石器 (4)	248
図V-20 包含層出土の石器 (5)	249
図V-21 包含層出土の石器 (6)	250
図V-22 包含層出土の石器 (7)	251
図V-23 包含層出土の石器 (8)	252

図V-24 包含層出土の石器 (9)	253
図V-25 包含層出土の石器 (10)	254
図V-26 包含層出土の石器 (11)	255
図V-27 包含層出土の石器 (12)	256
図V-28 包含層出土の石器 (13)	257
図V-29 包含層金属製品出土地点分布図	258
図V-30 包含層出土金属製品・陶磁器分布図	259
図V-31 包含層出土の金属製品	260

VI 自然科学的分析等

1-図1 暦年較正年代グラフ	270
1-図2 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図)	270
2-図1 4φ篩残渣中の火山ガラスの屈折率測 定結果	272
4 (1)-図1 都遺跡における植物珣酸体分布図	281
4 (2)-図1 暦年較正結果の分布	284
4 (2)-図2 暦年較正結果	285
4 (2)-図3 プラント・オパール、AMS試料 採取地点	285
7-図1 北日本の黒曜石原石採取地の分布図	296
7-図2 黒曜石産地推定判別図 (1)	298
7-図3 黒曜石産地推定判別図 (2)	298

VII まとめ

図VII-1 層位別文様構成図	302
図VII-2 竪穴住居跡変遷図	303

表 目 次

I 緒言

表I-1 検出遺構数一覧	3
表I-2 出土遺物点数一覧	3
表I-3 出土土器等一覧	3
表I-4 出土石器等一覧	3

II 遺跡の位置と環境

表II-1 せたな町大成区内の遺跡一覧	12
---------------------------	----

IV 遺構と遺構出土の遺物

表IV-1 検出遺構一覧	102
表IV-2 遺構別出土遺物点数一覧	105

表IV-3	遺構出土掲載土器一覧	108
表IV-4	遺構出土掲載石器一覧	110
表IV-5	盛土出土遺物点数一覧	207
表IV-6	盛土出土掲載土器一覧	208
表IV-7	盛土出土掲載土製品一覧	220
表IV-8	盛土出土掲載石器一覧	221

V 包含層出土の遺物

表V-1	包含層出土層位別遺物点数一覧	261
表V-2	包含層出土掲載土器一覧	261
表V-3	包含層出土掲載石器一覧	264
表V-4	包含層出土掲載金属製品一覧	266
表V-5	包含層出土掲載陶磁器一覧	266

VI 自然科学的分析等

1-表1・2	放射性炭素年代測定結果	269
2-表1	テフラ分析を行った試料	271
2-表2	テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果	272
2-表3	テフラの軽鉱物・重鉱物組成	272

2-表4	4φ篩残渣中の軽鉱物および重鉱物組成の割合	272
3-表1	都遺跡出土炭化材の樹種同定結果	277
4(1)-表1	分析試料一覧	280
4(1)-表2	試料1g当りのプラント・オパール個数	280
4(2)-表1	測定試料および処理	283
4(2)-表2	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	284
5-表1	都遺跡の種実同定結果	288
6-表1	都遺跡の骨同定結果	292
7-表1	分析対象となる黒曜石製石器	294
7-表2	北日本黒曜石産地の判別群	295
7-表3	測定値および産地推定結果	296

VII まとめ

表VII-1	都遺跡出土の剥片石器類石別点数一覧	304
--------	-------------------	-----

写真図版目次

口絵1

- 1 遺跡周辺の空中写真
- 2 遺跡周辺の空中写真

口絵2

- 1 遺跡遠景(南西から)
- 2 A・B地区全景(西から)

口絵3

- 1 H-4(南東から)
- 2 盛土遺構調査状況(南から)

口絵4

- 1 遺構出土の土器
(縄文時代中期～後期前葉)
- 2 盛土遺構出土の土器(縄文時代後期前葉)

VI章 自然科学的分析等

- 2-図版1 分析試料採取層断面写真
- 2-図版2 テフラ分析試料と顕微鏡写真

2-図版3 各テフラの偏光顕微鏡写真

3-図版1 都遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

4-図版1 都遺跡から産出した植物珪酸体

5-図版1 都遺跡の種実遺体

6-図版1 出土骨

7-図版1 黒曜石製石器原産地分析試料

図版1

- 1 II層上面検出状況(西から)
- 2 表土除去後、II層上面検出状況(東から)

図版2

- 1 西側調査状況(東から)
- 2 西側遺構検出状況(東から)

図版3

- 1 基本土層断面M47・48区(南東から)
- 2 H-1 北西～南東土層断面(南西から)

3 H-1 南北土層断面 (西から)

図版4

- 1 H-1 遺物出土状況 (南から)
- 2 H-1 床面検出状況 (南東から)

図版5

- 1 H-1HF-1 遺物出土状況 (西から)
- 2 H-1HF-1 土層断面 (北西から)
- 3 H-1HP-1 土層断面 (西から)
- 4 H-1HP-2・3 土層断面 (南から)
- 5 H-1HP-4 土層断面 (南西から)
- 6 H-1HP-5 土層断面 (南西から)
- 7 H-1HP-1~3 完掘 (南西から)
- 8 H-1HP-4・5 完掘 (南から)

図版6

- 1 H-1 完掘 (南西から)
- 2 H-2 南西~北東土層断面 (南東から)

図版7

- 1 H-2 北西~南東土層断面 (南西から)
- 2 H-2 床面遺物出土状況 (南西から)

図版8

- 1 H-2 床面検出 (南西から)
- 2 H-2 完掘 (西から)

図版9

- 1 H-3 北西~東南土層断面 (南西から)
- 2 H-3 東西土層断面 (南から)

図版10

- 1 H-3 床面遺物出土状況 (南から)
- 2 H-3 床面遺物出土状況 (南東から)
- 3 H-3 床面遺物出土状況 (南東から)
- 4 H-3 床面遺物出土状況 (南東から)
- 5 H-3HP-1 土層断面 (西から)

図版11

- 1 H-3 床面検出 (南東から)
- 2 H-3HF-1 土層断面 (南から)
- 3 H-3HF-2 土層断面 (南から)
- 4 H-3HP-2 土層断面 (南西から)
- 5 H-3HP-2 完掘 (西から)

図版12

- 1 H-3HP-4 土層断面 (西から)
- 2 H-3HP-5 土層断面 (南から)

3 H-3HP-6 土層断面 (南から)

4 H-3HP-3・4 完掘 (南から)

5 H-3 完掘 (北西から)

図版13

- 1 H-4 南西~北東土層断面 (南東から)
- 2 H-4 北西~南東土層断面 (南西から)

図版14

- 1 H-4 床面検出 (南東から)
- 2 H-4 石組炉検出 (HF-1) (南西から)
- 3 H-4 石組炉完掘 (HF-1) (南西から)
- 4 H-4 遺物出土状況 (東から)
- 5 H-4HP-1 完掘 (東から)

図版15

- 1 H-4HP-2 完掘 (南西から)
- 2 H-4HP-3 完掘 (東から)
- 3 H-4HP-4 完掘 (西から)
- 4 H-4HP-5 完掘 (南から)
- 5 H-4 完掘 (東から)

図版16

- 1 H-5 東西土層断面 (南から)
- 2 H-5 南北土層断面 (東から)

図版17

- 1 H-5 床面遺物出土状況 (南西から)
- 2 H-5HF-1 土層断面 (南から)
- 3 H-5HF-1 完掘 (南から)
- 4 H-5HP-1 完掘 (南から)
- 5 H-5HP-2 完掘 (南から)

図版18

- 1 H-5 完掘 (南から)
- 2 H-6 南東~北西土層断面 (南東から)

図版19

- 1 H-6 北西~南東土層断面 (南西から)
- 2 H-6 遺物出土状況 (西から)

図版20

- 1 H-6 完掘 (西から)
- 2 H-1~6 完掘状況 (南から)

図版21

- 1 H-7 南東~北西土層断面E67区 (南西から)
- 2 H-7 南東~北西土層断面E67区 (北東から)

図版22

1 H-7 遺物出土状況 (南西から)

2 H-7 遺物出土状況 (北東から)

図版23

1 H-7 石組炉検出 (西から)

2 H-7 石組炉土層断面 (西から)

3 H-7 石組炉完掘 (西から)

4 H-7HP-1 土層断面 (北西から)

5 H-7HP-2 土層断面 (南西から)

6 H-7HP-3 土層断面 (南から)

7 H-7HP-4 土層断面 (北西から)

8 H-7HP-5 土層断面 (西から)

図版24

1 H-7HP-6 土層断面 (北から)

2 H-7HP-7 土層断面 (南東から)

3 H-7HP-8 土層断面 (南西から)

4 H-8HF-1 土層断面 (西から)

5 H-8 検出・土層断面 (西から)

図版25

1 H-8 完掘 (北東から)

2 H-9 土層断面 (西から)

図版26

1 H-9 完掘 (北東から)

2 H-10 北東～南西土層断面 (南東から)

図版27

1 H-10 北西～南東土層断面 (南西から)

2 H-10 遺物出土状況 (南西から)

図版28

1 H-11 検出状況 (北から)

2 H-11 完掘 (北から)

図版29

1 P-1 検出 (西から)

2 P-1 土層断面 (北東から)

3 P-2 土層断面 (西から)

4 P-2 完掘 (南西から)

5 P-3 土層断面 (東から)

6 P-3 遺物出土状況 (南東から)

7 P-4 土層断面 (南東から)

8 P-4 遺物出土状況 (南東から)

図版30

1 P-5 土層断面 (南西から)

2 P-5 完掘 (北西から)

3 P-6 土層断面 (東から)

4 P-6 遺物出土状況 (南から)

5 P-7 土層断面 (北東から)

6 P-8 土層断面 (北から)

7 P-8 完掘 (北から)

8 P-9 土層断面 (東から)

図版31

1 P-9 完掘 (東から)

2 P-10 土層断面 (東から)

3 P-10 完掘 (南から)

4 P-11 土層断面 (南から)

5 P-11 完掘 (南から)

6 P-12 土層断面 (西から)

7 P-12 遺物出土状況 (東から)

8 P-12 完掘 (西から)

図版32

1 P-13 土層断面 (東から)

2 P-13 完掘 (西から)

3 P-14 土層断面 (東から)

4 P-14 遺物出土状況 (東から)

5 P-15 土層断面 (南西から)

6 P-15 遺物出土状況 (西から)

図版33

1 P-16 土層断面 (西から)

2 P-16 完掘 (南東から)

3 P-17 遺物出土状況 (東から)

4 P-17 土層断面 (北東から)

5 P-17 遺物出土状況 (南から)

6 P-18 土層断面 (西から)

7 P-18 完掘 (東から)

8 P-19 土層断面 (東から)

図版34

1 P-19 遺物出土状況 (南から)

2 P-20 土層断面 (南西から)

3 P-20 遺物出土状況 (南西から)

4 P-21 完掘 (北西から)

5 P-22 土層断面 (北西から)

6 P-22 遺物出土状況 (南から)

7 P-22 完掘 (東から)

8 P-23 土層断面 (南から)

図版35

- 1 P-23 完掘 (南から)
- 2 P-24 土層断面 (西から)
- 3 P-24 完掘 (南西から)
- 4 P-25 完掘 (東から)
- 5 P-26 土層断面 (南東から)
- 6 P-26 遺物出土状況 (南から)
- 7 P-27 土層断面 (南から)
- 8 P-27 完掘 (南西から)

図版36

- 1 P-28 土層断面 (南西から)
- 2 P-28 遺物出土状況 (東から)
- 3 P-29 土層断面 (北西から)
- 4 P-29 遺物出土状況 (北西から)
- 5 P-30 土層断面 (北西から)
- 6 P-30 遺物出土状況 (1) (東から)

図版37

- 1 P-30 遺物出土状況 (2) (東から)
- 2 P-31 完掘 (南から)
- 3 P-32 土層断面 (南西から)
- 4 P-32 遺物出土状況 (北東から)
- 5 P-32 完掘 (南東から)
- 6 SP-1 検出 (北西から)
- 7 SP-1 土層断面 (西から)
- 8 SP-2 検出 (西から)

図版38

- 1 SP-3 土層断面 (南西から)
- 2 SP-4 遺物出土状況 (西から)
- 3 SP-5 土層断面 (南西から)
- 4 SP-6 土層断面 (南西から)
- 5 SP-7 土層断面 (南西から)
- 6 SP-8 土層断面 (南西から)
- 7 SP-9 土層断面 (北西から)
- 8 SP-10 土層断面 (南から)
- 9 SP-12 土層断面 (東から)
- 10 SP-13 土層断面 (南西から)
- 11 SP-14 土層断面 (南西から)
- 12 SP-15 土層断面 (南西から)

図版39

- 1 SP-17 土層断面 (西から)
- 2 SP-18 土層断面 (南西から)
- 3 SP-20 土層断面 (西から)
- 4 SP-21 土層断面 (南西から)
- 5 SP-22 土層断面 (東から)
- 6 SP-23 土層断面 (西から)
- 7 SP-24 土層断面 (南西から)
- 8 SP-25 土層断面 (南西から)
- 9 SP-26 土層断面 (東から)
- 10 SP-27 土層断面 (南西から)
- 11 SP-28 土層断面 (西から)
- 12 SP-29 土層断面 (南から)

図版40

- 1 SP-30 土層断面 (南から)
- 2 SP-31 土層断面 (西から)
- 3 SP-32 土層断面 (北から)
- 4 SP-33 土層断面 (南西から)
- 5 SP-34 土層断面 (南西から)
- 6 SP-35 土層断面 (南東から)
- 7 SP-36 土層断面 (西から)
- 8 SP-37 土層断面 (南から)
- 9 SP-38 土層断面 (西から)
- 10 SP-38 完掘 (東から)
- 11 SP-39 土層断面 (南西から)
- 12 SP-40 土層断面 (西から)

図版41

- 1 SP-41 土層断面 (南西から)
- 2 SP-42 土層断面 (南西から)
- 3 SP-43 土層断面 (北東から)
- 4 SP-44 土層断面 (北から)
- 5 SP-45 土層断面 (南西から)
- 6 SP-47 土層断面 (南西から)
- 7 SP-48 土層断面 (西から)
- 8 SP-49 土層断面 (東から)
- 9 SP-50 完掘 (南西から)
- 10 SP-51 土層断面 (北から)
- 11 SP-53 土層断面 (南西から)
- 12 SP-54 土層断面 (南から)

図版42

- 1 SP-55 土層断面 (南東から)

- 2 SP-56 土層断面 (東から)
- 3 SP-57 土層断面 (東から)
- 4 石組炉1 土層断面 (南東から)
- 5 石組炉1 完掘 (南から)
- 6 石組炉2 検出 (南東から)
- 7 石組炉3 検出 (西から)
- 8 石組炉3 土層断面 (西から)
- 9 石組炉4 土層断面 (西から)

図版43

- 1 石組炉4 完掘 (北西から)
- 2 石組炉5 完掘 (南西から)
- 3 石組炉6 土層断面 (南西から)
- 4 石組炉6 完掘 (南西から)
- 5 石組炉6 外焼土検出 (南西から)
- 6 石組炉6 外焼土遺物出土状況 (東から)
- 7 石組炉7 遺物出土状況 (西から)
- 8 石組炉8 検出 (西から)

図版44

- 1 石組炉8 土層断面 (西から)
- 2 石組炉8 外焼土検出 (南から)
- 3 石組炉8 完掘 (南西から)
- 4 石組炉9 土層断面 (南西から)
- 5 石組炉9 焼土検出 (南西から)
- 6 F-1 検出 (東から)
- 7 F-2 土層断面 (東から)
- 8 F-3 土層断面 (東から)

図版45

- 1 F-4 検出 (南から)
- 2 F-5 検出 (南から)
- 3 F-6 土層断面 (南から)
- 4 F-7 土層断面 (北から)
- 5 F-8 土層断面 (南から)
- 6 S-1 検出 (南西から)
- 7 S-2 検出 (南から)
- 8 S-3 検出 (南西から)

図版46

- 1 S-3 土層断面 (西から)
- 2 S-4 検出 (西から)
- 3 遺物集中1 検出 (西から)
- 4 遺物集中3 検出 (北から)

- 5 A・B地区完掘 (西から)

図版47

- 1 C地区表土除去後Ⅱ層上面 (南西から)
- 2 盛土調査状況 (南西から)

図版48

- 1 盛土F~H66区 遺物出土状況 (南から)
- 2 盛土G・H67区 遺物出土状況 (南西から)

図版49

- 1 盛土G・H67区 調査状況 (北から)
- 2 盛土G・H67区 調査状況 (北西から)

図版50

- 1 盛土BトレンチG・H67区 遺物出土状況 (北から)
- 2 盛土D68・69区 遺物出土状況 (北西から)

図版51

- 1 盛土CトレンチF・G65区土層断面 (東から)
- 2 盛土BトレンチF~H67区土層断面 (北から)
- 3 盛土BトレンチF・G67区土層断面 (南西から)

図版52

- 1 E69区 盛土Aトレンチ土層断面 (南西から)
- 2 E69・F70区 盛土Aトレンチ土層断面 (西から)
- 3 F70区 盛土Aトレンチ土層断面 (西から)

図版53

- 1 盛土E68区 遺物出土状況 (1) (北から)
- 2 盛土E68区 遺物出土状況 (2) (北から)
- 3 M3層No.158遺物出土状況 (南西から)
- 4 盛土調査状況 (北西から)

図版54

- 1 M3層No.78 遺物出土状況 (北から)
- 2 M3層No.166 遺物出土状況 (南から)
- 3 M3層No.126・130 遺物出土状況 (西から)
- 4 M3層No.191 遺物出土状況 (西から)
- 5 M3層No.131 遺物出土状況 (南から)
- 6 M3層No.262 遺物出土状況 (西から)
- 7 M3層No.210 遺物出土状況 (西から)
- 8 M3層No.77 遺物出土状況 (北西から)

図版55

- 1 M3層No.261 遺物出土状況 (南から)
- 2 M3層 礎出土状況 (南から)

- 3 M3層 遺物出土状況 (南から)
 4 D69区 M3層遺物出土状況 (西から)
 5 M5層 No.141・145遺物出土状況 (南東から)
- 図版56
 1 A・B地区 完掘 (南東から)
 2 C地区 盛土下完掘 (北から)
- 図版57 H-1～4出土の土器
 図版58 H-5・7出土の土器 (1)
 図版59 H-7出土の土器 (2)～(4)
 P-12・14出土の土器
- 図版60 P-17・19・20・29・30出土の土器
 SP-47出土の土製品
- 図版61 石組炉1・3・7・9出土の土器
 S-3、F-2・4出土の土器
 遺物集中3出土の土器
- 図版62 H-1～4出土の石器
 図版63 H-5・7・9・11、
 SP-16出土の石器
- 図版64 P-9・14、S-3出土の石器
 石組炉1・2、遺物集中3出土の石器
- 図版65 SP出土の鏝 (1)
 図版66 SP出土の鏝 (2)
- 図版67 盛土 (M1) 層出土の土器 (1)
 図版68 盛土 (M1) 層出土の土器 (2)
 図版69 盛土 (M2) 層出土の土器 (1)
 図版70 盛土 (M2) 層出土の土器 (2)
 図版71 盛土 (M2) 層出土の土器 (3)
 図版72 盛土 (M2) 層出土の土器 (4)
 図版73 盛土 (M2) 層出土の土器 (5)
 図版74 盛土 (M3) 層出土の土器 (1)
 図版75 盛土 (M3) 層出土の土器 (2)
 図版76 盛土 (M3) 層出土の土器 (3)
 図版77 盛土 (M3) 層出土の土器 (4)
 図版78 盛土 (M3) 層出土の土器 (5)
 図版79 盛土 (M3) 層出土の土器 (6)
 図版80 盛土 (M3) 層出土の土器 (7)
 図版81 盛土 (M3) 層出土の土器 (8)
 図版82 盛土 (M3) 層出土の土器 (9)
- 図版83 盛土 (M3) 層出土の土器 (10)
 図版84 盛土 (M3) 層出土の土器 (11)
 図版85 盛土 (M3) 層出土の土器 (12)
 図版86 盛土 (M3) 層出土の土器 (13)
 図版87 盛土 (M3) 層出土の土器 (14)
 図版88 盛土 (M3) 層出土の土器 (15)
 図版89 盛土 (M3) 層出土の土器 (16)
 図版90 盛土 (M3) 層出土の土器 (17)
 図版91 盛土 (M4) 層出土の土器 (1)
 図版92 盛土 (M4) 層出土の土器 (2)
 図版93 盛土 (M4) 層出土の土器 (3)
 図版94 盛土 (M4) 層 (4)、盛土 (M5)
 層出土の土器 (1)
 図版95 盛土 (M5) 層出土の土器 (2)
 図版96 盛土 (M5) 層出土の土器 (3)
 図版97 盛土 (M5) 層出土の土器 (4)
 図版98 盛土 (M5) 層出土の土器 (5)
 図版99 盛土 (M5) 層出土の土器 (6)
 図版100 盛土 (M5) 層出土の土器 (7)
 図版101 盛土 (M5) 層出土の土器 (8)
 図版102 盛土 (M5) 層出土の土器 (9)
 図版103 盛土 (M5) 層出土の土器 (10)
 図版104 盛土 (M5) 層出土の土器 (11)
 図版105 盛土 (M5) 層出土の土器 (12)
 図版106 盛土 (M5) 層出土の土器 (13)
 盛土層出土の土製品
- 図版107 盛土 (M1～3) 層出土の石器
 図版108 盛土 (M3～5) 層出土の石器
 図版109 包含層出土の土器 (1)
 図版110 包含層出土の土器 (2)
 図版111 包含層出土の土器 (3)
 図版112 包含層出土の土器 (4)・土製品
 図版113 包含層出土の石器 (1)
 図版114 包含層出土の石器 (2)
 図版115 包含層出土の石器 (3)
 図版116 包含層出土の石器 (4)
 図版117 包含層出土の金属製品・陶磁器

I 緒言

1 調査要項

事業名	道道北檜山大成線（地交－68）工事埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	北海道渡島総合振興局
事業受託者	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	都遺跡（北海道教育委員会登録番号：C－06－10）
所在地	久遠郡せたな町大成区上浦175－3番地外
調査期間	平成24年5月18日～平成25年3月29日（現地調査期間 平成24年7月5日～11月9日） 平成25年6月20日～平成26年3月31日（現地整理期間 平成25年8月1日～10月25日） 平成26年6月20日～平成27年3月31日
調査面積	2,895㎡

2 調査体制

平成24年度

理事長 坂本 均	第1調査部 部長 千葉 英一
副理事長 畑 宏明	第4調査課 課長 笠原 興（発掘担当者）
専務理事・事務局長 中田 仁（兼務）	主査 新家 水奈（発掘担当者）
常務理事 千葉 英一（第1調査部長兼務）	主査 佐藤 剛（発掘担当者）

平成25年度

理事長 坂本 均	第2調査部 部長 三浦 正人
副理事長 畑 宏明	第2調査課 課長 笠原 興（発掘担当者）
専務理事・事務局長 中田 仁（兼務）	主査 新家 水奈（発掘担当者）
常務理事 千葉 英一（第1調査部長兼務）	

平成26年度

理事長 坂本 均	第2調査部 部長 三浦 正人
副理事長 畑 宏明（平成26年8月28日死去）	第2調査課 課長 笠原 興（発掘担当者）
専務理事・事務局長 中田 仁（兼務）	主査 新家 水奈（発掘担当者）
常務理事 千葉 英一（第1調査部長兼務）	

3 調査にいたる経緯

平成23年7月15日に渡島総合振興局長から、北海道教育委員会教育長あてに「北檜山大成線交付金B（地方道）事業」に伴う埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。事業名は平成25年6月7日付「道道北檜山大成線（A地－307）工事埋蔵文化財発掘調査」となり、平成26年6月19日付「道道北檜山大成線（地交－68）工事埋蔵文化財発掘調査」に改称された。

この事業は、せたな町北檜山区から大成区へ至る延長約34kmの道路のうち、日本海側で道内唯一の不通行区間である9.6kmについて、通行不能区間の解消等を目的とした道路新設工事である。また、この路線を整備することにより、北檜山区と大成区を結ぶ物流効率化の促進や地域間交流の活性化、災害に伴う孤立地域の解消のほか、代替路線としての役割も担っている。この計画を受けた北海道教育委員会は、工事区

域内に関わる埋蔵文化財包蔵地の保護に関する協議を行い、同年7月に表面踏査を実施した。工事区間には、周知の埋蔵文化財の包蔵地である「都遺跡」と「上浦A遺跡」があり、試掘調査を実施して取扱いを判断する必要があると判断された。その後、同年10月に調査面積1,345haに亘って試掘調査による埋蔵文化財包蔵地の所在確認調査が実施された。その結果、両遺跡共に遺物包含層が良好に残されていることがわかり、縄文時代中期末から後期前葉にかけての時期の遺物が出土した。

この試掘調査の結果に基づき、包蔵地については現状保存が原則であるが、工事計画の変更が困難な場合は記録保存を目的とした発掘調査が必要であると、渡島総合振興局長に伝えられた。

これを受けた渡島総合振興局は工事計画の変更は不可能であると判断し、平成24年度に「都遺跡」についての発掘調査を公益財団法人北海道埋蔵文化財センターに委託した。当センターはこの事業を受諾、調査面積2,850㎡について調査計画を立案し同年発掘調査に着手した。調査着手後、遺跡に隣接する「上浦神社」取り付け道路部分の線形変更が生じ、調査面積が増となり発掘調査面積が2,895㎡となった。なお、上浦A遺跡の7,230㎡と都遺跡の用地取得未了部分55㎡については、平成28年度に調査を行う事が計画されている。(笠原)

4 調査結果の概要

遺跡はせたと町大成区の市街地から北西側に約0.7km、日本海に注ぐ笠島の沢川左岸海成段丘上の標高約27～30mに立地している。

検出した遺構は竪穴住居跡11軒、土坑32基、柱穴様の小土坑57基、石組炉跡9か所、焼土跡8か所、配石・集石4か所、遺物集中3か所、盛土遺構が1か所である。

遺構、包含層から出土した遺物の合計は237,007点を数え、内訳は土器等が83,198点、石器等153,544点である。時期は縄文時代中期中葉から後期前葉にかけてのものが多く、Ⅰ群b類やⅡ群A類、Ⅴ群c類、Ⅶ群土器も僅かに包含層から出土している。

竪穴住居跡は調査区の北西から北東側にかけて分布し、沢地形に沿って立地している。調査区の中央から西側では住居跡が密に分布しているが、切り合い関係はない。

住居跡の平面形は卵形や多角形、隅丸長方形のもの等がある。住居に伴う付属施設では炉跡や柱穴が検出されている。炉跡は住居の中央から片寄るものがあり、地床炉が認められるものはH-1・2・3・5・6・8と石組炉をもつものにH-4・7がある。また、盛土遺構を掘り込んで構築したH-7や、盛土層の下位から検出したものにH-11がある。土坑はほとんどが調査区の西側（A地区）に位置している。土坑の覆土中や坑底からは、小礫や中礫が出土するものが多い。このうちP-21を切って構築されていたP-14の覆土中から、長さ約86cm、重さ約93kgを量る大型の礫が出土した。また、K60区で検出したP-30の坑底からは、Ⅲ群a類の土器が潰れた状態で出土した。坑底から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った結果、4,480±30yrBPという年代値が得られている（Ⅵ章-1）。57基検出した柱穴様小土坑は、調査区北東側の盛土遺構北側に分布している。土坑内には長径が約0.5～2cm程度の小礫が多量に含まれていた。石組炉や焼土、遺物の集中は調査区中央（B地区）に多く、盛土遺構内にも分布している。

盛土遺構は調査区の東側（C地区）に位置する。笠島の沢川に面して立地する竪穴式住居跡の外側に沿って、調査区域外にかけて帯状に分布していると考えられる。盛土は土性や分布範囲の違いなどの特徴から、M1層からM5層に分けて調査を行った。暗褐色系壤土の上層（M1・M2・M4層）と黒褐色系壤土の下層（M3・M5層）で形成されている人為堆積層である。

今回盛土を調査した範囲からは、食物残渣などの有機質廃棄物は出土していない。盛土の形成は、土器や石器、調査区西側で検出した住居や土坑などの構築の際に起因する削土や排土等で、これらを日常

的に廃棄し続けた結果、集積された堆積層であると考えられる。盛土遺構からは99,316点の遺物が出土した。内訳は土器が63,115点、石器等が36,201点である。土器は縄文時代後期前葉の涌元式やトリサキ式、大津式期までのものが主体で、白坂3式期以降のものは出土していない。石器では石鏃や扁平打製石器、台石・石皿が多く出土している。剥片石器に用いられている石材は頁岩が多く、黒曜石も渡島・檜山地域の中では比較的多く出土し、道東を原産地としたものも含まれていた (VI章-7)。(笠原)

表 I-1 検出遺構数一覧

遺構名	住居跡(H)	土坑(P)	小土坑(SP)	石組炉	焼土(F)	配石・集石(S)	遺物集中	盛土	時代・時期
検出数	11	32	57	9	8	4	3	1	縄文時代中期前葉 ～後期前葉

表 I-2 出土遺物点数一覧

	土器・土製品	石器	その他	計
遺構(盛土除く)	3,436	69,813	9	73,258
盛土	63,115	36,201		99,316
包含層	16,647	47,530	256	64,433
計	83,198	153,544	265	237,007

表 I-3 出土土器等一覧

分類	I b	II a	III a	III b	IV a	V c	VI	土製品	金属製品	陶磁器	骨・貝	ガラス製品	計
遺構(盛土除く)			81	86	3,233			36			9		3,445
盛土			7	20	62,799			289					63,115
包含層	280	3	169	14	16,108	23	12	38	22	232	1	1	16,903
計	280	3	257	120	82,140	23	12	363	22	232	10	1	83,463

表 I-4 出土石器等一覧

分類 層位	石器																	石器 計						
	石 鏃	石 槍・ ナイフ 類	石 つまみ 付きナイフ	ス タ ク レ イ バ ー	両 面 調 整 石 器	ヘ ラ 状 石 器	石 核	R 剥 片	U 剥 片	剥 片	石 斧	た り 切 り 残 片	す た り 石	扁 平 打 製 石 器	石 鐘	石 錐	石 皿		台 石	加 工 痕 の あ る 礫	礫 片	石 製 品		
遺構 (盛土除く)	12	16	1	6	14	6	5	9	12	479	7	12	15	3	6	6	14	20	3	1	69,163	3	69,813	
盛土	39	9	4	7	20	15	3	2	23	7	5,623	54	1	53	23	5	1	3	159	7	13	30,126	4	36,201
包含層	53	28	2	21	64	10	6	6	36	61	2,842	24		86	61	47	11	35	54	12	25	44,026	8	47,530
計	104	53	7	34	98	31	9	13	68	80	8,944	85	1	151	99	55	18	44	227	29	28	143,315	15	153,544

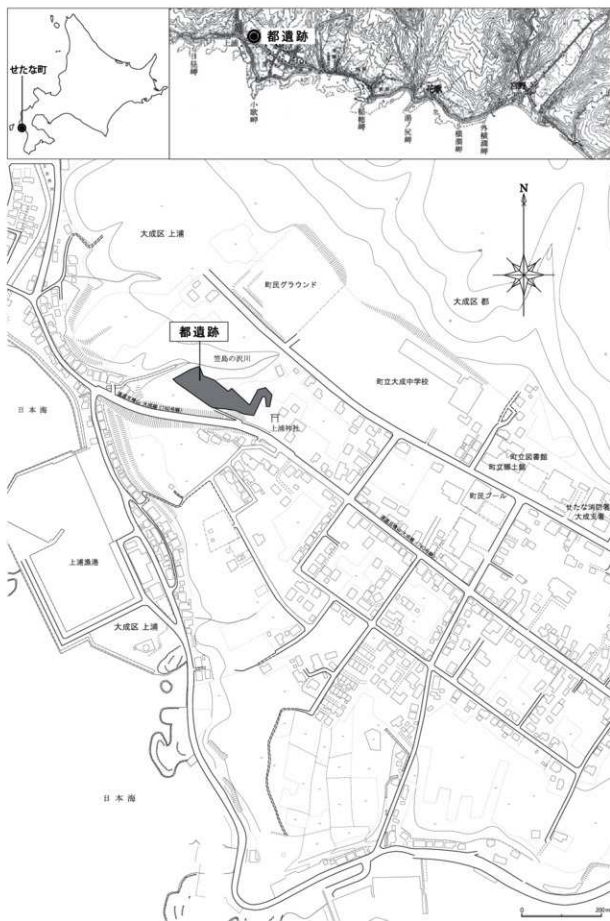


図 1-1 遺跡の位置と周辺の地形

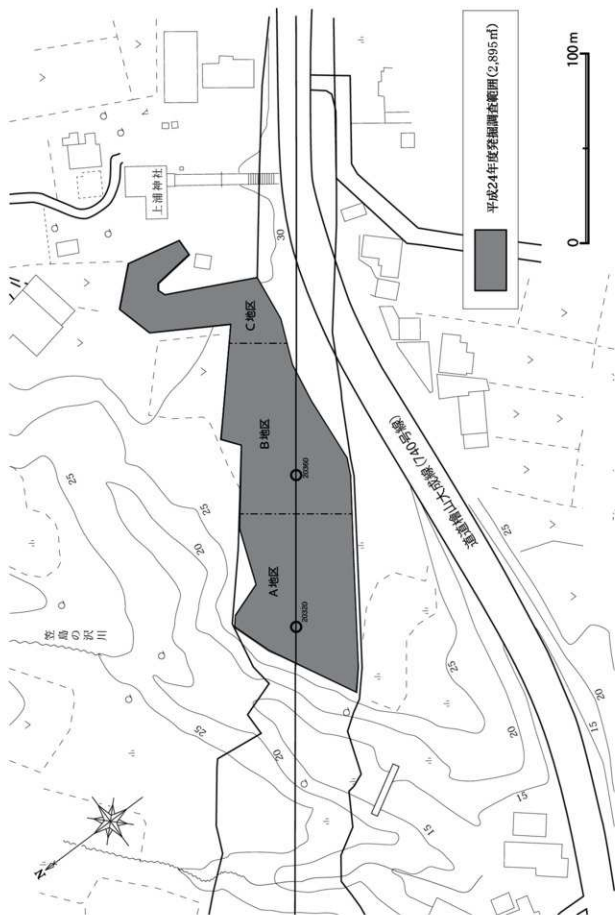


図1-2 遺跡周辺の現況図

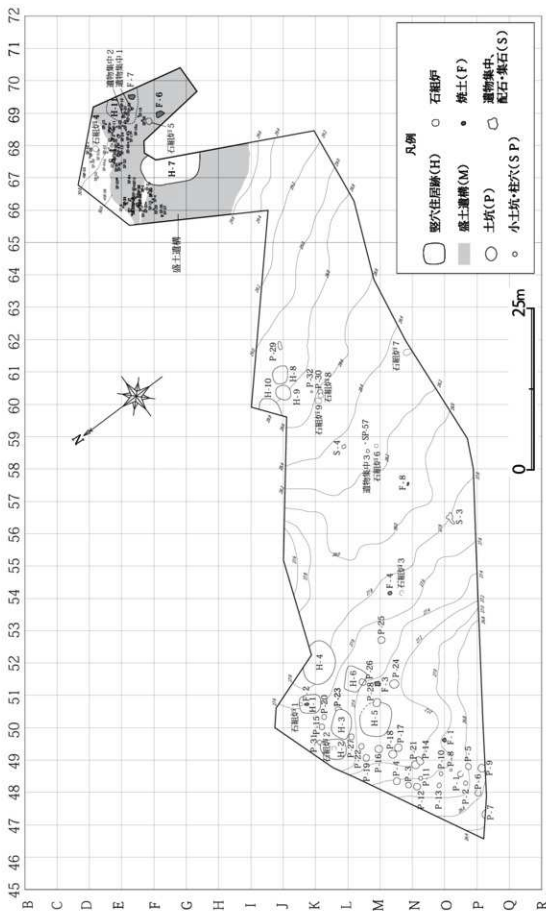


図 I-3 遺構位置図

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と環境

せたな町は、北海道の南西部、日本海に面した檜山振興局管内の中央から北部に位置している。

平成17(2005)年3月1日に、旧瀬棚郡瀬棚町、旧瀬棚郡北檜山町、旧久遠郡大成町の3町が合併してせたな町が誕生した。旧瀬棚郡北檜山町に行政の中心がおかれ、瀬棚郡瀬棚町が町名を、久遠郡大成町が郡名を引き継いだ。これにより久遠郡は、合併後も久遠郡せたな町として残され、合併によって範囲が拡大し、町の総面積は約638.7km²となった。

せたな町の北は島牧村、東は今金町、南は八雲町に接し、日本海を隔てた対岸27kmには、奥尻島が相対している。町域の中央部には清流で名高い一級河川の後志利別川が流れ、北部には道南の最高峰である狩場山(1,520m)など1,000m級の山々が連なり、さらに南部には遊楽部岳や白水岳なども望むことができる。狩場山から日本海側にかけは、狩場茂津多道立自然公園があり、南部の海岸線の一部も檜山道立自然公園に指定されているなどの自然環境を有している。

地名「久遠」はアイヌ語の(クンルー)(岬端常に崩壊して通路危険なる)が由来のようである(永田1984)。また、「大成」は、昭和30(1955)年に久遠村と貝取調村が合併した際に発展を願ひ命名された。遺跡の所在する「都」も行政字名と考えられるが、昭和15年9月15日に改称された「字名の沿革」を見ると、都は上古丹村から久遠村の一部でそれまでは「宮古町」と表記されていた(大成町の歩み1977)。現在の都地区は、本陣川左岸から上古丹川までの間で、背後には三角山が控える大成区の中心街で官庁所在地でもある。明治12(1879)年、「北海道郡区町村編制法」が公布され、函館管内の寿都・久遠・江差・森・亀田・福山に郡役所が設置されると、久遠、奥尻、太櫛、瀬棚の四郡区役所が久遠の一級調村(現在の大成区本陣)に置かれた。これは当時久遠郡が他の三郡よりも函館からの利便性がよく、漁獲量も多く、居住者も多数であったことがあげられる。その後、明治23(1890)年に宮古町(現都)に郡役所が移転するものの、翌明治24年には久遠郡外三郡区役所は檜山爾志郡役所に合併されるという経緯がある(大成町史1984)。

都遺跡は小歌ノ岬の北、市街地からは北西側に約0.7km、日本海に注ぐ笠島の沢川左岸海成段丘上の標高約27~30mに立地している。この辺りの海岸域には、立石と呼ばれる基盤岩から成る破砕溶岩流堆積物の岩塊が点在し、段丘面には急峻な崖が形成され、洞窟遺跡や岩陰遺跡も点在している。これは黒松内から函館に至る北海道の南西部が、新第三紀前期中新世以降の海底火山活動によって形成されたため、火山岩や火山砕石岩が広く分布する地域である。

図II-2「東西蝦夷山川地理取調図」で示した遺跡周辺の海岸域を見ると、「立石」や「テレケウシナイ」などの表記がある。「テレケウシ」はアイヌ語で「川幅が狭くなっていつも対岸へ飛び越えた所」、または「海岸の岩を跳ね超えて通った所」(山田1988)等の意味があり、奇岩や岩礁が連なる海岸線の様子をよく表している。(笠原)

2 周辺の遺跡

せたな町大成区の遺跡についてその分布を図II-1、表II-1に示した()内の数字は遺跡登録番号である。大成区には現在29か所の遺跡が北海道教育委員会(以下道教委)に登録されている。遺跡は、



郡役所跡の碑
(現 大成区郷土資料館)

日本海に面した海岸段丘上に分布しているものが多いが、急峻な崖面に点在する洞窟や岩陰を利用したものもある。積丹半島を含めた北海道の南西部には37か所の洞窟遺跡や岩陰遺跡が確認されている。大成区に所在する洞窟遺跡には貝取潤洞窟遺跡(2)、ツラツラ洞窟遺跡(23)、湯の尻洞窟遺跡(24)、長磯洞窟遺跡(28)、貝取潤2洞窟遺跡(29)がある。また、岩陰遺跡には貝取潤岩陰遺跡(26)、貝取潤2岩陰遺跡(27)がある。

大成区でこれまでに発掘調査が行われたのは、都遺跡(10)と貝取潤2洞窟遺跡の2か所である。

昭和42(1967)年12月、最初に都遺跡で旧大成町教育委員会による緊急発掘調査が行われた。都遺跡は上古丹川左岸の台地上にあり、今回の調査地点の南側道路部分が調査区であったと考えられるが、詳細は不明である。調査の結果、縄文時代前期から中期にかけての堅穴住居跡が2軒確認されている。また、「出土した遺物は縄文時代前期から晩期に至る」とあり、「土器の一部にはクマと思われる装飾もあり…」との記載もある(大成町の歩み 1977)。その後、平成2年9月から北海道開拓記念館によって貝取潤2洞窟遺跡(29)の調査が行われている。この遺跡は昭和42年に大成町(当時)の依頼で函館市博物館などが分布調査を行った際に発見した遺跡である。貝取潤2洞窟遺跡は洞窟遺跡における性格や生業の究明を目的に行われた学術調査で、平成5(1993)年までの4年間に亘って行われた。遺跡は日本海に面した標高15~16mに位置し、中位段丘に不整合で覆われる基盤の水中破砕流溶岩(ハイアロクラスタイト)中に形成されている。調査の結果、この洞窟で確認された文化層は縄文時代の恵山文化期に形成されたもので、主体となる土器は南川Ⅲ式からⅣ式の時期である。検出した遺構は貝ブロック11か所、焼土14か所、獣骨ブロック2か所、ピット6基、メノウフレック集中1か所、頁岩フレック集中1か所、石組炉とこれに伴うベンガラ分布1か所、柱穴1か所、攪乱4か所の遺構が報告されている(右代・平川ほか 1997)。出土した遺物は土器や石器のほか、骨角器や装飾品、貝製平玉やボタン状貝製品、敷物状繊維製品、獣骨、魚骨、貝殻などの動物依存体等である。

都遺跡の今回の調査では、縄文時代早期、前期、中期、後期、晩期の各時期の遺物が出土している。前期と晩期のものはわずかである。主体は縄文時代後期前葉である。大成区で縄文時代早期の遺物が出土している遺跡は少なく、このほかに貝取潤山中遺跡(14)があるだけとなっている。縄文時代前期に該当する時期のものは都B遺跡(21)がある。都B遺跡は都遺跡の東側、本陣川の右岸に立地し、円筒土器下層d式土器が確認されている。縄文時代中期から後期にかけて遺跡数は増え、中～後期にかけての遺跡では久遠遺跡(6)、本陣遺跡(7)、小歌岬遺跡(9)、都遺跡(10)、上浦B遺跡(12)、富磯遺跡(13)、平浜B遺跡(16)、平浜D遺跡(17)、小歌岬B遺跡(22)、久遠2遺跡(30)がある。縄文時代後期では長磯遺跡(1)、本陣2遺跡(8)、上浦A遺跡(11)、平浜E遺跡(18)、本陣神社裏遺跡(19)、本陣D遺跡(20)がある。また、縄文時代後期・晩期にかけての遺跡には平浜遺跡(3)、宮野遺跡(5)、平浜D遺跡(17)がある。縄文時代晩期から縄文時代、擦文文化期に該当する遺跡には平浜海岸遺跡(4)、ツラツラ洞窟遺跡(23)、湯の尻洞窟遺跡(24)、貝取潤2洞窟遺跡(29)がある。ツラツラ洞窟遺跡は間口が20m、奥行きが10mを計り、包含層が良好に保たれ、湯の尻洞窟遺跡では恵山式の土器片や骨角器等、遺物量が極めて多いと道教委の埋蔵文化財包蔵地調査カードに記載がある。

(笠原)

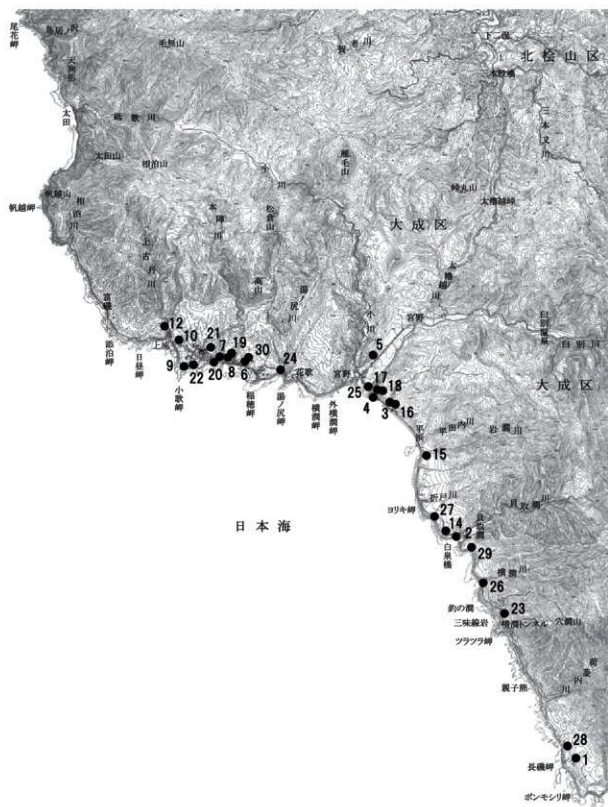


図 II-1 遺跡周辺の旧地形図（大正9年）

（この図は国土地理院発行の五万分の一地形図「熊石」を複製・拡大し加筆した。）



図 II-2 「東西総奥山川地理取調図三」・「東西総奥山川地理取調図四」
(この図は昭和58年3月発行松浦竹田監著「東西総奥山川地理取調図」(高倉新一郎監修)の複製版を複製し使用した。)



0 1000m

国土地理院発行25000分の1地形図「久遠」「具取郡」「熊石」「左股」「後志太田」に加筆

図Ⅱ-3 大城区内の遺跡

表Ⅱ-1 せたな町大成区内の遺跡一覧

包蔵地 登録番号 (C-6)	遺跡名	所在地 (せたな町大成区)	種別	時代	立地	調査
1	長磯	長磯	遺物包含地	縄文(後期)	海岸段丘	
2	貝取調湖窟	貝取調356-1	洞穴遺跡	不明	海岸段丘	
3	平浜	平浜	遺物包含地	縄文(後・晩期)	海岸段丘	
4	平浜海岸	平浜	遺物包含地	縄文、縄文	海岸段丘	
5	宮野	宮野	遺物包含地	縄文(後・晩期)	海岸段丘	
6	久遠	久遠	遺物包含地	縄文(中・後期)	海岸段丘	
7	本陣	本陣	遺物包含地	縄文(中・後期)	海岸段丘	
8	本陣2	本陣	遺物包含地	縄文(後期)	海岸段丘	
9	小歌碑	都	遺物包含地	縄文(中・後期)	海岸段丘	
10	都	都	遺物包含地	縄文(早～後期)	海岸段丘	S42(1967) 旧大成町教育委員会、H24(2012) (公財) 北海道埋蔵文化財センター
11	上浦A	上浦	遺物包含地	縄文(後期)	海岸段丘	
12	上浦B	上浦	遺物包含地	縄文(中・後期)	海岸段丘	
13	富磯	富磯	遺物包含地	縄文(中・後期)	海岸段丘	
14	貝取調山中	貝取調410	遺物包含地	縄文(早期)	海岸段丘	
15	平浜B	平浜126, 127-1	遺物包含地	縄文(晩期)	海岸段丘	
16	平浜C	平浜392-1, 393	遺物包含地	縄文(中期)	海岸段丘	
17	平浜D	平浜	遺物包含地	縄文(中～晩期)	海岸段丘	
18	平浜E	平浜	遺物包含地	縄文(後期)	海岸段丘	
19	本陣神社裏	本陣	遺物包含地	不明	海岸段丘	
20	本陣D	本陣	遺物包含地	縄文(後期)	海岸段丘	
21	都	都444-8	遺物包含地	縄文(前期)	海岸段丘	
22	小歌碑B	都	遺物包含地	縄文(前期)	海岸段丘	
23	ツラツラ洞窟	貝取調3-1地先	遺物包含地	縄文(前期)	海岸段丘	
24	湯の尻洞窟	湯の尻250-1	洞穴遺跡	縄文(晩期)、縄文(前半期)	海岸段丘	
25	臼町人足寄場	宮野	未登録	近世	海岸段丘	
26	貝取調岩陰	貝取調03-1地先	岩陰遺跡	縄文後期	海岸段丘	
27	貝取調2岩陰	貝取調447地先	岩陰遺跡	不明	海岸段丘	
28	長磯洞窟	長磯188	洞穴遺跡	不明	海岸段丘	
29	貝取調2洞窟	貝取調173-1地先	遺物包含地	縄文	海岸段丘	H12(1996) ~ H7(1995) 北海道開拓記念館調査報告第30~36号
30	久遠2	久遠238, 242~244	遺物包含地	縄文(中期)	海岸段丘	

*遺跡名の欄では「遺跡」の文字、所在地の欄では「字」の文字を省略した。

III 調査の方法

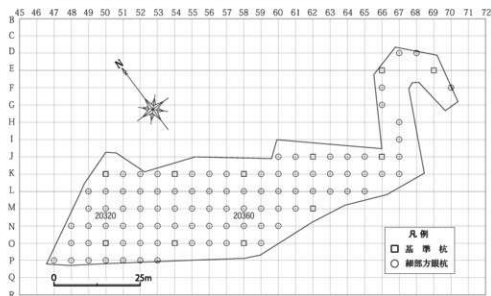
1 発掘調査の方法

(1) 発掘区の設定と座標値

現地調査の基本図は、北海道渡島総合振興局函館建設管理部の「工事用平面図 1,000分の1」を使用した。水準測量は工事用地内北緯 $42^{\circ} 13' 43.4839''$ 、東経 $139^{\circ} 48' 52.0656''$ に所在する3級基準点H16-3-N07 (H=27.619m) を用い、各測量に使用した。

発掘区(グリッド)は、建設予定道路のセンターライン上の20320地点と20360地点を結んだ直線を基軸のMラインとし、20320をM50と呼称した。2点の世界測地系X・Y座標値、緯度、経度は以下のとおりである。基軸から5mごとに平行する線をアルファベットで表記し、これに直交する線は5mごとにアラビア数字で表記した。これらの交点に杭を打設し、5m×5m方眼に区画した北側の杭を個々のグリッドの呼称とした。呼称はアルファベットと数字の組合わせによった(図III-1)。11本の基準杭にそれぞれの杭に打たれた釘の標高を記入し、この標高を手測りによる地形測量、遺構測量等の基準とした。

20320 (M50)	X=-196633.320	Y=-35935.168
	緯度=421344.67687	経度=1394851.81255
20360 (M58)	X=-196653.413	Y=-35925.356
	緯度=421343.89455	経度=1394853.20368



図III-1 発掘区の設定

(2) 土層の区分と基本層序

土層の観察は『土壌調査ハンドブック』(日本ペドロジー学会編 1985)の基準に従った。土層注記の主な観察項目は主に層位名(ローマ数字)、土性区分、土色、粘着性、堅密度・しまり、層界(次層までの移り変わる距離・幅)の明瞭度、層界の起伏の程度や形状、礫・バミス等の混入状況の順に記した。また土層の混在状態は層位名と記号を使用し、次のように表すことがある。

- A+B : AとBがほぼ同量混じる (Aが55%以上45%未満、Bが45%以上55%未満)
- A>B : AにBが少量混じる (Aが80%未満、Bが20%以上45%未満)
- A≧B : AにBが微量混じる (Aが80%以上、Bが20%未満)

基本土層は模式図（図Ⅲ-2）のとおりである。堅穴住居跡や盛土遺構の覆土には、包含層に見られない火山灰層が入るなど特徴がある。調査区内で検出したテフラは、株式会社パレオ・ラボに試料を提出し、分析を依頼した。

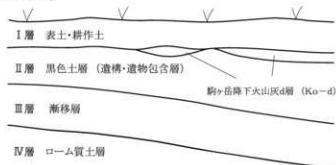
I 層：表土・耕作土など

II 層：腐植土層。埴壤土 (SL)。黒褐色～暗褐色 (10YR2/3～3/3)。粘着性は中。堅密度は堅。層界は判然。層界の起伏は平坦。層厚20～30cm。近世～縄文時代早期の遺構・遺物を包含する。地形・場所により、II層中に以下の火山灰層が確認されることがある。

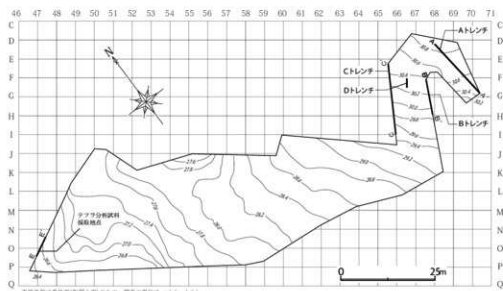
駒ヶ岳dテフラ (Ko-d) 層：噴出年代は1640年。砂土 (S)。明黄褐色 (10YR6/6)。粘着性なし。堅密度はしろう。層界は判然。層界の起伏は波状・不連続。低地形あるいは堅穴住居跡の落ち込みに自然堆積したII層中に部分的に混在する。層厚約5cm。

III 層：漸移層。壤土 (L)。暗褐色～褐色 (10YR3/3～4/4)。粘着性は強。堅密度は堅。層界は判然。層界の起伏は漸変。層厚は15～20cm。

IV 層：ローム質土層。壤土 (L)。褐色 (10YR4/4～4/6)。粘着性は強。堅密度はすこぶる堅。層界、層厚は不明。地山を成す。(新家)



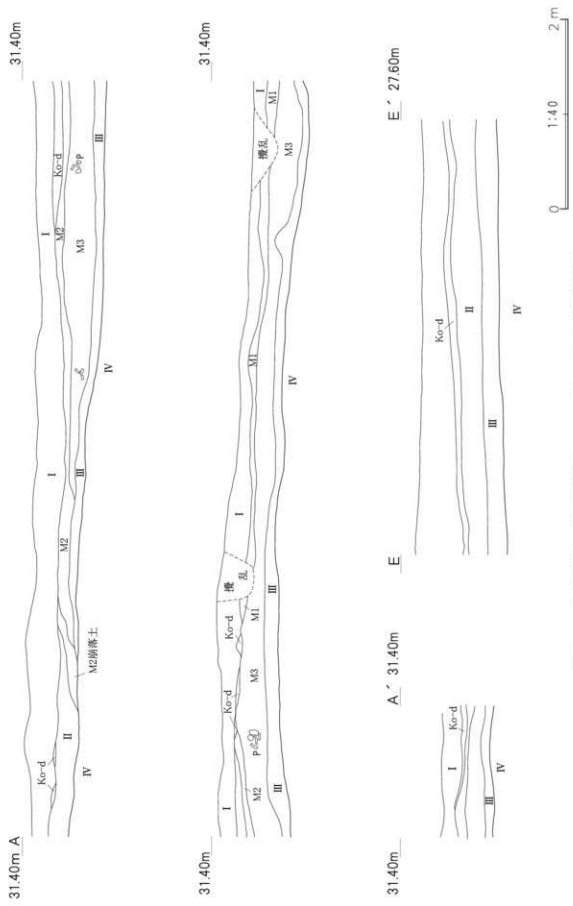
図Ⅲ-2 基本土層模式図



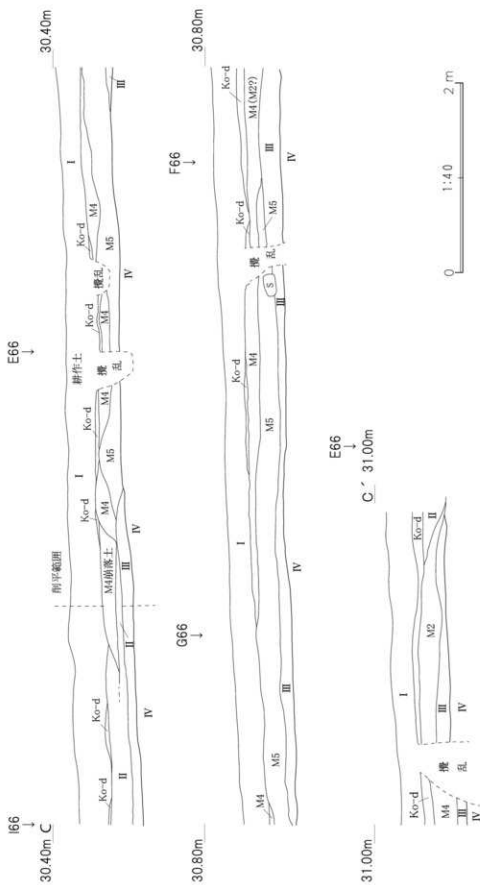
図Ⅲ-3 断面観察位置図およびIV層上面地形図

(3) 現地での掘削調査、記録等

調査区は林、耕作地、旧住宅地であったため、重機により伐木、抜根、産業廃棄物等の除去作業を行っ



図四-4 包含層および盛土選構Aトレンチ (M1~M3) 土層断面図



図Ⅲ-5 盛土遺構Cトレンチ (M2・M4・M5) 土層断面図

た。その後表土1層を重機により除去した。大型車両の調査区への進入路が確保できず、除去物や土砂の搬出が不可能であったため、除去した伐木、抜根、産業廃棄物、表土等はすべて調査区内に山積みし仮置いた。そのため調査を3段階に分けて行い、必要に応じて仮置物を移動させ、調査を進めた。調査区に隣接する歩道・車道は、日に数回清掃を行い、排土の拡散防止に努めた。人力による調査は主に移植ゴテ、わじり鎌、スコップ、鋤鎌等を使用し、精査・清掃の際には竹べらや竹串、炬燵、ブラシ等を併用した。調査終了後の平成24年11月、調査によって搬出された排土を重機で調査区の一部に戻し、埋め戻しを行った。発掘現場での写真撮影は6×7サイズカメラとデジタルカメラを併用した。

包含層出土の遺物は、グリッドごと、出土層位ごとに取り上げた。各遺構（盛土遺構を含む）出土の遺物は必要に応じて個々に番号を付し、点取りを行った。遺構にともなう炭化木片、炭化種実類、動物遺存体等が含まれる可能性がある土壌は、土壌ごとに取り上げ水洗選別（フローテーション）作業により微細遺物を回収したものがあつた。得られた炭化木片、植物珪酸体、炭化種実、動物遺存体等は、分析を依頼した（VI章参照）。

2 整理の方法

現地で作成した地形測量や遺構、遺物出土状況の原図は、訂正などの作業を行い素図を作成した。素図をもとに遺構図や全体図等をイラストレーターでデータ化し、編集・掲載した。原図と素図には通し番号を付け、図面台帳を作成した。

出土した遺物は、土器の整理・監修は笠原・佐藤が、石器の整理・監修は新家がいった。現場調査と並行して現地で水洗・乾燥・分類・遺物カードの添付・遺物台帳の作成、注記作業および仮収納を行った。注記は、以下のように行った。

遺跡名	遺構名	遺物番号	層位	遺跡名	遺構名	遺物番号	層位		
注記例	遺構	:ミ H-4.	6	ブクド3	遺構	:ミ P-30.	1 底		
		遺跡名	遺物番号	層位	回数	遺跡名	グリッド名	層位	回数
		盛土遺構	:ミ 120	M4.	2	盛土遺構	:ミ E68	M2.	3
		遺跡名	グリッド名	層位					
		包含層	:ミ H50	II					

復元した土器個体は遺跡名・調査年度・北埋調報番号等の情報を記したダンボールに、それ以外の土器・石器等の出土遺物はコンテナに収納し、収納台帳を作成した。これらの出土遺物は本報告書刊行後、せたな町教育委員会にて保管される。

掲載遺物の室内撮影は吉田が行った。写真フィルムは現地撮影のものとともに写真台帳を作成し、アルバムに収納した。図面・写真等は北海道立埋蔵文化財センターにて保管されている。（新家）

3 遺物の分類

(1) 土器等

土器は縄文時代早期に属するものをI群とし、前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群とした。統縄文時代のものはVI群、弥生文化期のものはVII群である。また、a・b類に二分したものはa類が前半、b類が後半を指す。同様に、a・b・c類に分類したものはa類が前葉、b類が中葉、c類が後葉である。今回報告する資料には縄文時代各時期のものがあるが、前期・晩期・弥生文化期のものは極めて少ない。本遺跡の主体となる時期は縄文時代後期前葉IV群a類で、大津式期までの時期である。

I 群 縄文時代早期に属する土器群

a類 貝殻・沈線文系土器群および条痕文系平底土器群

b類 東剣路式系土器に代表される縄文系平底土器群

II 群 縄文時代前期に属する土器群

a類 縄文の施された丸底・尖底の土器群

b類 円筒土器下層式に相当するもの

III 群 縄文時代中期に属する土器群

a類 円筒土器上層a式、b式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの

b類 榎林式、大安在B式、ノダツⅡ式、煉瓦台式に相当するもの

IV 群 縄文時代後期に属する土器群

a類 天祐寺式または余市式、涌元式、トリサキ式、手稲砂山式、大津式、白坂3式、十腰内Ⅰ式に相当、またはこれに並行するもの

b類 ウサクマイC式、手稲式、鯉淵式に相当するもの

c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当するもの

V 群 縄文時代晩期に属する土器群

a類 大洞B式、大洞B-C式とこれに並行する在地の土器群

b類 大洞C₁式、大洞C₂式とこれに並行する在地の土器群

c類 大洞A式、大洞B式とこれに並行する在地の土器群

VI 群 続縄文時代に属する土器群（今回は出土していない）

VII 群 擦文文化期に属する土器群

土製品 土器を除く加工品で、鐿形土製品や焼成粘土塊などが出土している。（笠原・佐藤）

(2) 石器等

分類に使用している器種の名称、および掲載順は以下のとおりである。

剥片石器群：石鏃、石槍・ナイフ類、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、ヘラ状石器、石核、二次加工のある剥片（R剥片）、微細剥離のある剥片（U剥片）、剥片

石 斧 類：石斧、すり切り残片、石斧原材等

礫 石 器 群：たたき石、すり石、扁平打製石器、北海道式石冠、石錘、石鋸、砥石、石皿、台石、加工痕のある礫、礫・礫片

石 製 品：垂飾、異形石器、三脚形石製品、軽石製石製品、自然有孔礫等がある。

(3) 金属製品・陶磁器類・自然遺物

金属製品は刀子、釘類、和鋏、鉄鍋、古銭（寛永通寶）などがある。陶磁器は近世に属すると考えられる染付の磁器について写真のみ掲載した。遺構内から採取した自然遺物には、炭化木片、植物珪酸体、炭化種実、動物遺存体等がある。これらは現地直接採取したものと、土壌水洗選別（フローテーション）作業により抽出した試料がある。このうち堅穴住居跡から出土した炭化木片8点の放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に、6点の樹種同定と植物珪酸体試料5点の分析を株式会社パレオ・ラボに委託した。また、炭化種実同定28点と動物遺存体同定12点をバリノサーヴェイ株式会社へ委託した。それぞれの分析結果はⅥ章に掲載した。（笠原・新家）

IV 遺構と遺構出土の遺物

1 概要

平成24年度の調査で検出した遺構は、竪穴住居跡(H)11軒、土坑(P)32基、小土坑(SP)57基、石組炉9か所、焼土(F)8か所、配石・集石(S)4か所、遺物集中3か所、盛土遺構1か所である。

住居跡や土坑の多くが、調査区北西～北東側を流れる笠島の沢川沿いに面して位置している。

竪穴住居跡の形態には、卵型や多角形を呈するものH-2・4・5・9があり、隅丸長方形のものH-3・6・8、調査区外にかかるため不明なものH-7・10・11がある。石組炉を持つものはH-4・7がある。竪穴住居跡の帰属時期は、次のとおりである。縄文時代中期中葉から後葉のものH-1・3・6・11、後期初頭H-2、中期末～後期初頭H-4、後期前葉がH-5・7～10である(Ⅵ章-1)。このうちH-7はF67区を中心に盛土(M2層)を掘り込んで構築されていた。また、D・E69区で検出したH-11は、盛土遺構の下位から検出した。

調査区の西端、A地区に集中する土坑群は後期前葉のものが多く占めている。B地区にも狭い範囲で土坑が分布する。このうち、K60区で検出したP-30は、皿状の浅い土坑で坑底からⅢ群a類の土器が潰れた状態で出土した(図IV-28、46-66 表IV-3 図版60-66)。坑底から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った結果、4,480±30yrBPの年代値が得られた(Ⅵ章-1)。

65ラインより東側で検出した盛土遺構はマウンド状に堆積し、分布範囲は東西の調査区域外にも広がっているために正確な規模は不明である。しかし、66ラインより西側の調査区域外では、遺物や地形、植生等の違いによって、盛土遺構の広がりが63ライン付近まで分布することが推定できる。東側は「上浦神社」が立地し、神社裏手でも遺物の散布は見られ、さらに広がることも想定される。

盛土遺構の堆積状況を確認するためにトレンチを設定して調査を行った。その結果、「盛土=堆積土」の最大層厚は約50cmで、M1層～M5層の5層に分層され、ここから縄文時代後期前葉(Ⅳ群a類)の土器や石器等99,316点の遺物が出土した。今回調査した盛土遺構からは白坂3式期以降の遺物は出土していない。

また、盛土遺構の下位から検出した50余基の小土坑(SP)は、小豆大の小円礫を充填したものが多く、特徴的である。

剥片石器の石材は頁岩や泥岩、チャートが主であるが、この他に赤井川産の黒曜石が少なからず持ち込まれていることが分かった。

竪穴住居跡出土の黒曜石剥片7点、遺物集中出土の黒曜石剥片4点、計11点について原材産地同定を行った。その結果、すべて赤井川産という分析結果を得た。

なお、遺構の記述中、遺構の規模を示す計測値(単位m)は次の順で記した。

- 竪穴住居跡 遺構確認面の長径×短径/床面の長径×短径/深さ
- 土坑・小土坑 遺構確認面の長径×短径/底面の長径×短径/深さ
- 石組炉 遺構確認面の長径×短径/掘り込みがある場合は底面の長径×短径/深さ
- 焼土 遺構確認面の長径×短径/厚さ
- 配石・集石・遺物集中 遺構確認面の長径×短径(おおよその範囲)
- 盛土遺構 長径×短径/厚さ(おおよその範囲)

また、遺構出土の掲載土器・石器については、「2 遺構出土の遺物」として列記した。(笠原)

(1) 竪穴住居跡

H-1 (図IV-5、41-1~3、48-1~6 図版3~6、57-1~3、62-1~6)

位置 J・K50・51 立地 調査区西側

平面形 隅丸長方形 規模 3.22×2.82/3.00×2.05/0.17m

確認・調査 Ⅲ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅡ層中である。

覆土 自然堆積である。H-1周辺でみられたⅡ層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のⅡ層に由来する黒褐色土が堆積していることから、H-1周辺は埋没後に改変している。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HP-1は中央からやや長軸上に片寄って位置する、浅い掘り込みのある床炉である。平面形は円形である。HP-2~4は主柱穴である。HP-2・3は近接していることから主柱穴の改変が行われた可能性がある。HP-1は浅い柱穴である。HP-5は長軸上からやや南東側に片寄った壁際に位置する。平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土は炭化物・焼土混じりであることから、HF-1の灰層で埋めたと考えられる。

遺物出土状況 219点の遺物が出土した。覆土1層から163点、2層24点、床面24点、HF-1覆土1層7点、HP-5覆土1層1点である。内訳は土器等が68点でⅢ群b類が3点、Ⅳ群a類63点、焼成粘土塊2点である。石器等は151点で、剥片石器が19点、礫石器9点、礫・礫片123点である。床面出土のものはⅢ群b類が2点、Ⅳ群a類18点、剥片1点、礫・礫片が3点である。

時期 HF-1から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。結果、 $4,130 \pm 30$ yrBPの年代値が得られた。分析結果や床面から出土した土器の状況から縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。

(佐藤)

H-2 (図IV-6、41-4~7、48・49-7~9 図版6~8、57-4~7、62-7~9)

位置 K49 立地 調査区西側

平面形 卵形 規模 4.14×3.34/3.82×3.02/0.26m

確認・調査 Ⅲ層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅡ層中である。検出状況からP-31が古い。

覆土 自然堆積である。H-2周辺でみられたⅡ層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のⅡ層に由来する黒褐色土が堆積していることから、H-1周辺は埋没後に改変している。覆土中にKo-dと不明火山灰がみられる。

遺物出土状況 床面から少量の土器・石器・礫が出土した。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HP-1は中央からやや長軸上に片寄って位置する石組炉である。掘り込みの平面形は楕円形で、石をすべて取り除いている。

遺物出土状況 482点の遺物が出土した。覆土1層から461点、1層13点、床面8点である。内訳は土器等が167点でⅢ群a類が1点、Ⅲ群b類7点、Ⅳ群a類が159点である。石器等は315点で、剥片石器が49点、礫石器11点、礫・礫片255点である。床面出土のものは剥片が3点、砥石1点、礫・礫片が4点である。

時期 HP-1から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。結果、 $3,870 \pm 30$ yrBPの年代値が得られた。分析結果や覆土から出土した遺物等から縄文時代後期初頭と考えられる。

(佐藤)

H-3 (図IV-7・8、41・42-8~16、50-17~19 図版9~12、57-8~16、62-10~20)

位置 K・L49・50 立地 調査区西側

平面形 隅丸長方形 規模 4.58×3.08/4.17×2.08/0.30m

確認・調査 II層を10cm程度掘り下げたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はII層中である。検出状況から、P-23より新しい。

覆土 自然堆積である。H-3周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、H-3周辺は埋没後に改変している。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HP-1は中央からやや長軸上に片寄って位置する地床炉である。平面形は不整形である。HP-1・2は主柱穴である。ともに段差があり、柱痕がみられないことから、抜き取り痕の可能性はある。HP-3・4は浅い柱穴である。

遺物出土状況 404点の遺物が出土した。覆土1層から8点、2層68点、床面324点、HP-1覆土1層3点、HP-3覆土1層1点である。内訳は土器等が129点でIII群a類が1点、III群b類69点、IV群a類59点である。石器等は275点で、剥片石器が50点、礫石器9点、礫・礫片215点である。床面出土のものはIII群a類1点、III群b類69点、IV群a類47点、石鏃4点、石槍ナイフ類1点、つまみ付ナイフ1点、スクレイパー2点、Rフレイク4点、剥片34点、砥石1点、石皿1点、礫・礫片が158点である。

時期 HF-1から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。結果、4,140±30yrBPの年代値が得られた。分析結果や床面から出土した土器の状況から縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。

(佐藤)

H-4 (図IV-9・10、42-17~19、50・51-21~26 図版13~15、57-17~20、62-21~25 図説3)

位置 J・K51・52 立地 調査区西側

平面形 卵形 規模 6.71×(4.89)/6.36×(4.53)/0.34m

確認・調査 III層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はII層中である。

覆土 自然堆積と考えるが、覆土が固くまっていることから埋戻しの可能性もある。H-4周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、H-4周辺は埋没後に改変している。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HF-1は中央から長軸上に片寄って位置する石組炉である。平面形は方形である。礫は円礫で、小礫である。HF-2は中央からHF-1と反対側の長軸上に片寄って位置する石組炉である。掘り込みの平面形は乱れた長方形で、石をすべて取り除いている。HP-1・3・4は主柱穴である。P-2・5は浅い柱穴である。HP-5は先端ビットの可能性がある。

遺物出土状況 833点の遺物が出土した。覆土1層から508点、2層317点、床面2点、HF-1覆土1層5点、HF-5覆土1層1点である。内訳は土器等が126点でIII群b類6点、IV群a類106点、焼成粘土塊14点である。石器等は707点で、剥片石器が62点、礫石器15点、礫・礫片628点、石製品2点である。床面出土のものは、IV群a類1点、礫・礫片が1点である。覆土2層から鼓状の石製品が出土した。

時期 HF-1から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。結果、3,940±30yrBPの年代値が得られた。分析結果や出土した土器等の状況から縄文時代中期末～後期初頭と考えられる。

(佐藤)

H-5 (図IV-11・12、42-20~23、51-27 図版16~18、58-21~23、63-27)

位置 L・M49・50 立地 調査区西側

平面形 隅丸多角形または不整形 規模 5.58×(5.04) / 5.41×(4.78) / 0.18m

確認・調査 IV層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。H-5とH-6の間に位置する風倒木により、南東側が攪乱を受けていたことから検出が遅れた。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。IV層上面での検出であることから判断の精度は低くなるが、堆積状況から、掘り込み面はII層中である。P-28周辺ではP-28の壁の上部を掘りすぎてしまったが、出土した大礫の下位に残る堆積土はP-28の1層であったことから、P-28が新しい。

覆土 自然堆積である。H-5周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、H-5周辺は埋没後に改変している。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HF-1は中央から南側に片寄って位置する石組炉である。掘り込みの平面形は楕円形である。石組の礫は一部が残っており、組まれた状態で2個(No.10・11)、外れた状態で1個(No.9)を検出した。礫は細長い円礫で、中礫である。HP-1・2は主柱穴である。

遺物出土状況 17点の遺物が出土した。覆土1層から3点、2層1点、3層1点、床面8点、HF-1覆土1層1点、HF-1覆土3層1点、HP-2覆土2層2点である。内訳は土器等が4点でIII群a類1点、IV群a類3点である。石器等は13点で、剥片石器が3点、礫石器1点、礫・礫片9点である。床面出土のものは、III群a類1点、IV群a類1点、Rフレイク1点、剥片1点、礫・礫片4点である。

時期 HF-1から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。結果、3,690±30yrBPの年代値が得られた。分析結果や出土した土器の状況から縄文時代後期前葉と考えられる。(佐藤)

H-6 (図IV-13 図版1~20)

位置 K・L51 立地 調査区西側

平面形 隅丸長方形 規模 3.72×3.23/3.42×2.87/0.18m

確認・調査 IV層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。H-5とH-6の間に位置する風倒木により、西側が攪乱を受けていたことから検出が遅れた。平坦な床面、炉跡を確認し、住居跡と判断した。IV層上面での検出であることから判断の精度は低くなるが、堆積状況から、掘り込み面はII層中である。検出状況から、P-26が新しい。

覆土 自然堆積である。H-6周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、H-6周辺は埋没後に改変している。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HF-1は中央に位置する地床炉である。平面形は不整形である。

遺物出土状況 9点出土した。土器は出土していない。覆土2層から4点、床面5点である。内訳は剥片が1点、礫・礫片8点である。床面出土のものは、剥片が1点、礫・礫片4点である。

時期 住居の形態や周辺から出土した土器から縄文時代中期中葉~後葉と考えられる。(佐藤)

H-7 (図IV-14~16、43・44-24~54、51・52-28~33 図版21~24、58-24~51b、59-31・52~54、63-28~33)

位置 E~G66・67 立地 標高約30mの平坦面

平面形 楕円形 規模 9.10×(3.42) / 8.60×(3.34) / 0.30m

確認・調査 調査区東側の盛土遺構調査中、径7~8mの楕円状の広い範囲で、周囲の盛土遺構と比べて明らかに遺物の出土量が少ない部分があった。また、調査区外の壁にはKo-dが混ざった層が落ち込んでいたため、M2層を掘り込んで作られた大型の竪穴住居の存在を想定した。周囲の盛土遺構調査を一時止め、掘り込みと思われる範囲内にベルトを設定しトレンチを入れたところ、住居跡の立ち上がりと思われる壁と、30cmほど下位に堅いIV層の床面が確認できた。また、床面北東寄りに、石組炉を検出した。覆土中や床面からの遺物出土量も、周囲の盛土遺構よりも少なかった。住居は北東側1/4程度が調査区外にかかっている。

覆土 非常に堅くしまり、ブロック状の土塊が固まっている。埋戻しか。覆土の上にはM4層の流れ込み、II層、Ko-dなどが自然堆積している。また、部分的に耕作による攪乱を受けている。

構造 床面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 石組炉を床面の北東寄りで検出した。焼土の周囲に大型の礫が数点出土し、石組炉と判断した。礫の位置は不規則であるが、原位置をとどめていないと思われる。断面を観察すると、床さらに5cmほど掘り込んでおり、覆土と焼土が堆積していた。また、礫を抜き取った痕と思われる落ち込みも観察できた。焼土はその場で強く焼けたもので、上位はφ2~3cmの焼土塊が堅くしまった状態で堆積し、下位の方はIV層の床面にかけてグラデーションになって焼けている。

柱穴HP-1~8 すべて床面の柱穴である。直径20~30cm、深さ20~30cmである。覆土は住居の覆土と同じ暗褐色が主体である。

遺物出土状況 3,286点出土した。Ⅲ群b類の土器片が3点、IV群a類2,085点、焼成粘土塊12点、頁岩や泥岩等の剥片石器類が146点、礫石器類18点、砂岩等の礫・礫片他が1,022点である。

時期 検出状況と出土土器片などから、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

H-8 (図IV-17 図版24・25)

位置 I・J60・61 **立地** 標高約29mの平坦面

平面形 いびつな楕円形 **規模** 2.70×2.40/2.32×2.00/0.14m

確認・調査 包含層調査中に、Ⅲ層上面で黒褐色土のφ3mほどの円形の落ち込みを検出した。落ち込みのほぼ中央を通るベルトを設定し、周囲を掘り下げた。平坦な床面と、浅いが緩やかに立ち上がる壁を確認した。また西側に焼土を検出した。部分的に削平してしまっただが、ベルトを残して焼土の断面も観察した。柱穴は確認できなかった。遺物はすべて覆土から出土している。

覆土 黒褐色で堅くしまる。

構造 平坦な床面で、壁は浅く緩やかに立ち上がる。

付属施設 住居の西側にφ30cmほどの焼土を検出した。半截したところ、焼けは弱く、床面まで焼けておらず、覆土中に焼土塊のまとまりが認められた。この場で焼けたものではないと思われる。

遺物出土状況 51点出土した。Ⅲ群b類が1点、IV群a類16点、礫・礫片34点である。

時期 出土土器から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

H-9 (図IV-17、53-34 図版25・26、63-34)

位置 I・J60 **立地** 標高約29mの平坦面

平面形 ほぼ円形 **規模** 2.50×2.18/2.07×1.70/0.28m

確認・調査 H-8の北西側に隣接して黒褐色の落ち込みを検出した。落ち込みのほぼ中央を通るようにベルトを設定し、周囲の黒褐色土を掘り下げたところ、ほぼ平坦な床面と、緩やかに立ち上がる壁を検出した。

床面南側の壁際に柱穴と思われる小土坑を3基検出した。焼土はない。

覆土 暗褐色で、堅くしまる。

構造 床面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 床面南側の壁際に直径12～22cm、深さ約10cmの柱穴と思われる小土坑HP-1～3を検出した。

遺物出土状況 23点出土した。IV群a類の土器片8点、つまみ付ナイフ1点、礫・礫片14点である。

時期 出土した土器や隣接する同規模のH-8などから、縄文時代後期前葉の可能性が高い。(新家)

H-10 (図IV-18 図版26・27)

位置 159・60 **立地** 標高29mの平坦面

平面形 楕円形 **規模** 3.92×(2.26) / (3.46) × (2.10) / 0.33m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層上面で調査区外に広がる黒褐色の落ち込みを検出した。調査範囲との境界ラインで断面を観察するため、際にトレンチを入れたところ、堅い床面と緩く立ち上がる壁を確認した。攪乱の可能性もある。

覆土 床面に褐色土が部分的に崩落し、その上にⅡ層が自然堆積している。

構造 床面はあまり平坦とは言えず、壁が立ち上がる角度も均一でない。

付属施設 焼土や柱穴はない。

遺物出土状況 94点出土した。床面出土のものはない。IV群a類の土器片が48点、剥片1点、安山岩や砂岩の礫・礫片が45点である。

時期 出土した土器片などから、縄文時代後期前葉のものと思われる。(新家)

H-11 (図IV-19、53-35～37 図版28、63-35～37)

位置 D・E68・69 **立地** 調査区東側

平面形 隅丸長方形 **規模** (5.70) × 4.84 / (5.60) × 4.54 / 0.28m

確認・調査 盛土遺構調査中から、H-11周辺の地形は落ち込んでいた。そのため、盛土遺構調査後にⅢ層上面を精査したところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、柱穴を確認し、住居跡と判断した。同時期と考えられる他の住居跡の掘り込み面がⅡ層中であることから、掘り込み面はⅡ層中と考えられる。しかし、周囲のⅢ層上面から連続して覆土が堆積していることから、盛土遺構構築時にH-11及び周辺はⅢ層上面まで削平していると考えられる。検出状況から、盛土遺構が新しい。

覆土 埋戻しの可能性がある。

構造 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設 HP-1は主柱穴である。

遺物出土状況 60点出土した。覆土1層から59点、床面1点である。内訳はIV群a類の土器片が36点、剥片石器が23点、礫石器が1点である。床面から石皿が1点出土した。

時期 住居の形態や覆土から出土した土器から縄文時代中期中葉～後葉と考えられる。(佐藤)

(2) 土坑

P-1 (図IV-20 図版29)

位置 O48 **立地** 標高26～27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.74 × (0.60) / 0.65 × 0.58 / 0.34m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層上面で円形の黒い落ち込みに長さ20cmほどの礫が2点まとまっているの

を検出した。半截し、壁の立ち上がりが切と、覆土中の礫をさらに2点確認した。

覆土 黒褐色で堅くしまり混ざりがなく埋め戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土中から砂岩の礫が8点出土した。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-2 (図IV-20 図版29)

位置 O48 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.70×0.61/0.55×0.48/0.21m

確認・調査 III層上面で円形の黒い落ち込みを検出した。半截したところ、壁の立ち上がりを確認し、土坑であると判断した。規模や覆土がP-1と似る。

覆土 黒褐色の堅くしまった覆土である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 検出状況や周囲の土坑から、縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-3 (図IV-20 図版29)

位置 M48 **立地** 調査区西側

平面形 円形 **規模** 0.89×0.80/0.70×0.58/0.31m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に土坑を検出した。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

覆土 埋戻しである。P-3周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、P-3周辺は埋没後に改変している。

遺物出土状況 覆土1層からIV群a類の土器片が3点、礫・礫片が1点出土した。

時期 検出状況と出土遺物から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

P-4 (図IV-20 図版29)

位置 M48 **立地** 調査区西側

平面形 円形 **規模** 1.04×0.97/0.79×0.70・0.21m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に土坑を検出した。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

覆土 埋戻しである。P-4周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、P-4周辺は埋没後に改変している。

遺物出土状況 覆土1層からIV群a類の土器片が1点、礫・礫片が13点出土した。

時期 検出状況と出土遺物から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

P-5 (図IV-21 図版30)

位置 O48 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.73×0.70/0.52×0.50/0.16m

確認・調査 包含層調査中、III層上面で円形の黒い落ち込みを検出した。半截し、壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

覆土 黒褐色で非常に堅くしまり、近接するP-1・2と似る。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。 (新家)

P-6 (図IV-21 図版30)

位置 P48 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** (0.74) × 0.67 / 0.61 × 0.45 / 0.32m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層上面で円形の黒い落ち込みの上に礫を検出した。半截したところ、壁の立ち上がりを確認し、土坑と判断した。近接するP-1・2と似る。

覆土 非常に堅くしまった黒色土で埋戻しか判然としない。

遺物出土状況 覆土中から安山岩の石皿が1点、砂岩の礫2点を含む礫が16点出土した。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。 (新家)

P-7 (図IV-21 図版30)

位置 P47 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 不明 **規模** 1.17 × (0.47) / 0.74 × (0.35) / 0.32m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層上面で調査区外にかかる黒い落ち込みを検出した。調査範囲の境界線を断面の観察面とし、掘り下げたところ、長さ20cmほどの礫が出土した。さらに掘り下げて、明瞭な壁の立ち上がりと堅い底を確認し土坑と判断した。

覆土 壁際に暗褐色土、その上に黒褐色土が30cmほど堆積している。いずれも非常に堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土上部からIV群a類の土器片が2点出土した。

時期 出土した土器片などから縄文時代後期前葉と考えられる。 (新家)

P-8 (図IV-21 図版30)

位置 O48 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.46 × 0.46 / 0.26 × 0.26 / 0.16m

確認・調査 包含層調査中、Ⅲ層上面で円形の黒い落ち込みを検出した。半截して掘り下げ、壁と底を確認し、土坑と判断した。

覆土 非常に堅くしまった暗褐色土で埋戻しと思われる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。 (新家)

P-9 (図IV-22、54-38 図版30・31、64-38)

位置 P48 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 1.28 × 1.19 / 1.20 × 0.96 / 0.36m

確認・調査 包含層調査中、調査区境界付近のⅢ層上面で円形の黒い落ち込みを検出した。半截したところ、明瞭な壁の立ち上がりと底を確認し土坑と判断した。

覆土 黒褐色土に、暗褐色や褐色の土が部分的に入り、非常に堅くしまった埋戻しと思われる。

遺物出土状況 坑底から安山岩の石皿が1点、覆土中から長さ10cmほどの泥岩の礫1点、礫・礫片が9点出土した。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-10 (図IV-22 図版31)

位置 P48 **立地** 標高26~27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.69×0.61/0.42×0.39/0.36m

確認・調査 III層上面で、径60cmほどの黒褐色の円形の落ち込みと、その上に長さ20cmほどの礫1点を検出した。黒褐色土部分を半載したところ、明瞭な壁の立ち上がりと底を確認し土坑と判断した。

覆土 堅くしまった黒褐色土~暗褐色土で、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土中から礫・礫片が2点出土した。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-11 (図IV-22 図版31)

位置 P48 **立地** 標高約27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.65×0.61/0.45×0.42/0.20m

確認・調査 III層上面で、径60cmほどの黒褐色の円形の落ち込みと、その上に長さ20cmほどの礫を検出した。黒褐色土部分を半載したところ、明瞭な壁の立ち上がりと底を確認し土坑と判断した。

覆土 非常に堅くしまった黒褐色土で、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 IV群a類の土器片が3点、剥片2点、礫・礫片が9点出土した。

時期 出土した土器片などから、縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-12 (図IV-22、45-55 図版31、59-55)

位置 P48 **立地** 標高約27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 1.17×1.07/0.80×0.69/0.47m

確認・調査 III層上面で、径1mほどの黒褐色の円形の落ち込みと、その上に長さ20cmほどの礫、土器の底部片を検出した。黒褐色土部分を半載したところ、明瞭な壁の立ち上がりと底を確認し土坑と判断した。

覆土 非常に堅くしまった黒褐色土~褐色土で、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土中位からIV群a類の土器片が34点、礫・礫片が10点出土した。

時期 出土した土器片などから、縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-13 (図IV-22 図版32)

位置 P48 **立地** 標高約27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.74×0.71/0.42×0.42/0.25m

確認・調査 包含層調査中、III層上面で径70cmほどの黒褐色の円形の落ち込みを検出した。半載して掘り下げ、壁と底を確認し、土坑と判断した。

覆土 非常に堅くしまっており、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土中から礫・礫片が3点出土した。

時期 周辺の土坑と同じ縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-14 (図IV-23、45-56、54-39 図版32、59-56、64-39)

位置 N48 **立地** 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 卵形 規模 1.37×0.94/1.23×0.80/0.62m

確認・調査 III層上面で、長さ1m強の卵形の黒色土の落ち込みと、その上に大小の角礫・円礫が数点まとまっているのを検出した。黒色土を短軸で半載し50cmほど掘り下げたところ、この落ち込みの長軸に沿って、縦長の80cmほどある大きな礫が現れ、そのすぐ下に貼り床状の非常に堅固な褐色土が10cmほどの厚さで堆積していた。褐色土の下は平坦な底で、ほぼ垂直に立ち上がる壁も検出した。また、北側にあるP-21を切つて構築されている。

覆土 非常に硬く、埋戻しである。

遺物出土状況 覆土からIV群a類の土器片7点、剥片19点、たたき石1点、台石1点、礫・礫片が56点出土した。

時期 出土した土器片などから、縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

P-15 (図IV-24 図版32)

位置 K49・50 立地 調査区西側

平面形 円形 規模 0.82×0.80/0.62×0.56/0.22m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に土坑を検出した。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

覆土 埋戻しである。P-15周辺でみられたII層は暗褐色土であること、覆土中に黒褐色のII層由来する黒褐色土が堆積していることから、P-15周辺は埋没後に改変している。

遺物出土状況 覆土から礫が7点出土した。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が高い。(佐藤)

P-16 (図IV-24 図版33)

位置 L・M49 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 規模 1.15×1.12/1.10×0.91/0.24m

確認・調査 III層上面で黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半載し半分を掘り下げたところ、平坦な坑底と均一に立ち上がる壁を確認した。底は北東側でややオーバーハングしている。

覆土 黒褐色で堅くしめる。埋戻しか。

遺物出土状況 IV群a類が1点、剥片3点、礫・礫片が31点出土した。

時期 出土した土器片および周辺の土坑の時期から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

P-17 (図IV-24、45-57~59 図版33、60-57~59)

位置 M49 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 規模 1.19×1.16/1.00×0.86/0.44m

確認・調査 III層上面で黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半載して掘り下げたところ、また平坦な底と壁の立ち上がりを検出した。

覆土 2層に分層した。いずれも非常に堅くしめ、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土中からIV群a類の土器片が89点、砥石が1点、礫・礫片が10点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭と思われる。(新家)

P-18 (図IV-25 図版33)

位置 M49 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 規模 $1.24 \times 1.13 / 1.00 \times 0.74 / 0.35\text{m}$

確認・調査 III層上面で黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半截して掘り下げ、平坦な底と壁の立ち上がりを確認した。

覆土 2層に分けた。やや堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 礫・礫片が18点出土した。

時期 周囲の土坑の時期などから、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

P-19 (図IV-25、45-60・61 図版33、60-60・61)

位置 L49 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 規模 $1.02 \times 0.96 / 0.70 \times 0.59 / 0.34\text{m}$

確認・調査 III層上面で黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半截して掘り下げ、平坦な底と壁の立ち上がりを確認した。

覆土 2層に分けた。堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土からIV群a類の土器片4点、礫・礫片が9点出土した。

時期 出土した土器片から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

P-20 (図IV-25、45-62・63 図版34、60-62・63)

位置 K50 立地 調査区西側

平面形 円形 規模 $0.72 \times 0.72 / 0.52 \times 0.52 / 0.19\text{m}$

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に土坑を検出した。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

覆土 埋戻しである。P-20周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層由来する黒褐色土が堆積していることから、P-20周辺は埋没後に改変している。

遺物出土状況 坑底近くの覆土1層からIV群a類の土器片が11点、礫・礫片が2点出土した。

時期 検出状況と出土遺物から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

P-21 (図IV-26 図版34)

位置 N48 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 規模 $1.20 \times (0.90) / 0.97 \times (0.79) / 0.23\text{m}$

確認・調査 P-14調査中、北側にもう1基の土坑があることがわかった。P-14とP-21を通るラインで半截し、断面を観察したところ、P-14の方が新しいことがわかった。P-14の調査終了後覆土を掘り下げ、平坦な底を確認した。P-14よりも掘り込みは浅い。

覆土 2層に分層した。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類の土器片1点と、砂岩のたたき石1点、礫・礫片が2点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

P-22 (図IV-26 図版34)

位置 L49 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 規模 $0.89 \times 0.81 / 0.61 \times 0.56 / 0.46\text{m}$

確認・調査 III層上面で暗褐色の円形の落ち込みを検出した。半截して平坦な底部と壁の立ち上がりを確

認した。

覆土 2層に分層した。堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土からIV群a類の土器片が3点、頁岩の剥片2点、安山岩、砂岩などの礫が14点出土した。

時期 出土した遺物から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

P-23 (図IV-26 図版34・35)

位置 K51 **立地** 調査区西側

平面形 円形 **規模** (1.00)×0.80/ (0.80)×0.58/0.34m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に土坑を検出した。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。検出状況からH-3が新しい。

覆土 埋戻しである。P-23周辺でみられたII層は暗褐色土であること、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、P-23周辺は埋没後に改変している。

遺物出土状況 覆土1層から礫・礫片が1点出土した。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前葉～中葉の可能性がある。(佐藤)

P-24 (図IV-27 図版35)

位置 M51 **立地** 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 1.35×1.26/1.04×0.90/0.53m

確認・調査 III層上面で礫とその周辺に黒褐色土の落ち込みを検出した。坑底～壁の立ち上がりは緩やかで皿状の土坑である。

覆土 非常に堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土中からIII群a類の土器片が1点、剥片3点、安山岩の石皿1点、礫・礫片が6点出土した。

時期 周辺の土坑、出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(新家)

P-25 (図IV-27 図版35)

位置 L・M52 **立地** 調査区西側標高約27mの緩斜面

平面形 円形 **規模** 1.17×1.03/1.07×0.96/0.36m

確認・調査 III層上面で礫が7点並んで出土した。その周辺に暗褐色土の落ち込みを検出した。坑底～壁の立ち上がりは緩やかで皿状の土坑である。

覆土 非常に堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土からIV群a類の土器片が10点、つまみ付ナイフが1点、剥片3点、安山岩や砂岩の礫が11点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

P-26 (図IV-27 図版35)

位置 L51 **立地** 調査区西側H-6付近

平面形 楕円形 **規模** 1.06×0.94/0.88×0.62/0.21m

確認・調査 H-6調査中に西側に暗褐色土の円形の落ち込みを検出した。上部は風倒木による攪乱を受けているが、断面の観察からH-6よりも新しいと判断した。坑底は平坦で壁は明瞭に立ち上がる。

覆土 堅くしまり、埋戻しである。

遺物出土状況 覆土から礫が1点出土している。

時期 検出状況、周辺の遺構から、縄文時代後期前葉と考えられる。(佐藤)

P-27 (図IV-28 図版35)

位置 L49 **立地** 調査区西側

平面形 円形 **規模** 0.88×0.80/0.55×0.51/0.34m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に土坑を検出した。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

覆土 埋戻しである。P-27周辺でみられたII層は暗褐色土であることと、覆土中に黒褐色のII層に由来する黒褐色土が堆積していることから、P-27周辺は埋没後に改変している。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(佐藤)

P-28 (図IV-28 図版36)

位置 L50 **立地** 調査区西側

平面形 楕円形 **規模** (1.20)×1.05/0.85×0.64/0.18m

確認・調査 III層上面に大礫があったため、それを残して掘り下げたところ、IV層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。上部のほとんどがH-5とH-6の間に位置する風倒木により、攪乱を受けていた。平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。H-5側では壁の上部を掘りすぎてしまったが、大礫の下位に残る堆積土はI層であったことから、H-5が古い。

覆土 埋戻しである。

遺物出土状況 覆土I層から石皿が1点、礫・礫片が1点出土した。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(佐藤)

P-29 (図IV-28、45-64・65 図版36、60-64・65)

位置 161 **立地** 調査区中央部、標高約29m付近

平面形 小判形 **規模** 1.29×0.55/1.16×0.14/0.26m

確認・調査 II層の調査を終えたところで、小判形の黒褐色土に土器片や礫等が混ざり落ち込んでいるのを検出した。半截したところ、平坦な坑底と明瞭に立ち上がる壁を確認した。調査区西側の土坑群とは形状が異なる。

覆土 2層に分層した。堅くしまり、埋戻しと思われる。

遺物出土状況 覆土からIII群b類の土器片が1点、IV群a類が39点、泥岩のフレイクが4点、礫が5点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と思われる。(新家)

P-30 (図IV-28、46-66 図版36・37、60-66)

位置 K60 **立地** 調査区中央部、標高28~29m付近

平面形 円形 **規模** 0.79×(0.71)/0.46×0.45/0.22m

確認・調査 石組が8の調査終了後、隣接する黒褐色土の落ち込みを攪乱と誤認し、掘り下げたところ、土器がつぶれた状態で出土した。皿状の浅い掘り込みに土器が入る土坑であるとわかった。

覆土 上部は削平してしまっていたが、覆土は黒褐色で炭化物をわずかに含む。

遺物出土状況 坑底からⅢ群a類の土器片77点、礫69点、剥片が8点まとまって出土した。

時期 坑底から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。その結果、4,480±30yrBPの年代値が得られた。分析結果や出土した土器から、縄文時代中期前葉～中葉と思われる。(新家)

P-31 (図Ⅳ-29 図版37)

位置 K49 **立地** 調査区西側

平面形 楕円形 **規模** 0.74×(0.68)／0.48×(0.45)／0.27m

確認・調査 Ⅱ層(暗褐色)を掘り下げ、Ⅲ層上面を精査中に土坑を検出した。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。検出状況からH-2が新しい。

覆土 埋戻しである。

遺物出土状況 覆土中から剥片が4点、礫・礫片が182点出土した。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期末から後期初頭の可能性がある。(佐藤)

P-32 (図Ⅳ-29 図版37)

位置 J60 **立地** 調査区中央部、標高28～29m付近

平面形 円形 **規模** 0.38×0.34／0.26×0.25／0.20m

確認・調査 石組が8・9調査後、周辺のⅢ層を精査したところ、Ⅳ層上面で径30cmほどの暗褐色の円形の落ち込みを検出した。半截して掘り下げた結果、下半分が小砂利で埋められており、盛土エリアで多く検出されたSPに似る土坑とわかった。

覆土 2層に分層した。1層はⅢ層起源の堅くしまった暗褐色土、2層はφ3cmほどの豆砂利が密に充填され、固結した層である。

遺物出土状況 覆土から礫1点、坑底から豆粒大の小砂利が出土した。

時期 盛土エリアのSPと様相が似ていることから、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。(新家)

(3) 柱穴状小土坑 (図Ⅳ-30～32、46-67、54-40 図版37～42、60-67、63-40、65・66)

SP-1～56は主に盛土の下位、または盛土調査後のⅢ層で検出した。SP-57は盛土区域からやや離れたところで検出した。いずれもほとんどが大量の礫が穴の中に充填されており、用途は不明である。礫は小土坑によって大きさや形状、数量など様々で、それぞれの小土坑ごとに礫の大きさや形をある程度選択して充填していると思われる。大きめの礫を充填しているものでは1つの土坑から出る礫の数はおよそ100個以下であるが、直径1cm程度の豆粒大の砂利を充填しているものは1小土坑あたり1,000～3,000個以上を数える。また砂利が全く入っていない小土坑が4基 (SP-11、51、52、57)、礫とともに土器片が34点入っているものが1基 (SP-36) あった。土坑は直径、深さとも20cm前後のものがほとんどであるが、中には深さ30cm以上のもの (SP-12、38、44、55、56) もある。

小土坑は、充填されている礫の形状と大きさにより以下のおおな6つのタイプに分けられる。

砂利や礫が全く入らない……………SP-11、51、52、57

礫に交じって土器片数十点が入る……………SP-36

主に角礫～亜角礫 φ1cm以下～5cm位の礫が入る……………SP-5、26、47、49

φ3cm～10cm位の礫が入る……………SP-8、15、20、23、30、50、53

大小とも入る……………SP-48

主に円礫～亜円礫 φ1cm以下小豆粒大～3cm位の礫が入る…SP-2、7、8、9、13、16、27、29、

45、47、54

φ3cm～10cm位の礫が入る……………SP-1、3、4、6、10、14、17、19、
21、22、24、25、28、33～39、55、56

大小とも入る……………SP-12、18、31、32、40～44、46

充填された礫の石材は泥岩、砂岩、チャート、頁岩などが主で、近隣の海岸や河原から持ち込まれたものと思われる。

時期 いずれも盛土遺構と同じ時期、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

(4) 石組炉

石組炉1 (図IV-33、46-68、55-42 図版42、61-68、64-42)

位置 J50 **立地** 調査区西側

平面形 楕円形 **規模** 0.58×0.47/0.39×0.28/0.11m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に石組炉を検出した。石組の礫は一部が残っており、組まれた状態で8個、外れた状態で1個を検出した。近接して土器が1個体つぶれた状態で出土した。

覆土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 IV群a類の土器が1個体つぶれた状態で出土した。この他に剥片が1点、たたき石が1点、砥石1点、礫・礫片が8点出土した。

時期 検出状況と出土遺物から縄文時代後期初頭である。(佐藤)

石組炉2 (図IV-33、55-43 図版42、64-43)

位置 K49 **立地** 調査区西側のH-2内

平面形 楕円形 **規模** 0.68×(0.44)/0.41×(0.34)/0.14m

確認・調査 H-2の2層を調査中に石組炉を検出した。検出が遅れ、ベルト内のみでの検出となった。石組の礫は一部が残っており、組まれた状態で2個、外れた状態で2個を検出した。

覆土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 覆土1層からすり石が1点、石皿が3点、礫・礫片が1点出土した。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(佐藤)

石組炉3 (図IV-33、47-69 図版42、61-69)

位置 M54 **立地** 調査区中央部、標高27～28m付近

平面形 不明 **規模** 0.82×0.70/0.07m

確認・調査 II層調査中、大きさが不ぞろいの礫が並んで出土した。周囲を掘り下げ、礫列の内側に焼土を検出し、石組炉であると判断した。礫はほとんどが被熱している。

焼土 焼け方はレンズ状ではない。III～IV層が焼けたとと思われる焼土塊が混ざり込んでいる。

遺物出土状況 口縁部に貼付帯のあるIV群a類の土器片が1点、砂岩、安山岩の大小の礫が14点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭と思われる。(新家)

石組炉4 (図IV-34 図版42・43)

位置 D67 **立地** 調査区東側

平面形 楕円形 規模 $0.96 \times 0.80 / 0.65 \times 0.46 / 0.08\text{m}$

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に石組炉を検出した。石組の礎は一部が残っており、組まれた状態で2個を検出した。石を据えた際の痕跡を1か所検出した。

覆土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 覆土中からIV群a類の土器片が2点、剥片が1点、礫・礫片が2点出土した。

時期 検出状況と出土遺物から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

石組炉5 (図IV-34 図版43)

位置 E68 立地 調査区東側の盛土遺構のM3層内

平面形 楕円形 規模 $1.04 \times 0.90 / 0.67 \times 0.42 / 0.13\text{m}$

確認・調査 盛土遺構のM3層を20cm程度掘り下げ、石組炉を検出した。石をすべて取り除いている。

覆土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。その結果、 $3,560 \pm 30\text{yrBP}$ の年代値が得られた。分析結果や周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

石組炉6 (図IV-34 図版43)

位置 L・M58 立地 調査区中央部、標高28~29m付近、遺物集中3の南西側

平面形 不明

規模 石組炉本体 $0.54 \times 0.47 / 0.40 \times 0.36 / 0.11\text{m}$ 外焼土 $0.49 \times 0.44 / 0.30 \times 0.27 / 0.12\text{m}$

確認・調査 II層調査中に礎の配列を検出した。掘り下げると若干の掘り込みがあり、またすぐ南側にはほぼ同規模の掘り込みに皿状に敷いた土器片と、その上に焼土塊が落ち込んでいるのを検出した。この焼土には焼土粒や炭化物が混在し、石組炉6から焼土を掻き出して廃棄したものと思われる。炭化物は放射性炭素年代測定、および樹種同定分析を行った(第VI-1・3)。

覆土 石組炉の掘り込みの覆土はIII層起源の暗褐色土で、焼土粒・炭化物等はない。外焼土は、III層起源の暗褐色土と約1~2cmのブロック状の焼土塊層の2層に分かれる。

遺物出土状況 8点の礎が組まれていた。また、中央で外れて1点礎が出土した。外焼土の掘り込みからはIV群a類の土器片が7点、礫・礫片が10点出土した。

時期 出土した炭化物の放射性炭素年代測定を行った。その結果、 $3,880 \pm 30\text{yrBP}$ の年代値が得られた。分析結果や周辺の出土遺物などから縄文時代後期初頭と考えられる。(新家)

石組炉7 (図IV-35、47-70 図版43、61-70)

位置 M61 立地 調査区中央

平面形 楕円形 規模 $1.31 \times 0.93 / 1.03 \times 0.64 / 0.10\text{m}$

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に石組炉を検出した。掘り込みの平面形は楕円形である。石組の礎は一部が残っており、組まれた状態で3個、それ以外は散乱した状態で検出した。石を据えた際の痕跡を2か所検出した。

覆土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 覆土中からIV群a類の土器片が6点、剥片が3点、礫・礫片が34点出土した。

時期 検出した状況と出土した土器から縄文時代後期前葉と考えられる。(佐藤)

石組炉8 (図IV-35 図版43・44)

位置 K80 立地 調査区中央部、標高28~29m付近

平面形 円形

規模 石組本体0.91×0.81/0.78×0.70/0.12m 外焼土 0.51×0.30/0.06m

確認・調査 III層を精査中、11個の角礫で組まれた石組炉を検出した。掘り込みを持ち、脇には廃棄されたと思われる焼土層も見つかった。

覆土 2層に分けた。上部はII層起源の黒褐色土に、φ1~2cmの砂利が大量に入る。下部は暗褐色土で、砂利、焼土粒は混入していない。外焼土はφ1~4cmの暗赤褐色の焼土ブロックが、II層が焼けたものと思われる暗褐色土の中に混在する。

遺物出土状況 11個の角礫が組まれている。覆土上部からは13,000点を超える小さな小さな砂利が出土した。石組炉の外にはIV群a類の土器片が10点出土した。

時期 検出状況や出土遺物から縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

石組炉9 (図IV-35、47-71 図版44、61-71)

位置 J・K60 立地 調査区中央、石組炉8の北側に隣接

平面形 楕円形 規模 1.04×0.80/0.78×0.52/0.14m

確認・調査 石組炉8調査後、北側にも小砂利がたまった部分を検出した。精査・半截し、石組の礫を抜き取った跡や、砂利層の下の焼土粒と炭化物が混入した層を検出した。隣接する石組炉8は、石組炉9の礫を抜き取り、再利用したものか。

覆土 石組の礫を抜き取った跡にII層がたまった層、II層にφ1~2cmの大量の砂利が混入した層、その下の褐色の焼土粒を含んだ層の3層に分層した。

遺物出土状況 覆土から、24,000個以上の小砂利と、IV群a類の底部が1点、焼成粘土塊4点、黒曜石や頁岩のフレイクが79点出土した。

時期 検出状況や周辺の遺構から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

(5) 焼土

F-1 (図IV-36 図版44)

位置 N・O49 立地 調査区西側標高約27mの緩斜面 規模 0.61×0.53/0.08m

確認・調査 II層調査中に検出した。弱く焼けた焼土粒がわずかに混在する。その場で焼けたものか不明である。

焼土 弱く焼けた散漫な焼土粒がII層中に混在する。

遺物出土状況 フレイクが3点出土している。

時期 周辺の遺構から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

F-2 (図IV-36、47-72 図版44、61-72)

位置 J50 立地 調査区西側のH-1内 規模 0.70×0.40/0.07m

確認・調査 H-1の1層を調査中に焼土を検出した。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

焼土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 焼土中からIV群a類の土器片が1点、剥片が1点、礫・礫片が1点出土した。

時期 検出状況と出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(佐藤)

F-3 (図IV-36 図版44)

位置 L51 **立地** 調査区西側 **規模** 0.99×0.82/0.11m

確認・調査 II層(暗褐色)を10cm程度掘り下げたところ焼土を検出した。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

焼土 下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 検出状況と周辺の出土遺物などから縄文時代後期前葉と考えられる。(佐藤)

F-4 (図IV-36、47-73 図版45、61-73)

位置 M54 **立地** 調査区中央、標高27~28m付近 **規模** 0.67×0.53/0.08m

確認・調査 II層調査中に複数の土器片がまとまって出土し、その周辺に焼土塊が散漫、不連続・不均一にIII層と混在しているのを検出した。この場で焼けたものではないと思われる。

焼土 暗赤褐色の焼土塊がIII層中に混在する。

遺物出土状況 IV群a類の土器片が52点、砂岩の礫が1点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

F-5 (図IV-37 図版45)

位置 E66 **立地** 調査区東側、盛土2層中 **規模** 0.78×0.50/0.18m

確認・調査 盛土2層調査中に検出した。焼土粒と炭化物が混在し、この場で焼けたものではなく廃棄されたものと思われる。

焼土 褐色土中に明赤褐色の焼土ブロックが10%程度入る1層と、暗褐色土中に明赤褐色の焼土ブロックが5%程度入る2層に分けた。

遺物出土状況 焼土2層から撚糸文の施された土器片等が22点、剥片1点、礫・礫片が31点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

F-6 (図IV-37 図版45)

位置 F68・69 **立地** 調査区東側の盛土遺構内 **規模** 1.30×0.80/0.06m

確認・調査 盛土遺構のM3層を10cm程度掘り下げたところ焼土を検出した。覆土の状況から、廃棄された焼土である。

焼土 炭化物粒と焼土粒を含み、下限は判然としている。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(佐藤)

F-7 (図IV-37 図版45)

位置 E69 **立地** 調査区東側の盛土遺構内 **規模** 1.02×0.76/0.08m

確認・調査 盛土遺構のM3層を15cm程度掘り下げたところ焼土を検出した。覆土の状況から、廃棄された焼土である。

焼土 炭化物粒と焼土粒を含み、下限は判然としている。

遺物出土状況 遺物は出土していない

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(佐藤)

F-8 (図IV-37 図版45)

位置 M57 **立地** 調査区中央 **規模** 0.52×0.24/0.08m

確認・調査 II層(暗褐色)を掘り下げ、III層上面を精査中に焼土を検出した。覆土の状況から、廃棄された焼土である。

焼土 炭化物粒と焼土粒を含み、下限は判然としている。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時期 検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(佐藤)

(6) 配石・集石

S-1 (図IV-38 図版45)

位置 D67 **立地** 調査区東側の盛土遺構のM2層内 **規模** 0.48×0.40m

確認・調査 盛土遺構のM2層を10cm程度掘り下げたところ、礫の集中を検出した。礫は平面的に分布しており、周辺の小礫の詰まった柱穴と様相は異なる。柱穴に詰めた礫の残りを廃棄したものの可能性がある。

遺物出土状況 折返し口縁の破片等IV群a類の土器片が13点、たき石が1点、小礫が313点出土した。

時期 出土遺物と検出状況から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

S-2 (図IV-38 図版45)

位置 D68 **立地** 調査区東側の盛土遺構のM2層内 **規模** 0.48×0.40m

確認・調査 盛土遺構のM2層を10cm程度掘り下げたところ、礫の集中を検出した。礫は平面的に分布しており、周辺の小礫の詰まった柱穴と様相は異なる。柱穴に詰めた礫の残りを廃棄したものの可能性がある。

遺物出土状況 IV群a類の土器片が3点、剥片が1点、小礫が486点出土した。

時期 出土遺物と検出状況から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

S-3 (図IV-38、47-74、55-41 図版45・46、61-74、64-41)

位置 O56 **立地** 調査区中央 **規模** 1.40×1.14m

確認・調査 II層(暗褐色)を10cm程度掘り下げたところ、礫のまとまりを検出した。さらに、角礫片が小さくまとまって出土した。

遺物出土状況 IV群a類の土器片が3点、扁平打製石器が1点、小～中礫が40点出土した。礫は扁平な円礫が多い。

時期 出土遺物と検出状況から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

S-4 (図IV-38 図版46)

位置 K58 **立地** 調査区中央 **規模** 0.67×0.53m

確認・調査 II層調査中円礫と角礫が不規則にまとまっているのを検出した。石組炉を想定したが、掘り込みや焼土がなく、また礫も焼けた様相がないため集石とした。

遺物出土状況 砂岩や泥岩の円礫、角礫が11点まとまって出土した。

時期 周辺の遺構・遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

(7) 遺物集中

遺物集中1 (図IV-39 図版46)

位置 E69 立地 調査区東側の盛土遺構のM1層内 規模 0.54×0.28m

確認・調査 盛土遺構のM1層上面を精査中に、土器片とフレイク、礫片のまとまりを検出した。1回の廃棄単位のまとまりの可能性がある。

遺物出土状況 遺物は狭い範囲にまとまって出土した。折り返し口縁や燃糸文が施されたIV群a類の土器片が23点、剥片が2点、礫・礫片が227点である。

時期 出土遺物と検出状況から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

遺物集中2 (図IV-39)

位置 E68 立地 調査区東側の盛土遺構のM3層内 規模 0.40×0.34m

確認・調査 盛土遺構のM3層上面を10cm程度掘り下げたところ、土器片とフレイク、礫片のまとまりを検出した。1回の廃棄単位のまとまりの可能性がある。

遺物出土状況 遺物は狭い範囲にまとまって出土した。口縁部に絡条体瓦痕文、器面には燃糸文等を施したIV群a類の土器片が11点、剥片が3点、礫片が190点である。

時期 出土遺物と検出状況から縄文時代後期前葉である。(佐藤)

遺物集中3 (図IV-40、47-75・76、55-44~47、56-48~55 図版46、61-75・76、64-44~55)

位置 L58 立地 調査区中央 規模 0.67×0.53m

確認・調査 II層調査中、黒曜石、頁岩の石槍・石鏃・スクレイパー、片岩製の石斧など石器類が重なって計20点ほど出土した。いずれも長さ5cm前後の剥片で、特に黒曜石の素材がまとまって出土しているのが特徴的である。すぐそばに底部片を含む縄文時代後期前葉の土器片のまとまりも検出した。掘り込みや焼けた跡などはなく、遺物集中とした。このうち黒曜石製の石器4点を、原材産地同定を行ったところ、「赤井川産」という結果を得た。

遺物出土状況 石槍、スクレイパー、石鏃などの剥片石器類とそれらの剥片素材約20点が厚さ10cm程度に積み重なって出土した。出土状況から、袋状の入れ物に入れられていた可能性がある。周囲には同じレベルでIV群a類の土器(75・76)も出土しており、同時期のものと思われる。

時期 周辺で出土した土器から縄文時代後期初頭と考えられる。(新家)

(8) 盛土遺構 (図III-3~5、IV-4・14 図版47~56、67~108 口絵3・4)

位置 D66~69・E65~70・F65・66・68~70・G65~67・69・70・H65~68

立地 調査区東側

確認・調査 調査区東側のII層(黒褐色)上面を精査中に検出した。ラインよりも東側では他のII層(暗褐色)よりも多量の土器片と石器、礫・礫片が出土したため、人為的な堆積層を想定した。調査区東側は形状がU字形のため、トレンチはE69区周辺では南北に幅50cmで1本(Aトレンチ)、E~I67区周辺では調査区の壁際に幅50cmで1本(Bトレンチ)、D~I66区周辺では66ラインに沿って幅2.5mで1本(Cトレンチ)、G66区ではグリッドの中心に幅50cmで長さ2.5mの1本(Dトレンチ)の計4本を設定し、堆積状況を確認した。その結果、Aトレンチでは一部のII層(暗褐色)の下位にM2層とM3層、BトレンチではM4層とM5層とH-7、

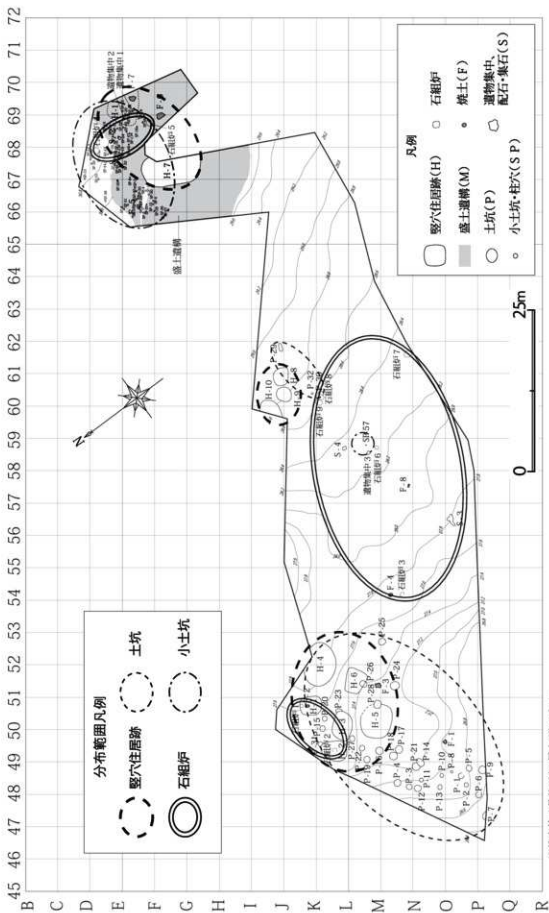
CトレンチではM2～5層、DトレンチではM4層とM5層を検出し、盛土遺構と認識した。トレンチ調査の結果から、M1層とM2層はM3層より新しく、M2層とM4層はM5層より新しい。M1層とM2層、M4層の切り合い関係はなかった。なお、A～Cトレンチでは土層断面図を作図したが、Dトレンチは土層観察のみ行った。A・Cトレンチは図Ⅲ-4・5に、Bトレンチは図Ⅳ-14、H-7のセクション図に掲載した。

土層・分布 M1層は暗褐色壤土で、南東側のU字形の先端部分を中心に分布し、盛土遺構の上面に堆積する。分布は調査区外にも広がっている。M2層は暗褐色壤土で、北西側に帯状に分布し、盛土遺構の上面に堆積する。分布は東側では調査区外にも広がっているが、北西側では調査区外に向けて収束していくように見える。M3層は黒褐色壤土で、南東側のU字形の先端部分を中心に分布し、M1層とM2層の下位に、マウンド状に堆積する。分布は調査区外にも広がっている。M4層は暗褐色壤土で、西側に帯状に分布し、盛土遺構の上面に堆積する。分布は南東側の調査区外にも広がっている。M5層は黒褐色壤土で、西側に帯状に分布し、M2層とM3層の下位に、マウンド状に堆積する。分布は調査区外にも広がっている。M1層とM2層、M4層は土質が類似する。さらにM3層とM5層の土質が類似する。M1層とM4層は土質や遺物出土状況も類似し、近接するが、調査区が分断しているため、別の層とした。M3層とM5層は土質が類似し、近接するが、調査区が分断していることと土器の出土状況が異なるため、別の層とした。

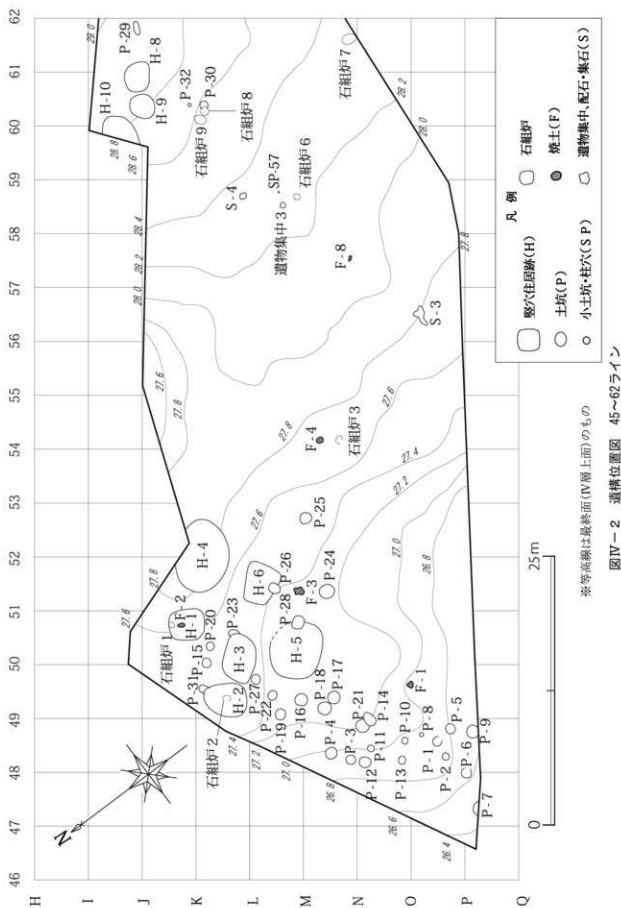
遺物出土状況 M1層の遺物は土器では5cm以下の小破片が多く、礫・礫片も大型のものはない。M2層の遺物は土器では5cm以下の小破片が多く、礫・礫片では大型のものはごく少ない。M3層の遺物は土器では10～15cmほどの大きな破片が多く、礫・礫片では大型のものが多く、さらに土器では一個体が潰れたものや形を保ったものが出土した。M4層の遺物は土器では5cm以下の小破片が多く、礫・礫片では中型のものが多く、大型のものは少ない。M5層の遺物は土器では10～15cmほどの大きな破片が多く、礫・礫片では大型のものが多く。

時期 出土遺物と検出状況から縄文時代後期前葉の時期である。

(佐藤)

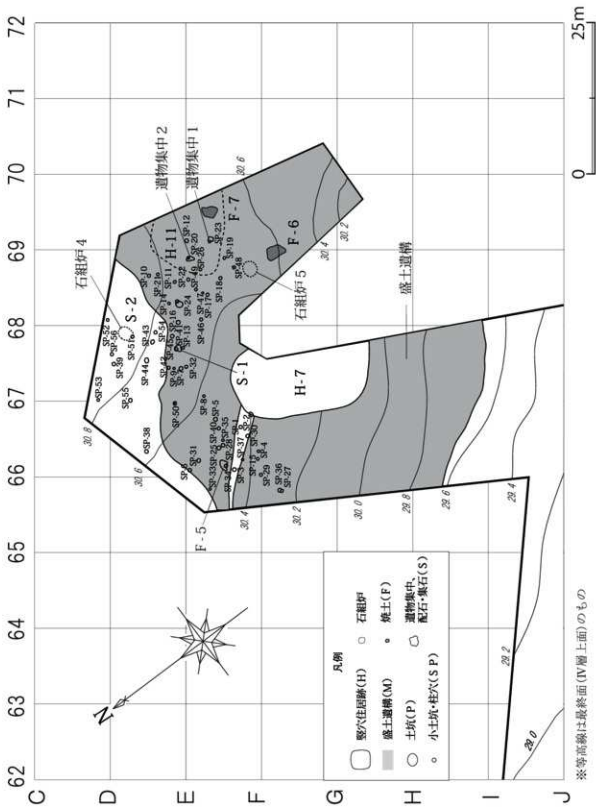


図IV-1 遺構分布範囲図

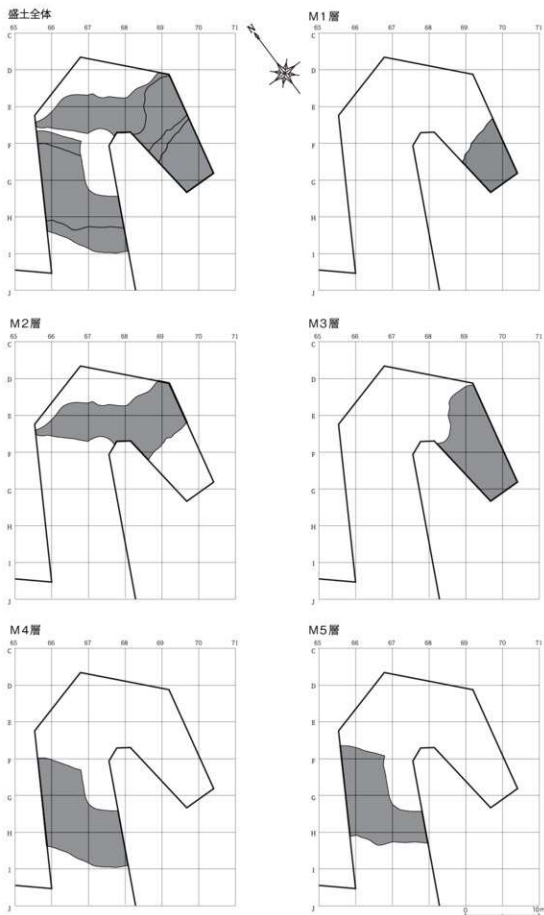


※等高線は最終面(IV層上面)のもの

図IV-2 遺構位置図 45~62ライン

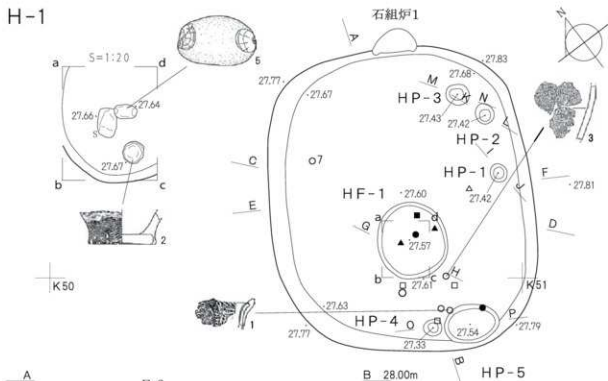


図IV-3 遺構位置図 62~71ライン

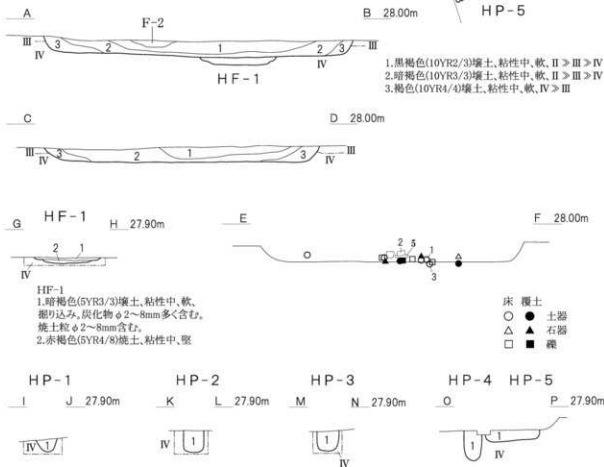


図IV-4 盛土範囲図

H-1



1. 黒褐色(10YR2/3)壤土、粘性中、軟、II > III > IV
 2. 暗褐色(10YR3/3)壤土、粘性中、軟、II > III > IV
 3. 褐色(10YR4/4)壤土、粘性中、軟、IV > III



- HF-1
 1. 暗褐色(5YR3/3)壤土、粘性中、軟、掘り込み、炭化物φ2~8mm多く含む、焼土粒φ2~8mm含む。
 2. 赤褐色(5YR4/8)焼土、粘性中、堅

- 床 覆土
 ○ ● 土器
 △ ▲ 石器
 □ ■ 礎

HP-1~4

1. 暗褐色(10YR3/4)壤土、粘性中、軟

HP-5

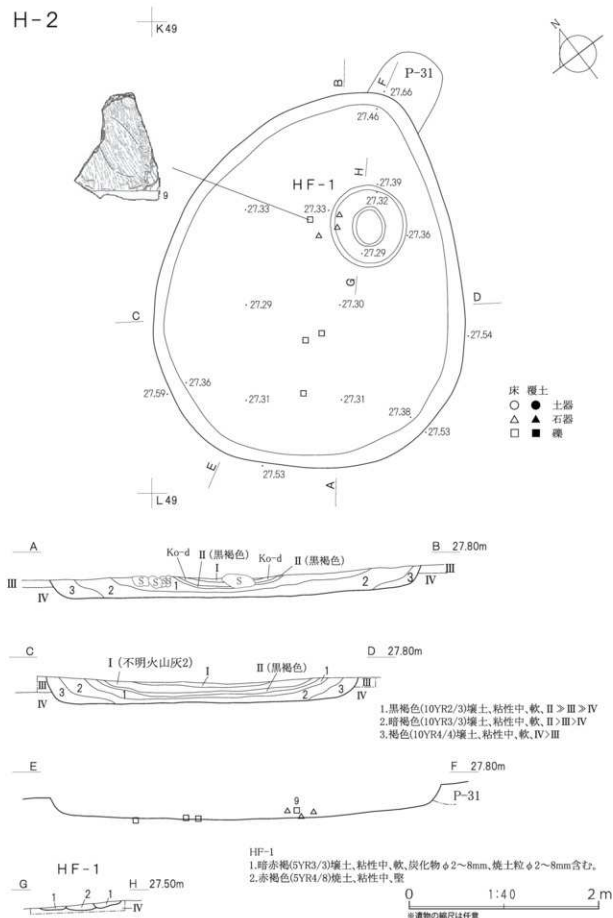
1. 暗赤褐色(5YR3/2)壤土、粘性中、軟、炭化物φ2~8mm、焼土粒φ2~8mm少量含む。



※遺物の縮尺は任意

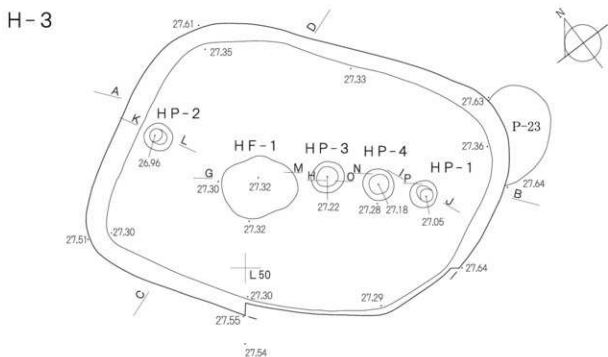
図IV-5 H-1

H-2

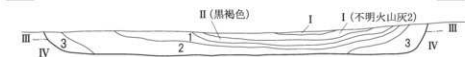


図IV-6 H-2

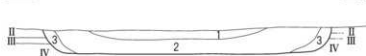
H-3



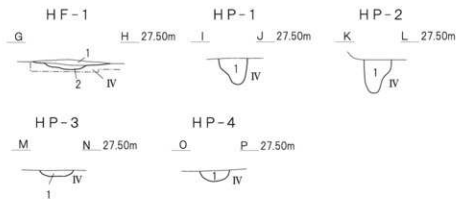
A B 27.90m



C D 27.90m



1. 黒褐色(10YR2/3)壤土, 粘性中、軟、II > III > IV
2. 暗褐色(10YR3/3)壤土, 粘性中、軟、II > III > IV
3. 褐色(10YR4/4)壤土, 粘性中、軟、IV > III



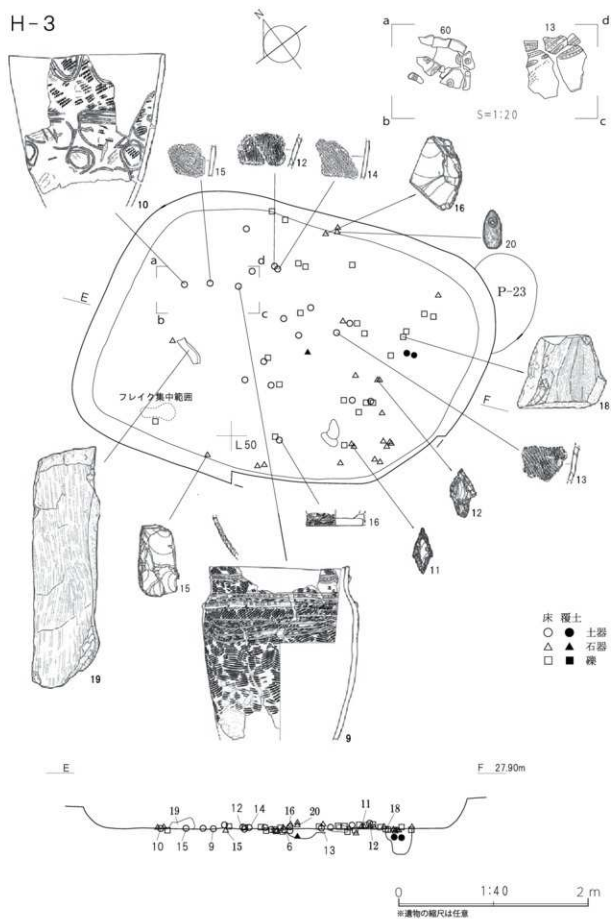
HP-1
1. 黒色(10YR2/1)壤土, 粘性中、軟、炭化物φ2~8mm, 焼土粒φ2~8mm含む。
2. 暗褐色(10YR3/4)壤土, 粘性中、やや堅

HP-1~4
1. 暗褐色(10YR3/4)壤土, 粘性中、軟

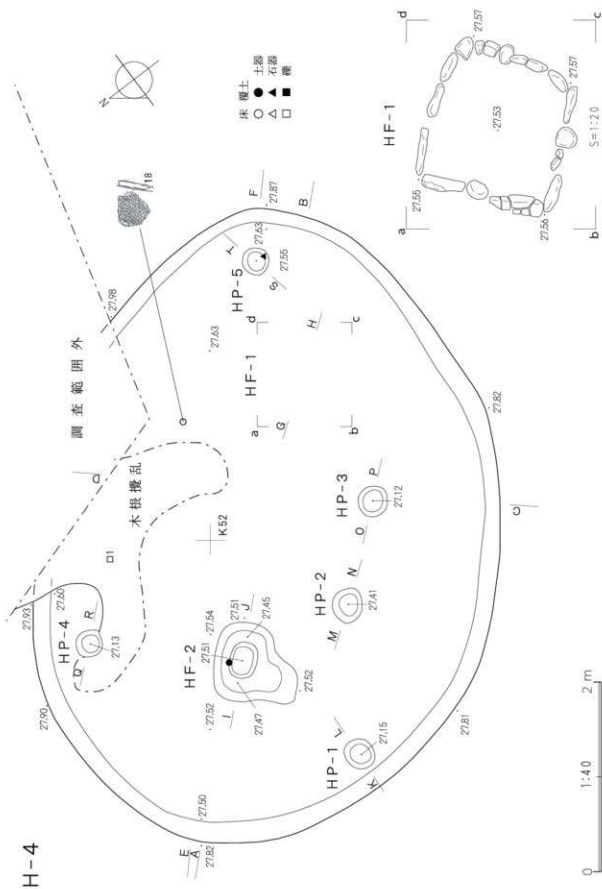
0 1:40 2 m

図IV-7 H-3 (1)

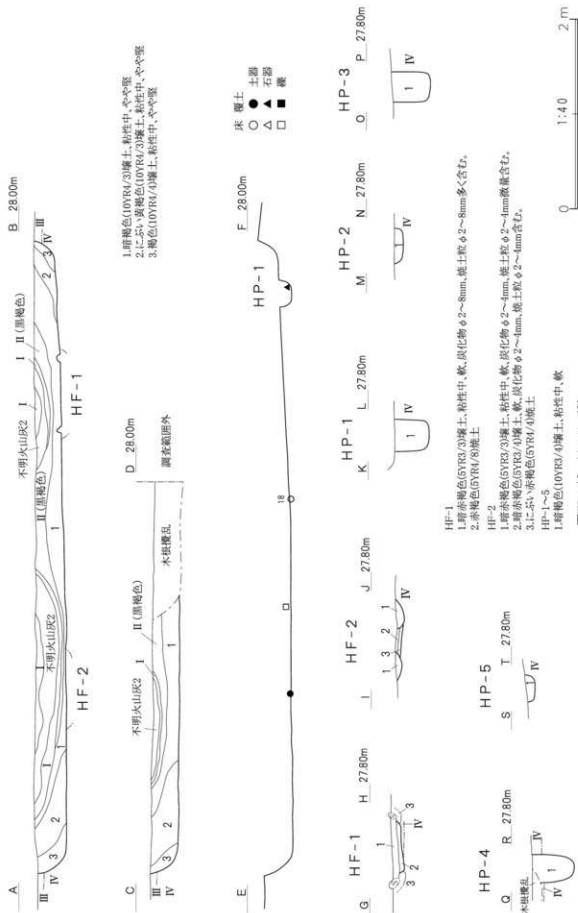
H-3



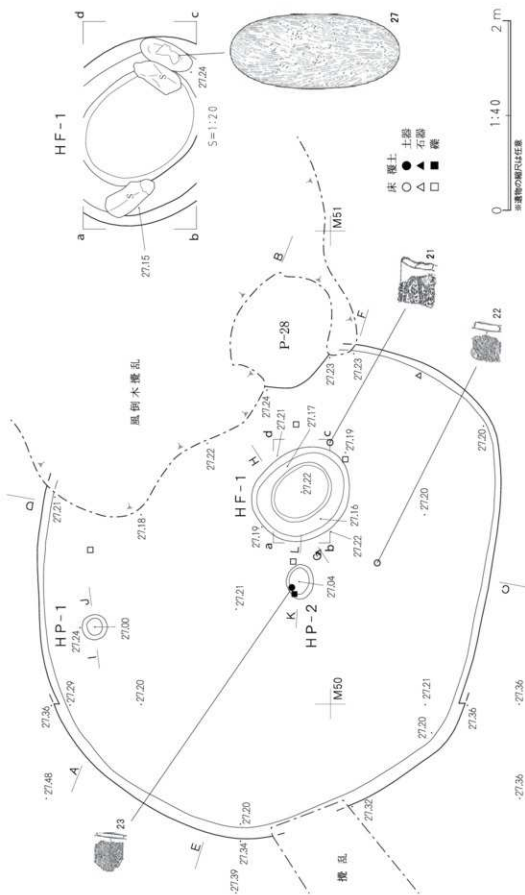
図IV-8 H-3 (2)



H-4



図IV-10 H-4 (2)



圖IV-11 H-5 (1)

H-5

B 27.70m

A



1. 暗褐色(10YR3/3)壤土, 粘性中, 軟, II(黒褐色)Ⅲ>Ⅳ
2. 褐色(10YR4/4)壤土, 粘性中, 軟, IV>Ⅲ

C

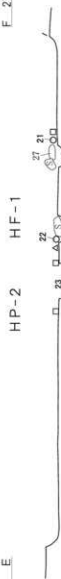
D 27.70m



風割木遺乱

E

F 27.70m



HP-2 HF-1

- 床 覆土
- 土器
 - 土器
 - △ 石器
 - 礎

HF-1

HP-1

HP-2

G H 27.50m

J 27.50m

K L 27.50m



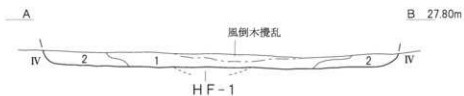
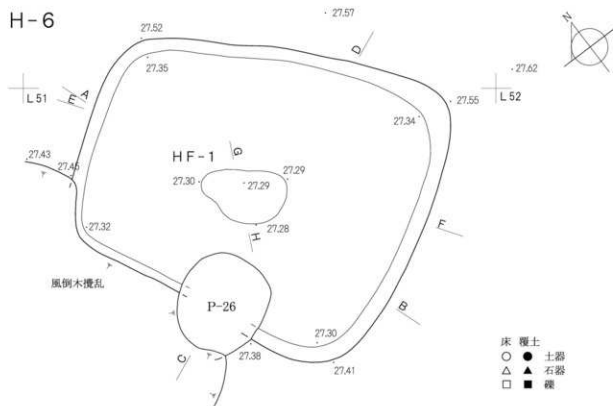
A

- HP-1
 1. 暗赤褐色(5YR3/3)壤土, 粘性中, 軟, 炭化物 φ2~8mm, 炭土粒 φ2~8mm 含む,
 2. 赤褐色(5YR4/4)壤土, 粘性中, 堅
 HP-1-2
 1. 暗褐色(10YR3/4)壤土, 粘性中, 軟

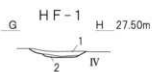


図IV-12 H-5 (2)

H-6

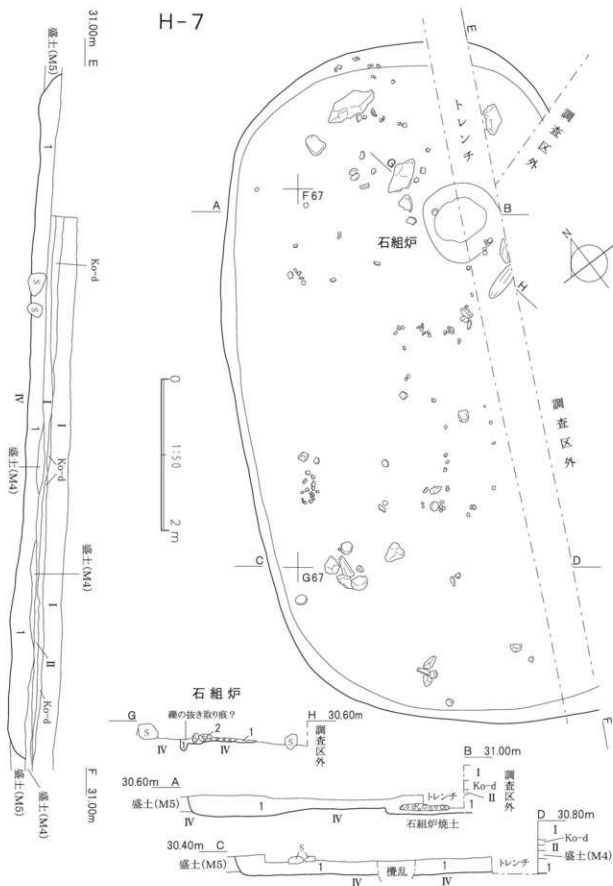


1. 暗褐色(10YR3/4)壤土、粘性中、軟、II(黒褐色)Ⅲ>IV
2. 褐色(10YR4/4)壤土、粘性中、軟、IV>III



HF-1
1. 極暗赤褐色(5YR2/3)壤土、粘性中、軟、炭化物φ2~4mm、焼土粒φ2~4mm少量含む。
2. 暗赤褐色(5YR3/2)壤土、粘性中、軟

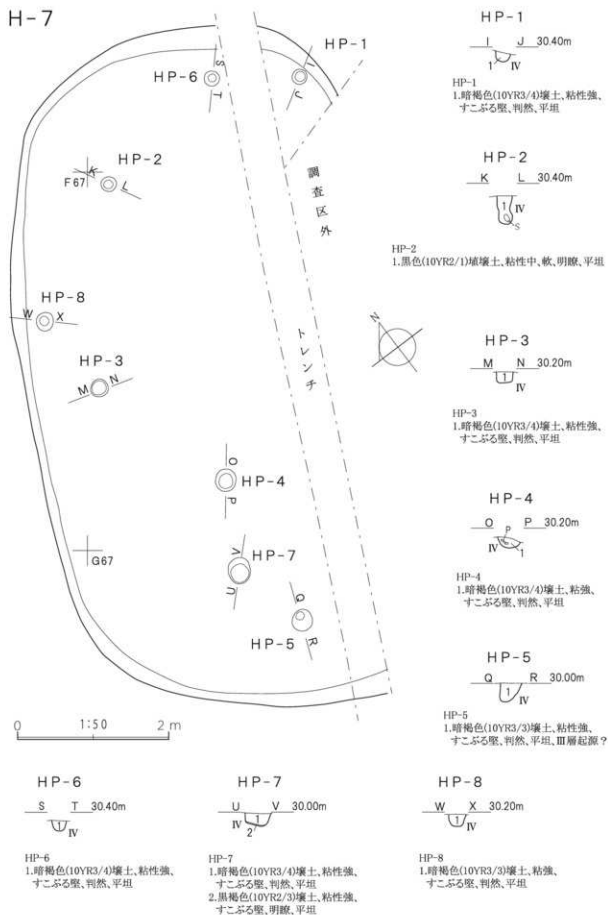




1. 覆土、暗褐色(10YR3/4)埴壤土、粘性強、すこぶる堅、判然、平坦、II + III
2. 焼土(石組炉)、赤褐色(5YR4/8)砂壤土、粘性なし、すこぶる堅、明瞭、不連続、IIまたはIIIが強く焼けたもの

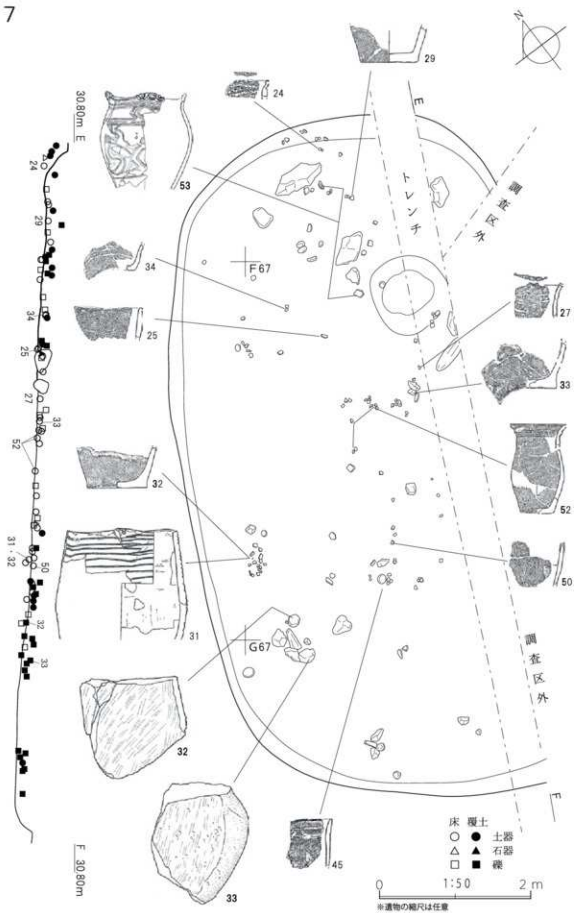
図IV-14 H-7 (1)

H-7

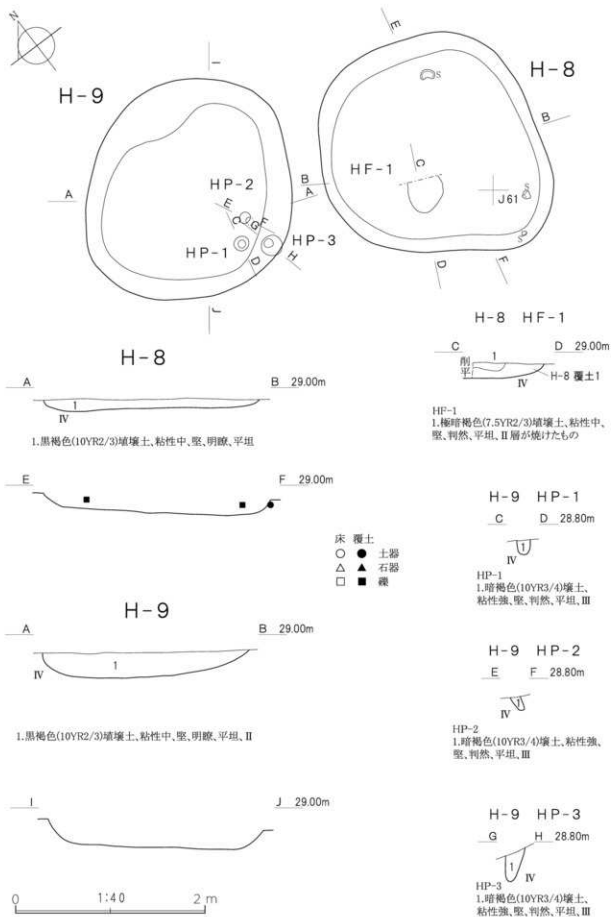


図IV-15 H-7 (2)

H-7

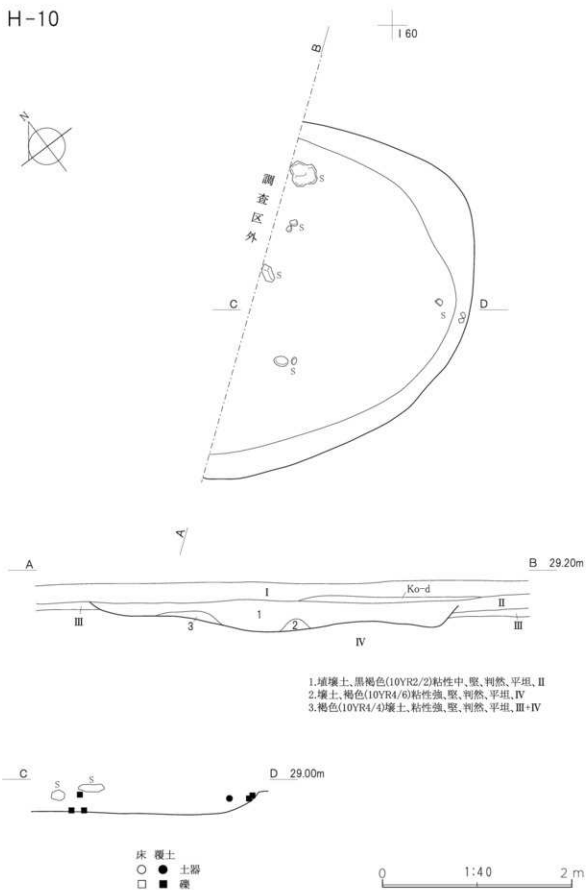


図IV-16 H-7 (3)



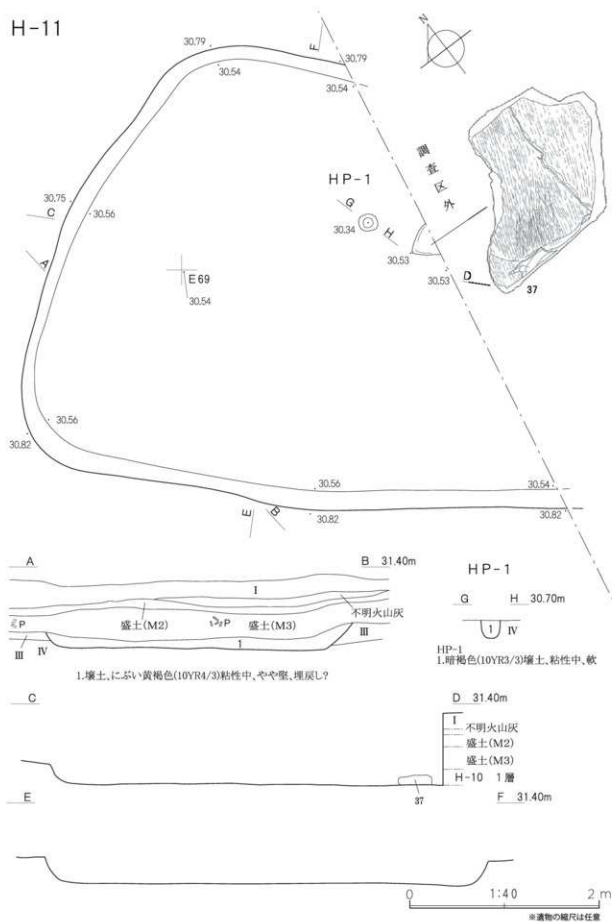
図IV-17 H-8・9

H-10



図IV-18 H-10

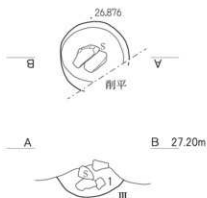
H-11



図IV-19 H-11

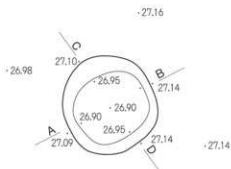


P-1

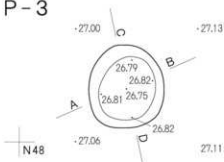


P-1
I. 黒褐色(10YR2/2)埴壇土、粘中、堅、判然、平坦、II

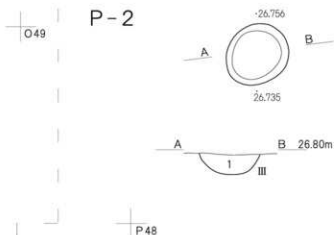
P-4



P-3

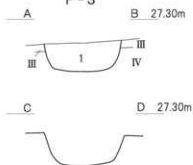


P-2



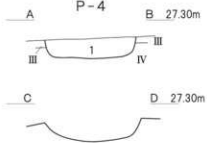
P-2
I. 黒褐色(10YR2/3)埴壇土、粘性中、すこぶる堅、判然、平坦、II

P-3



P-3
I. 黒褐色(10YR2/3)埴壇土、粘性中、堅、II > III > IV
炭化物粒 ϕ 2~1mm 少量含む

P-4



P-4
I. P-3と同じ

0 1:40 1 m

図IV-20 P-1~4

P-5



P-5
1. 黒褐色(10YR2/3)埴壇土、粘中、すこぶる堅、判然、平坦、II

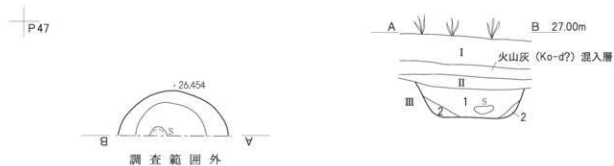
P49

P-6



P-6
1. 黒色(10YR2/1)埴壇土、粘性中、すこぶる堅、判然、平坦、II

P-7



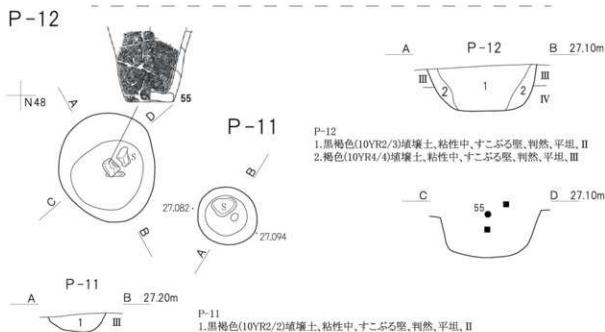
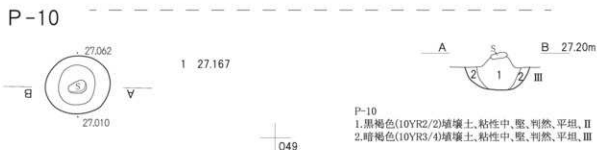
P-7
1. 黒褐色(10YR2/2)埴壇土、粘性中、すこぶる堅、判然、平坦、II
2. 暗褐色(10YR3/3)埴壇土、粘性中、すこぶる堅、判然、平坦、II > III
2は崩落土、自然堆積か。

P-8



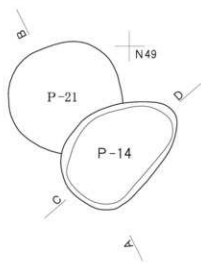
P-8
1. 暗褐色(10YR3/4)埴壇土、粘性中、すこぶる堅、判然、平坦、II + III

0 1:40 1m

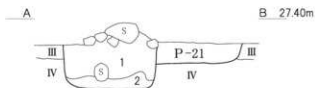


図IV-22 P-9~13

P-14

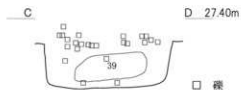


P-14

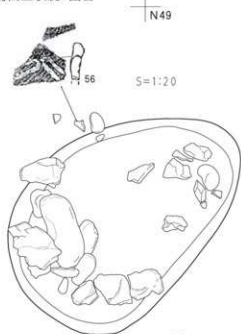


P-14

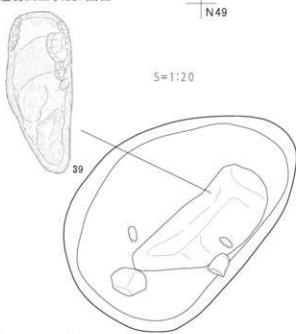
1. 黒色(10YR2/1)埴壤土、粘強、堅、明瞭、平坦、II
若干IVローム粒混入
2. 褐色(10YR4/4)埴壤土、粘強、すこぶる堅、明瞭、平坦、IV>III
貼り床のように固い。



P-14
遺物出土状況1回目



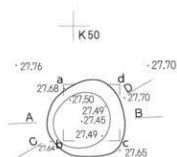
P-14
遺物出土状況2回目



※遺物の縮尺は任意

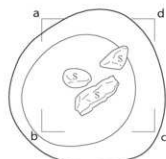
図IV-23 P-14

P-15



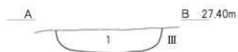
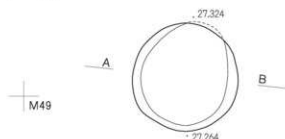
P-15

- I. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘中、堅、
- II 黒褐色>III>IV
- 炭化物粒φ2~4mm少量含む



5=1:20

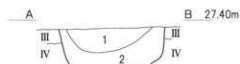
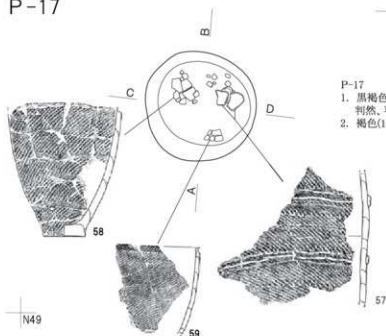
P-16



P-16

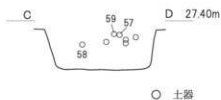
- I. 黒褐色(10YR2/2)埴壤土、粘中、すこぶる堅、判然、平坦、II

P-17



P-17

- I. 黒褐色(10YR3/2)埴壤土、粘中、すこぶる堅(固結)、判然、平坦、III
- II. 褐色(10YR4/4)埴壤土、粘強、固結、判然、平坦、IV>III



○ 土器

0 1:40 1m
※遺物の縮尺は任意

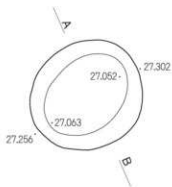
図IV-24 P-15~17

P-18

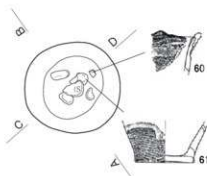


P-18

1. 黒褐色(10YR2/3)埴壤土、粘中、堅、判然、平坦、II
2. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘中、堅、判然、平坦、III

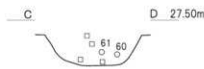


P-19



P-19

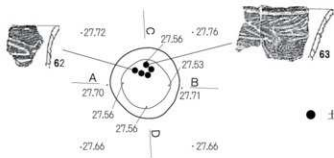
1. 黒褐色(10YR2/2)埴壤土、粘中、すこぶる堅、判然、平坦、II
2. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘中、堅、不連続、III > IV



○ 土器
□ 礎



P-20



P-20

1. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘中、堅、II (黒褐色) > III > IV

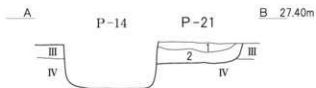
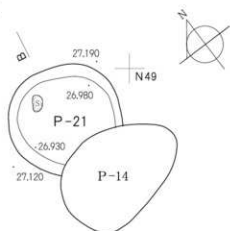


● 土器

0 1:40 1m

※遺物の縮尺は任意

P-21

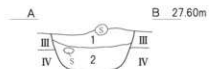


P-21

- 10YR2/2 黒褐色埴土、粘強、すこぶる堅、判然、平坦、II 若干IVローム粒混入
- 10YR3/3 暗褐色埴土、粘中、すこぶる堅、明瞭、平坦、II > III

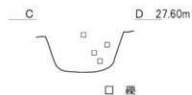
L49

P-22

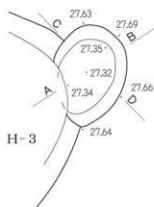


P-22

- 10YR3/3 暗褐色埴土、粘中、すこぶる堅、漸変、波状、III > II
- 10YR3/4 暗褐色埴土、粘強、堅、明瞭、平坦、III + IV、埋め戻し



P-23



P-23

- 暗褐色埴土

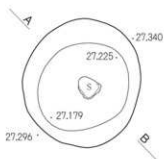


L51

0 1:40 1m

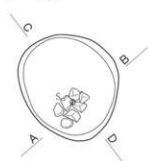
図IV-26 P-21~23

P-24

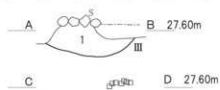


P-24
1. 黒褐色(10YR2/3)埴壤土、粘強、すこぶる堅、判然、平坦、II

P-25

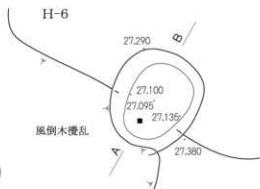


○ 土器
□ 礎



P-25
1. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘中、すこぶる堅、判然、波状、III>IV

P-26



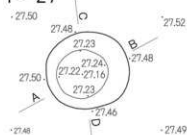
1. 暗褐色(10YR3/4)壤土、粘性中、軟、II(黒褐色)>III>IV
2. 褐色(10YR4/4)壤土、粘性中、軟、IV>III

■ 礎

0 1:40 1m

図IV-27 P-24~26

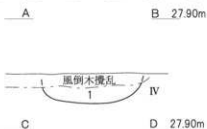
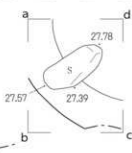
P-27



P-27

1. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘性中、堅、II(黒褐色)>III>IV

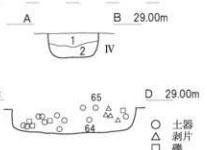
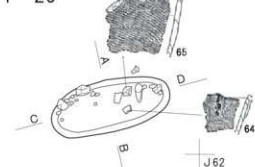
P-28



P-28

1. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘性中、堅

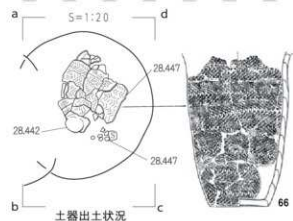
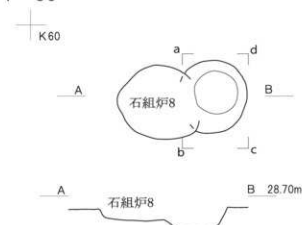
P-29



P-29

1. 黒褐色(10YR2/3)埴壤土、粘中、堅、判然、平坦、II、埋め戻し
2. 暗褐色(10YR3/4)埴壤土、粘中、堅、明瞭、平坦、III>IV

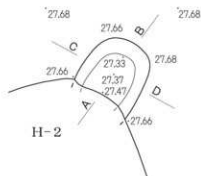
P-30



土器直下の覆土: 黒褐色(10YR3/1)埴壤土、炭化物をわずかに含む

P-31

K49



A B 27.80m



C D 27.80m



P-31

1. 暗褐色(10YR3/3)壤土、粘性中、やや堅、炭化物 ϕ 2~4mm 焼土粒 ϕ 2~4mm少量含む

P-32

K60



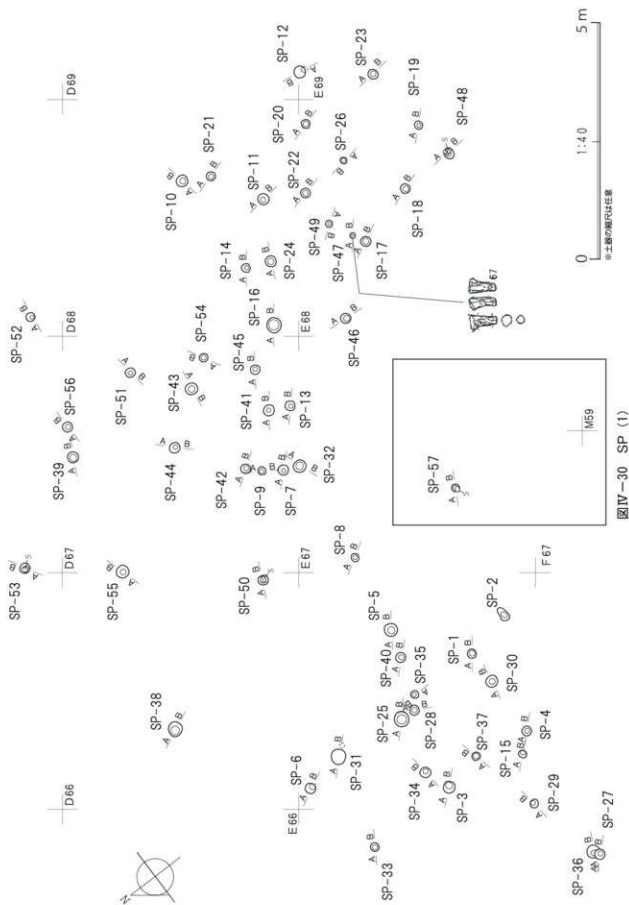
A B 28.80m



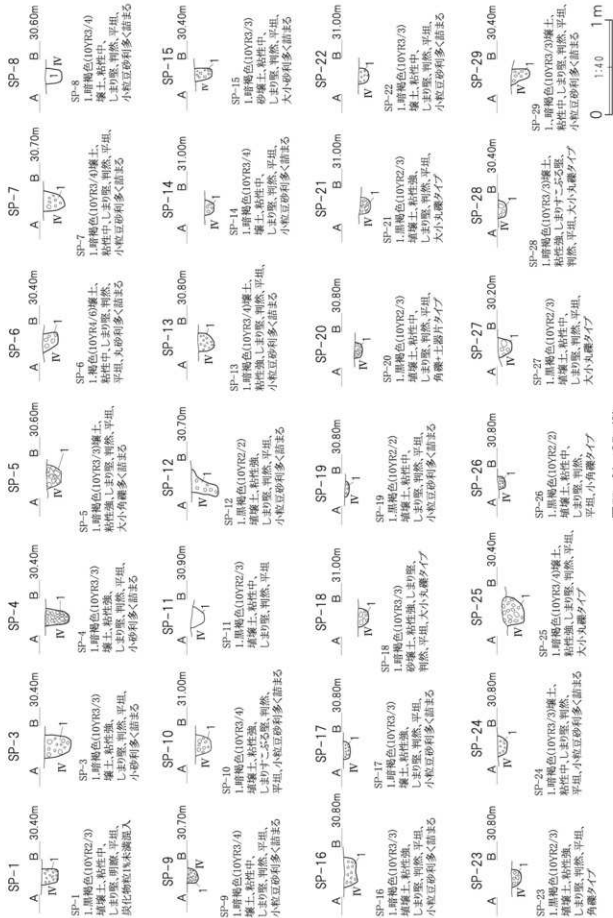
P-32

1. 暗褐色(10YR3/4)壤土、粘強、すこぶる堅、判然、平坦、III 若干IVローム粒混入
2. 砂利が詰め込まれた層、粘なし、固結、明瞭、平坦 泥岩、頁岩、砂岩、珪質頁岩等の小砂利



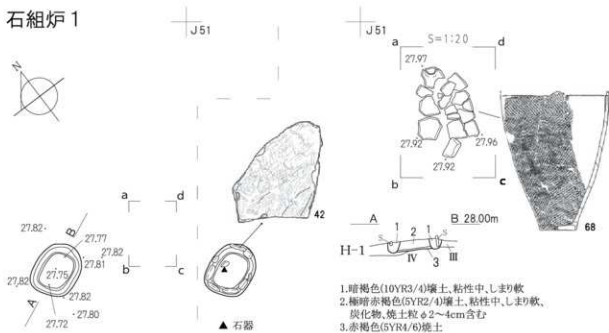


図IV-30 SP (1)

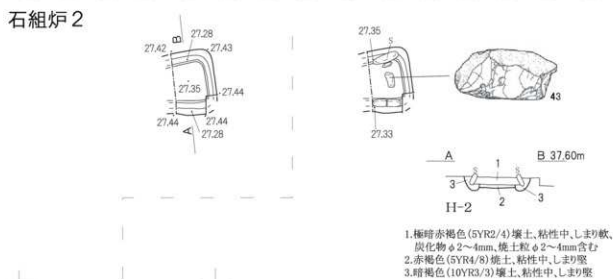


図IV-31 SP (2)

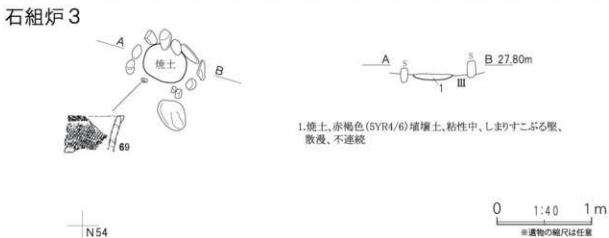
石組炉 1



石組炉 2

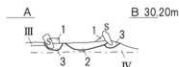
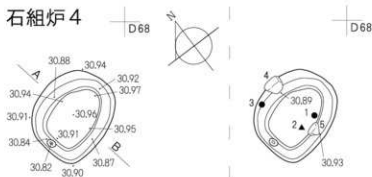


石組炉 3



図IV-33 石組炉 1~3

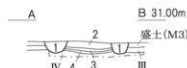
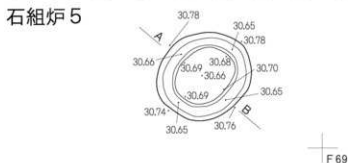
石組炉 4



1. 極暗赤褐色(5YR2/4)壤土、粘性中、しまり軟、炭化物φ2~4mm、焼土粒φ2~4mm含む
2. 赤褐色(5YR4/8)壤土、粘性中
3. 暗褐色(10YR3/3)壤土、粘性中、しまり堅

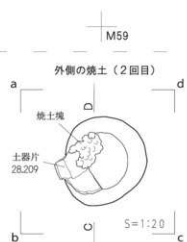
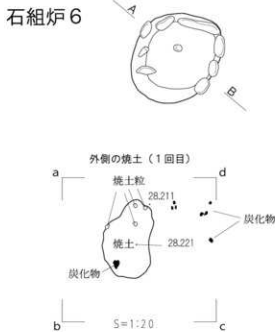
● 土器
▲ 石器

石組炉 5



1. 暗褐色(10YR3/3)壤土、粘性中、しまり軟
2. 極暗赤褐色(5YR2/4)壤土、粘性中、しまり軟、炭化物φ2~8mm、焼土粒φ2~6mm多く含む
3. 暗赤褐色(5YR3/3)壤土、粘性中、しまり堅、炭化物φ2~8mm、焼土粒φ2~6mm含む
4. 赤褐色(5YR4/6)壤土、粘性中、しまり堅

石組炉 6



1. 暗褐色(10YR3/4)埴壤土、粘性中、しまり軟、判然、平坦、II>III

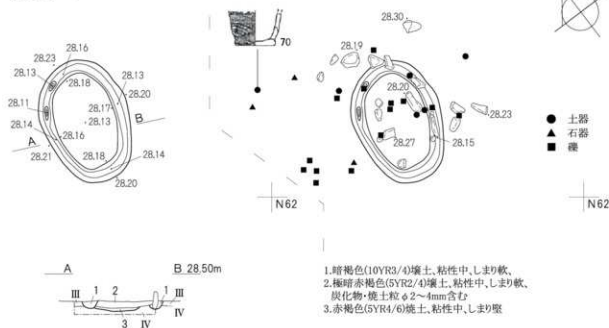


1. 暗褐色(10YR3/3)埴壤土、粘性中、しまり堅、判然、平坦、II>III、炭化物入る
2. 褐色(7.5YR4/6)壤土、粘性強、しまり堅、明瞭、不連続、φ1~2cmのブロック状焼土の塊

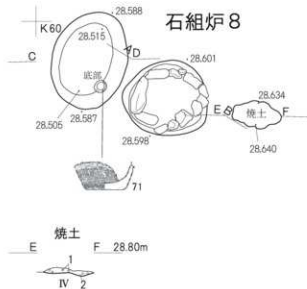
0 1:40 1m

図IV-34 石組炉 4~6

石組炉 7

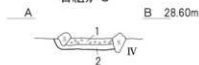


石組炉 9



- 焼土 1. 暗赤褐色(5YR3/6)埴壤土、粘性中、しまりすこぶる堅、明瞭、不連続、 ϕ 1~4cm の焼土ブロック、II層が焼けたもの
- 焼土 2. 暗褐色(7.5Y3/3)埴壤土、粘性強、判然、平坦、II層が焼けたもの、1の周囲の土

石組炉 8



1. 黒褐色(10YR2/3)埴壤土、粘性中、軟、判然、平坦、II層+砂利、 ϕ 1~2cm の砂利が大量に入る
2. 暗褐色(10YR3/4)壤土、粘性中、しまり堅、判然、平坦、II層+III層、焼土ではない?

石組炉 9



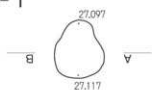
1. 2. 黒褐色(10YR2/3)埴壤土、粘性中、しまり堅、判然、平坦、1は礎の抜き取り痕、II層 2は砂利 ϕ 1~2cm が多量に入る、II層
3. 黒褐色(10YR2/3)埴壤土、粘性中、しまり軟、判然、平坦、II層が焼けたもの、この中に褐色(7.5YR4/4)土のブロックと炭化物が混入する、砂利はなし

0 1:40 1m

※土器の縮尺は任意

図IV-35 石組炉 7 ~ 9

F-1

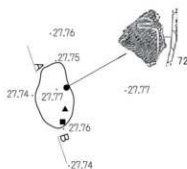


O59



1. 暗褐色(7.5YR3/4)埴壇土、粘性中、しまり堅、散漫、波状、II層が焼けたもの。焼土粒が若干入るのみで、レンズ状のグラデーションはない。その場で焼けたものかは不明。

F-2

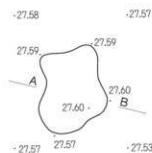


1. 極暗赤褐色(5YR2/4)埴壇土、炭化物φ2~4mm含む
2. 暗赤褐色(5YR3/4)焼土

● 土器
▲ 石器
■ 礎

K51

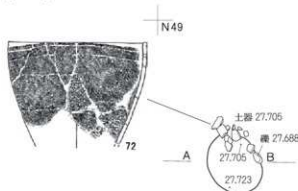
F-3



1. 極暗赤褐色(5YR2/4)埴壇土、炭化物φ2~4mm、焼土粒φ2~4mm含む
2. 暗赤褐色(5YR3/4)焼土

M51

F-4



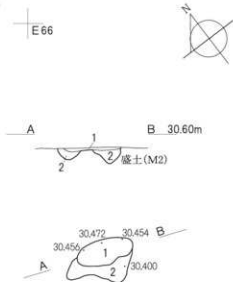
1. 暗赤褐色(5YR3/6)埴壇土、粘性中、すこぶる堅、散漫、不連続、焼けは均一ではなく、焼土塊が混在するもの。レンズ状ではない。焼土塊はIII~IV層が焼けたもの。

0 1:40 1m

※遺物の縮尺は任意

図IV-36 F-1~4

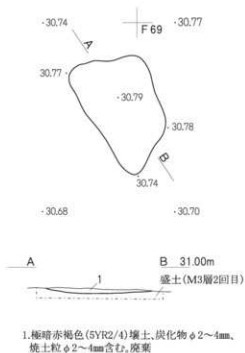
F-5



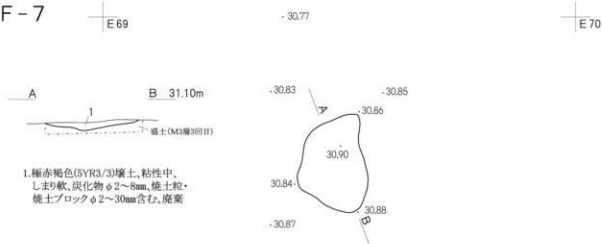
焼土1.褐色(7.5YR4/4)土中に、明赤褐色(2.5YR5/8)の焼土ブロックと炭化物が10%程度混じる。壤土～シルト質壤土、粘性なし、しまりすこぶる堅、判然、波状

焼土2.暗褐色(10YR3/4)壤土の中に明赤褐色(2.5YR5/8)の焼土ブロックと炭化物が約5%程度混入。粘性なし、しまり堅、不連続

F-6

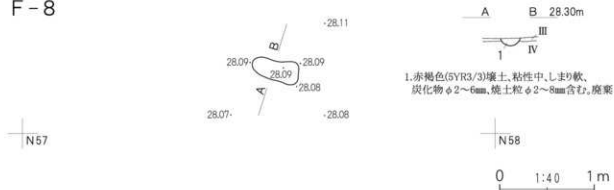


F-7



1.極赤褐色(5YR3/3)壤土、粘性中、しまり軟、炭化物φ2~8mm、焼土粒・焼土ブロックφ2~30mm含む、廃棄

F-8



1.赤褐色(5YR3/3)壤土、粘性中、しまり軟、炭化物φ2~6mm、焼土粒φ2~8mm含む、廃棄

0 1:40 1m

図IV-37 F-5~8

S-1

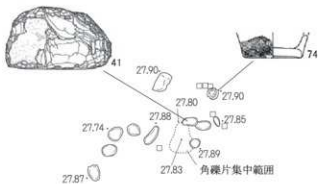


S-2



0 1:40 1 m

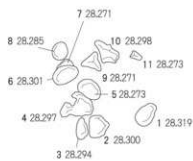
S-3



0 1:40 1 m

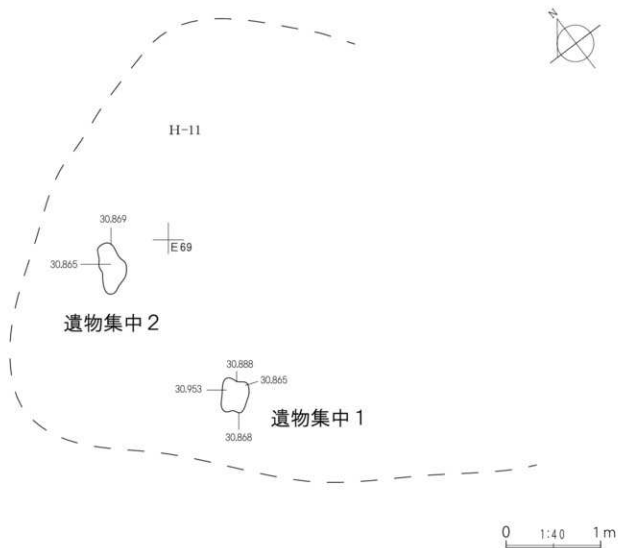
※遺物の縮尺は任意

S-4



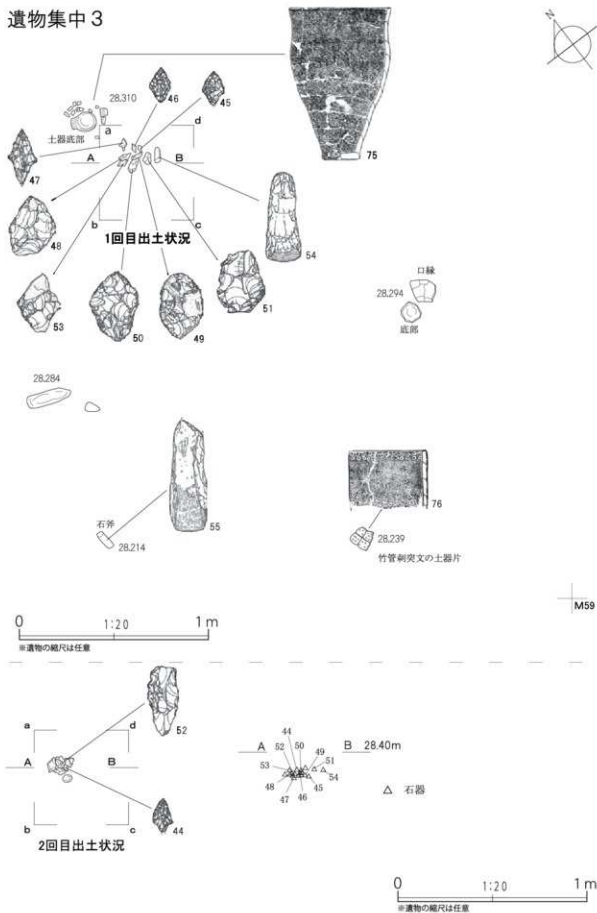
0 1:20 1 m





図IV-39 遺物集中1・2

遺物集中3



図IV-40 遺物集中3

2 遺構出土の遺物

(1) 土器等 (図IV-41~47 図版57~61)

H-1 (図IV-41-1~3 図版57-1~3)

3点図示した。1・2はⅢ群b類。3はⅣ群a類である。1・3は床面から出土した。1は口縁部で縄線文と口唇に刻みがあり、貼付帯上には縄の圧痕が施される。2は底部で、HF-1の覆土から出土した。底部には派出しがあり、下端まで縄文が施文され一部施文の方向を変えている。3は斜行または横走する縄文が施文される。

H-2 (図IV-41-4~7 図版57-4~6)

4点図示した。4はⅢ群a類。肥厚する口唇外面に弧線状の粘土紐の貼付がある。この貼付を縁取るように調整が施され、肥厚帯直下にも2条の沈線が見られる。5はⅢ群b類。地文が斜行縄文で貼付帯を有する。貼付帯上とその上下には連続する短刻線が施される。砂礫を多く含む胎土である。6・7はⅣ群a類。6は口縁が外反する深鉢で、口縁部に竹管状工具による3条の刺突列が廻る。地文は斜行縄文。7は細い沈線で文様が描かれている。

H-3 (図IV-41・42-8~16 図版57-9~16)

9点図示した。床面出土の資料を掲載した。8~11はⅢ群b類。8は山形突起を有する口縁部の破片で地文は燃糸文。頸部には貼付帯が廻り、その上には押し引きが施されている。9・10は共伴して出土した。9は深鉢で口径は25.3cm、底部と胴部が欠損する。残存する器高は31.5cmである。口縁の形態は平縁で、口縁から下6cmに肩部があり、肩部から口縁にかけてくびれは緩やかで、ほぼ垂直に立ち上がる。地文はLR斜行縄文。口唇上端には刺突文が連続する。口縁下と肩部には貼付帯が廻り、貼付帯の上と頸部には連続する刺突文が施されている。口縁下部と頸部の刺突文は沈線で縁取られているが、沈線施文後に刺突が付されている。胴部には上下二段の楕円弧文が廻り、その中に押し引き気味の刺突が施文される。胎土には砂粒を多く含む。10も深鉢で口径は25.5cm、底部と胴部の大半が欠損する。残存する器高は26.3cmである。口縁の形態は平縁で、器形は寸胴である。LR縄文施文後、口縁部には弧を描く懸垂文、胴部には二重の円弧文や弧線文が施文される。11は貼付帯上に沈線が施される。12~16はⅣ群a類。12~15は燃糸文が施される。12・14はR燃糸文である。

H-4 (図IV-42-17~20 図版57-17~20)

4点図示した。17・19はⅢ群b類、18・20はⅣ群a類である。17は北筒式で口縁部が肥厚し、断面の形態が鋭角となる。肥厚帯には刻みがあり、肥厚帯下には円形刺突文が施される。19は口縁下に横環する貼付帯とこれに直交するように口唇から垂下する短い貼付けが付される。貼付帯上には棒状工具による押し引きがある。貼付けの両側には調整痕が認められるが、調整は隆帯貼り付け前に施されている。地文は横走する縄文である。18は床面出土でLR斜行縄文。20は平縁で体部に膨らみがあり、地文はRL縄文が不整合に施文される。

H-5 (図IV-42-21~23 図版58-21~23)

3点図示した。21はⅢ群a類の円筒土器上層b式で、床面から出土した。粘土紐の貼付けによる装飾が施され、粘土紐の区画内には馬蹄形の縄文圧痕が充填される。22・23はⅣ群a類でLR斜行縄文が施される。

H-7 (図IV-43-24~54 図版58・59-24~54)

34点図示した。24~54はⅣ群a類。24~34・52・54は床面出土である。24は2条の縄線間に円形刺突文が連続する。25は横走・斜行する無節縄文で、口縁下には煤状の黒色炭化物が付着する。26は緩い波状口縁で頸部にはくびれがあり、胴部にかけて膨らみをもつ。頸部は無文で体部には横走する燃糸文が施されている。27は3条の沈線が認められるが、表面が剥落している。口縁の突起部には指頭圧痕による浅い

回みがある。28・31・34は横走する沈線で文様構成される。31の口縁突起部には指先による深い窪みが施される。34は胴部下半にも沈線が巡る。29・30・32・33は底部がわずかに張り出す。35～47は口縁。35は折り返しのある波状口縁。胴部にかけて膨らみがある。36は口縁部がわずかに肥厚し、無文帯を挟んで燃糸文が施されている。無文帯には指頭圧痕が残る。37の口縁は外反し、沈線が巡る。38は口縁に沿って2条の筋条体圧痕文が押捺され、地文は燃糸文で構成されている。口縁下には黒色炭化物が付着する。39は、口縁直下に、2条の沈線が巡り、その間を隆帯としている。この隆帯上面には縄の圧痕が押捺されている。下段の沈線直下から縦に垂下する弧状文が施文され、下端にも横位の沈線が認められる。40は口縁がやや外反し、口唇がわずかに肥厚する。約3cmの縦位の貼付けがあり、上端に2か所刺突が加えられている。器表は篋状工具で磨かれている。41は2～3条の沈線が往還する。42は緩い波状口縁で、沈線で文様が構成されるもの。43は頭部にくびれをもち、波頂部には窪みがある。横走するLR縄文と頭部には2本一組の沈線が平行するように横環し、これを切って弧線文が垂下する。44は窪みのある波頂部をもち、深い縄文と篋状工具で引かれた沈線の間に、径約6～7mmの円形刺突文が連続して施される。地文はLR斜行縄文。45は並行する2条の沈線と無節の斜行縄文が施文される。46a・b・cは口縁部下がくびれて外反する小型の深鉢。無文地に、2本組沈線で曲線文や波頭状の文様が描かれている。47は大津式。口縁部が外反し、緩い波状口縁をもつ。直線や曲線で描かれる沈線の区画内に櫛齒状文が充填される。48aは緩い波頂部のある深鉢。口縁下部には3列の円形刺突文が沈線を挟んで連続して施される。刺突の径は約7mmで、施文後の突部が特徴的な凸型である。48bの胴部片は盛土遺構から出土した同一個体である。49は貼付瘤の胴部片で地文はLR縄文。瘤を中心に縦・横方向に幅約5mmの擦痕がある。50も胴部片で縦に燃糸文が施される。51a・bは同一個体。曲線的な文様が描かれている。52は頭部にくびれをもつ深鉢。頭部には植物の穂を押捺して、縄線に似せた疑似縄文が2条横環する。体部にも、植物の回転軸文と思われる細かい文様が器面を覆っている。53・54は大津式である。53は4単位の突起をもち、口縁直下にくびれのある深鉢。突起部の内外面には粘土紐の貼付けが付され、その上から縄文が施文される。胴部上位には、連結する櫛齒状帯状文が施文され、胴部は入組状曲線文が描かれる。54は平縁で、口縁直下にくびれのある深鉢。口縁部は無文帯で、頭部下と胴部中央の文様区画を曲線や弧状の擦消し帯状文が交差し連結する。

P-12 (図IV-45-55 図版59-55)

1点図示した。55はIV群a類。胴部から上を欠損している。残存部分は無文である。

P-14 (図IV-45-56 図版59-56)

1点図示した。56はIV群a類。波状口縁で口唇上には縄文が施文される。器表には波状口縁に沿うように幅広の沈線が施される。

P-17 (図IV-45-57～59 図版60-57～59)

3点図示した。57～59はIV群a類。57は深鉢の胴部片で地文はRL斜行縄文。並行する2列の櫛状の貼付帯を付した後、縄文が重ねられるように施文され、貼付帯上には押し引きが施されている。上位の貼付帯の下には、原体を二つ折りにした閉端の横位の回転圧痕が認められる。内面には指頭による凸凹が残る。58は深鉢で口縁部が欠損している。胎土には砂礫を多く含み、LR斜行縄文が底部まで施文される。底部には張出があり、外方からの指頭圧痕が巡るように残る。59は口縁部に幅約1cmで厚さの薄い貼付帯が横環する。口唇の形態は角形で、LR斜行縄文が器面と貼付帯上にも施文されている。

P-19 (図IV-45-60・61 図版60-60・61)

2点図示した。60・61はIV群a類。60は波状口縁で縄線が巡り、無文帯を挟んでRL縄文が施文される。

61はわずかに張出のある底部で、下端まで横走する縄文が施文されている。

P-20 (図IV-45-62・63 図版60-62・63)

2点図示した。62・63はIV群a類で、横走または斜行縄文地に直線や弧線状の沈線で文様構成される。63の口縁部には横環する沈線を施し、口唇部を外方に肥厚させることで隆帯にし、その上から縄文が押捺されている。

P-29 (図IV-45-64・65 図版60-64・65)

2点図示した。64・65はIV群a類。64は突起のある口縁部破片。突起部から垂下する貼付帯が付され、その横には縦の弧状文も施されている。65は斜行縄文。胎土に砂礫を多く含み、内面には篋状工具による調整痕が顕著である。

P-30 (図IV-46-66 図版60-66)

1点図示した。66はIII群a類の深鉢で口縁部が欠損する。口縁付近が僅かに外反し底部はやや上げ底である。地文は結束のある羽状縄文で2〜3条の綾絡文が胴部の上位に施文され横環する。内面には縦位のミガキ調整や指頭圧痕が残る。

SP-47 (図IV-46-67 図版60-67)

1点図示した。67は突起形を呈した角状の土製品。わずかに内湾し一方に折れ面がある。

石組炉1 (図IV-46-68 図版61-68)

1点図示した。68はIV群a類。突起をもつ深鉢で、輪積みの跡が残る。RL斜行縄文を口縁部と胴部で施文方向を変えている。

石組炉3 (図IV-47-69 図版61-69)

1点図示した。69はIV群a類。口縁部には高さのある貼付帯が横環し、口唇部が平坦となる。貼付帯上には斜縄文が付され、地文は方向を変えた斜縄文が施文されている。

石組炉7 (図IV-47-70 図版61-70)

1点図示した。70はIV群a類。外方に張出しのある底部で、胎土には砂礫を多く含んでいる。

石組炉9 (図IV-47-71 図版61-71)

1点図示した。71はIV群a類。胎土には砂礫を多く含んでいる。

F-2 (図IV-47-72 図版61-72)

1点図示した。72はIV群a類。斜行縄文が施され、弧線文が描かれる。

F-4 (図IV-47-73 図版61-73)

1点図示した。73はIV群a類の深鉢。胴部下半から底部を欠損する。平縁で口縁部に2条の沈線が横環する。口縁から胴部中位にかけてRL縄文が沈線の上から施文されている。

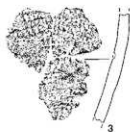
S-3 (図IV-47-74 図版61-74)

1点図示した。74はIV群a類の底部。胎土には砂礫を多く含んでいる。

遺物集中3 (図IV-47-75 図版61-75・76)

2点図示した。75はIV群a類の深鉢。口縁は平縁で、口縁部下にくびれがあり、この下位に胴部最大幅がある。底部には張出があり、輪積みの跡が顕著である。地文はLR・RLの斜縄文が交互に施され羽状をなす。76もIV群a類。胴部下半から底部を欠損する。口縁部に円形刺突文が連続して横環し、そこから垂下する刺突列や、胴部下側にも2条の円形刺突文が施文されている。砂礫を多く含む胎土である。(笠原)

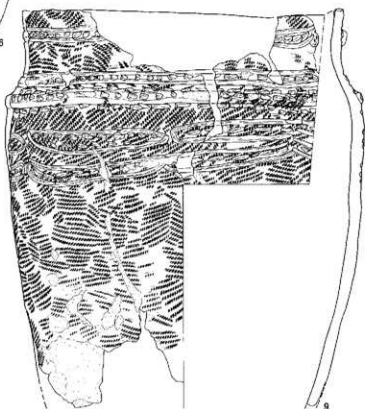
H-1



H-2



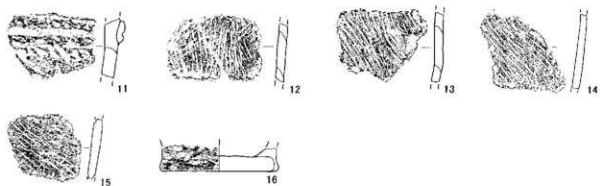
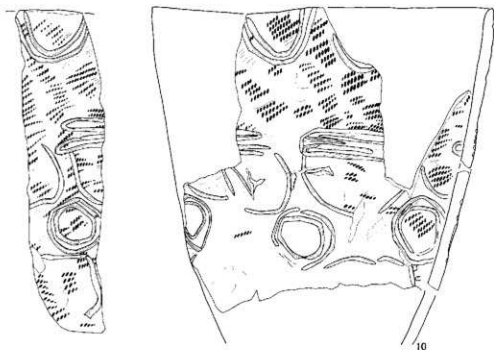
H-3



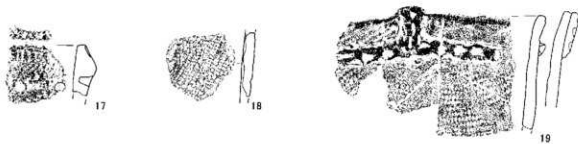
0 10cm

図IV-41 遺構出土の土器 (1)

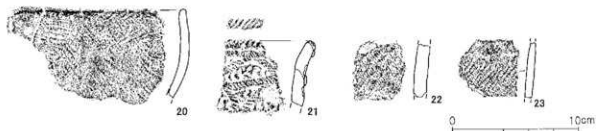
H-3



H-4

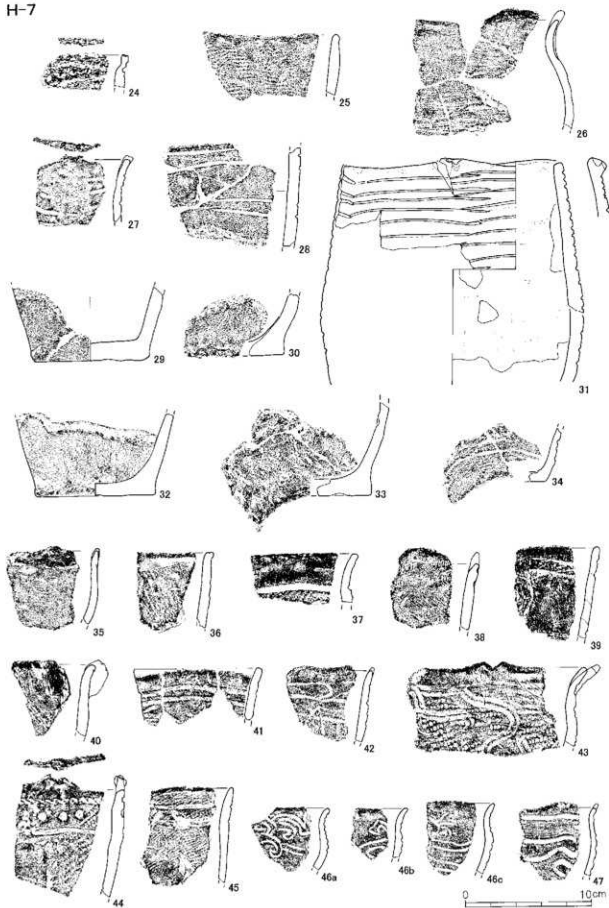


H-5



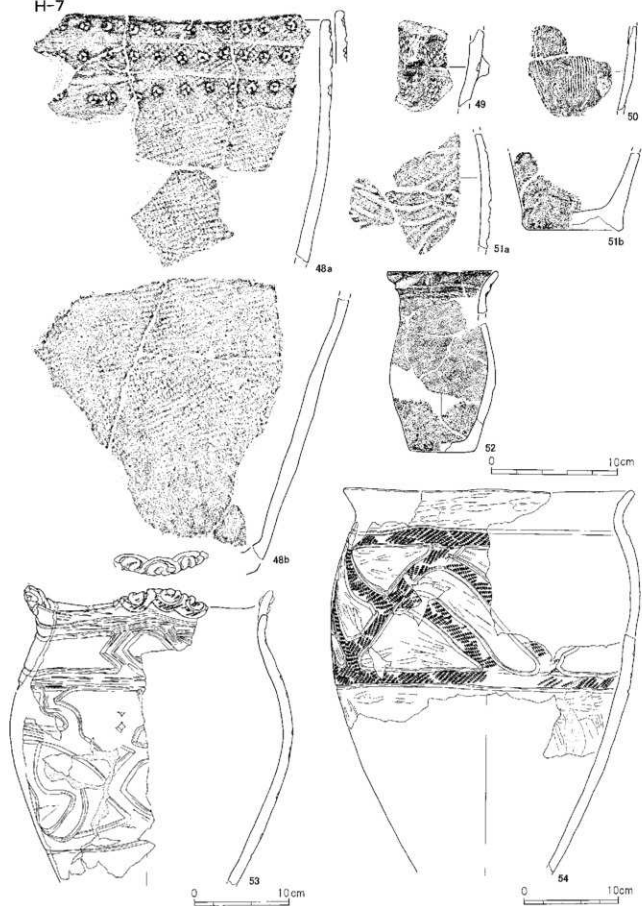
図IV-42 遺構出土の土器 (2)

H-7



図IV-43 遺構出土の土器 (3)

H-7



図IV-44 遺構出土の土器(4)

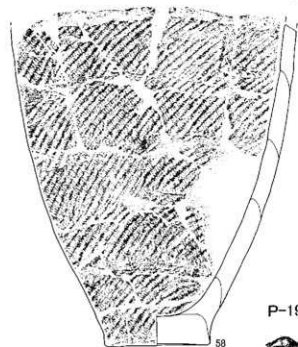
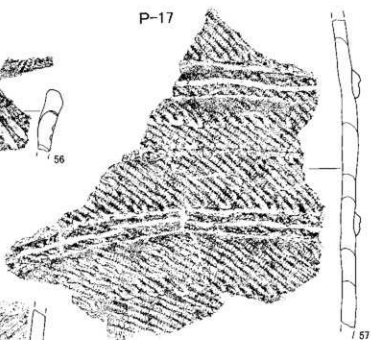
P-12



P-14



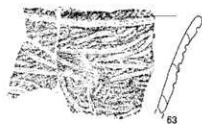
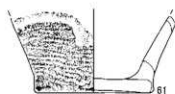
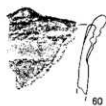
P-17



P-20



P-19



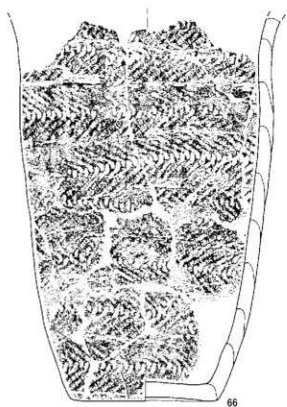
P-29



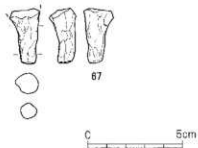
図IV-45 遺構出土の土器 (5)

0 10cm

P-30



SP-47



石組炉1



図IV-46 遺構出土の土器 (6)

石組炉3



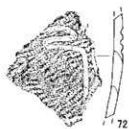
石組炉7



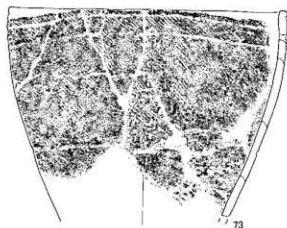
石組炉9



F-2



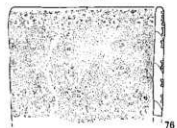
F-4



S-3



遺物集中3



0 10cm

図IV-47 遺構出土の土器 (7)

(2) 石器等 (図IV-48~56 図版62~66)

遺構から出土した石器は、盛土層からのものを除いて69,813点である。このうち石斧を含む剥片石器は88点、剥片は179点、礫石器は81点、礫・礫片は69,163点で、全体の99%が礫・礫片である。

H-1 (図IV-48-1~6 図版62-1~6)

4点図示した。1~4は黒曜石製の石槍・ナイフ類、いずれも加工や抉りの入り方が左右非対称である。1は先端部を再生している。2は裏面の二次加工が周縁のみにとどまる。3は基部の先端が欠損後に再加工されている。1・2・4は黒曜石原材産地同定を行い、いずれも赤井川産との結果を得た(第VI章)。3も肉眼観察により細かい球顆が見られるため素材の黒曜石は赤井川産と思われる。5は泥岩の石錘である。平面楕円形でやや扁平な礫の長軸上両端の打ち欠きが、片面に大きく施されている。6は砂岩の砥石である。3面の使用面があり、使用により断面が凹んでいる。

H-2 (図IV-48・49-7~9 図版62-7~9)

3点図示した。7は黒曜石の石鏃である。黒曜石原材産地同定を行い、赤井川産との結果を得た(VI章)。8は泥岩のスクレイパーである。縦長の剥片の片面左側縁に加工がある。9は凝灰岩の砥石である。両面の使用により使用面が凹んでいる。

H-3 (図IV-49・50-10~20 図版62-10~20)

11点図示した。10は黒曜石製、11は頁岩の石鏃である。10は木葉形。11はかえしがあり、両面とも周縁のみ加工されている。10は黒曜石原材産地同定を行い、赤井川産との結果を得た(VI章)。12・13は石槍・ナイフ類である。12はかえしが左右非対称に加工されている。素材は球顆を多く含む黒曜石である。両面に一次加工面が残る。13は頁岩製で、未完成品である。両面を粗く加工してあり、有茎様の基部が作り出されている。両面調整石器としてもよいかもしれない。14は泥岩製のつまみ付きナイフである。わずかな抉りでつまみ部が作られている。表裏両面の周縁を加工している。15・16は泥岩のスクレイパーである。15は表面の左側縁に、16は右側縁に刃部が作られている。17は砂岩の石錘である。扁平な円礫の長軸上の両端に打ち欠きがある。18は砂岩の砥石である。砥面は1面で、使用により中央が凹んでいる。19は砂岩の石皿である。縦長の礫の2面を使用している。いずれも使用により凹んでいる。20は泥岩製の垂飾である。両面から穿孔されたすり鉢状の痕があり、表面全体に成形と仕上げによる擦痕が残っている。

H-4 (図IV-50・51-21~26 図版62-21~26)

6点図示した。21は黒曜石製の石槍・ナイフ類の未完成品である。両面に粗い加工が施されている。黒曜石原材産地同定を行い、赤井川産との結果を得た(VI章)。22は頁岩の石錘である。両面の錐部周辺のみ加工が施される。23・24は泥岩の両面調整石器である。23は下端が尖った剥片の上半分両脇のみに加工が施されている。24は縦長で下半分両脇が周縁からの調整によりやや内湾している。表面上端と、くびれのある下端には細かな調整が集中している。また図示していないが、下部先端には使用によると思われる敲打痕が若干みられる。25は砂岩の石製品である。表面が風化しており加工痕は不明瞭であるが、円筒形の自然礫に頭頂部、くびれ部分、底面部等、最低限の加工を施して鼓状に成形していると思われる。「北海道式石冠」にも似るが、今調査で北海道式石冠が他に出土していないこと、底面の「すり石」としての使用が明瞭に認められないこと、出土した堅穴住居跡の時期(縄文時代中期末葉~後期前葉)などから、「石棒」あるいは「石冠」の一種と思われる。図は実寸の3分の1で掲載している。26は異形石器である。黒曜石の石槍の両側縁を波形に加工している。黒曜石原材産地同定を行い、赤井川産との結果を得た(VI章)。

H-5 (図IV-51-27 図版63-27)

27は砂岩の紡錘形の礫である。全体を擦っており、すり石としたが石組炉の石材として用いられたようである。そのため被熱し表面が剥落している部分がある。

H-7 (図IV-51・52-28~33 図版63-28~33)

28は頁岩のスクレイパーである。二つの破片が接合したものである。縦長剥片の背面左側縁に加工がみられる。29は泥岩の石核である。表面全体に粗く打ち欠いた痕があり、球状になっている。部分的に自然面も残る。30は泥岩の石斧である。両刃で全体を丁寧に研磨して仕上げている。表面には加工の際の擦痕がみられる。体部側約半分を欠損している。割れ面に若干の敲打痕があり、破損後再加工、再利用されたと思われる。31は断面三角形のすり石である。素材は砂岩で、平面形は左右非対称である。機能面はもつとも長い一辺で、広いところで幅3cmほどのすり面になっている。32・33は花崗閃緑岩の石皿である。いずれも大きく破損しているほか、32の接合した3点の破片は被熱により薄く剥がれたものと思われる。32は1面のみ、33は表裏両面を使用している。破損面を見ると被熱による変色が中心までは届いていないことがわかり、破損の原因は被熱であると思われる。素材は遺跡周辺の海岸によくみられる岩石である。

H-9 (図IV-53-34 図版63-34)

34は頁岩のつまみ付きナイフである。背面全体を丁寧に調整している。腹面の右側縁にも細かな調整がみられる。

H-11 (図IV-53-35~37 図版63-35~37)

35は頁岩製のつまみ付きナイフである。背面全体を丁寧に調整し、腹面の右側縁にも細かな調整痕がある。36は泥岩の両面調整石器である。素材の周縁を粗く二次加工し、一端を尖らせている。37は安山岩の石皿である。分厚い板状礫の片面を使用し、使用面は平坦である。掲載図の使用面の下部に行くほどすり面は滑らかで、使用頻度が高かったことがわかる。

P-9 (図IV-54-38 図版64-38)

38は安山岩の石皿である。片面のみを使用している。

P-14 (図IV-54-39 図版64-39)

39は花崗閃緑岩の礫である。長さは85cm以上、重さは93kg近い。素材の花崗閃緑岩は、現代の墓石にも使われる御影石の一種で、この付近一帯の大きな岩体である(2002 地学団体研究会道南班)。遺跡周辺の海岸では、球体に風化した大小さまざまな花崗閃緑岩礫が多くみられ、遺跡にも数多く持ち込まれている。今回出土した花崗閃緑岩の礫の中では最大級のものである。図示した展開図の縮尺は4分の1である。

SP-16 (図IV-54-40 図版63-40)

40は頁岩の石錐である。腹面側の機能部周辺のみ、錐部を作出するための若干の加工がされている。

S-3 (図IV-55-41 図版64-41)

41は安山岩の扁平打製石器である。扁平な礫片の周縁を打ち欠き、平面半円形に成形している。使用面は長軸上の一辺で、平坦である。すり面の幅は広いところで1.5cmほどある。

石組炉1 (図IV-55-42 図版64-42)

42は砂岩の砥石片である。砥面は掲載図右下が最も滑らかで、端に行くにつれ浅く凹んでいる。

石組炉2 (図IV-55-43 図版64-43)

43は断面三角形のすり石である。砂岩の礫の一面を粗く加工してあるが、自然面を多く残す。長軸上の一辺を機能面としているが、使用痕は途中までしか形成されておらず、機能部にも自然面が残っている。

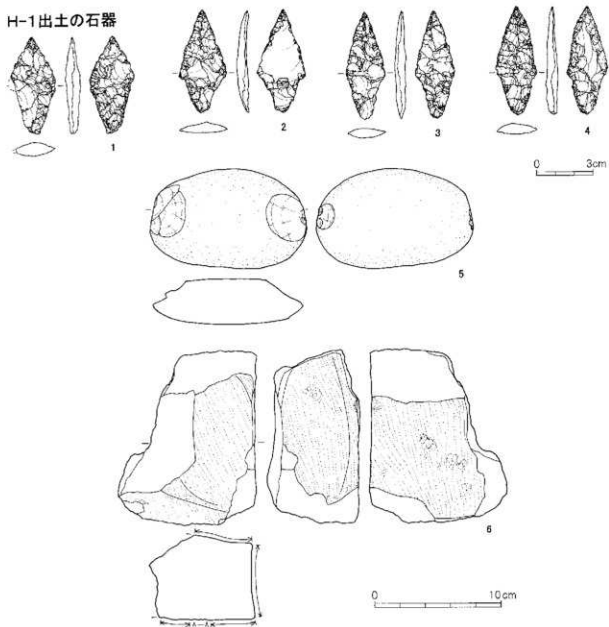
遺物集中3 (図IV-55・56-44~55 図版64-44~55)

44~46は黒曜石の石織である。有茎であるが基部のかえしはあまり明瞭でない。3点は大きさ、形状、重さともよく似ている。47は有茎、48~50は木の葉形の石槍・ナイフ類である。47は全体を丁寧に二次加工している。また、基部を再加工しており、縁辺がギザギザになっている。48~50は大きな調整で粗く成形され、部分的に原石面が残る。いずれも未成品と思われる。石材は黒曜石で、特に48・50には多くの球果が入る。

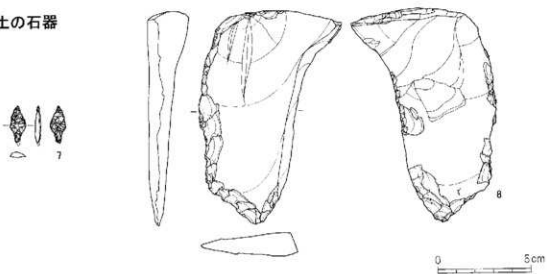
51・52はスクレイパーである。石材は51が黒曜石、52が頁岩である。51は腹面に原石面が残り、背面の調整も周縁の一部のみであり、未成品である。52は背面左側縁が刃部加工されている。53は黒曜石の剥片である。全体に原石面が残っている。石器製品の素材として他の石器とともに持ち込まれたと思われる。44・49・51・53は黒曜石原料産地同定を行い、赤井川産との結果を得た（VI章）。54・55は片岩の石斧である。いずれも両刃で刃部側がやや幅広の撥形である。全体を打ち欠いて成形したのち、刃部周辺のみを丁寧に研磨している。

(新家)

H-1出土の石器

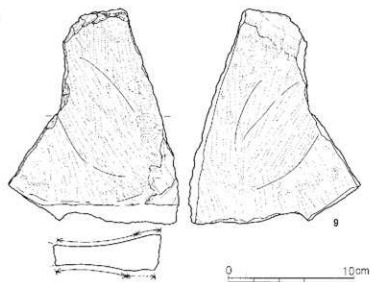


H-2出土の石器

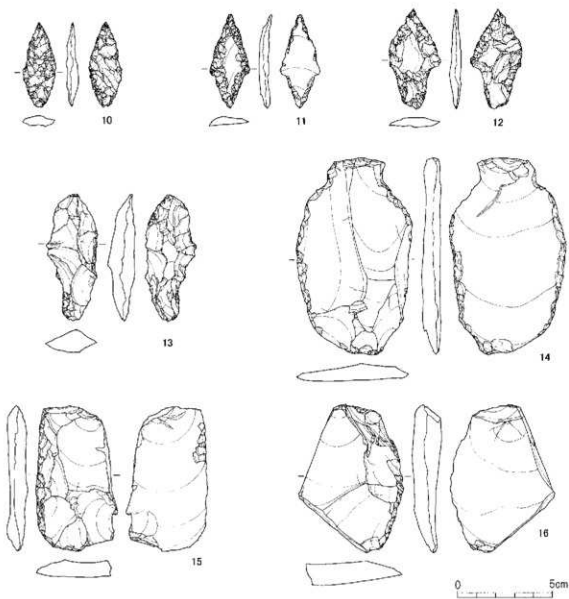


図IV-48 遺構出土の石器 (1)

H-2出土の石器

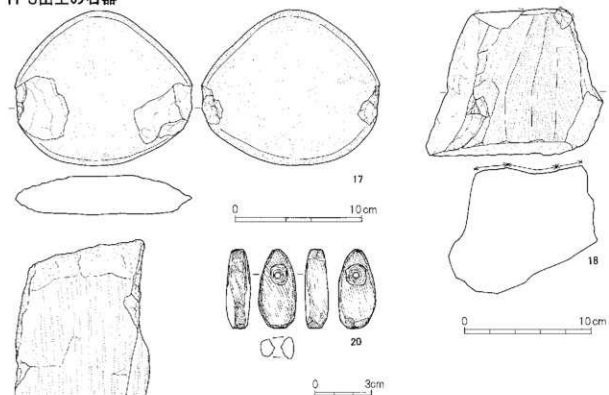


H-3出土の石器

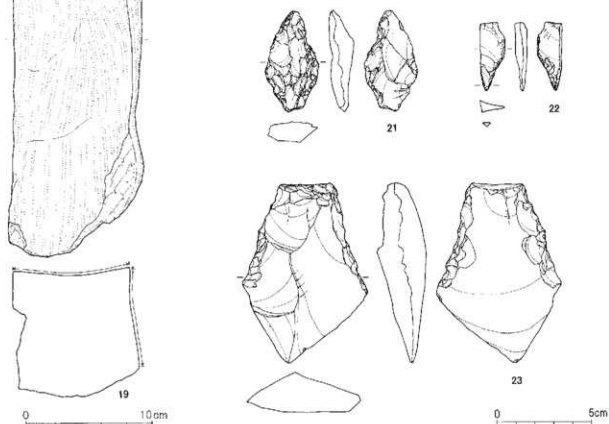


図IV-49 遺構出土の石器 (2)

H-3出土の石器

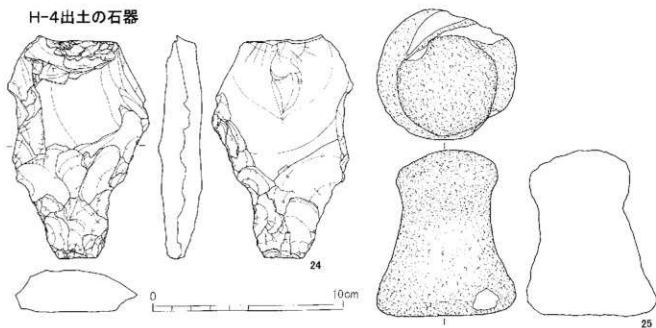


H-4出土の石器

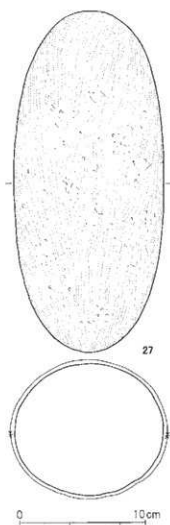


図IV-50 遺構出土の石器 (3)

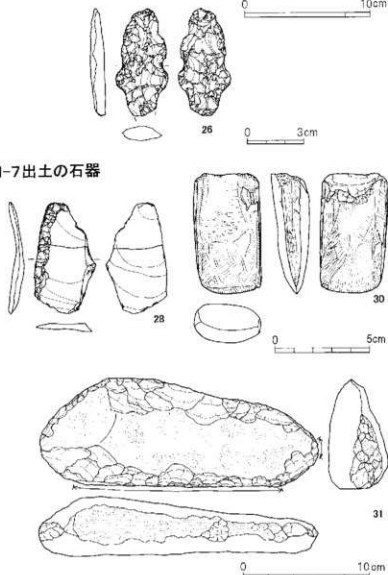
H-4出土の石器



H-5出土の石器

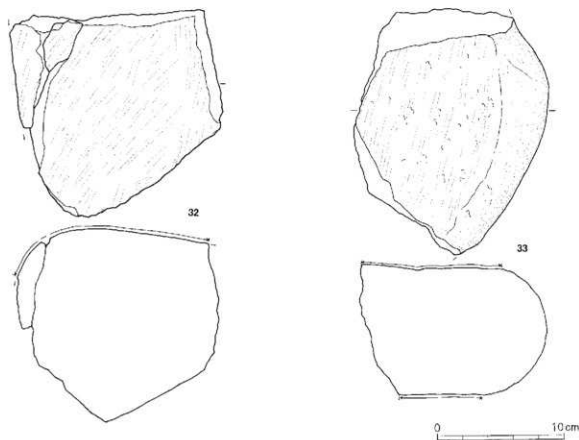
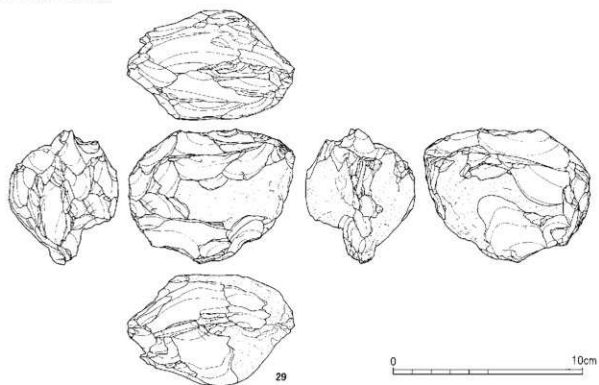


H-7出土の石器



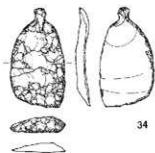
図IV-51 遺構出土の石器 (4)

H-7出土の石器

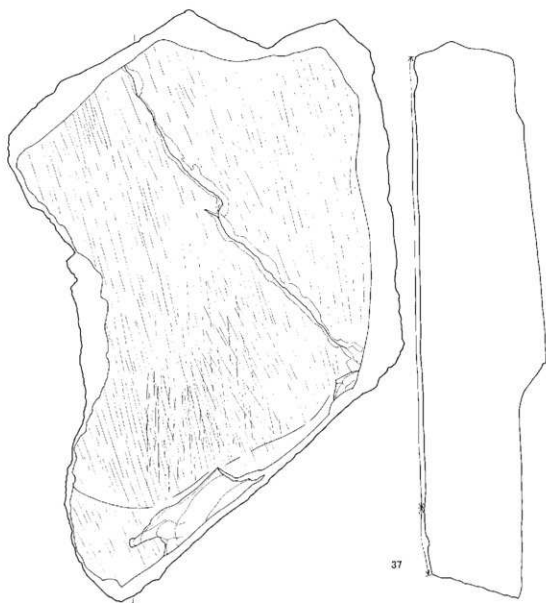
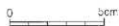
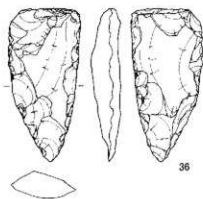
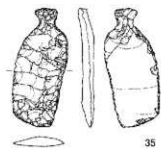


図IV-52 遺構出土の石器 (5)

H-9出土の石器



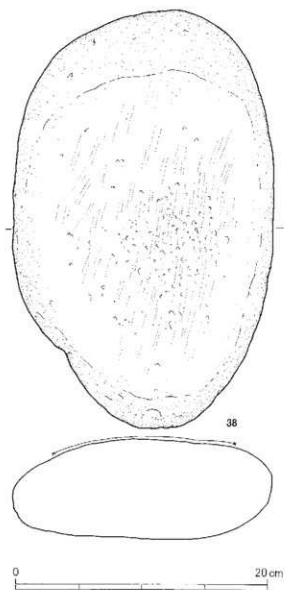
H-11出土の石器



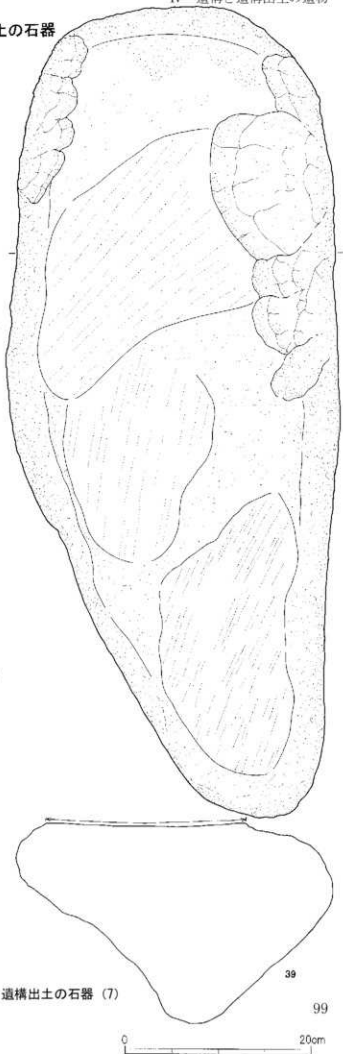
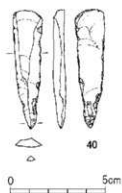
図IV-53 遺構出土の石器 (6)

P-14出土の石器

P-9出土の石器

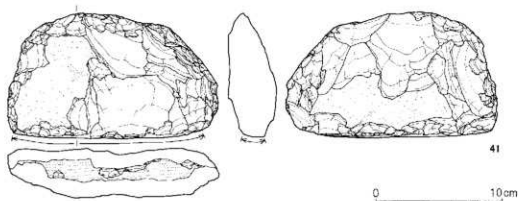


SP-16出土の石器

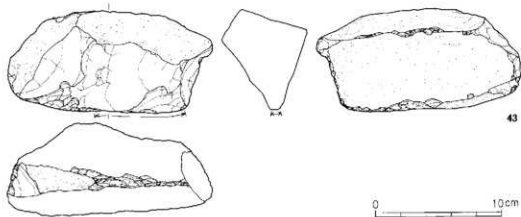


図IV-54 遺構出土の石器 (7)

S-3出土の石器



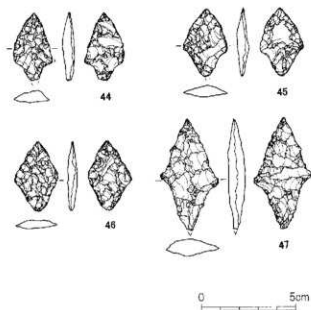
石組炉2出土の石器



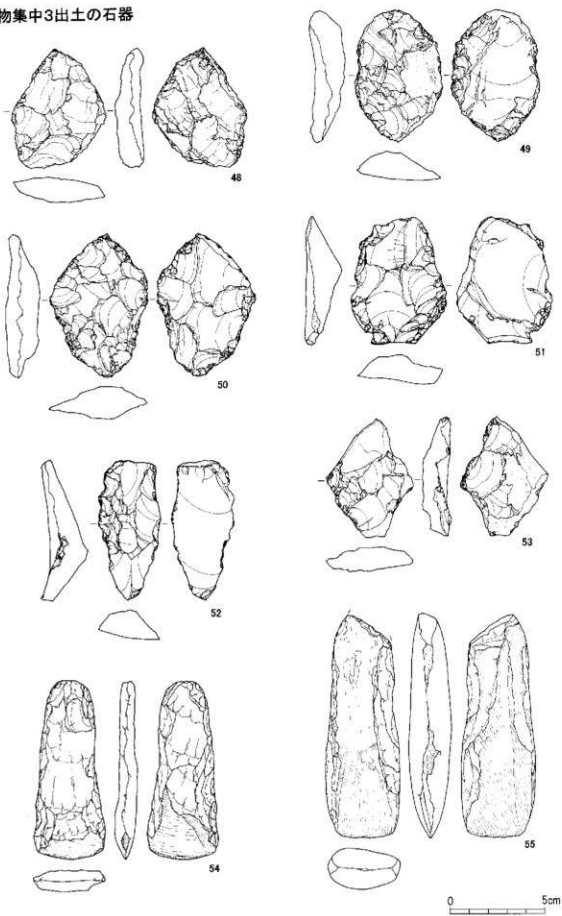
石組炉1出土の石器



遺物集中3出土の石器



遺物集中3出土の石器



図IV-56 遺構出土の石器 (9)

表IV-1 検出遺構一覧

遺構名	棟号 番号	図版 番号	調査区	規模 (m)			確認面	時期	備考
				確認面の 長径×短径	床・底面の 長径×短径	深さ 厚さ			
H-1	IV-5	3・4-6	J-K50-51	3.22×2.82	3.00×2.50	0.17	Ⅲ上面	中期中葉～後葉	確認面に石組、F-2あり
	IV-5	5	J50	0.80×0.74	0.73×0.65	0.06		中期中葉～後葉	
	IV-5	5	J50	0.20×0.08	0.12×0.11	0.14		中期中葉～後葉	
	IV-5	5	J50	0.22×0.20	0.12×0.12	0.23		中期中葉～後葉	
	IV-5	5	J50	0.25×0.22	0.15×0.12	0.21		中期中葉～後葉	
H-2	IV-5	5	K50	0.19×0.18	0.11×0.10	0.32		中期中葉～後葉	
	IV-5	5	K50	0.58×0.40	0.50×0.32	0.12		中期中葉～後葉	
	IV-6	6～8	K49	4.14×3.34	3.82×3.02	0.26	Ⅲ上面	後期初頭	
	IV-6	—	K49	0.86×0.80	0.78×0.36	0.07		後期初頭	
	IV-7-8	9～12	K-L49-50	4.58×3.08	4.17×2.80	0.30	Ⅱ中	中期中葉～後葉	遺物多 垂飾
H-3	IV-7-8	11	K49-50	0.82×0.66	—	—		中期中葉～後葉	
	IV-7-8	11	K50	0.30×0.29	0.19×0.14	0.28		中期中葉～後葉	
	IV-7-8	11	K49	0.31×0.29	0.19×0.15	0.35		中期中葉～後葉	
	IV-7-8	11	K50	0.36×0.33	0.24×0.31	0.06		中期中葉～後葉	
	IV-7-8	12	K50	0.34×0.33	0.21×0.20	0.11		中期中葉～後葉	
H-4	IV-9-10	13～15	J-K51-52	6.71×(4.89)	6.36×(4.53)	0.34	Ⅲ上面	中期末～後期初頭	
	IV-9-10	14	K52	0.85×0.81	未調査	未調査		中期末～後期初頭	
	IV-9-10	—	K51	0.90×0.85	0.66×0.65	0.08		中期末～後期初頭	
	IV-9-10	14	K51	0.34×0.30	0.22×0.20	0.36		中期末～後期初頭	
	IV-9-10	15	K51	0.38×0.32	0.24×0.20	0.10		中期末～後期初頭	
H-5	IV-9-10	15	K52	0.34×0.34	0.24×0.21	0.40		中期末～後期初頭	
	IV-9-10	15	J51	0.32×0.28	0.18×0.18	0.44		中期末～後期初頭	
	IV-9-10	15	K52	0.30×0.28	0.20×0.18	0.10		中期末～後期初頭	
	IV-11-12	16～18	L-M49-50	5.58×(5.04)	5.41×(4.78)	0.18	Ⅳ上面	後期前葉	
	IV-11-12	17	L-M50	1.08×0.91	0.97×0.78	0.10		後期前葉	
H-6	IV-11-12	17	L50	0.27×0.26	0.18×0.16	0.22		後期前葉	
	IV-11-12	17	L50	0.37×0.29	0.28×0.22	0.16		後期前葉	
	IV-13	18～20	K-L51	3.72×3.23	3.42×2.87	0.18	Ⅳ上面	中期中葉～後葉	
	IV-13	—	L51	0.92×0.56	—	—		中期中葉～後葉	
	IV-14-16	21～24	E-G66-67	9.10×(3.42)	8.60×(3.34)	0.30	M5中	後期前葉	
石組	IV-14-16	23	E-F67	1.06×1.05	0.70×0.56	0.14	床面	後期前葉	
	IV-14-16	23	F67	0.21×0.20	0.14×0.14	0.12	床面	後期前葉	
	IV-14-16	23	F67	0.20×0.20	0.14×0.12	0.38	床面	後期前葉	
	IV-14-16	23	F67	0.25×0.23	0.20×0.18	0.15	床面	後期前葉	
	IV-14-16	23	F67	0.31×0.28	0.21×0.18	0.14	床面	後期前葉	
	IV-14-16	23	G67	0.30×0.27	0.12×0.11	0.25	床面	後期前葉	
	IV-14-16	24	F67	0.22×0.21	0.10×0.10	0.14	床面	後期前葉	
	IV-14-16	24	G67	0.36×0.30	0.26×0.24	0.17	床面	後期前葉	
H-7	IV-14-16	24	F66	0.27×0.23	0.13×0.13	0.16	床面	後期前葉	
	IV-17	24-25	L-J60-61	2.70×2.40	2.32×2.00	0.14	Ⅲ	後期前葉	小範囲焼土あり
	IV-17	24	L-J60	(0.38)×0.38	—	—		焼土	
	IV-17	25-26	L-J60	2.50×2.18	2.07×1.70	0.28	Ⅲ	後期前葉	
	IV-17	—	J60	0.16×0.15	0.09×0.09	0.16	床面	後期前葉	
	IV-17	—	J60	0.12×0.11	0.09×0.08	0.14	床面	後期前葉	
	IV-17	—	J60	0.22×0.22	0.10×0.10	0.34	床面	後期前葉	
	IV-18	26-27	I59-60	3.92×(2.26)	3.46×(2.10)	0.33	Ⅲ	後期前葉	
IV-19	28	D-E68-69	(5.70)×4.84	(5.60)×4.54	0.28		中期中葉～後葉		
P	IV-19	—	D69	0.21×0.18	0.10×0.10	0.19		中期中葉～後葉	
	IV-20	29	O48	0.74×(0.60)	0.65×0.58	0.34	Ⅱ下(Ⅲ上)	後期前葉	礎あり
	IV-20	29	O48	0.70×0.61	0.55×0.48	0.21	Ⅱ下(Ⅲ上)	後期前葉	
	IV-20	29	M48	0.89×0.80	0.70×0.58	0.31	Ⅲ上面	後期前葉	
	IV-20	29	M48	1.04×0.97	0.79×0.70	0.21	Ⅲ上面	後期前葉	
	IV-21	30	O48	0.73×0.70	0.52×0.50	0.16	Ⅲ上	後期前葉	
	IV-21	30	P48	(0.74)×0.67	0.61×0.45	0.32	Ⅲ上	後期前葉	礎あり
	IV-21	30	P47	1.17×(0.47)	0.74×(0.35)	0.32	Ⅲ上	後期前葉	
	IV-21	30	O48	0.46×0.46	0.26×0.26	0.16	Ⅲ上	後期前葉	小穴
	IV-22	30-31	P48	1.28×1.19	1.20×0.96	0.26	Ⅲ上	後期前葉	小フラスコ、台石あり
IV-22	31	P48	0.69×0.61	0.42×0.39	0.36	Ⅲ上	後期前葉	礎あり	

遺構名	棟号	図版番号	調査区	規模(m)			確認面	時期	備考
				確認面の 長×短	深・底面の 長×短	深さ 厚さ			
P-11	IV-22	31	P48	0.65×0.61	0.45×0.42	0.20	Ⅲ上	後期前葉	礎あり
P-12	IV-22	31	P48	1.17×1.07	0.80×0.69	0.47	Ⅲ上	後期前葉	礎あり
P-13	IV-22	32	P48	0.74×0.71	0.42×0.42	0.25	Ⅲ上	後期前葉	
P-14	IV-23	32	N48	1.37×0.94	1.23×0.80	0.62	Ⅲ上	後期前葉	礎大量
P-15	IV-24	32	K49・50	0.82×0.80	0.62×0.56	0.22	Ⅲ上面	後期前葉	拡張礎あり
P-16	IV-24	33	L・M49	1.15×1.12	1.10×0.91	0.24	Ⅲ上面	後期前葉	風状
P-17	IV-24	33	M49	1.19×1.16	1.06×0.86	0.44	Ⅲ上面	後期初期	上部に土留あり
P-18	IV-25	33	M49	1.24×1.13	1.00×0.74	0.35	Ⅲ上面	後期前葉	
P-19	IV-25	33・34	L49	1.02×0.96	0.70×0.59	0.34	Ⅲ上面	後期前葉	
P-20	IV-25	34	K50	0.72×0.72	0.52×0.52	0.19	Ⅲ上面	後期前葉	
P-21	IV-26	34	N48	1.20×(0.90)	0.97×(0.79)	0.23	Ⅲ上面	後期前葉	P-14と切り合う。浅い風状
P-22	IV-26	34	L49	0.89×0.81	0.61×0.56	0.46	Ⅲ上面	後期前葉	
P-23	IV-26	34・35	K50	(1.00)×(0.80)	(0.80)×(0.58)	0.34	Ⅲ上面	中期前葉～中葉	H-3より古い
P-24	IV-27	35	M51	1.35×1.26	1.04×0.90	0.53	Ⅲ上面	後期前葉	
P-25	IV-27	35	L・M52	1.17×1.03	1.07×0.96	0.36	Ⅲ上面	後期前葉	
P-26	IV-27	35	L51	1.06×0.94	0.88×0.62	0.21	H-6内	後期前葉	
P-27	IV-28	35	L49	0.88×0.80	0.55×0.51	0.34	Ⅲ上面	後期前葉	
P-28	IV-28	36	L50	(1.20)×1.05	0.85×0.64	0.18	Ⅲ上面	後期前葉	H-5内
P-29	IV-28	36	I61	1.29×0.55	1.16×0.41	0.26	Ⅲ	後期前葉	小円形
P-30	IV-28	36・37	K60	0.79×(0.71)	0.46×0.45	0.22	Ⅳ上面	中期前葉～中葉	石組が8の隅のビット。土留入り
P-31	IV-29	37	K49	0.74×(0.68)	0.48×(0.45)	0.27	Ⅲ上面	中期末～後期初期	H-2より古い
P-32	IV-29	37	J60	0.38×0.34	0.26×0.25	0.20	Ⅳ	後期前葉	石組が8の裏側。円礎が詰まる
SP-1	IV-30-31	37	E66	0.20×0.19	0.12×0.12	0.18	M5,30日	後期前葉	円礎
SP-2	IV-30-31	37	E66	0.32×0.19	0.16×0.10	—	M5,30日	後期前葉	豆砂利
SP-3	IV-30-31	38	E66	0.25×0.25	0.15×0.14	0.28	M5,30日	後期前葉	円礎
SP-4	IV-30-31	38	E66	0.21×0.20	0.11×0.11	0.26	M5,30日	後期前葉	円礎
SP-5	IV-30-31	38	E66	0.29×0.29	0.16×0.16	0.16	M5,30日	後期前葉	小角礎
SP-6	IV-30-31	38	E66	0.23×0.21	0.16×0.14	0.17	M2,30日	後期前葉	円礎
SP-7	IV-30-31	38	E67	0.22×0.22	0.10×0.08	0.23	M2,30日	後期前葉	楕小粒砂利
SP-8	IV-30-31	38	E67	0.18×0.17	0.10×0.09	0.17	M2,30日	後期前葉	豆砂利・大角礎
SP-9	IV-30-31	38	E67	0.18×0.16	0.10×0.10	0.12	M2,30日	後期前葉	豆砂利
SP-10	IV-30-31	38	E68	0.25×0.24	0.14×0.14	0.16	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-11	IV-30-31	—	E68	0.24×0.23	0.12×0.12	0.14	M3,70日	後期前葉	遺物なし
SP-12	IV-30-31	38	E69	0.25×0.25	0.14×0.12	0.29	M3,70日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-13	IV-30-31	38	E69	0.22×0.22	0.10×0.09	0.17	M2,30日	後期前葉	豆砂利
SP-14	IV-30-31	38	E68	0.19×0.18	0.09×0.08	0.10	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-15	IV-30-31	38	E66	0.18×0.15	0.13×0.12	0.19	M2,30日	後期前葉	角礎
SP-16	IV-30-31	—	E68	0.33×0.31	0.23×0.22	0.14	M3,70日	後期前葉	豆砂利
SP-17	IV-30-31	39	E68	0.22×0.22	0.15×0.13	0.07	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-18	IV-30-31	39	E68	0.21×0.20	0.14×0.12	0.12	M3,70日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-19	IV-30-31	—	E68	0.18×0.17	0.10×0.08	0.05	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-20	IV-30-31	39	E68	0.20×0.20	0.12×0.11	0.09	M3,70日	後期前葉	角礎
SP-21	IV-30-31	39	E68	0.20×0.20	0.12×0.12	0.11	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-22	IV-30-31	39	E68	0.21×0.20	0.12×0.12	0.11	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-23	IV-30-31	39	E69	0.22×0.20	0.12×0.11	0.10	M3,70日	後期前葉	角礎
SP-24	IV-30-31	39	E68	0.24×0.23	0.14×0.12	0.11	M3,70日	後期前葉	円礎
SP-25	IV-30-31	39	E66	0.34×0.31	0.20×0.20	0.23	M2,30日	後期前葉	円礎
SP-26	IV-30-31	39	E68	0.16×0.14	0.10×0.08	0.08	M3,70日	後期前葉	小角礎
SP-27	IV-30-31	39	F65	0.22×0.21	0.11×0.10	0.15	M5,30日	後期前葉	豆砂利
SP-28	IV-30-31	39	E66	0.22×0.20	0.12×0.11	0.09	M5,30日	後期前葉	円礎
SP-29	IV-30-31	39	E66	0.19×0.18	0.10×0.10	0.20	M5,30日	後期前葉	豆砂利
SP-30	IV-30-32	40	E66	0.27×0.24	0.13×0.12	0.26	M5,30日	後期前葉	角礎
SP-31	IV-30-32	40	E66	0.32×0.30	0.12×0.10	0.20	M2,30日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-32	IV-30-32	40	E67	0.28×0.26	0.16×0.16	0.13	M2,30日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-33	IV-30-32	40	E65	0.19×0.18	0.12×0.11	0.24	M2,30日	後期前葉	円礎
SP-34	IV-30-32	40	E66	0.24×0.23	0.11×0.11	0.21	M2,30日	後期前葉	円礎
SP-35	IV-30-32	40	E66	0.18×0.17	0.09×0.08	0.09	M2,30日	後期前葉	円礎
SP-36	IV-30-32	40	F65	0.28×0.28	0.14×0.13	0.23	M5,30日	後期前葉	円礎

遺構名	神岡 番号	図版 番号	調査区	規模 (m)			確認面	時期	備考
				確認面の 長さ×短径	床・底面の 長さ×短径	深さ 厚さ			
SP-37	IV-30-32	40	F66	0.18×0.17	0.12×0.12	0.15	M2, 38日	後期前葉	円礎
SP-38	IV-30-32	40	F66	0.32×0.29	0.14×0.14	0.50	M2, 38日	後期前葉	円礎
SP-39	IV-30-32	40	F67	0.24×0.23	0.16×0.14	0.06	M2, 38日	後期前葉	円礎
SP-40	IV-30-32	40	F66	0.22×0.21	0.12×0.11	0.08	M2, 38日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-41	IV-30-32	41	F67	0.24×0.23	0.10×0.09	0.22	M2, 38日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-42	IV-30-32	41	F67	0.21×0.20	0.11×0.11	0.18	M2, 38日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-43	IV-30-32	41	F67	0.27×0.24	0.14×0.14	0.22	M2, 38日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-44	IV-30-32	41	F67	0.24×0.22	0.10×0.10	0.36	M2, 38日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-45	IV-30-32	41	F67	0.22×0.21	0.10×0.10	0.18	M2, 38日	後期前葉	豆砂利
SP-46	IV-30-32	—	F68	0.22×0.22	0.13×0.13	0.10	M3, 78日	後期前葉	円礎・豆砂利
SP-47	IV-30-32	41	F68	0.12×0.12	0.06×0.05	0.06	M3, 78日	後期前葉	小角礎
SP-48	IV-30-32	41	F68	0.25×0.21	0.14×0.12	0.13	M3, 78日	後期前葉	大小角礎
SP-49	IV-30-32	41	F68	0.16×0.15	0.08×0.07	0.04	M3, 78日	後期前葉	小角礎
SP-50	IV-30-32	41	F66	0.22×0.21	0.12×0.11	0.28	M2, 38日	後期前葉	大角礎
SP-51	IV-30-32	41	F67	0.21×0.20	0.11×0.09	0.28	Ⅲ	後期前葉	遺物なし
SP-52	IV-30-32	—	F68	0.20×0.18	0.09×0.08	0.16	Ⅲ	後期前葉	遺物なし
SP-53	IV-30-32	41	F67	0.22×0.22	0.10×0.09	0.17	Ⅲ	後期前葉	角礎
SP-54	IV-30-32	41	F67	0.19×0.18	0.11×0.11	0.10	Ⅲ	後期前葉	豆砂利
SP-55	IV-30-32	42	F67	0.28×0.26	0.12×0.12	0.33	Ⅲ	後期前葉	円礎
SP-56	IV-30-32	42	F67	0.22×0.21	0.12×0.10	0.32	Ⅲ	後期前葉	円礎
SP-57	IV-30-32	42	L58	0.19×0.18	0.11×0.10	0.20	Ⅲ下	後期前葉	遺物なし
石組伊1	IV-33	42	J50	0.58×0.47	0.39×0.28	0.11	Ⅱ・I遺土層	後期初葉	
石組伊2	IV-33	42	K49	0.68×(0.44)	0.41×(0.34)	0.14	Ⅲ上面	後期前葉	
石組伊3	IV-33	42	M54	0.82×0.70	—	0.07	Ⅲ上面	後期初葉	
石組伊4	IV-34	42-43	F67	0.96×0.80	0.65×0.46	0.08	Ⅲ上面	後期前葉	
石組伊5	IV-34	43	F68	1.04×0.90	0.67×0.42	0.13	M3, 48日	後期前葉	石組伊の石をぬいたもの
石組伊6	IV-34	43	L58	0.54×0.47	0.40×0.36	0.11	Ⅱ	後期初葉	遺物集中3の南側
外境土	IV-34	43	M58	0.49×0.44	0.30×0.27	0.12	Ⅱ下	後期初葉	
石組伊7	IV-35	43	M61	1.31×0.93	1.03×0.64	0.10	Ⅱ下	後期前葉	
石組伊8	IV-35	43+44	K60	0.91×0.81	0.78×0.70	0.12	Ⅲ下	後期前葉	境土は外。大量の砂利入る。
外境土	IV-35	44	K60	0.51×0.30	—	0.06	Ⅲ下	後期前葉	
石組伊9	IV-35	44	J・K60	1.04×0.80	0.78×0.52	0.14	Ⅲ下	後期前葉	石組伊8の北に隣接。大量の砂利入る。
F-1	IV-36	44	N・O49	0.61×0.53	—	0.08	Ⅱ下	後期前葉	
F-2	IV-36	44	J50	0.70×0.40	—	0.07	Ⅱ・I遺土層	後期前葉	
F-3	IV-36	44	L・M54	0.99×0.82	—	0.11	Ⅱ中	後期前葉	
F-4	IV-36	45	M54	0.67×0.53	—	0.08	Ⅱ下	後期前葉	土器あり
F-5	IV-37	45	F66	0.78×0.50	—	0.18	M2	後期前葉	
F-6	IV-37	45	F68+69	1.30×0.80	—	0.06	M3, 28日	後期前葉	境土粒 廃棄
F-7	IV-37	45	E69	1.02×0.76	—	0.08	M3, 38日	後期前葉	
F-8	IV-38	45	M57	0.52×0.24	—	0.08	Ⅲ上面	後期前葉	廃棄
S-1	IV-38	45	F67	0.48×0.40	—	—	伊9, 18日	後期前葉	
S-2	IV-38	45	F68	0.48×0.40	—	—	伊9, 18日	後期前葉	
S-3	IV-38	45+46	O56	1.40×1.14	—	—	Ⅱ中	後期前葉	
S-4	IV-38	46	K58	0.67×0.53	—	—	Ⅱ下	後期前葉	
遺物集中1	IV-39	46	E69	0.54×0.28	—	—	M1上面	後期前葉	
遺物集中2	IV-39	46	F68	0.40×0.34	—	—	M3, 28日	後期前葉	
遺物集中3	IV-40	46	L58	0.25×0.16	—	—	Ⅲ下	後期初葉	石器(黒曜石, 頁岩)の集中
M1	Ⅲ-4-5	47~56	F・G69, F70	7.80×6.40	—	0.12	—	後期前葉	
M2	Ⅲ-4-5	47~56	F66~69, F65~69, F68	20.60×10.40	—	0.20	—	後期前葉	
M3	Ⅲ-4-5	47~56	D~E68-69, F68~70, G69-70	15.00×8.60	—	0.36	—	後期前葉	
M4	Ⅲ-4-5	47~56	F・F65-66, G・I65-67	17.40×11.20	—	0.24	—	後期前葉	
M5	Ⅲ-4-5	47~56	F65-66, G・I65-67	12.80×10.40	—	0.28	—	後期前葉	

表IV-3 遺構出土掲載土器一覧

神岡 番号	掲載 番号	写真 図版	遺構	層位	遺物 番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
									口径	底径	高さ	
IV-41	1	57	H-1	床面	1	Ⅲb		口				縄線文 貼付帯
IV-41	2	57	H-1	HP-1覆土層	9	Ⅲb		底				縄文
IV-41	3	57	H-1	床面	16	IVa		胴				縄文
IV-41	4	57	H-2	覆土1層		Ⅲa		口				粘土紐貼付
IV-41	5	57	H-2	覆土1層		Ⅲb		胴				貼付帯 短刻線文
IV-41	6	57	H-2	覆土1層		IVa	深鉢	口~胴				刺突列
IV-41	7	57	H-2	覆土1層		IVa		胴				沈線文
IV-41	8	57	H-3	床面		Ⅲb		口				縹糸文
IV-41	9	57	H-3	床面	13	Ⅲb	深鉢	口~胴	(25.3)	—	(31.5)	貼付帯 沈線文
IV-42	10	57	H-3	床面	60	Ⅲb	深鉢	口~胴	(25.5)	—	(26.3)	弧状沈線文
IV-42	11	57	H-3	床面		Ⅲb		胴				貼付帯 沈線文
IV-42	12	57	H-3	床面	10	IVa		胴				縹糸文
IV-42	13	57	H-3	床面	53	IVa		胴				縹糸文
IV-42	14	57	H-3	床面	11	IVa		胴				縹糸文
IV-42	15	57	H-3	床面	14	IVa		胴				縹糸文
IV-42	16	57	H-3	床面	29	IVa		底				—
IV-42	17	57	H-4	覆土2層		Ⅲb		口				北階式
IV-42	18	57	H-4	床面	2	IVa		胴				LR縄文
IV-42	19	57	H-4	覆土2層		Ⅲb		口~胴				縦・横位貼付帯
IV-42	20	58	H-4	覆土2層		IVa		口				—
IV-42	21	58	H-5	床面	6	Ⅲa		口				粘土紐貼付 馬蹄形圧痕
IV-42	22	58	H-5	床面	4	IVa		胴				LR斜行縄文
IV-42	23	58	H-5	HP-2覆土層	13	IVa		胴				LR斜行縄文
IV-43	24	58	H-7	床面	84	IVa		口				縄線文 凹形刺突文
IV-43	25	58	H-7	床面	50	IVa		口				無筋縄文
IV-43	26	58	H-7	床面		IVa	深鉢	口~胴				縹糸文
IV-43	27	58	H-7	床面	48	IVa		口				口縁突起沈線
IV-43	28	58	H-7	床面		IVa		胴				横走沈線文
IV-43	29	58	H-7	床面	69	IVa		底				—
IV-43	30	58	H-7	床面		IVa		底				—
IV-43	31	59	H-7	床面	30	IVa	深鉢	口~胴	(17.0)	—	(17.7)	多条沈線文
IV-43	32	58	H-7	床面	30	IVa		底				—
IV-43	33	58	H-7	床面	44	IVa		胴~底				—
IV-43	34	58	H-7	床面	57	IVa		胴~底				沈線文
IV-43	35	58	H-7	覆土		IVa		口				折返し
IV-43	36	58	H-7	覆土		IVa		口				縹糸文
IV-43	37	58	H-7	覆土		IVa		口				沈線文 縄文
IV-43	38	58	H-7	覆土		IVa		口				筋条体圧痕文 縹糸文
IV-43	39	58	H-7	覆土		IVa		口				沈線文 調圧痕
IV-43	40	58	H-7	覆土		IVa		口				縦位貼付け
IV-43	41	58	H-7	覆土		IVa		口				沈線文
IV-43	42	58	H-7	覆土		IVa		口				弧状沈線文
IV-43	43	58	H-7	覆土		IVa	深鉢	口~胴				LR縄文 弧状沈線文
IV-43	44	58	H-7	覆土		IVa		口				縄文 凹形刺突文 LR縄文 沈線文
IV-43	45	58	H-7	覆土	21	IVa		口				沈線文 無筋斜行縄文
IV-43	46a	58	H-7	覆土		IVa		口				弧状沈線文
IV-43	46b	58	H-7	覆土		IVa		口				弧状沈線文
IV-43	46c	58	H-7	覆土		IVa		口				弧状沈線文
IV-43	47	58	H-7	覆土		IVa		口				歯状文
IV-44	48a	58	H-7	覆土トレンチ		IVa		口~胴				3列刺突文
IV-44	48b	58	H-7	(M3と接合)		IVa	深鉢	胴				LR斜行縄文

採掘 番号	掲載 番号	写真 図版	遺構	層位	遺物 番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
									口径	底径	高さ	
IV-44	49	58	H-7	覆土		IVa		胴				貼付瘤
IV-44	50	58	H-7	床		IVa		胴				地糸文
IV-44	51a	58	H-7	覆土	80	IVa		胴				弧状沈線文
IV-44	51b	58	H-7	覆土・床		IVa		底				
IV-44	52	59	H-7	床	9・8・C	IVa	深鉢	口～底	(8.0)	(5.7)	15.1	オオバコⅡB底文
IV-44	53	59	H-7	覆土トレンチ	58・70	IVa	深鉢	口～胴	25.5	—	(29.3)	柳曲状文
IV-44	54	59	H-7	床面		IVa	深鉢	口～胴	(30.0)	—	(39.2)	帯状文
IV-45	55	59	P-12	覆土1層	2	IVa	深鉢	胴～底	—	8.5	(12.0)	—
IV-45	56	59	P-14	覆土1層	3	IVa		口				沈線文
IV-45	57	60	P-17	覆土1層	1	IVa	深鉢	胴				縦状貼付帯 Ⅷ斜行縄文
IV-45	58	60	P-17	覆土1層	7	IVa	深鉢	胴～底	—	(8.2)	26.0	Ⅷ斜行縄文
IV-45	59	60	P-17	覆土1層	3	IVa	深鉢	口～胴				口縁貼付 Ⅷ縄文
IV-45	60	60	P-19	覆土1層	4	IVa		口				縄線文
IV-45	61	60	P-19	覆土1層	5	IVa	深鉢	底				Ⅷ横走縄文
IV-45	62	60	P-20	覆土1層	2	IVa		口				縄文 弧状沈線文
IV-45	63	60	P-20	覆土1層	1・4・5	IVa		口				縄文 弧状沈線文
IV-45	64	60	P-29	覆土	9	IVa		口				縦貼付 弧状沈線文
IV-45	65	60	P-29	覆土	4	IVa		胴				斜行縄文
IV-46	66	60	P-30	坑底	1	Ⅲa	深鉢	胴～底	—	11.8	(31.0)	結束一種 縁裕文
IV-46	67	60	SP-47	M3層7回目	47		土製品					突起形
IV-46	68	61	石組91	Ⅱ層	12	IVa	深鉢	口～底	(23.8)	8.0	34.0	Ⅷ斜行縄文
IV-47	69	61	石組93	Ⅱ層	11	IVa		口				口縁貼付帯
IV-47	70	61	石組97	覆土3層	31	IVa		底				—
IV-47	71	61	石組99	覆土	1	IVa		底				—
IV-47	72	61	F-2	覆土1層	3	IVa		胴				弧線文
IV-47	73	61	F-4	焼土1	1	IVa	深鉢	口～胴	22.0	—	(16.8)	沈線文 縄文
IV-47	74	61	S-3	Ⅱ層	13	IVa		底				—
IV-47	75	61	遺物集中3	床面	1	IVa	深鉢	口～底	(25.5)	(9.0)	38.0	斜行縄文・羽状
IV-47	76	61	遺物集中3	Ⅱ層	21	IVa	深鉢	口～胴				縦位横位円形刺突文

表IV-4 遺構出土掲載石器一覧

押印番号	掲載番号	図版番号	遺構	層位	遺物番号	遺物名	石材	大きさ (mm)			重量 (g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
IV-48	1	62	H-1	覆土2		石槍・ナイフ類	黒曜石	5.13	(2.38)	0.87	6.57	分析
IV-48	2	62	H-1	覆土1		石槍・ナイフ類	黒曜石	5.41	2.55	0.62	4.93	分析
IV-48	3	62	H-1	覆土2		石槍・ナイフ類	黒曜石	5.65	2.05	0.6	4.8	
IV-48	4	62	H-1	覆土2		石槍・ナイフ類	黒曜石	5.68	2.17	0.66	5.72	分析
IV-48	5	62	H-1	坪-1・覆土1	10	石鏟	泥岩	7.8	12.4	3.5	501.9	
IV-48	6	62	H-1	覆土2		砥石	砂岩	13.6	10.9	7.4	1,270	
IV-48	7	62	H-2	覆土1		石鏟	黒曜石	(1.92)	0.83	0.27	0.31	分析
IV-48	8	62	H-2	覆土1		スタレイバー	泥岩	11.30	7.60	2.20	114.7	
IV-49	9	62	H-2	床面	4	砥石	凝灰岩	17.0	13.6	2.8	699.7	
IV-49	10	62	H-3	床面		石鏟	黒曜石	4.36	1.75	0.77	3.47	分析
IV-49	11	62	H-3	床面	31	石鏟	頁岩	4.85	2.10	0.60	3.70	
IV-49	12	62	H-3	床面	43	石槍・ナイフ類	黒曜石	5.18	2.20	0.60	6.0	
IV-49	13	62	H-3	覆土1		石槍・ナイフ類	頁岩	6.65	2.70	1.45	18.4	
IV-49	14	62	H-3	床面		つまみ付きナイフ	泥岩	10.34	6.15	1.00	73.5	
IV-49	15	62	H-3	床面	19	スタレイバー	泥岩	7.68	4.30	1.10	42.1	
IV-49	16	62	H-3	床面	3	スタレイバー	泥岩	7.80	5.50	1.50	63.8	
IV-50	17	62	H-3	覆土2		石鏟	砂岩	12.2	14.1	3.1	829.9	
IV-50	18	62	H-3	床面	69	砥石	砂岩	11.7	14.0	16.0	1,720	
IV-50	19	62	H-3	床面	15	石皿	砂岩	38.3	10.95	10.3	7,100	
IV-50	20	62	H-3	床面	1	石製品	泥岩	4.10	1.93	1.25	12.80	
IV-50	21	62	H-4	覆土1		石槍・ナイフ類	黒曜石	5.28	2.82	1.38	12.67	分析
IV-50	22	62	H-4	覆土2		石鏟	頁岩	3.65	1.35	0.65	2.6	
IV-50	23	62	H-4	覆土1		両面調整石器	泥岩	9.55	6.65	2.60	116.4	
IV-51	24	62	H-4	覆土1		両面調整石器	泥岩	11.85	7.50	2.35	202.0	
IV-51	25	62	H-4	覆土2		石製品	砂岩	13.0	11.0	10.35	1,360	
IV-51	26	62	H-4	覆土2		石製品	黒曜石	(5.63)	2.76	0.80	11.1	分析
IV-51	27	63	H-5	坪-1・覆土3	10	すり石	砂岩	26.8	11.85	10.4	5,430	
IV-51	28	63	H-5	床		スタレイバー	頁岩	5.95	3.25	0.90	9.5	
IV-52	29	63	H-7	覆土1		石鏟	泥岩	7.10	8.80	5.80	351.1	
IV-51	30	63	H-7	床		石斧	泥岩	6.35	3.6	2.1	73.4	
IV-51	31	63	H-7	覆土1		すり石	砂岩	8.6	22.2	4.7	1,130	
IV-52	32	63	H-7	覆土1	15	石皿	花園閃緑岩	(16.3)	(16.9)	(15.7)	5,340	
IV-52	33	63	H-7	覆土1	11	石皿	花園閃緑岩	(19.3)	(15.3)	16.3	4,570	
IV-53	34	63	H-9	覆土1		つまみ付きナイフ	頁岩	5.25	2.90	0.85	8.5	
IV-53	35	63	H-11	覆土1		つまみ付きナイフ	頁岩	6.30	2.95	0.95	10.8	
IV-53	36	63	H-11	覆土1		両面調整石器	泥岩	8.10	3.85	1.60	44.5	
IV-53	37	63	H-11	床面	1	石皿	安山岩	46.4	31.4	10.6	19,200	
IV-54	38	64	P-9	坑底	2	石皿	安山岩	32.9	20.6	7.9	8,600	
IV-54	39	64	P-14	覆土2	27	礫・礫片	花園閃緑岩	85.5	33.0	20.0	92,900	
IV-54	40	63	SP-16	M3, T7回目		石鏟	頁岩	6.30	1.60	0.70	5.0	
IV-55	41	64	S-3	Ⅱ	9	扁平打製石器	安山岩	9.9	16.7	3.9	836.0	
IV-55	42	64	石組伊1	覆土1	7	砥石	砂岩	16.2	14.0	2.4	590.6	
IV-55	43	64	石組伊2	覆土1	1	すり石	砂岩	8.0	16.3	7.3	958.3	
IV-55	44	64	遺物集中3	Ⅱ	12	石鏟	黒曜石	(3.54)	(2.10)	0.60	3.0	分析
IV-55	45	64	遺物集中3	Ⅱ	10	石鏟	黒曜石	(3.60)	2.35	0.70	3.3	
IV-55	46	64	遺物集中3	Ⅱ	9	石鏟	黒曜石	3.70	2.35	0.60	3.2	
IV-55	47	64	遺物集中3	Ⅱ	8	石槍・ナイフ類	黒曜石	(5.84)	3.05	0.90	10.0	
IV-56	48	64	遺物集中3	Ⅱ	7	石槍・ナイフ類	黒曜石	6.30	4.95	1.50	39.2	
IV-56	49	64	遺物集中3	Ⅱ	5	石槍・ナイフ類	黒曜石	6.95	4.71	1.85	49.95	分析
IV-56	50	64	遺物集中3	Ⅱ	6	石槍・ナイフ類	黒曜石	7.40	5.20	1.80	56.5	
IV-56	51	64	遺物集中3	Ⅱ	3	スタレイバー	黒曜石	6.76	5.06	2.00	44.07	分析
IV-56	52	64	遺物集中3	Ⅱ	13	スタレイバー	頁岩	7.35	3.35	1.50	35.5	
IV-56	53	64	遺物集中3	Ⅱ	4	剥片	黒曜石	6.20	4.60	1.50	33.28	分析
IV-56	54	64	遺物集中3	Ⅱ	2	石斧	片岩	9.45	3.80	1.20	54.2	
IV-56	55	64	遺物集中3	Ⅱ	22	石斧	片岩	(11.85)	3.95	2.25	157.5	

3 盛土遺構出土の遺物

(1) 土器等 (図IV-57~129 表IV-5・6 図版48~56、67~106)

盛土遺構からは63,115点の土器が出土した。層位別では、M1層から6,249点(10%)、M2層が14,593点(23%)、M3層16,505点(26%)、M4層13,001点(21%)、M5層12,767点(20%)である。

分類ではⅢ群a類7点、Ⅲ群b類20点、Ⅳ群a類62,799点、土製品22点、焼成粘土塊267点である。土製品と焼成粘土塊を除いた合計は62,826点で、Ⅳ群a類土器が99%を占めている。

出土した土器の分布図を盛土各層位毎・分類毎に作図した(図IV-128~130)。出土総数を見ると、G66区から7,736点、E69区9,757点、F69区が9,033点と特に出土量が多い。F67区を中心とした空白域はH-7構築によって盛土遺構が削平された区域である。

ここではM1・M2・M4層(上層)からM3・M5層(下層)までの資料を、出土した層位別、掘り下げ回数ごとに掲載した。トレンチ調査の際に出土したものもあり、表IV-6に層位・回数等を記した。(例)M3→M3層上面出土。(例)M3→M3層3回目出土等。なお、掲載番号は各層位毎で1からつけている。

盛土1 (M1) 層出土の土器 (図IV-68・69-1~25 図版67・68-1~25)

1~25はⅣ群a類。1は深鉢で底部を欠損する。口縁部は緩い波状で僅かに外反し、頸部がくびれ胴部上位に膨らみがある。地文はLR縄文で輪積みの跡を残す。2は口径7.6cm、高さ7.7cm、底径4.2cmの小型深鉢。緩い波状口縁で、底部から口縁にかけて外傾する。底部には張り出しがあり、地文は燃糸文である。3a・bは同一個体。口縁部は無文で頸部がくびれ、胴部に膨らみをもつ。地文はLR縄文。4は幅の狭い折り返し口縁で、頸部が僅かにくびれ胴部上位が膨らむ。地文は横走気味のLR縄文。5~9は燃糸文が施されるもので、このうち6・7は折り返し口縁。8は口縁部に肥厚する山形突起があり、突起部の口唇上には指頭押捺による爪痕が残る。10・11は無文地で11は折り返し口縁である。12~14は胴部下半から底部にかけてのものが施文はない。15a・bは口唇部に円形刺突文が押捺され、2条1単位の弧状沈線が口縁部から胴部にかけて施文される。胴部下半は燃糸文が施される。16は無文地に、3条1単位の細い蛇行沈線が垂下する。17は推定口径が約14cmで、胴部から下半を欠損する。口縁部に2条の縄線が横環し、口縁突起部の下位にボタン状貼付文が上下に2個つけられる。突起部の口唇上には指頭押捺による窪みがある。18は口縁波頂部にループ状の粘土紐が貼付けられる。口縁波頂部を起点に沈線が施文され、沈線区画内は帯状文となり他は擦り消されている。19~25は大津式。19・21は帯状文が施文されるもの。19の口縁部には途中まで穿孔された痕が残る。21は上下の帯状文の間をY字状の帯縄文で連結する。20・22は沈線区画に横位平行や曲線の櫛歯状文が充填される。22の口縁部には連続する円形刺突文が施される。23は深鉢の底部。24は壺形で、口縁部から肩部にかけての復元である。口縁は平縁で、頸部には沈線が横環し、沈線区画内には櫛歯状文が充填される。肩部には長楕円形状の区画文が2段施文され、胴部には櫛歯状曲線文が施される。25は皿形土器の底部と考えられるもの。櫛歯状曲線文や渦文、刺突文などで内外両面に施文される。内面には渦巻き状の沈線が描かれ、渦の中心には先の細い施文具で付けられた円形刺突文が3か所施文される。外面は、櫛歯状文が井字やC字状になるように区画され、区画内の凸面中央や端部に円形刺突文を施して文様構成されている。

盛土2 (M2) 層出土の土器 (図IV-70~76-1~94 図版69~73-1~94)

1~94はⅣ群a類。このうち1~45はM2層上面出土のものである。1は縦位の貼付帯上に円形刺突文が施される。地文は燃糸文。2は横位の貼付帯上に円形刺突文が施され、口唇上には指頭押捺が連続し、爪痕が残る。3は折り返し口縁で地文はLR斜行縄文。4は口縁部に肥厚体をもち胴部に燃糸文が施文される。5は口唇部が外方に肥厚する。口縁部は無文帯で胴部にはLR斜行縄文が施される。6は縦・横位に隆帯を

持つもの。隆帯が一部剥離しているが、貼付帯上に指頭圧痕が認められる。7・8は貼付帯が縦位に付されるもの。8は小突起口唇上に指頭圧痕が施される。9は内外面に粘土紐が貼り付けられ、その上から先の細い施文具による円形刺突文が施される。10～14は口縁部または頸部に2条の縄線が横環し、地文に縄文が施されるもの。10・11は深鉢で地文は斜行縄文。12は広口の壺形土器。頸部に2条の縄線が施文され、斜行縄文が施される。器面に煤状の黒色物質が付着する。13は口唇突起部に刻み目を伴う。14は山形突起をもち地文は横走縄文が施文される。15・16の地文は斜行縄文。17は深鉢で底部を欠損する。波頂部下の口縁部に貼付帯が伴う。地文は無文である。18は壺形で底部を欠損する。LR斜行縄文施文後、頸部には平行沈線、胴部に蛇行沈線文を施す。19は深鉢で底部を欠損する。緩い波状口縁で口縁部に2条の絡条体圧痕文が横環する。横または斜位の燃糸文が施文される。20は無文で折返し口縁。21は斜行縄文。22～26は燃糸文が施文されるもの。26は原体結び目の圧痕が残る。27・28は頸部にくびれがあり、口縁部に貼付帯が横環する。貼付帯上には指頭押捺が連続して施文され、貼付帯下には2条1単位の連弧文が廻る。28の連弧文は、1単位の弧状沈線の間隔が27より長い。29は口縁部に絡条体圧痕文が横環し、無文帯を挟んで2条の平行沈線が施文される。沈線下位には2条1単位の菱形沈線が連結する。地文は縄文で擦り消しが施されている。30は波状口縁の深鉢。口縁部と胴部に横環する2条の沈線と、波頂部から垂下する2条の沈線で区画され、これに連弧文が連結するように施文される。地文は斜行縄文で口唇と口縁内面にも縄の押捺が施されている。31・32・34は無文地に沈線が施されるもの。31の沈線は深く施文される。32は肥厚する折返し口縁をもち、口唇波頂部に指腹押捺が施される。34は櫛歯状曲線文が施文される。33は縄文地に弧状沈線が施される。36は小型深鉢で頸部がくびれ口縁部が外反する。波頂部には指頭押捺が施される。胴部は沈線区画に縄文が充填される帯状文。37は幅の広い櫛歯状帯状文。38・39は無文地に沈線で構成される。38は鉢形で緩い波状口縁をもち、最大径が頸部下にあり底部にかけて細くなる。口縁に沿った沈線と胴部下半にも沈線が横環し、この間を曲線文が連結し、櫛歯状文が充填された帯状文となっている。39は壺形で櫛歯状弧状沈線が口縁から胴部中程まで施文される。40～45は沈線区画に櫛歯状文や縄文が充填され、帯状文として文様構成されているもの。40は深鉢形で緩い波状口縁をもち、頸部のくびれが弱く胴部は張出さない器形である。波頂部下の口縁部には、菱形の沈線文が配され、口縁から胴部にかけて直線や曲線の櫛歯状帯状文が連結するように施文されている。41・42は口縁部がやや外反する。42はクラック状沈線で、縄文や櫛歯状文は充填されていない。43・45は頸部がくびれ、口縁波頂部の内外面に粘土紐の貼付けが施される。胴部には櫛歯状帯状文が施文される。44は縄文が施される帯状文。

46～76はM2層1回目出土のもの。46は深鉢で底部を欠損する。口縁部は無文帯で肩部に2条の縄線文が横環する。縄線下から横走縄文が胴部下半まで施文される。器面に煤状物質が付着する。47は無文地のミニチュア。48・49は燃糸文が施されるもの。48は山形突起をもち、口縁から胴部上位にかけて施文される。50～56は貼付帯があるもの。50は砂礫の多い胎土で、横位の貼付帯上に貼付帯と円形刺突文が施される。Ⅲ群b類の可能性もある。51は低い山形突起の下に環状の貼付帯を付し、これを起点に3方向に貼付帯が付される。口唇突起部には指頭押捺が加えられ爪痕が残る。52・53は環状の貼付帯と貼瘤、そこから横環する2本の貼付帯が付される。口唇部には連続する指頭押捺が施され、爪痕が残る。53は環状の貼付帯の半分を欠損する。54・55は縦位の貼付帯をもつもの。54は貼付帯上に円形刺突文が施され、口縁部には沈線が横環する。Ⅲ群b類の可能性もある。55は燃糸文が施文されている。56は頸部に橋状把手をもつ。57は肥厚する口縁と横位の縄文が施される。58は口縁部に2段の櫛歯状沈線が横環し、その間に縄文が施文されている。59は横走する燃糸文と径約1cmの円形刺突文が連続して押捺されている。口唇部にも同じ施文具による刺突が連続して施文される。60は縄線と櫛歯状沈線の間に連続する円形刺突文が施される。61は斜行縄文施文後、折返し口縁を施す。口唇上には連続する指頭押捺が加えられ、成形時

についた指頭圧痕が口縁部の内外面に残り、凸凹を呈す。62～64は縄線が横環する。62は斜行縄文施文後、口縁部に2条の縄線が施される。口唇上面には円形刺突文が施される。63は無文地で口縁部から胴部にかけて7条の縄線文が横環する。64は斜行縄文施文後、口縁部に4条の縄線文が横環する。口唇上には縄の押捺が施される。65は口縁部と胴部に絡条体圧痕文を施す。胴部は鋸歯状となっている。66は頭部にくびれない深鉢。地文は燃糸文。67は壺形で頭部にくびれをもつ。折返し口縁に斜行縄文が施される。68a・b・69・70は無文地のもの。68・70の口縁部には山形突起があり、突起の口唇上部には指頭押捺が施される。71は折返し口縁に櫛歯状沈線が横環し、胴部には縦割りの竹管状施文具による2条1単位の網目状文が施される。右上から左下に描かれる沈線が左上から右下に曳かれる沈線を切るように後から施文され、交差する部分に刻みを施して連結を表現している。72は口縁部に5条の波状沈線が廻り、胴部には斜行縄文が施文される。口縁波頂部には指頭押捺が施される。

73～76は沈線区画に櫛歯状文や縄文が充填され、曲線や直線で描かれる帯状文となっている。74は口縁突起部の内外面に粘土紐の貼付けが施される。75は口縁から胴部を平行沈線で3つに区画し、その間を楕円の帯状文で連結する。76は壺形で波状や尖頭状の櫛歯状文が描かれる。77～94はM2層2回目出土のもの。77～80は縦・横位または環状の貼付帯を有するもの。79は貼付帯の口唇部に指頭押捺が施される。81・87・88は燃糸文。87は折返し口縁、88はリボン状の貼付けをもつ。82～84・86は縄文が施されるもの。86はオオバコ文等の偽縄文とも考えられる。89は沈線と口唇部に先の細い施文具による円形刺突文が施される。90～92は沈線区画に櫛歯状文や縄文が充填され、帯状文となる。93は口縁部にループ状の粘土紐貼付けが付され、弧線文で連結する4条の沈線が貼付帯の間に施文される。胴部にはLR斜行縄文が施され、胴部に楕円形の穴が1か所穿孔されている。94は4対の山形突起のある深鉢。口唇部には連続する円形刺突文が施される。頭部と胴部には2段の貼付帯が横環し、突起下には環状の貼付帯が上下に2個付され横位の貼付帯と連結する。環状の貼付帯の中には貼付瘤が付けられる。貼付帯の区画内は斜行縄文が施文され、胴部下半は横走縄文となる。

盛土3 (M3) 層出土の土器 (図IV-78～102-1～270 図版74～90-1～270)

1～270はIV群A類。このうち1～61はM3層上面またはトレンチ調査の際に出土したものである。1は口縁部に連続する円形刺突文、その下に2条の沈線が横環し、横走縄文が施文される。2・3は口縁部に縄線を持つ。3は口縁部に弧を描く貼付帯があり、縄の押捺も施される。地文は燃糸文である。4・7・9は上下に貼付瘤が付されるもの。4は縄線と口唇突起部に指頭押捺が施される。7は縦割りの竹管状施文具による沈線が組み合わされる。9a・bは弧状沈線と円形刺突文も施文される。6はボタン状の貼付けが上下に付され、燃糸文が施される。8は口唇部が外方に肥厚する。口縁部には鎖状の櫛歯状沈線が横位に連結し、横走縄文が施文される。10は渦状の粘土紐貼付けが付される。11・13・16は沈線区画に縄文が充填され帯状文となる。13は口縁部内面にも縄文が施される。12は口縁部に2条の沈線が横環し、弧状沈線が向かい合うように描かれ、横位の短沈線で連結する。14・15は縄文地に直線や弧状沈線で文様構成される。17・18・19は縄文地に縄線が横環する。17は山形突起の口唇部に棒状工具による刻み目が施される。20～23・26は口縁部に絡条体圧痕文が横環し、燃糸文が施文される。24は山形突起の口唇部に絡条体の押捺が施され、刻み目状となる。地文はオオバコ文等の偽縄文と考えられる。25・27～36・38～43は燃糸文が施されるもの。41・42は折返し口縁。41の口縁部には成形時の指頭圧痕が残り、内面には斜位方向の条痕が目立つ。37はくびれない深鉢で無文である。44・45は沈線区画に縄文が充填され、帯状文となる。45は壺形。頭部と胴部を沈線で区画し、その間が波状入組文となる。46～49は無文地に弧状沈線が施文されるもの。46・49は間隔の狭い蛇行沈線が垂下する。50は無文地に沈線と円形刺突文が施文される。51～53は口縁部に3～4条の沈線が横環する。51・52は燃糸文が施される。55・56は貼付帯に指頭押捺が施される。55はLR

斜行縄文施文後、口縁部に鋸歯状の貼付帯を付し、連続する指頭押捺を施す。貼付帯と連結するように3条1単位の連弧文が横環する。54・57～61は沈線区画に縄文や櫛歯状文が充填され帯状文となる。54は帯状文で、口唇突起部に窪みがある。58・61は口縁突起部の内外面に粘土紐貼付があり、58は円形刺突文も施文される。59は口唇部に円形刺突文が連続する。

62～108はM3層1回目出土のもの。62aは口縁部が無文帯で、その下は羽状縄文となっている。62bは口縁部が外反し、斜行または横走縄文が施文される63・64・67・68・70は斜行縄文。70は山形突起があり口縁部が無文帯となる。65は斜行縄文が施され沈線区画内に円形刺突文が連続する。66はオオバコ文等の偽縄文と考えられる。71～83は地文に燃糸文や沈線文が施されるもの。71・77は絡条体圧痕文が横環する。71・81は単沈線で文様構成されている。72・73は折返し口縁。78は山形突起の口唇部に篋状工具による刻みが施される。折返される幅広の口縁部は無文帯で、胴部は縦位の燃糸文が施文される。原体結び目の圧痕がある。80は4対の山形突起部にリボン状の粘土紐貼付けを付し、その上にも燃糸文が施文される。82は多段の折返し口縁に燃糸文が施文され、山形突起の口唇部には指頭押捺が施される。83は外反する口縁部に山形突起をもち、口唇部に指頭押捺が加えられる。頸部には2条の沈線が横環する。84は斜行縄文。85は折返し口縁で無文地である。86～88は円形刺突文が施される。86は縄線と沈線が横環し、その区画内に円形刺突文が施される。地文は斜行縄文。87は折返し口縁で器面全体に円形刺突文が施される。88は貼付瘤が上下2個付される。瘤の頂部と山形突起の口唇部には指頭押捺が施される。櫛歯状沈線で区画された口縁部と口唇部には円形刺突文が施文される。89は折返し口縁で、鋸歯状と直線の絡条体圧痕文が組み合わされる。90～99は直線や弧状沈線で構成されるもの。100・101は縦位の貼付けをもつ。100の口唇部には指頭押捺が施される。102は垂下する蛇形沈線とこれに連結するように2条1単位の弧状沈線が施文される。地文は斜行縄文。103は無文地で、頸部と胴部、胴部下半に2条1単位の平行沈線を横環させ、その後垂下する蛇形沈線を施し区画する。104は深鉢で底部を欠損する。口縁部には山型突起を有し、口唇上には棒状施工具による刻み目が施される。頸部と胴部には平行する帯状文とその間に鋸歯状の帯状文が連結する。帯状文の間は擦消しが施され、三角形の区画文が連なるように横環する。胴部下半は無文帯となる。105は整った器形の壺形土器で口縁部が外反し、底部が欠損する。口縁部は無文帯で、丸みのある胴部には2条1単位の沈線で、方形や三角形などの区画文が交互に配置されるように文様構成されている。平行する沈線間の粘土帯には沈線を施している。胴部下半は無文地である。106は胴部が張り出す浅鉢で、櫛歯状文が施文されている。

109～138はM3層2回目出土のもの。109は斜行縄文施文後、口縁部に連続する円形刺突文が施される。110～112・117・118は口縁部に縄線が横環する。110は口唇部の内外面にまたがるように沈線が施される。111は口唇部に円形刺突文が連続し、縦位の貼付帯を付した後、2条の縄線が横環する。112は口縁部に3条の縄線が横環し、口唇部には縄の圧痕が施されている。地文は燃糸文。117は斜行縄文に2条の縄線が横環する。波頂部下の口縁部が肥厚する。118は多段の折返し口縁に1条の縄線が横環し、口唇山形突起部に指頭押捺が施される。地文は無文地である。113・114は地文が縄文のもの。113はLR斜行縄文で口唇部に指頭押捺が施文される。114は横走縄文で波状口縁の突起部が肥厚する。115は緩い波状口縁と括れの弱い頸部をもち、胴部最大径が口縁部とほぼ同等である。斜行縄文施文後、口縁部と胴部に2条1単位の平行沈線を横環させ文様帯を区画、波頂部から縦位の貼付帯が胴部の沈線と繋がる。貼付帯は2重の環状沈線と連結し、貼付帯と口唇波頂部には指頭押捺が施される。119～122・124～130・132・133は燃糸文が施文される。このうち折返し口縁をもつもの121・127・130がある。口縁部に粘土紐貼付けが付されるものに126があり、126・130は口唇部にも燃糸の押捺が施される。123は底部から口縁にかけて外反するくびれない鉢形で、山形突起の口唇部に刻み目が施される。131は高さが約56cmを測る深鉢。無文地に縦・

横位の連弧文が施される。134は折返し口縁で無文地に蛇行・弧状沈線が施される。135は無文地に2条1単位の弧状沈線が施される。136は口唇部に円形刺突文を施し器面には沈線による網目状文が描かれる。137は山形突起の口唇部に円形刺突文を施し、口縁部には絡条体圧痕文が横環する。縄文地に弧状沈線が施される。138は無文地に集合沈線で文様構成される。

139～186はM3層3回目出土のもの。139～148は縄文や、これに沈線や貼付帯等が施される。142は口縁突起部に縄の押捺が施され、刻み目状になる。143は多段の折返し口縁をもつ。144は浅い櫛歯状文が施文される。145は縄文施文後に貼付帯を付し、指頭押捺を加えその後沈線が施される。口唇にも縄の押捺が施文されている。146～148は平行沈線に弧状沈線や連弧文が施される。149は無文地で口縁部に2条の縄線が横環する。150は口縁部に植物の穂を押捺したと考えられる、オオバコ圧痕文が2条横環する。151～174は燃糸文等を地文とするもの。151～153・158・161・163・170は口縁部に絡条体圧痕文が施される。152・155は燃糸ではなく沈線が施される。170a・bは燃糸文施文後、口縁部に絡条体圧痕文を施し、その後沈線を交差状に描いている。167～169は網目状燃糸文が施文される。175・176は底部。176は成形時の指頭圧痕が底部外周に残る。177～181は無文のもの。182は底部にくびれのある小型の鉢。口縁部には山形突起があり、器面には無文地に櫛歯状の浅い沈線が交差状に施文される。183～185は沈線区画に縄文や櫛歯状文などが施され、帯状文として文様構成されている。186は燃糸文で2条1単位の弧状沈線が組み合わされる。

187～218はM3層4回目出土のもの。187はLR斜行縄文施文後、口縁部に4条の縄線を施し、縄線の上からも一部縄文が施文される。188もLR斜行縄文。189～191・193～201a・bは燃糸文。192は推定口径約34cm、高さ約50cmを超える深鉢で底部を欠損する。低い山形突起をもち口縁部には浅い櫛歯状沈線が上下に施される。上下の沈線の間には、窪みのある貼付帯が山形突起の下に付せられ、連続する円形刺突文が横環する。地文はLR斜行縄文。193は口縁部に2条の縄線が横環する。口縁部に絡条体圧痕文が施されるものに194・198がある。202a・b、206は網目状燃糸文。202は胎土に円礫を多く含む。206は貼付帯が上下に2個付せられる。204は網目状沈線文である。203・205・207～209・212は無文地に沈線や刺突文が施されるもの。203は口縁部から胴部にかけて蛇行沈線が垂下する。口唇部には指頭押捺が施される。205は平行沈線と斜行沈線で構成される。207は複数の弧状沈線の中央が窪み状となる。208は壺形で蛇行沈線の一端が渦巻き状になる。209はくびれない鉢形で沈線区画内に弧状沈線で連結され刺突文が横環する。210・214は口縁部にループ状の貼付帯が付される。211は刻みのある縦の貼付帯を付し、その間に沈線文が施文される。212は口縁部に蛇行気味の沈線が5～6条横環する。煤状炭化物が付着する。213は地文縄文で、浅い弧状沈線と深い弧状沈線が2条1単位で施文される。215～218は無文のもの。215は縦方向のヘラミガキ痕が目立つ。216は口径が約14cm、頸部がくびれ口縁部が外反する。口径が胴部の径を上回り、胴部から底部にかけて細くなる。

219～249は5回目出土のもの。219・220は縄文が施される。219は口縁部がくびれ外反する。220は2条の縄線が頸部を廻り、その間に円形刺突文が横環する。221・222は縦位の貼付帯が付せられる。222は口縁部に縄線と貼付帯上には刺突文が施される。223～228、230・231・240～248は燃糸文が施されるもの。224は口唇部に円形刺突文が施される。231は壺形で胴部下半が欠損する。口縁部にはリボン状の粘土紐貼付帯が付せられる。口縁部外面には成形時の指頭圧痕が目立つ。248は壺形で底部が欠損する。頸部に幅約1.5cmの貼付帯を横環させ、口縁部にかけて4か所の橋状把手が付く。貼付帯上と把手にも燃糸文が施文されている。229は地文横走縄文で胎土に石英の結晶を多く含む。232～235・238は無文地に沈線が施されるもの。232は低い山形突起をもち、口縁部に3条の沈線が横環する。233・235は、弧状沈線による区画文が口縁部から胴部にかけて施文される。234は口縁部と口唇部に連続する円形刺突文を施し、横連

弧文と沈線が施文される。238は緩い波状口縁で、2条1単位のS字状沈線が施文される。236・237は網目状文が施される。236は沈線、237は燃糸文で描かれる。239・249は無文。250～265はM3層6回目出土のもの。250は推定口径34cmを測る深鉢で胴部から底部が欠損する。口縁部には低い山形突起があり、口縁外周には成形時の指頭圧痕が残る。地文はLR斜行縄文。251～254・256・259は燃糸文のもの。251は山形突起をもち、突起部から口縁部にかけて肥厚する。252は口縁部から胴部にかけての施文が不鮮明。256は山形突起をもち、口唇部に指頭押捺が施される。口縁部は無文帯で、補修孔が穿たれる。259は折返し口縁で口縁部が外反する。255・257・258は無文のもの。257は口縁部と底部を欠損する。258は底部から胴部にかけては無文である。260は口径14.1cm、残存高28.7cmの壺形で底部を欠損する。口縁部は平縁でくびれは弱く、頸部に断面三角形の貼付帯を横環させ、そこから口唇部にかけて4つの橋状把手が付けられる。口縁部には縄の押捺も施される。胴部の膨らみが均等ではなく、頸部貼付帯から胴部にかけて横または斜位の縄文が施される。261は推定口径13.5cm、残存高28.7cm、胴部のほぼ中央に最大径をもち、くびれない深鉢で底部を欠損する。4対の山形突起をもち、口縁部には半截竹管状施文具による平行沈線が横環し、沈線を挟んで上下2つの貼付帯が山形突起下に付けられる。横環する平行沈線からは垂下するように、径の異なる弧状文が貼付帯の間に施文される。口唇部と口縁部から胴部にかけて、連続する円形刺突文が沈線区画の外内に充填される。262は折返し口縁で口縁部は無文帯となり、胴部に網目状沈線文が施される。263は無文地に沈線と貼付帯、連続する刻みで文様構成される。4対の山形突起をもち、頸部がくびれ口縁にかけて外反する浅鉢で底部が欠損する。口唇部には連続する刻みがあり、山形突起のある口縁部には、先端が環状となる細い粘土紐の貼付帯が付される。貼付帯を付した後に、口縁部には3条の沈線を横環させ、その後縦位の蛇行沈線と貼付帯を挟むように半截竹管状施文具による刻みを垂下させ、縦の沈線を組み合わせ区画されている。胎土には砂礫を多く含み、器面に煤状炭化物が付着する。264は口縁部から頸部にかけてリボン状の粘土紐貼付帯を付し、半截竹管状施文具で口唇部と貼付帯上に刺突を施し、横位の沈線が組み合わせられる。265a・bは同一個体で、壺形を呈すると思われる。無文地で肩部に低い貼付帯を付し、その上から連続する円形刺突文を施している。貼付帯下の胴部には、2条単位の沈線で区画される曲線的な帯状文が描かれる。器面が赤彩されていたと思われ、赤色顔料が円形刺突文や沈線の窪みに僅かに認められる。

266～270はM3層7回目出土のもの。266は胴部から上が欠損する。地文はLR斜行縄文。267は山形突起の頂部を指先でつまみ、指頭押捺が施される。頸部から口縁部にかけて外反し、頸部には沈線が施される。268は口縁部に貼付帯を施し、その上から沈線を施文する。胴部には斜め方向に沈線が施される。269は口縁部と底部が欠損する。口縁部に沈線を横環させ、その間に3条1単位の鋸歯状沈線が施文される。270は無文地に縦位の貼付帯が付される。頸部はくびれ、口縁部が外反する。貼付帯にも指頭押捺による窪みが施される。器面には煤状炭化物が付着する。

盛土4 (M4) 層出土の土器 (図IV-102～106-1～62 図版91～94-1～62)

1～62はIV群a類。このうち1～38はM4層上面出土である。1～3は貼付帯が付されるもの。1の口唇部には連続する指頭押捺が施され、窪みには爪痕が残る。貼付帯上には円形刺突文が施文され、砂礫を多く含む胎土である。2は細目の貼付帯上に先端が細い施文具による連続刺突文が施される。胎土には砂礫を多く含む。3は斜行縄文施文後に低い貼付帯を付し、棒状工具による刺突文が施される。砂礫を多く含む胎土である。4は斜行縄文施文後に、口縁部が折返される。5a・bは、口縁部に縦位の3つの貼付帯をもち、櫛歯状沈線が口縁部に横環される。6は折返し口縁で頸部から胴部にかけてのくびれが緩やかである。口縁部にも斜行縄文が施文される。7・8は縦・横位の貼付帯が組み合わせられる。7は横位の貼付帯両側に沈線が施される。8の貼付帯は断面が三角形となる。9・10は縦位の貼付帯が付される。9は低い山形突起の

頂部と縦位の貼付帯上に指頭押捺が施される。貼付帯を付した後の口縁部には弧状沈線が施文され、内面にも縄文が施される。10は縦位の貼付帯中央に窪みが施される。11a・bは同一個体。11aは頸部がくびれ口縁部が外反する深鉢。LR斜行縄文施文後、平行沈線と垂下する弧状沈線を組み合わせ区画される。12・15・16は粘土紐貼付けが口縁部に施されるもの。12は斜行縄文施文後、口縁部に環状の貼付帯が付される。貼付帯中央には円形刺突文が施される。15は粘土紐貼付け後、口縁部に沈線を施す。地文には細かい棘様の圧痕が施文されている。植物の茎等の回転文で、偽縄文と思われる。16はループ状の粘土紐貼付けが付され、刺突文が3つ施される。頸部には3~4条の浅い沈線が横環し、貼付帯を縁取るように描かれる。13は折返し口縁で、口縁部には平行沈線と弧状沈線が組み合わせられ、胴部に斜位の沈線が施文される。14は横位の貼付帯上に指頭押捺を施し、貼付帯の両側を沈線で縁取る。17は斜行縄文施文後、縦位の貼付帯を付し連続する指頭押捺も施す。その後、口縁部に2条の縄線を施文する。18~23は口縁部に絡糸体圧痕文が施されるもの。18の胴部は縦位の集合沈線が施文される。20~22a・bは絡糸体圧痕文と燃糸文が組み合わされる。22は口縁部に3条の絡糸体圧痕文が横環し、胴部には2条1単位の絡糸体圧痕文が鋸歯状に施文される。24・25は網目状燃糸文、26は網目状沈線が施される。27は折返し口縁で胴部には燃糸文が不整合に施文されている。28は口縁部に緩やかな突起をもち器面全体に直線的な集合沈線が施文される。29~33は地文が無文のもの。29の胎土はきめが細かく、礫などを含まない。34a・bは大型の深鉢で燃糸文が施文される。35はやや幅広い沈線で曲線文が描かれる。器表面には櫛歯状施文具による調整が施されている。36は折返し口縁で4対の波状口縁をもつ。地文は燃糸文。37は胴部に縦または斜位の燃糸文を施し、口縁部には鋸歯状の絡糸体圧痕文が横環する。38は無文地で口縁部から胴部下半にかけて横位の沈線が施文される。

39~53はM4層1回目出土のもの。39は口縁部にくびれがなく、胴部に最大径をもつ深鉢。縦位の縄文施文後、口縁部と胴部の最も張り出す部分に2条の沈線が横環する。40は横環する沈線文の下に2条1単位の連弧文が2重に組み合わせられ、横環する。41は口縁部に短い縦位の貼付帯と連続する円形刺突文が施される。地文は燃糸文である。42は口縁部に1条の沈線文が横環する。胎土には砂礫を含む。43は口縁部に絡糸体圧痕文が2条横環し燃糸文が施される。44は頸部にくびれをもち、口縁部が外反する。胴部は張出が弱く細身に仕上げられる深鉢で底部を欠損する。地文は無筋の斜行縄文。45は口縁部に山形突起のある深鉢で底部を欠損する。口縁部と胴部上端に横環する絡糸体圧痕文を施して文帯帯を区画し、その間に2条1単位の絡糸体圧痕文を斜めに配して連結する。胴部には燃糸文が施文される。46は折返し口縁で地文は無文である。47は口縁部が外反する深鉢で、胴部に膨らみがない。口縁部は無文帯で胴部には斜行縄文が施される。48は折返し口縁で、折返し後に燃糸文が施文される。49は無文地。内外面に横または斜め方向の擦痕が目立つ。50は口縁部に間隔の狭い多重沈線が横環し、口唇部には縄の押捺が施される。51は波状口縁と頸部のくびれが緩やかな深鉢。口縁部には波状突起と平行する沈線が3条横環する。地文は横走縄文で器面に煤状炭化物が付着する。52・53は深鉢の底部。53は横走縄文が施され、胎土には礫が多く含まれる。

54~59はM4層2回目出土のもの。54は膨らみのある胴部破片。横環する2条の沈線とその上には2条1単位の曲線的な文様が描かれ、区画された中が磨消縄文となる。砂礫を多く含む胎土である。55は地文斜行縄文で、縦・横位の貼付帯を付しその上面には指頭押捺を施す。貼付帯で区画された口縁部と胴部には沈線が描かれる。口縁部内面には縄文が施文される。砂礫を多く含む胎土である。56はLR斜行縄文を施し、2または3条1単位の弧状沈線が描かれる。57~59は無文地に直線や曲線の沈線が施文されるもの。57は山形突起をもち、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。口縁部には3条の平行沈線が横環し、胴部には細く浅い沈線で直線やクランク状の文様が描かれる。58は平縁で頸部にくびれをもたない深鉢。口縁部

から胴部にかけて複数のS字状の沈線が重ねられるように施文されている。59は砂礫を多く含む胎土で、器面には縦位の2条1単位の短沈線と、これを囲むように4条1単位の弧状文が組み合わされ、単位文様として配されている。

60～62はM4層3回目出土のもの。60は頸部にくびれをもたない深鉢で、胴部下半から底部を欠損する。LR斜行縄文施文後、口縁部に2条の沈線文が施される。61は燃糸文と条痕が見られる。成形時の指頭圧痕により器壁が凸凹である。62は底部から胴部にかけてやや膨らみを持ち、残存する器面は無文である。

盛土5 (M5) 層出土の土器 (図IV-107～124-1～195 図版94～106-1～195)

113を除いて、1～195はIV群a類。このうち1～59はM5層上面出土である。1は斜行縄文施文後、縦位の貼付帯を付しその上から連続する指頭押捺を施す。貼付帯を付した後の口縁部には幅の狭い弧状沈線文が3段描かれる。口縁部内面にも縄文が施され、口唇部には縄の押捺が施文されている。2は波状口縁の波頂部から縦位の貼付帯が付され、貼付帯の上面には連続する指頭押捺が施される。3は平行する2段の貼付帯が付され、貼付帯上には連続する円形刺突文が施される。貼付帯の間は無文である。4・5は山形突起のある口縁をもち、くびれない深鉢で突起下に貼付帯が付される。4の突起部には指頭押捺が施され、爪痕が残る。地文は共にLR斜行縄文。6・7・9～14は口縁部に粘土組貼付けや縦位の貼付帯が付されるもの。6・9は無文地で口縁部に縦の貼付帯が付けられる。6は成形時の指の圧力によって貼付帯が片側に歪んでいる。7は口縁部に十字の貼付帯が施される。8は山形突起のある口縁部で、口縁に沿って横位の貼付帯をもつ。10は2個一対の山形突起のある深鉢で、底部には張り出しがある。口縁部には2条の縄線が横環し、突起部には縦に短い貼付帯が上下に2つ付されている。地文はLR斜行縄文で、貼付帯の周りには縦位の縄文が施されている。11は6と同様で成形時の指の圧力によって貼付帯が片側に大きく歪む。口縁部には先端が固い施文具による刺突文が不規則に施文されている。12a・bは波状口縁の口唇部に指頭押捺と円形刺突文が施文されている。口縁部には波頂部に沿うように2条の沈線と縦・横位の貼付帯が付され、貼付帯上には指頭押捺が連続する。横位の貼付帯下にも平行する沈線が施される。13は2条の沈線とループ状の粘土組貼付けが付される。14は縦に短い貼付帯を付し、その後、櫛歯状沈線が2条口縁に沿って施文される。口唇部には連続する指頭押捺が施され爪痕も残る。15・19は無文のもの。15は胴部に最大径がある深鉢で、底部が張り出し上げ底である。底部の外面には成形時の指頭圧痕が残り凸凹で、胴部内外面にも指頭の痕が目立つ。16～18・21・23～29は地文縄文のもの。23～29は折返し口縁。16は口縁部が斜行縄文、胴部下半は横走縄文である。口縁部には2条の縄線文が横環し、底部は上げ底となる。17は胴部に最大径をもち、口縁部にかけて細くなる。18は器形が細身で、胴部から口縁部にかけて僅かに外頸する。胴部下半は横走気味に施文される。21は口唇部が外方に肥厚する。20・22は地文が燃糸文で22は折返し口縁である。30は頸部がくびれ、口唇部とその下に二つの貼付帯が間隔をあけて付される。貼付帯の両側には沈線が引かれ、縦位の隆帯的な効果としている。口縁部には1条の沈線が横環する。地文は燃糸文で口縁部内面にも燃糸の押捺が施される。31・33は斜行縄文と口縁部に3条の縄線が施される。31の口唇部には指頭押捺によって波状となる。32は地文が燃糸文で口縁部には3条の絡条体圧痕文が施文される。34・35・37は網目状燃糸文。37は絡条体圧痕文が横環し、口唇部に爪痕の残る指頭押捺が連続して施される。36・38～41a・b・42は地文燃糸文。39の胴部下は網目状となる。43・44は斜行縄文に沈線が組み合わされ、口唇部には円形刺突文が施される。45a・bは斜行縄文地に縦・横位の貼付帯を付し、その上に連続する指頭押捺を加え、その後、胴部に幅の狭い弧状沈線を施す。46は無文地で、器面が磨かれ光沢がある。47は口径31.1cm、高さ52cmを測る深鉢で、LR斜行縄文施文後、口縁部に横環する2条の沈線文とその下に弧状沈線文が描かれる。48は口縁部にくびれをもち、胴部が張り出す器形で、底部を欠損する。地文はLR斜行縄文で、口縁部に3個1組の貼付帯が4対付される。貼付帯の間には2条1単位の沈線が2条横環する。

49は斜行または横走気味の縄文が施される深鉢。50は縦位の燃糸文が施文され、口唇部にも燃糸文が口縁に沿うように押捺されている。51は口径7.5cm、高さ11.1cmの小型の深鉢。口縁部に1条の沈線が横環し、その後、網目状沈線文が描かれる。4対の山形突起の下には穿孔が伴う。52は胴部から上位が欠損する。53～59は口縁部に複数の沈線や弧状沈線で構成されるもの。54a・b・cは口縁部に山形突起があり、これに沿うよう口縁部に複数の沈線が施文され、突起部下位で沈線が切り合うように描かれる。口唇部には縄の押捺が施文される。55は口縁部に沿う浅い沈線と、その下位には間隔が狭く深い弧状沈線が施文され、2か所穿孔されている。56は口唇部に、先の細い施文具による刺突文が外面と内面の双方から連続して施文されている。58は口縁部に平行する沈線とその下位に向かい合う弧状沈線が施され、その間を浅い沈線で連結する。59は平行する沈線と蛇行沈線で文様構成されている。

60～112はM5層1回目出土。60a・bは器壁が約1.3cmを測る深鉢で、口縁部には縦割りの竹管状施文具によって描かれた沈線が4条横環する。胴部にはLR斜行縄文が施文される。61は口縁部に貼付帯で装飾し、胴部には平行する沈線を施して隆帯的な効果をなす。貼付帯上と平行沈線の間には棒状施文具による突引文や指頭押捺が加えられる。地文は斜行縄文で、口縁部と口唇部、更に口縁内面には同一原体と思われる縄の圧痕が施文されている。62は口縁部に短い縦位の貼付帯が付され、これを囲むように浅い櫛状の弧状沈線が施文される。63・64・67は口縁部に貼付帯が付されるもの。67の胴部には燃糸文が不整合に施文される。65は無節縄文で斜行または横走ぎみに施文される。66は折返し口縁で横走する燃糸文が施文される。68・69は口縁部に山形突起をもち、胴部には斜行縄文が施される。70は口縁部に貼付帯が付され、胴部には横走縄文が施される。口縁部には成形時の指頭圧痕が目立つ。71a・b・cは口縁部に連続する円形刺突文を施し、斜行または縦位の縄文が施される。72・73は頸部にくびれのある深鉢で、横走縄文が施文される。74・75は斜行縄文で74は折返し口縁。76～85は地文燃糸文に絡糸体圧痕文や沈線文が施されるもの。76・78は口唇部に絡糸体圧痕文が施文される。77・79は口唇部に円形刺突文や燃糸の押捺が施される。80は折返し口縁部に波状沈線が描かれ、口縁部には2条1単位の蛇行沈線が2条横環する。地文は燃糸文。81は縦位の燃糸文施文後に2条1単位の弧状沈線が施文される。82は口縁部に貼付帯を設け折返し状となる。成形時の指頭圧痕が残る。83は小突起の口唇部に指頭押捺を施す。85は地文施文後、垂下する蛇行沈線が施される。

86・87は無文地の深鉢。88は折返し口縁部に沈線を施す。89は口縁部に複数の沈線が施文される。90・91は横や縦位の弧状文に平行沈線が施されるもの。92は頸部がくびれ、胴部が張り出す器形で、弧状線文や渦巻文が描かれる。95は胴部下まで深い縦位の沈線が施文され、底部は張り出す。96・98は口縁部に貼付帯が付されるもの。96は折返しのある波状口縁で指頭圧痕が目立つ。地文はRL斜行縄文で、波頂部下の口縁部に、縦3つの貼付帯が2列1単位で4対付される。98は口縁突起部下位に2個1対の貼付帯が付され、帯の頂部には刺突が付けられる。口縁部には3条の沈線が横走し、地文にはLR斜行縄文が施される。97はLR斜行縄文に垂下する蛇行沈線が描かれ、口唇部は連続する指頭押捺による窪みが施されて波状となる。99は胴部下半に膨らみをもつ深鉢で、口縁部と底部が欠損する。胴部上半から間隔の狭い弧状沈線が横方向に長く蛇行しながら描かれ、胴部下半の地文斜行縄文と区画される。100a・bは折返し口縁に環状の貼付帯や貼付帯、沈線、縄線文が施文される。101は高さ40.6cmを測り、口縁部が僅かに外頭する細身の深鉢。口縁部には2条の絡糸体圧痕文が横環し、胴部上半には燃糸文と細く浅い弧状や平行沈線が施文される。102・104は地文LR斜行縄文。104の口唇部には円形刺突文が施文され、口縁部には縄線文が3条横環する。103・105～107は地文燃糸文のもの。105は壺形で、折返し口縁部にも燃糸が施文され、成形時の指頭圧痕も残る。106は波状口縁で口縁部が外頭する。縦位の燃糸文が胴部下半まで施文される。107は小型の鉢で口縁部が欠損する。底部には網目状沈線が施される。108・109は無文

地に沈線で文様構成されるもの。108は口縁部に2条の平行沈線とその下に深い蛇行沈線が施文される。109は口縁部と胴部を平行沈線で区画し、その間を縦位の短い弧状沈線が横方向に繰り返して施文される。110は推定高43cmを測る深鉢で、口縁部には6対の山形突起をもつ。口縁部には、突起部の間隔に合わせて横方向に長く蛇行する弧状沈線が描かれ、胴部下半には燃糸文が施される。111は山形突起をもち、口唇部が僅かに肥厚する。地文は無文である。112も山形突起をもち、頸部はくびれ口縁が外反し、胴部が丸みを帯びる深鉢。地文はLR斜行縄文で、地文施文後にX字状になるように貼付帯を付して器面を区画し、3条1単位の弧状沈線を口縁部と貼付帯の交差部の周りに描いて文様構成されている。山形突起の頂部と口唇上、更に胴部貼付帯上には連続する指頭押捺が施される。器壁は厚手で、胎土には砂粒を多く含む。

113～163はM5層2回目出土。113はⅢ群a類。粘土紐貼付帯に沿うように馬蹄形縄文圧痕を施し、馬蹄形圧痕の間や貼付帯上に撚りの細かい縄文押捺を施す。114は波状口縁に縦位の貼付帯を付し指頭押捺を加え、口縁部には2条の縄線が横環する。地文斜行縄文である。115は器壁が厚手で砂粒を多く含む胎土で、横位の貼付帯上には縄文が施文される。116・123は折返し口縁と燃糸文が施される。117～122、124～132は地文縄文のもの。118は口縁部に3条の深い沈線が横環する。119は縦位の縄文と口唇部には円形刺突文が施される。120は山形突起のある折返し口縁。121は口唇部に指頭押捺が施される。125・126は横走縄文。126は肥厚する口縁部とこれに沿うように沈線が施される。127は胴部に張出しがあり、頸部がくびれ口縁部が外反する。折返される口縁部には指頭圧痕が目立つ。128は推定高が31cmを測る深鉢で底部を欠損する。口縁部に小型の山形突起を有する。129は口縁部が外傾し、口唇部が外方に肥厚する。折返される口縁部には指頭圧痕が目立つ。130も横走縄文で口縁突起部に粘土塊が貼付けられ、口唇部には指腹や指先による指頭押捺が施される。粘土塊の横には篋状工具による調整痕が残る。131は無節縄文で4つの山形突起を有し、突起下には2個1対の貼付瘤が伴う。133・139は地文燃糸文に貼付瘤が付されるもの。また、口縁部に絡条体圧痕文が施されるものに133～135・137がある。133は地文施文後、縦位に3個2列で1組の貼付瘤を付し、突起頂部に刺突文を加える。口縁部に4条の絡条体圧痕文を施文する。口唇部にかかる突起部上面にも刺突文を施し、平坦な口唇部には同一原体と考えられる燃糸圧痕文が押捺されている。139は縦位に2個1対の貼付瘤を付しその後、口唇部に2～3条の沈線を施文する。口唇部と貼付帯には指頭押捺が施される。134は胴部に膨らみをもち、頸部がくびれ口縁部が外傾する。3条の絡条体圧痕文が横環する。135は山形突起をもつ口縁部に、縦位に短い貼付帯を付し、その後、口縁部に2条の絡条体圧痕文を施す。口唇部にも燃糸圧痕文が施文される。136はループ状の粘土紐貼付帯に指頭押捺で窪みを加え、燃糸の押捺も施す。137は器壁が薄く仕上げられ、口縁部に2条の絡条体圧痕文が施される。138は推定口径33.4cmを測る深鉢で胎土には砂礫を多く含む。地文施文後、口縁部に沈線文を施し、口唇部に指頭押捺を加え口縁部が波状となる。爪痕を残す指頭押捺は、器体の内・外方行から施文されている。140は緩い小波状様の口縁で、口唇部は無文である。頸部は僅かにくびれ、胴部の最大径は口縁部の最大径とほぼ同じである。LR斜行縄文施文後、肩部分に横環する貼付帯を付し、これに直交するように口唇部から胴部にかけて垂下する貼付帯を4か所貼付ける。縦位の貼付帯の先端部にはボタン状の貼付けが伴い、貼付帯上には縄文押捺も施される。口縁部と横位の貼付帯下には突引き気味の短刻線文が廻る。141は口縁の一部から胴部にかけての復元個体。頸部から胴部にかけて緩やかにくびれ、胴部の最大径は口縁部の最大径とほぼ同じである。LR斜行縄文施文後、頸部と胴部に横環する貼付帯を付し、2条1単位と3条1単位の横連弧文が口縁部と胴部に描かれる。その後、口縁部に2条の沈線文、胴部下半に3条の沈線文が廻る。貼付帯上と口唇部上には縄文押捺も施される。砂礫を含む胎土で内外面ともに砂礫の抜け落ちた小孔が多数認められ、内面には縦・横位の条痕が残る。142～145は燃糸文。142は折返し口縁で、口縁部は縦位、胴部は斜方向に施文されている。143は器壁が厚く、地文施文後、深く決る沈線

が横環する。145は口縁部が欠損する深鉢で、概ね縦位に施文されるが、一部斜方向に重ねられる部位がある。146aは横走縄文。146bは斜行や横走気味に施文され、上端には沈線が施文される。147は口縁の山形突起部が肥厚する。148・149・151・153～160は無文地に直線や曲線の沈線が描かれるもの。150・152は地文に懔糸文が施される。148は粘土塊を貼付けた山形突起を有し、口縁部に不鮮明な横走沈線と弧状沈線が描かれる。口縁部は成形時の指頭圧痕が目立つ。149は縦位の浅い沈線施文後、口縁部に沿って3条の沈線が横環する。口唇部上にも沈線が施文される。150は頭部にくびれがあり口縁部が外傾する。口縁部から頭部にかけて4条の横走沈線が施文され、口唇部には円形刺突文が施される。151は口縁部に間隔の狭い弧状沈線文が描かれ、口唇部には懔糸の押捺が施される。152は口縁部に縦・横位の沈線や蛇行沈線、更に3列で1組の刺突列が垂下する。153は折返し口縁で浅く細い弧状沈線が施文される。154は縦割りの半裁竹管状施文具による横走沈線と櫛歯状曲線文で構成される。155は口縁部と胴部に横走沈線を廻らせた文様帯を区画し、その間に3条1単位の縦弧状文と横弧状文が連結し、主文様が廻る。156は粘土塊を貼付けた山形突起を有し、これを起点に3条の弧状沈線が口縁部に施文される。器面は成形時の指頭圧痕により凸凹がある。157は横方向の独立した弧状沈線が口縁部から胴部下半まで施文される。158は推定口径29cm、残存高30.8cmの深鉢。山形突起をもつ折返し口縁で、口縁部から胴部下半まで横位のウロコ状文が施文される。159は口縁部と胴部に横走沈線を廻らせた文様帯を区画し、区画内を鋸歯状文が廻る。160a・bは口縁部にループ状の粘土紐貼付けが付され、膨らみのある胴部には直線や曲線の入組み状沈線文が描かれる。161～163は底部片。162・163の底面は厚く作られる。

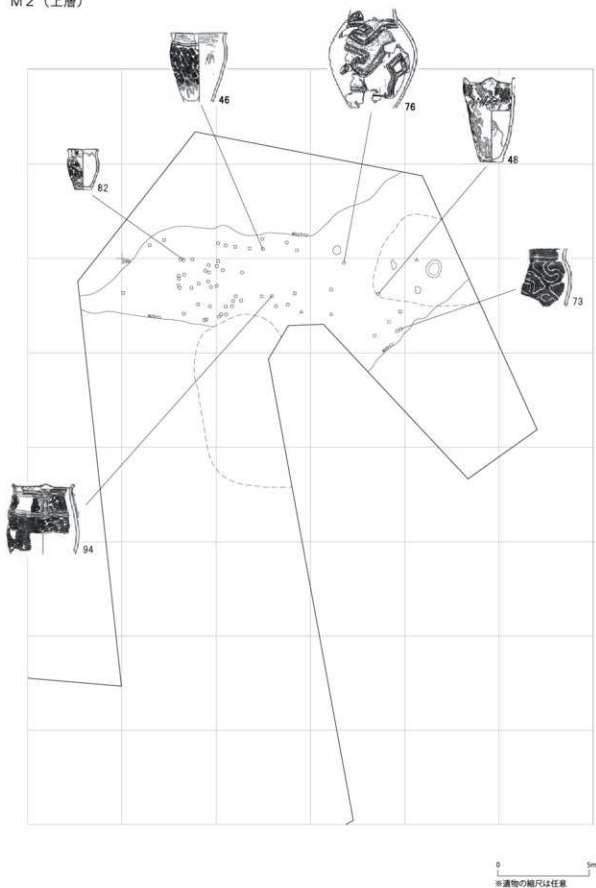
164～195はM5層3回目出土。地文に縄文が施されるものに165～170・172・183～186・188がある。166はRL斜行縄文で口縁上端まで施文され、口唇部には円形刺突文が施される。167は拓影図左側では付加条による施文のように見られるが、右側端は成形時の指頭圧痕により窪みがあるため圧痕が一部不明瞭となる。168は口唇部上面に指頭押捺が施される。指腹押捺と爪跡を残す指先押捺があり、器体の内外方向から交互に施文される。169は地文施文後、交差する貼付帯が付される。170・178・183は無筋縄文。178・183は口唇上部に同一原体の縄文押捺が施される。184は頭部がくびれる浅鉢で口縁部に沈線が横環し、胴部には入組み帯状文が施文される。185は口縁部に3条の横走沈線、内面には縄文押捺が施文される。186は口縁部に3条の櫛歯状沈線が横走する。188も口縁部に3条の横走沈線と胴部に弧状沈線が施文される。地文に懔糸文が施文されるものに171・173～175・177・179～181・195がある。このうち、口縁部に絡条体圧痕文が施文されるものは173～175である。195は口縁部に1条の横走沈線が廻り、その下に斜位や横位の集合沈線が施文され、弧状沈線で地文と区画されている。187・189・190～194は無文地に沈線で構成されるもの。187は横走沈線に蛇行沈線が連結する。189は細く浅い弧状沈線文が施文される。190は胴部が膨らみ口縁部にかけてすばまる器形で、2条1単位で縦・横位の連弧文が施文される。191は口縁部に横長の弧状沈線が上下に施文される。192は口縁部に複数の櫛歯状沈線が横走する。193は口縁部に竹管状施文具による横走沈線と斜行沈線が施文される。194は口縁～胴部にかけて複数の横走沈線が横環し、口唇上には指頭押捺により連続する窪みが付けられ、波状となる。

盛土出土の土製品 (図IV-125-1～11 図版106-1～10)

1は突起状の先端部が欠損し、もう一方の裾がかりとなる側も欠失する。器面には連続する円形刺突文が施され、突起先端部には垂直に穿孔が施される。形状から鐔形土製品の可能性がある。2～5・8も橋状把手の可能性がある。2は僅かに屈曲し、断面形が楕円形となる。3は扁平に仕上げられ、内湾する側に2か所指頭圧痕が残る。4は器面に鋸歯状の絡条体圧痕文が施される。8は断面形が扁平に仕上げられ、2条の沈線文と3条の刺突文が波線状に刻まれる。6は棒状で図の上側には肩状の裏出と山形突起が貼付けられる。突起下には成形時の指頭圧痕が残る。下側の側面には、楕円状の浅い窪みが認められる。土偶の

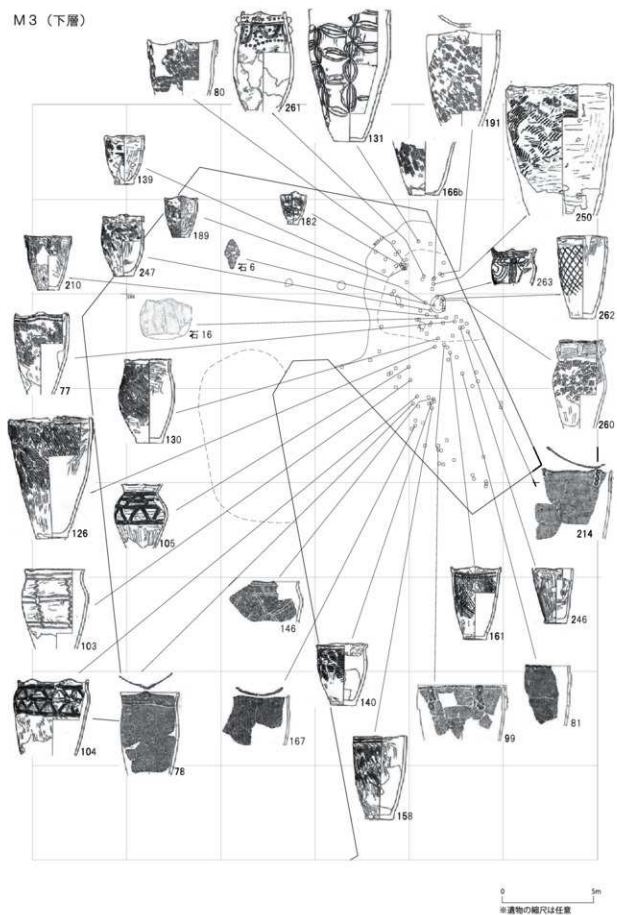
可能性も考えられる。7は鐔形土製品の吊手部と思われ、中空となる鐔身側が欠損する。指で摘み出した頂部には紐通しの貫通孔がある。9はL字に屈曲するもので土偶の一部である可能性が考えられる。10はM5層上面から出土した鐔形土製品。吊手部の上端を欠損する。吊手部の短軸方向には貫通孔が穿れ、鐔身（胴部）は丸みを帯び中空で開口部が内傾する器形である。鐔身の文様は上位が曲線文で描かれ、下位が集合沈線で施文され区画されている。上位の渦巻文は横方向に文様を変化させながら展開し、下位は4～5条の横走沈線と格子状沈線が組み合わせられ構成されている。中空の内面に顕著な焦げや付着物等は見られない。（笠原）

M2 (上層)



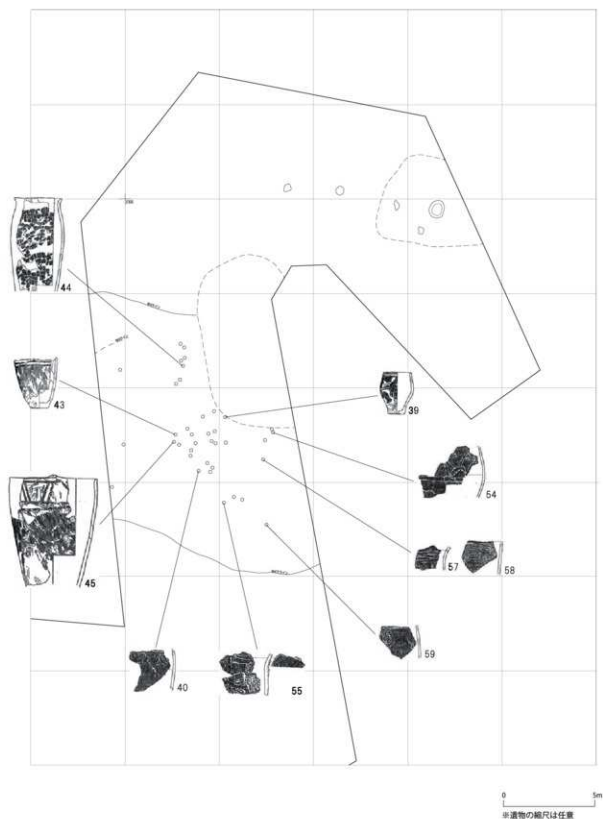
図IV-57 M2層出土地点計測掲載遺物

M3 (下層)



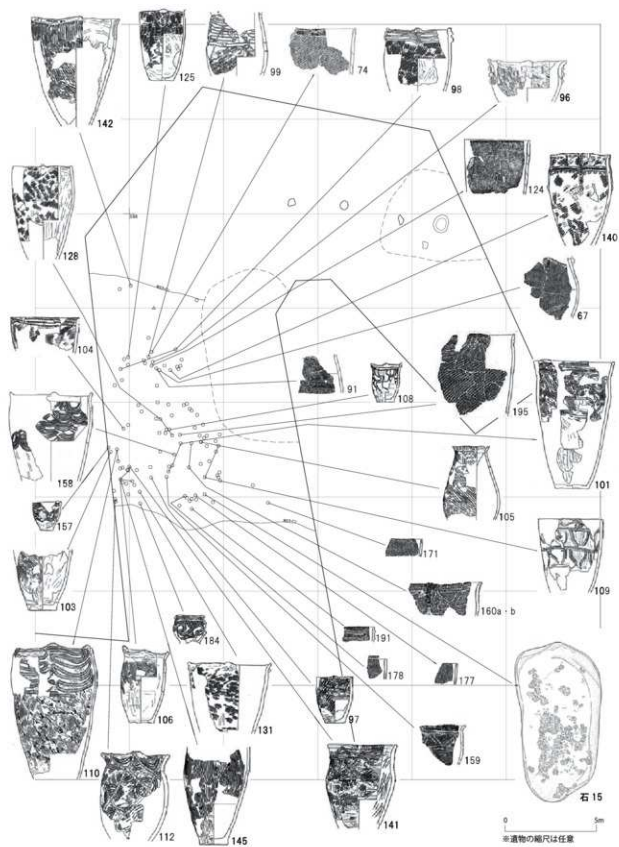
図IV-58 M3層出土地点計測掲載遺物

M4 (上層)



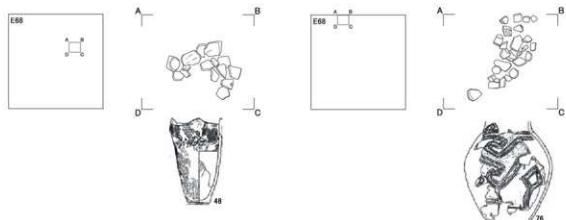
図IV-59 M4層出土地点計測掲載遺物

M5 (下層)

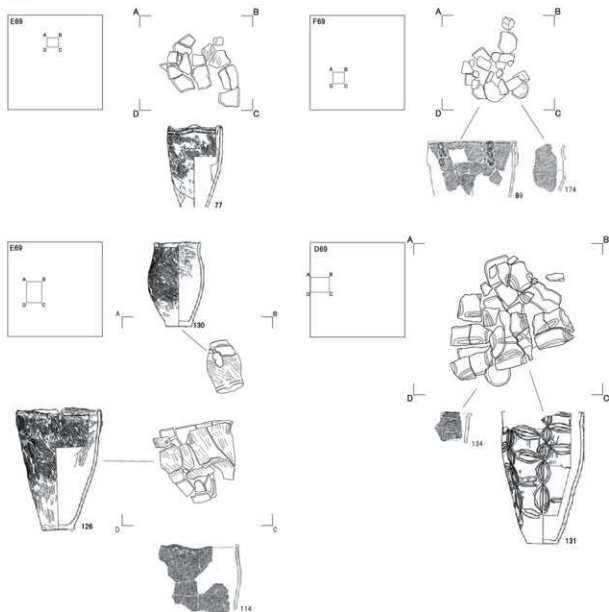


図IV-60 M5層出土地点計測掲載遺物

M2

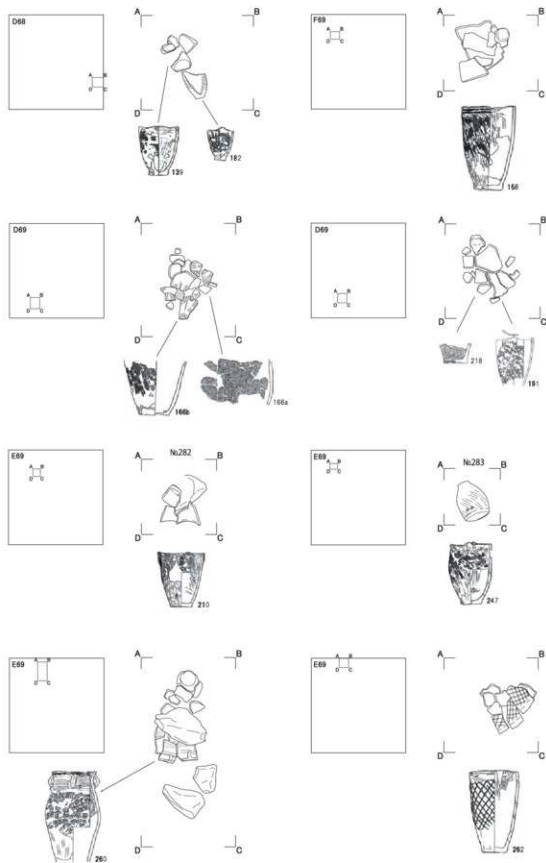


M3



図IV-61 盛土遺物出土状況図(1)

M3



図IV-62 盛土遺物出土状況図(2)

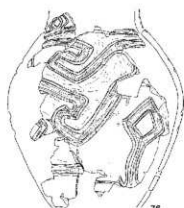
M2層 1回目



30. 998



30. 934



30. 918



30. 802

M2層 2回目



30. 730



30. 660



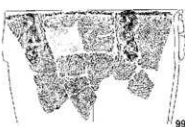
31. 028



30. 953



30. 953



30. 952



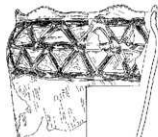
30. 897



30. 849



30. 820



30. 801

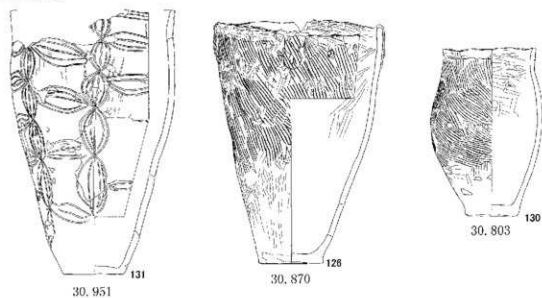


30. 771

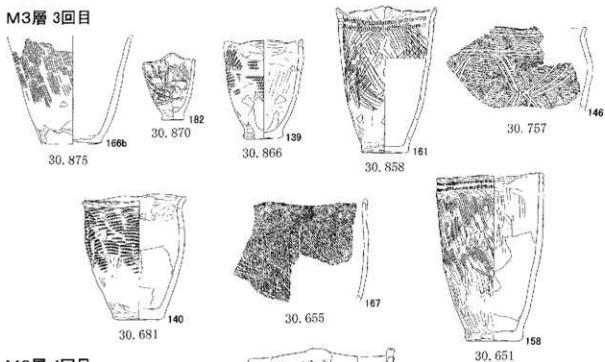
※遺物の縮尺は任意 数値は標高を表す

図IV-63 盛土出土層位別計測遺物 (1)

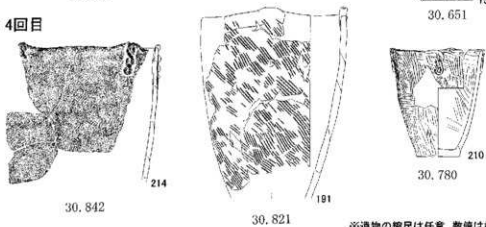
M3層 2回目



M3層 3回目



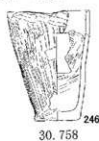
M3層 4回目



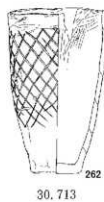
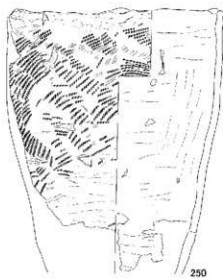
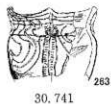
※遺物の縮尺は任意 数値は標高を表す

図IV-64 盛土出土層位別計測遺物(2)

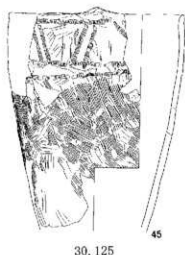
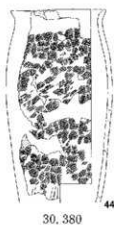
M3層 5回目



M3層 6回目



M4層 1回目



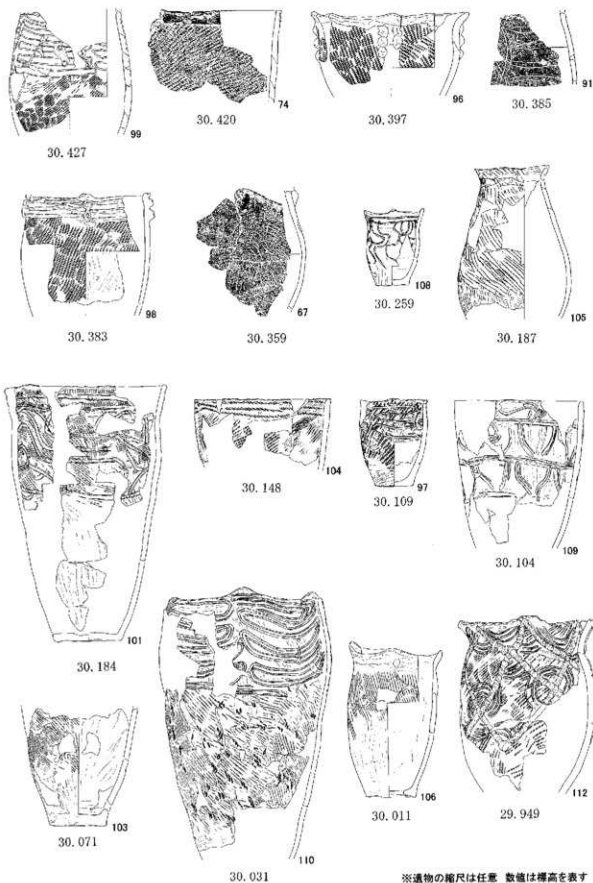
M4層 2回目



※遺物の縮尺は任意 数値は標高を表す

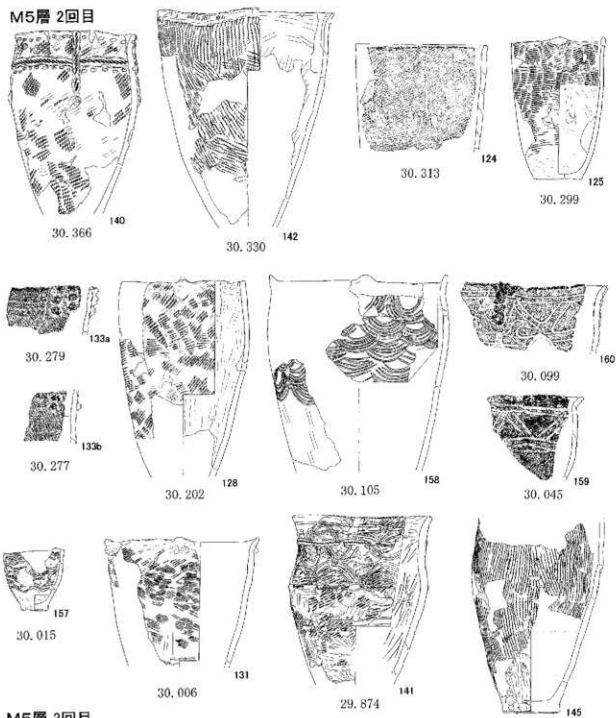
図IV-65 盛土出土層別計測遺物(3)

M5層 1回目

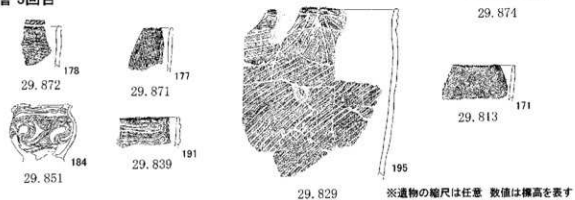


図IV-66 盛土出土層別計測遺物(4)

M5層 2回目



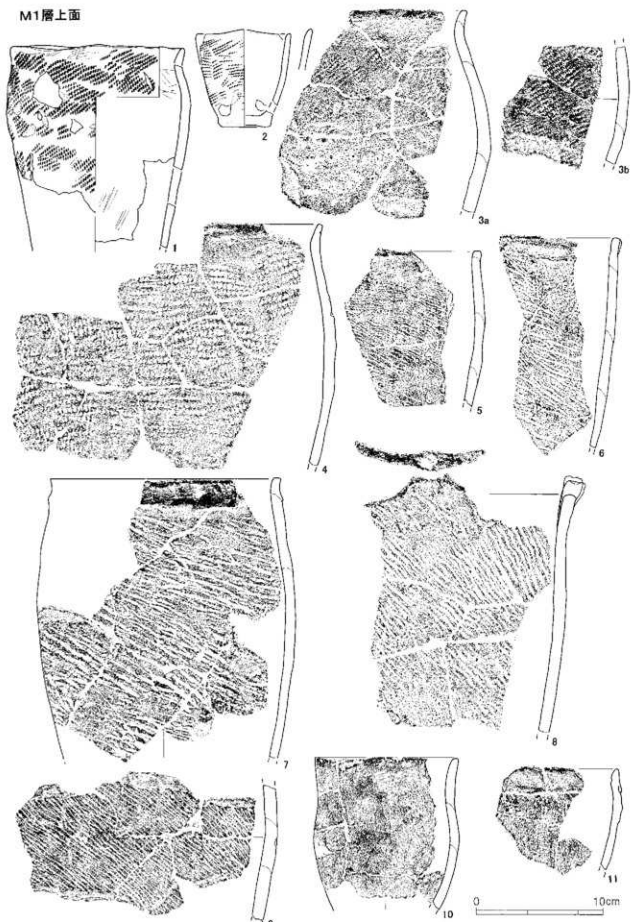
M5層 3回目



※遺物の縮尺は任意 数値は標高を表す

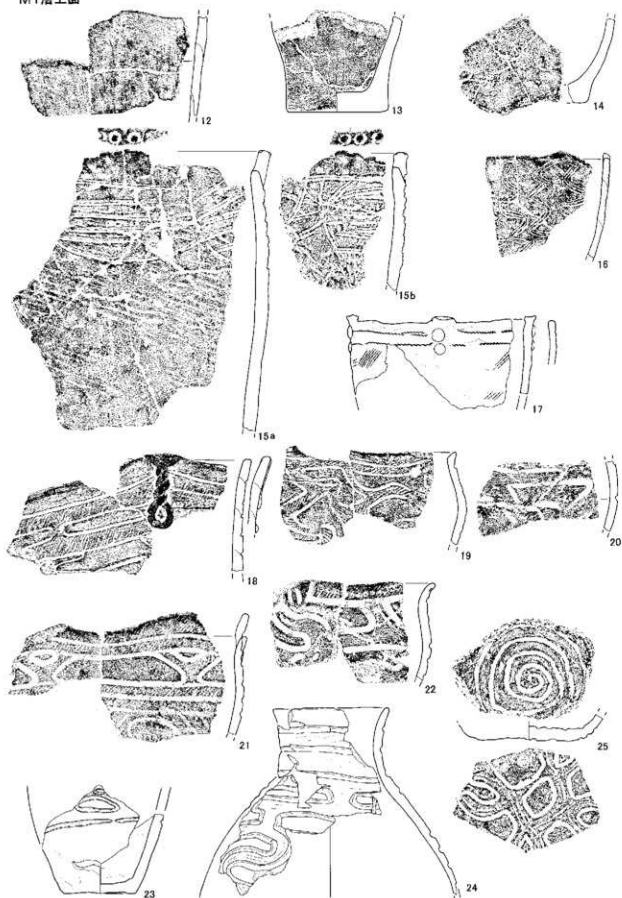
図IV-67 盛土出土層位別計測遺物(5)

M1層上面



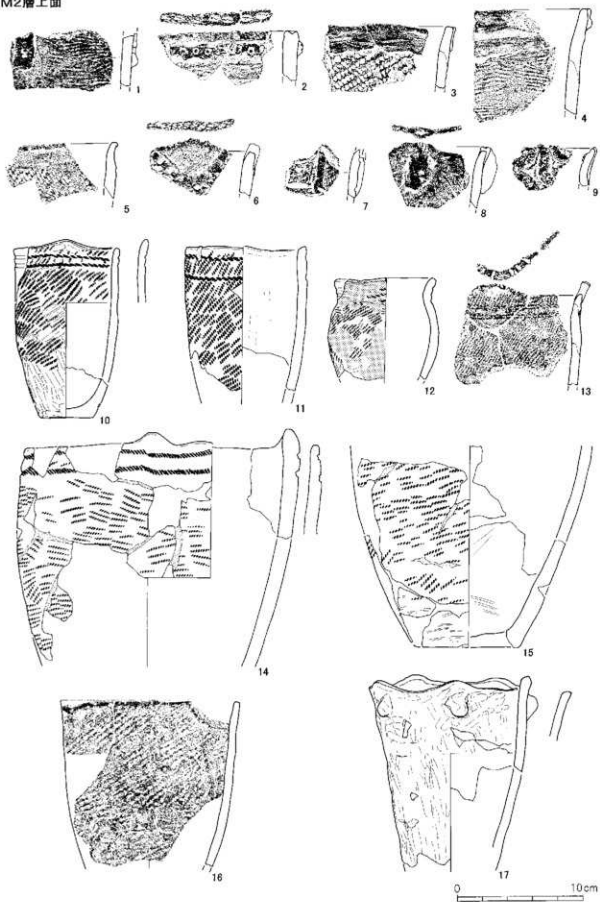
図IV-68 盛土出土の土器 (1)

M1層上面



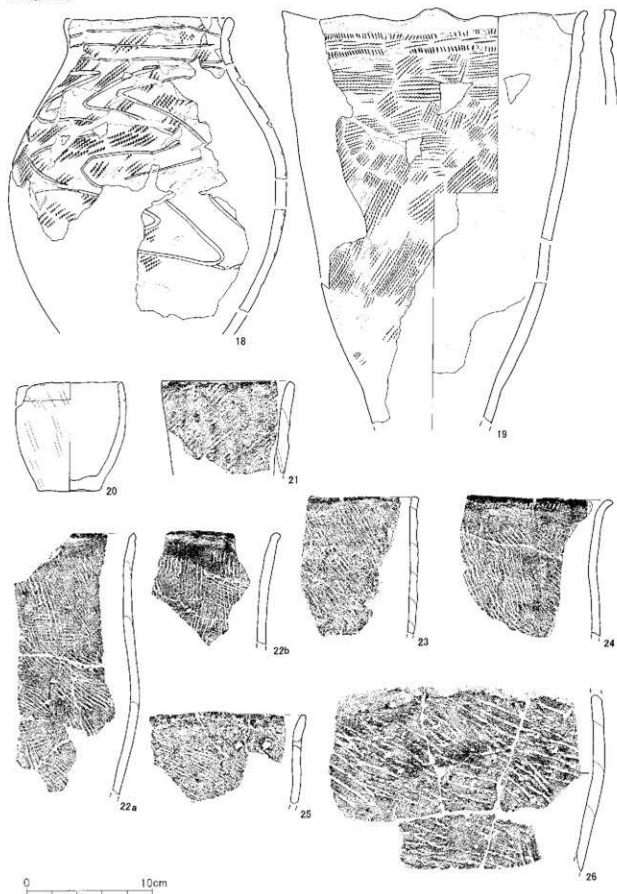
図IV-69 盛土出土の土器(2)

M2層上面



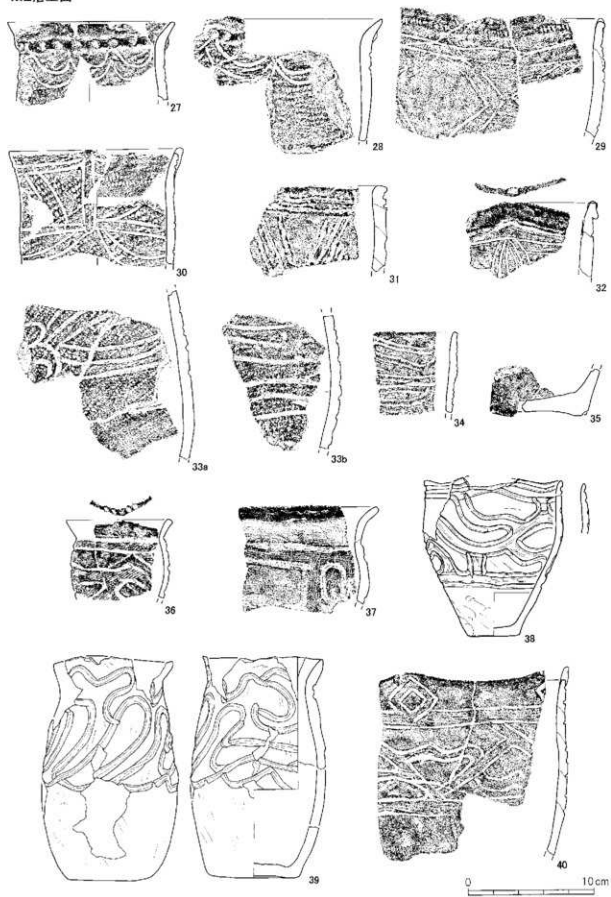
図IV-70 盛土出土の土器 (3)

M2層上面



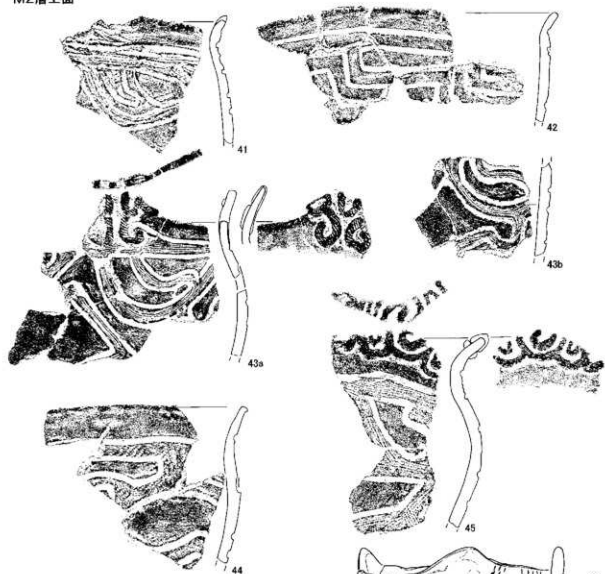
図IV-71 盛土出土の土器(4)

M2層上面

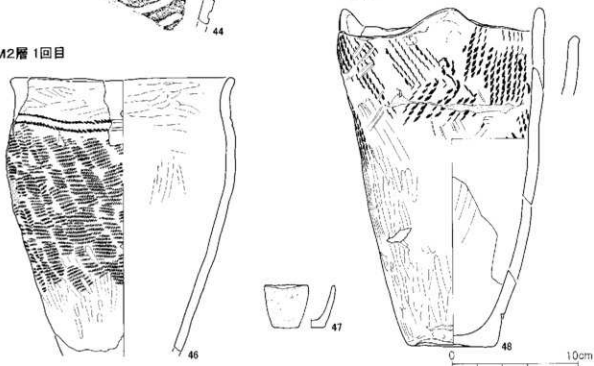


図IV-72 盛土出土の土器 (5)

M2層上面

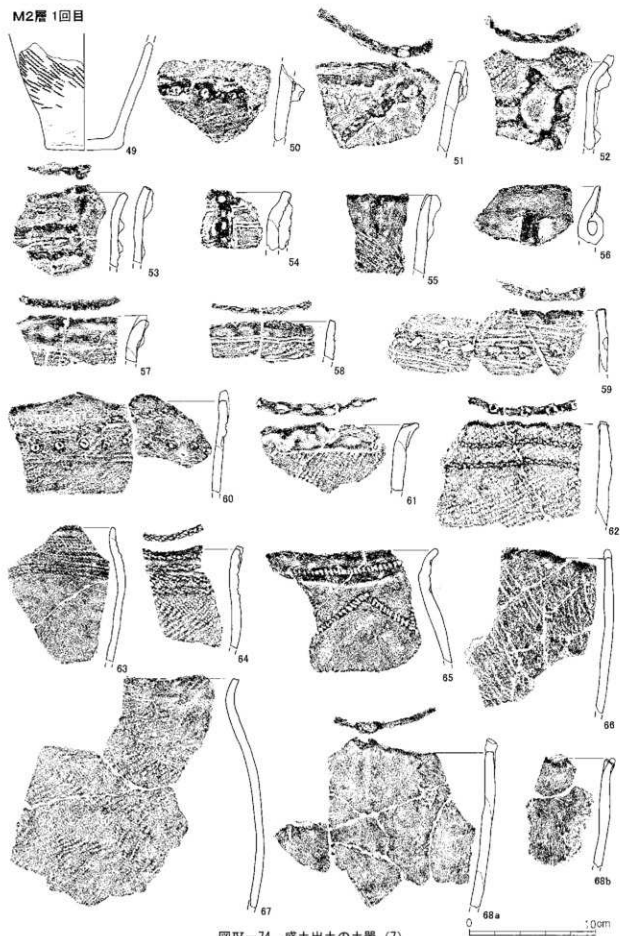


M2層 1回目



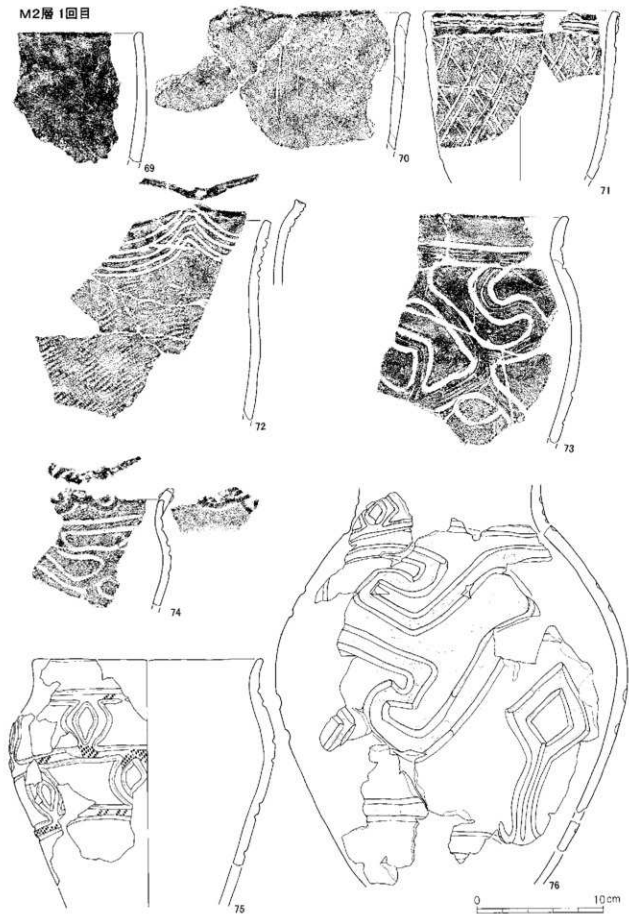
図IV-73 盛土出土の土器 (6)

M2層 1回目



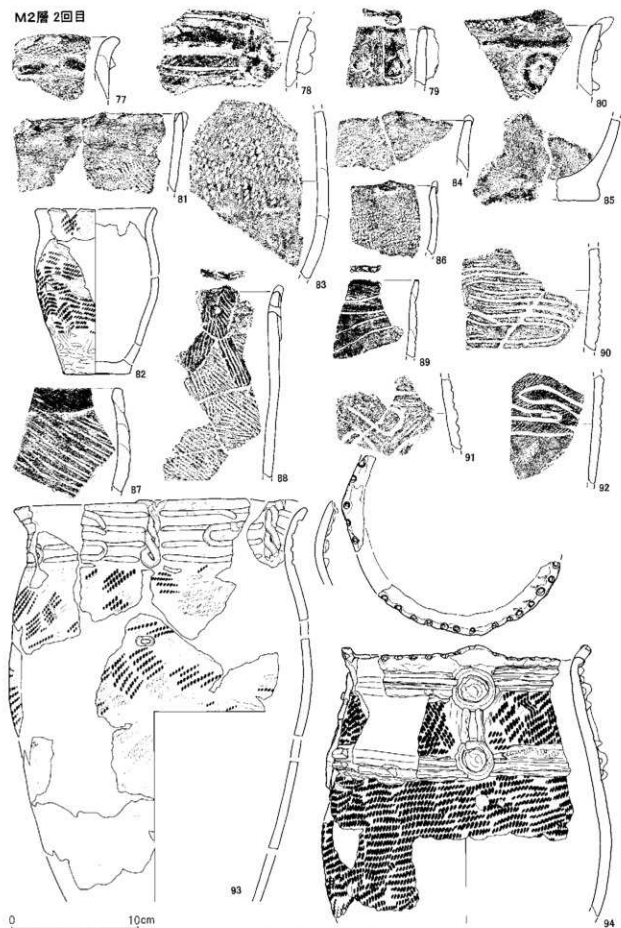
図IV-74 盛土出土の土器 (7)

M2層 1回目



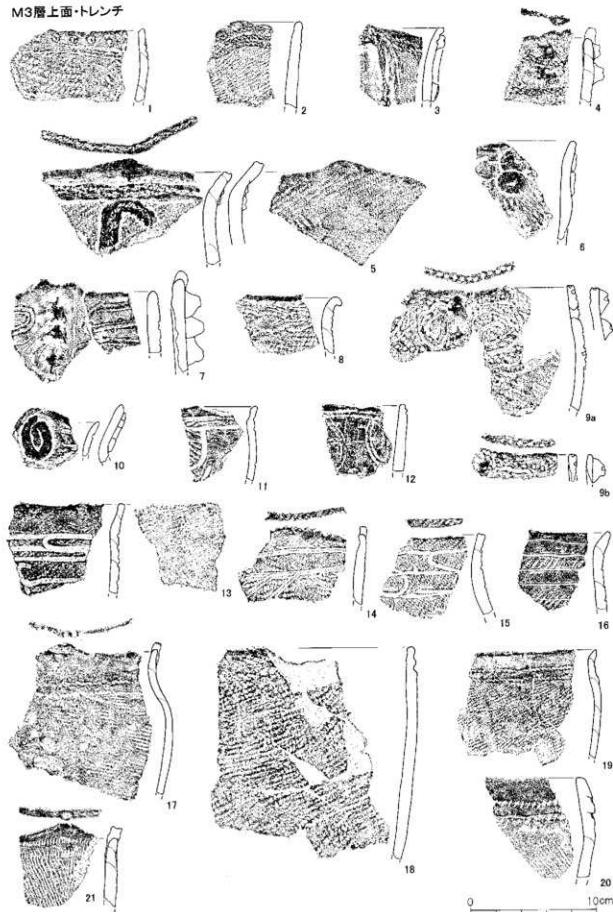
図IV-75 盛土出土の土器(8)

M2層 2回目



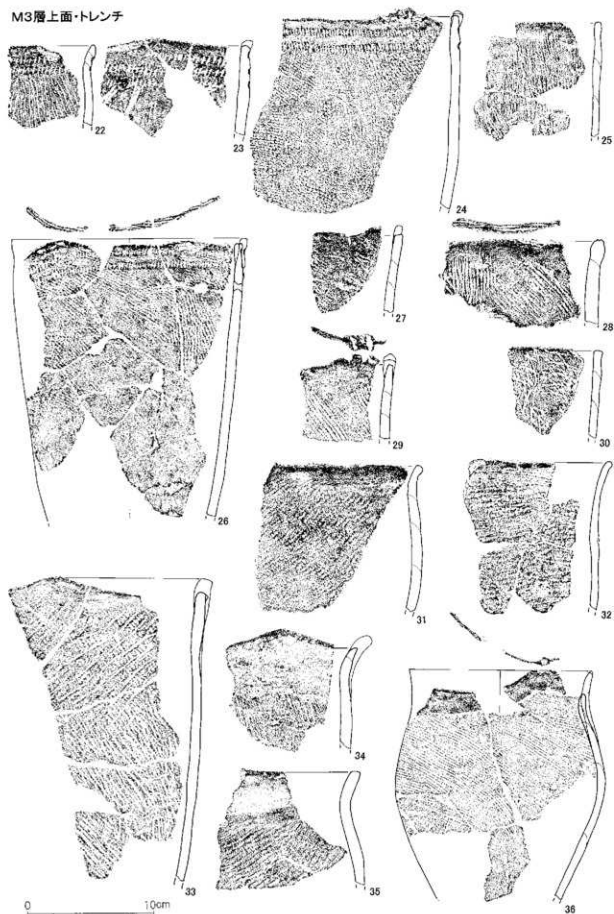
図IV-76 盛土出土の土器 (9)

M3層上面・トレンチ



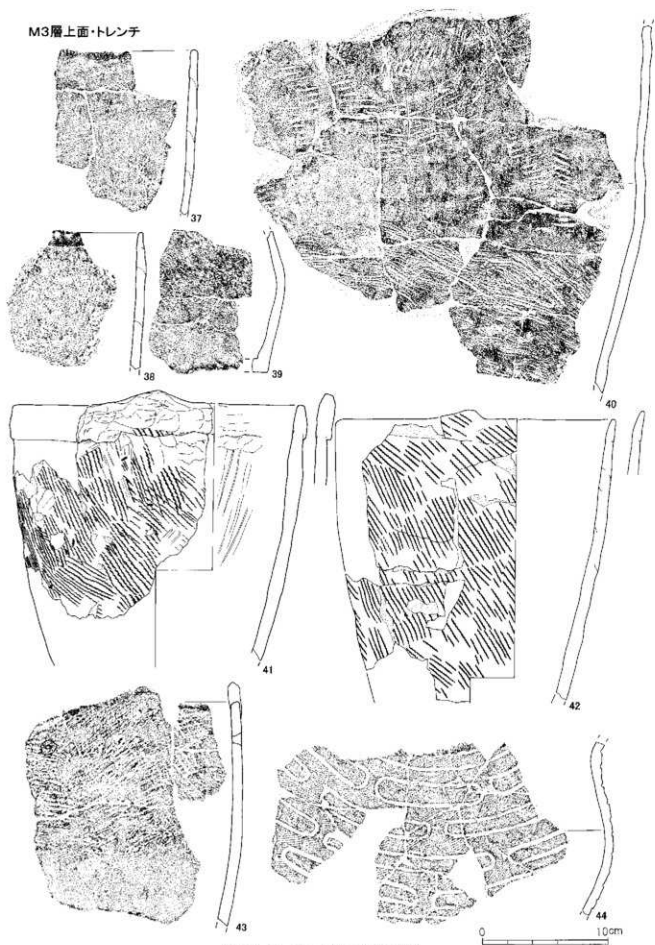
図IV-77 盛土出土の土器 (10)

M3層上面・トレンチ



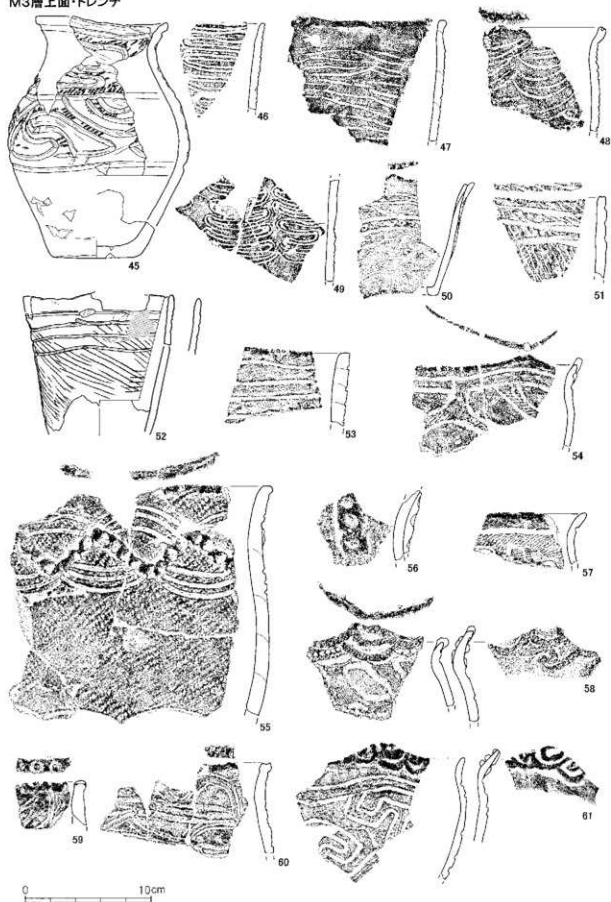
図IV-78 盛土出土の土器 (11)

M3層上面・トレンチ



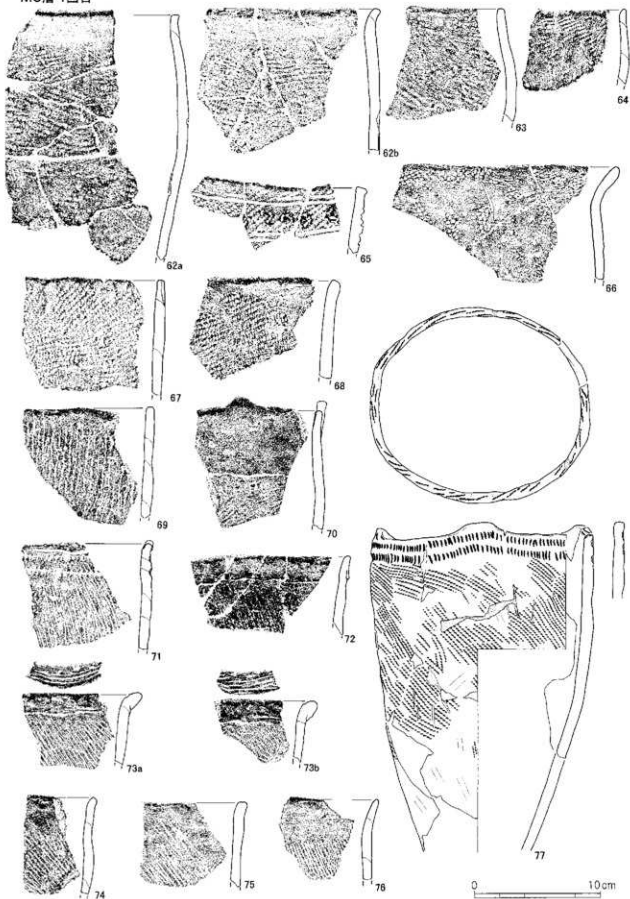
図IV-79 盛土出土の土器 (12)

M3層上面・トレンチ



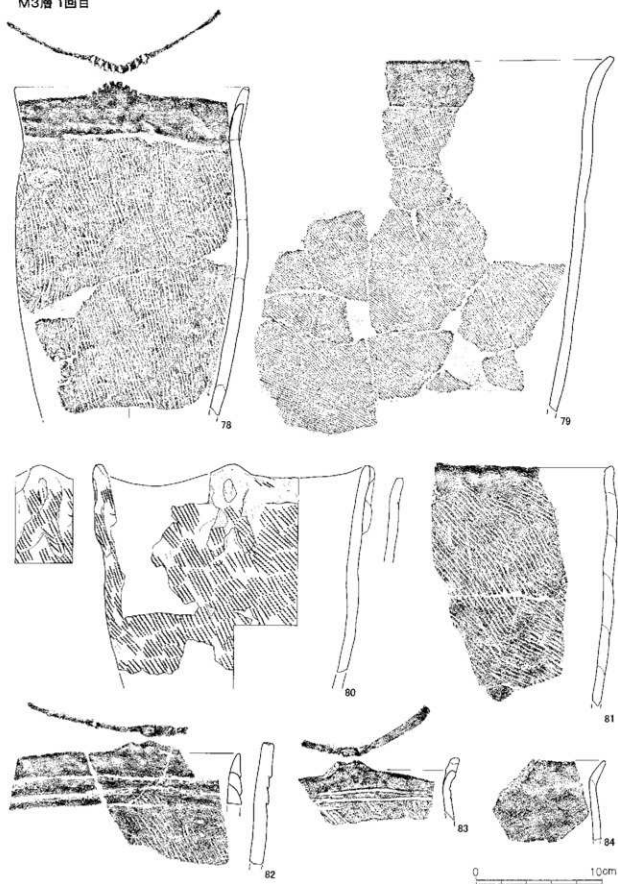
図IV-80 盛土出土の土器 (13)

M3層 1回目



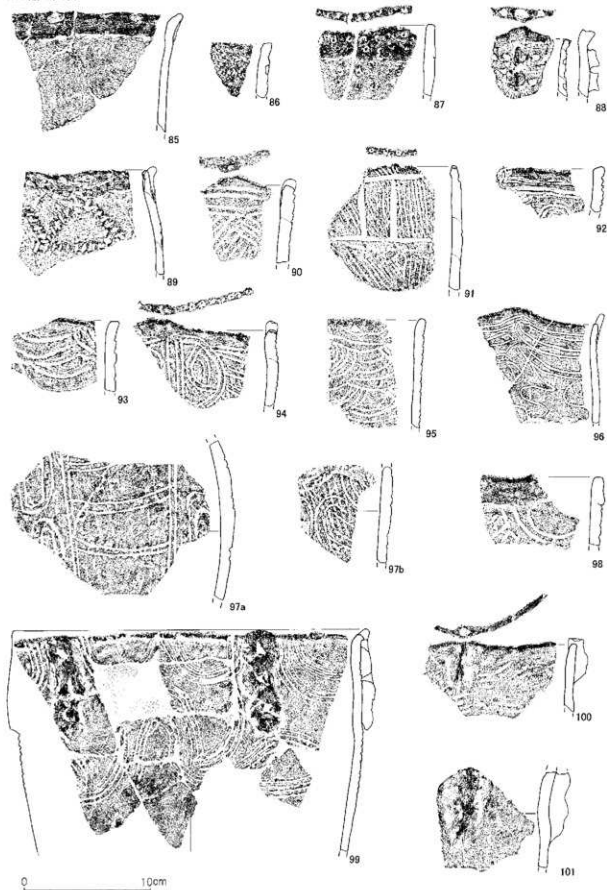
図IV-81 盛土出土の土器 (14)

M3層 1回目



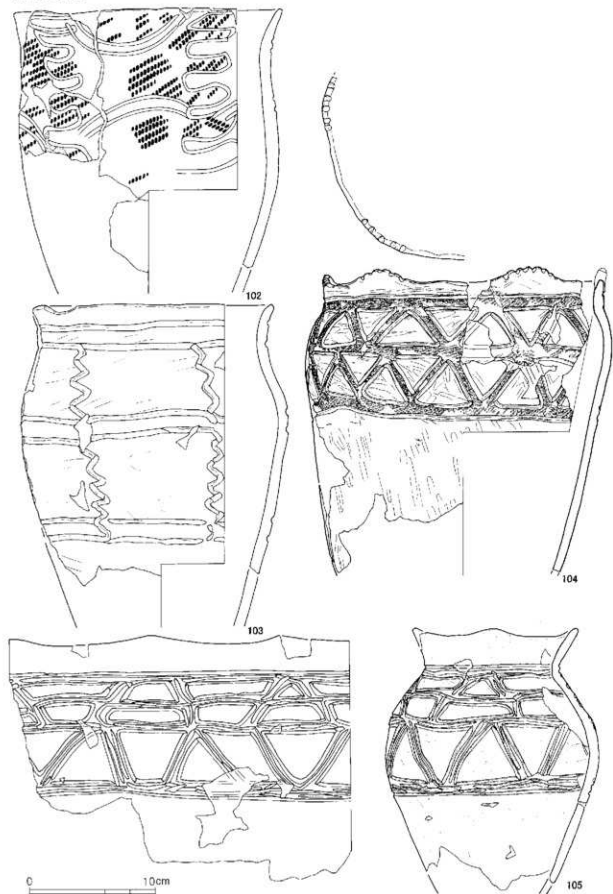
図IV-82 盛土出土の土器 (15)

M3層 1回目



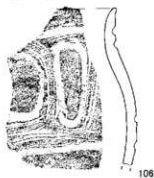
図IV-83 盛土出土の土器 (16)

M3層 1回目



図IV-84 盛土出土の土器 (17)

M3層 1回目



106



107



108

M3層 2回目



109



110



111



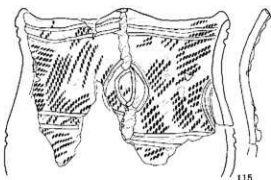
112



113



114



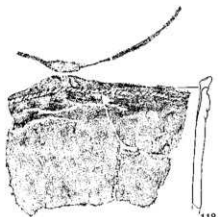
115



116



117



118



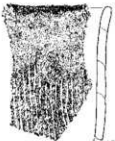
119



120



121

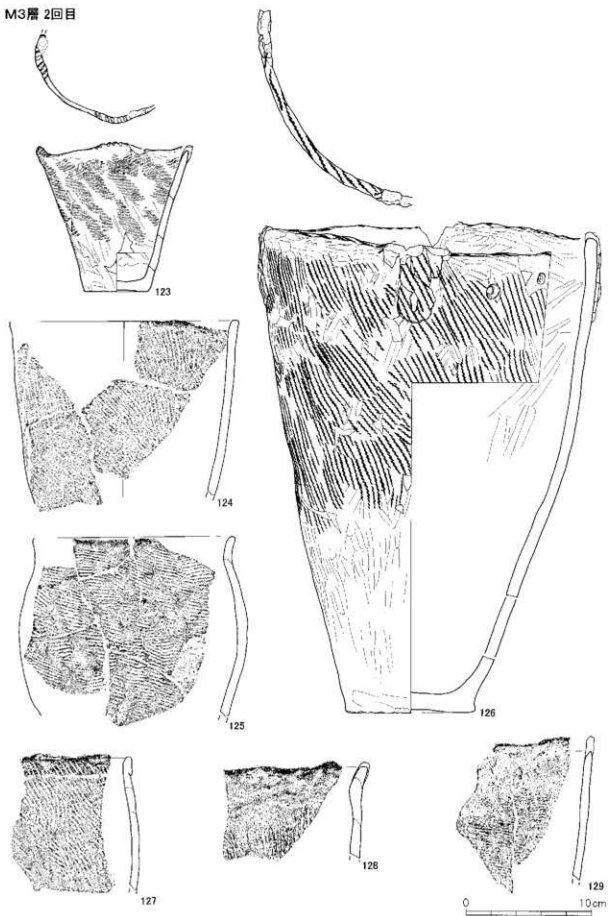


122

0 10cm

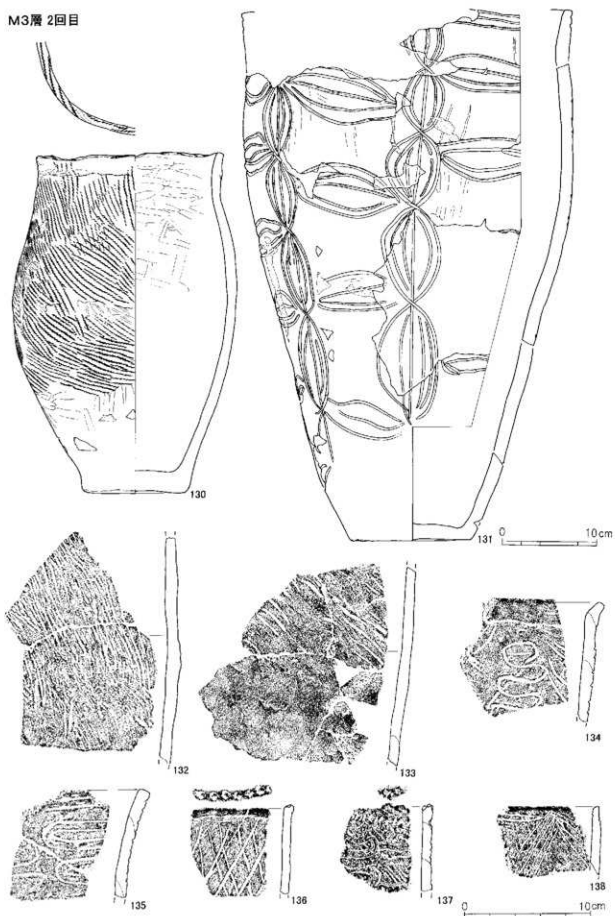
図IV-85 盛土出土の土器 (18)

M3層 2回目



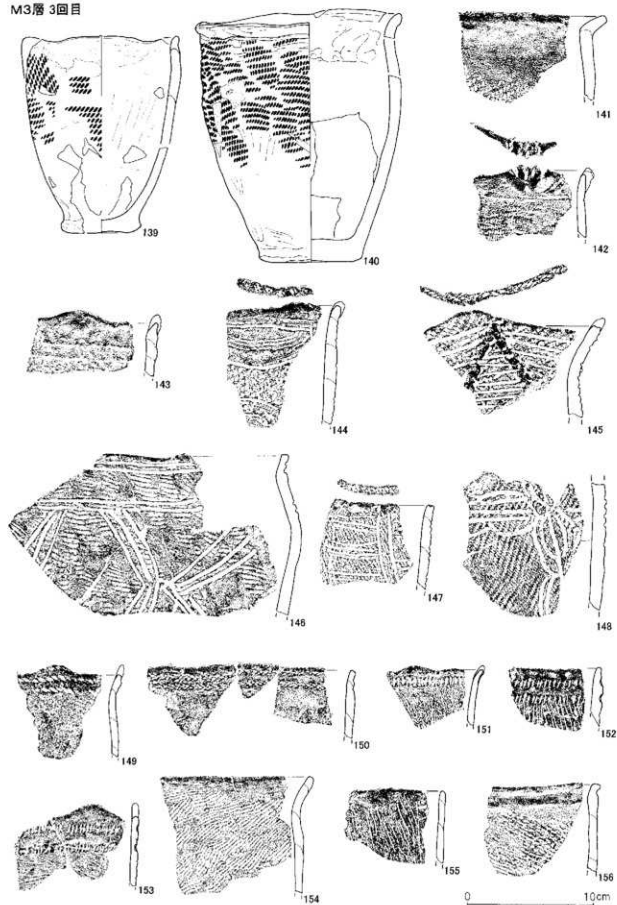
図IV-86 盛土出土の土器 (19)

M3層 2回目



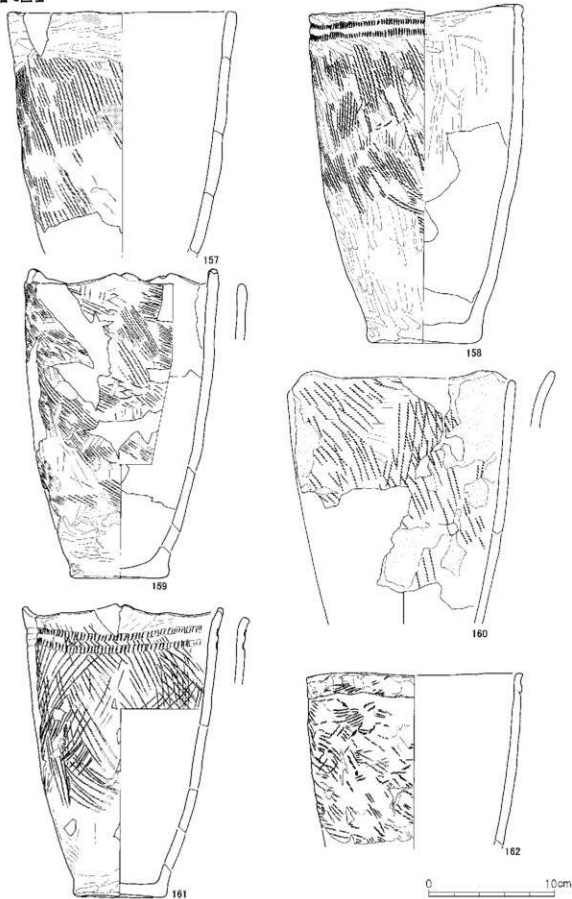
図IV-87 盛土出土の土器 (20)

M3層 3回目



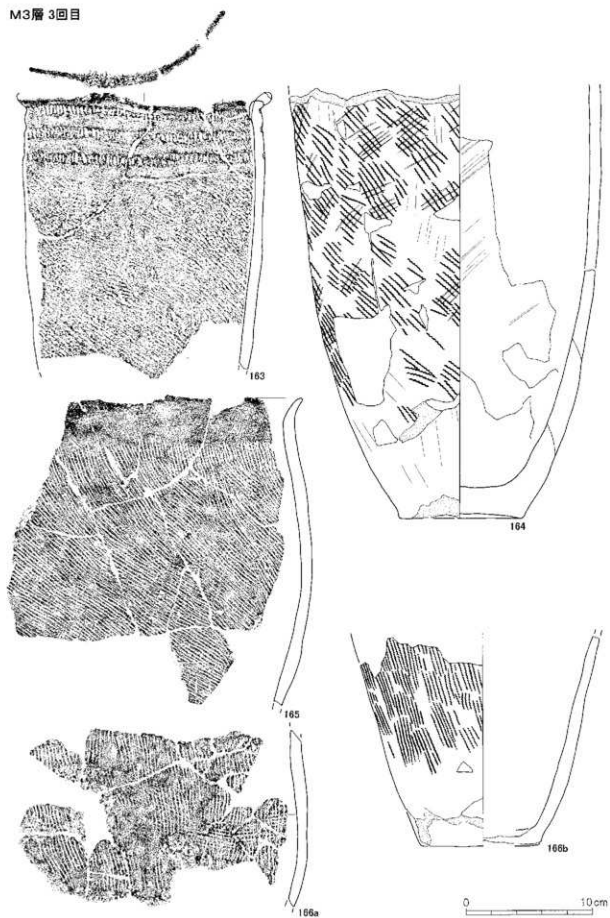
図IV-88 盛土出土の土器 (21)

M3層 3回目



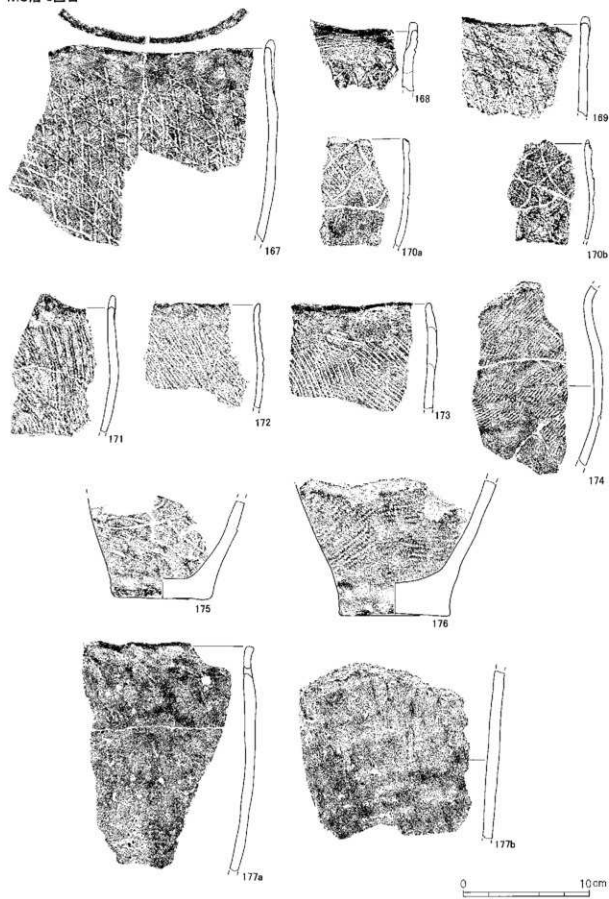
図IV-89 盛土出土の土器 (22)

M3層 3回目



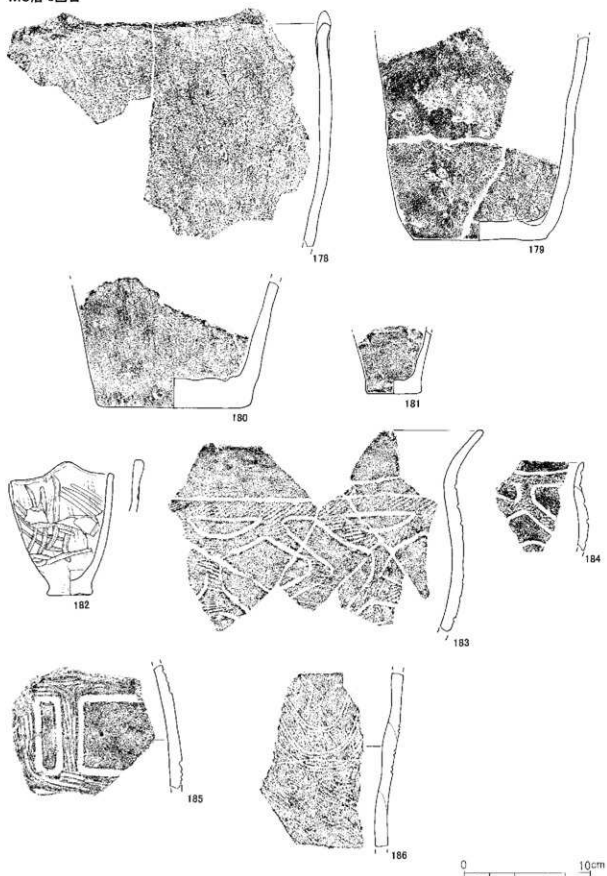
図IV-90 盛土出土の土器 (23)

M3層 3回目



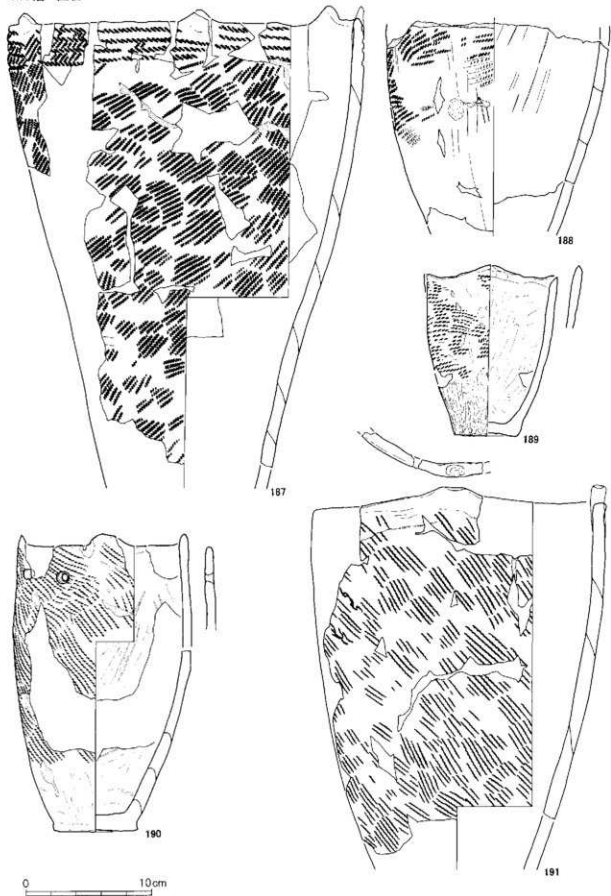
図IV-91 盛土出土の土器 (24)

M3層 3回目



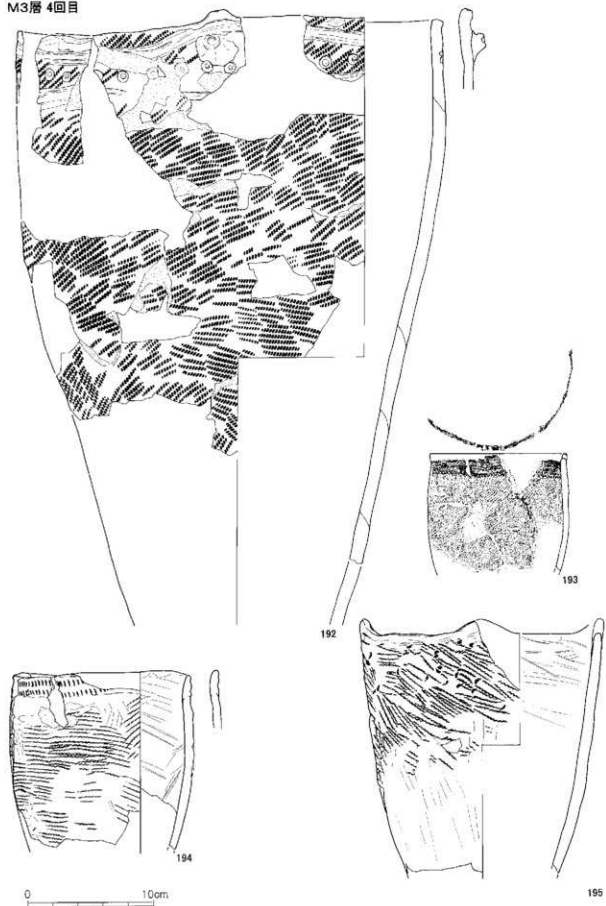
図IV-92 盛土出土の土器 (25)

M3層 4回目



図IV-93 盛土出土の土器 (26)

M3層 4回目



図IV-94 盛土出土の土器 (27)

M3層 4回目



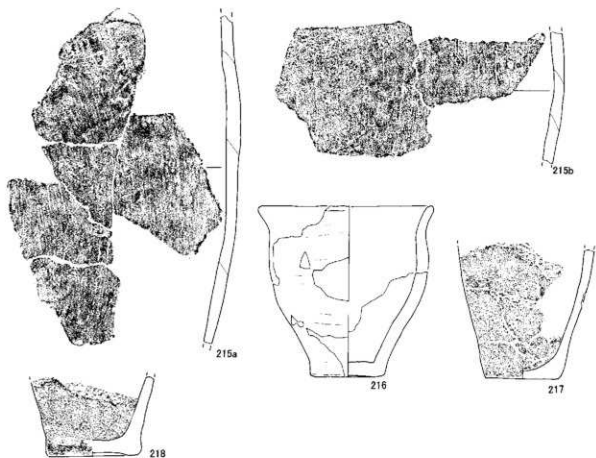
図IV-95 盛土出土の土器 (28)

M3層 4回目

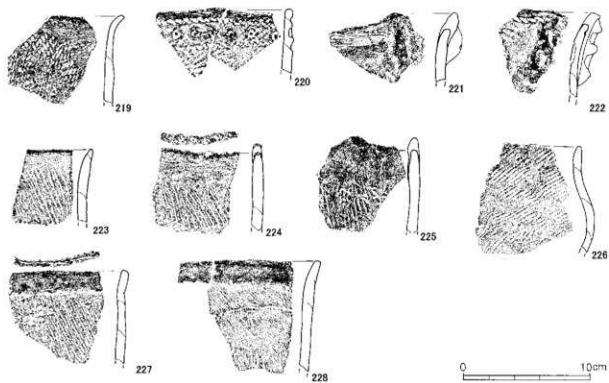


図IV-96 盛土出土の土器 (29)

M3層 4回目

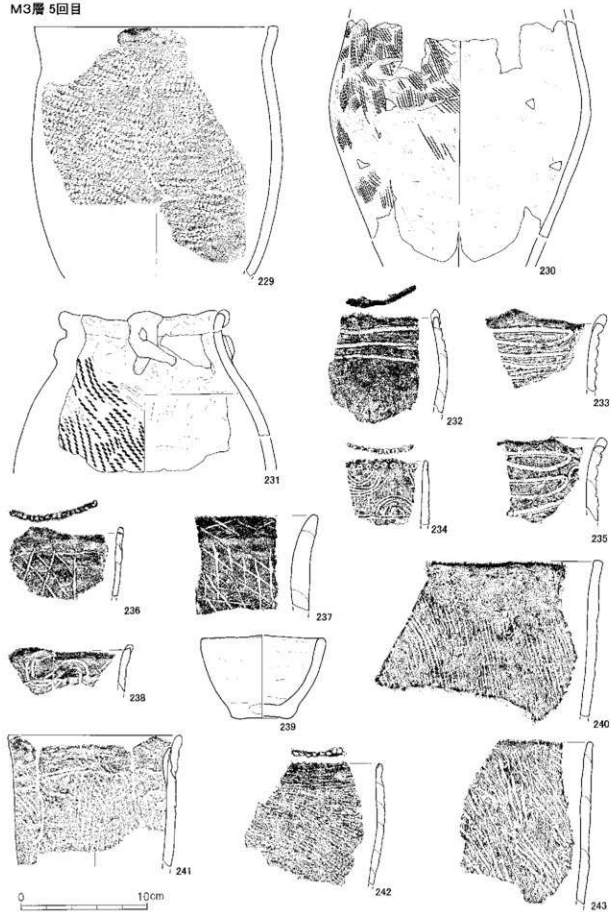


M3層 5回目



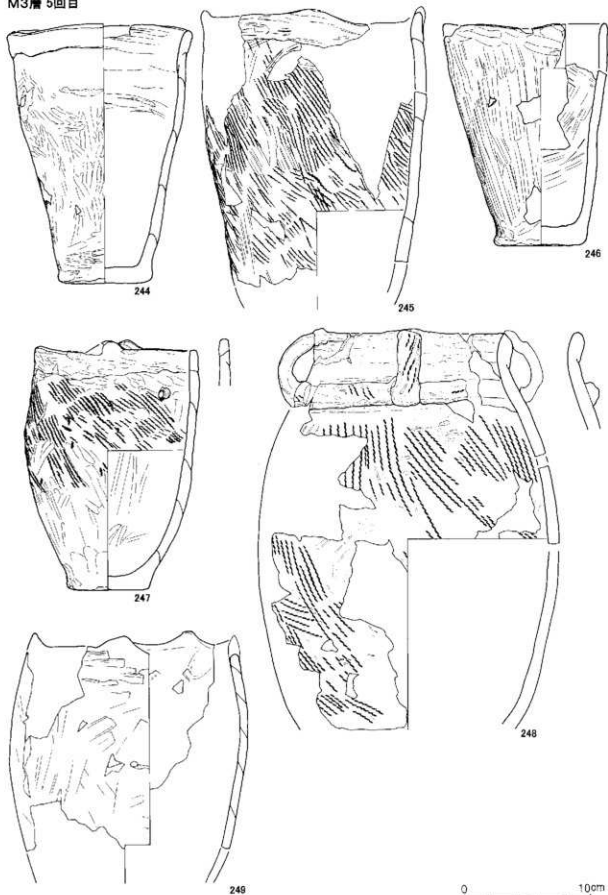
図IV-97 盛土出土の土器 (30)

M3層 5回目



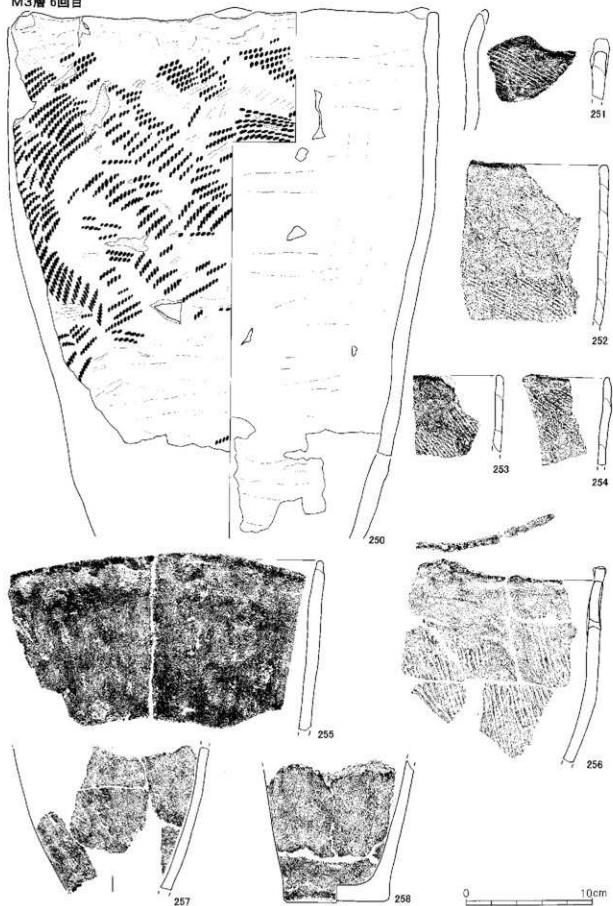
図IV-98 盛土出土の土器 (31)

M3層 5回目



図IV-99 盛土出土の土器 (32)

M3層 6回目



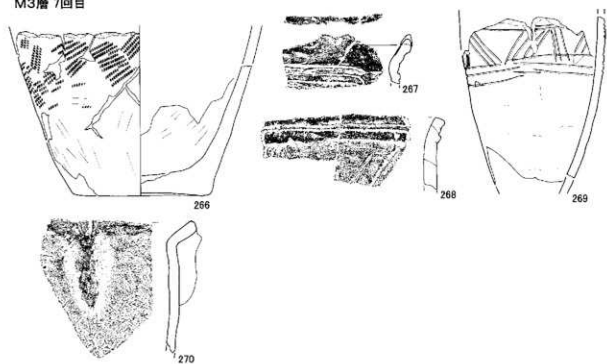
図IV-100 盛土出土の土器(33)

M3層 6回目

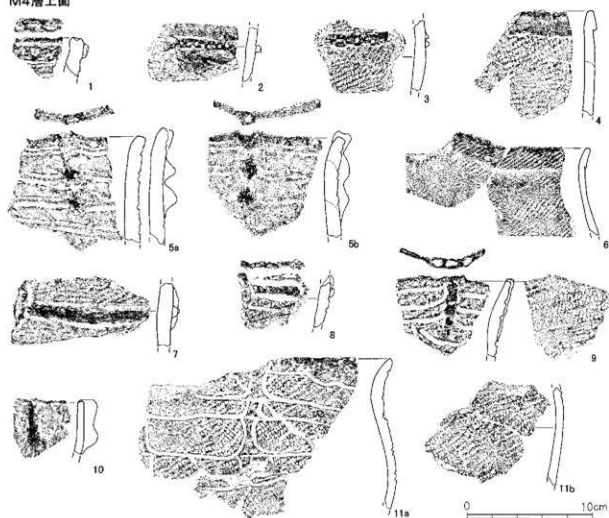


図IV-101 盛土出土の土器 (34)

M3層 7回目

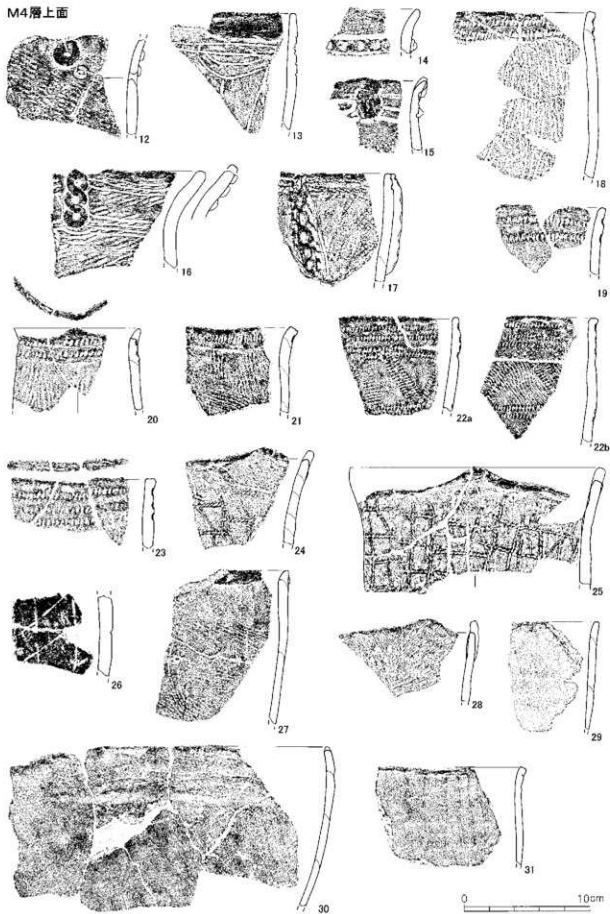


M4層上面



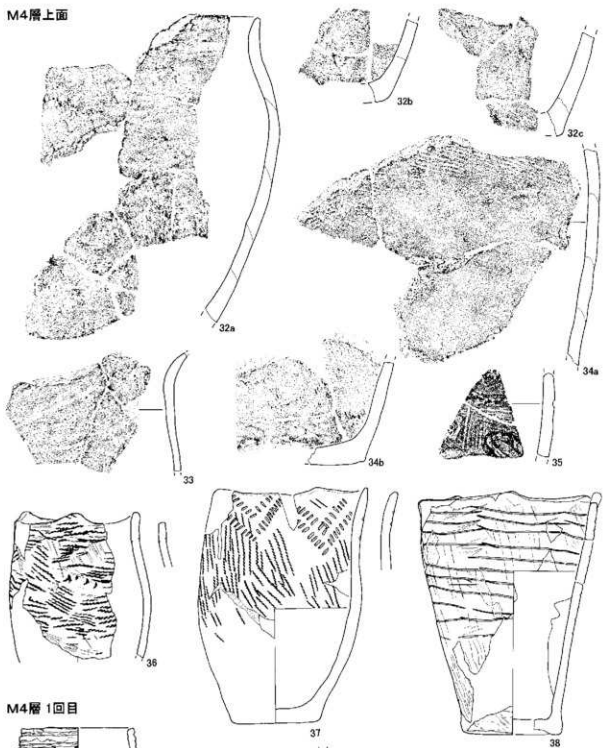
図IV-102 盛土出土の土器 (35)

M4層上面

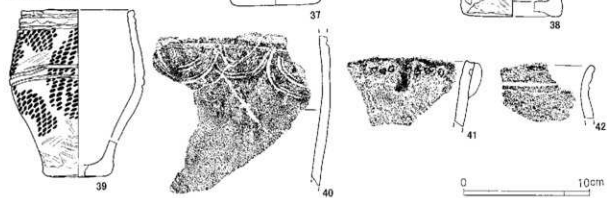


図IV-103 盛土出土の土器 (36)

M4層上面



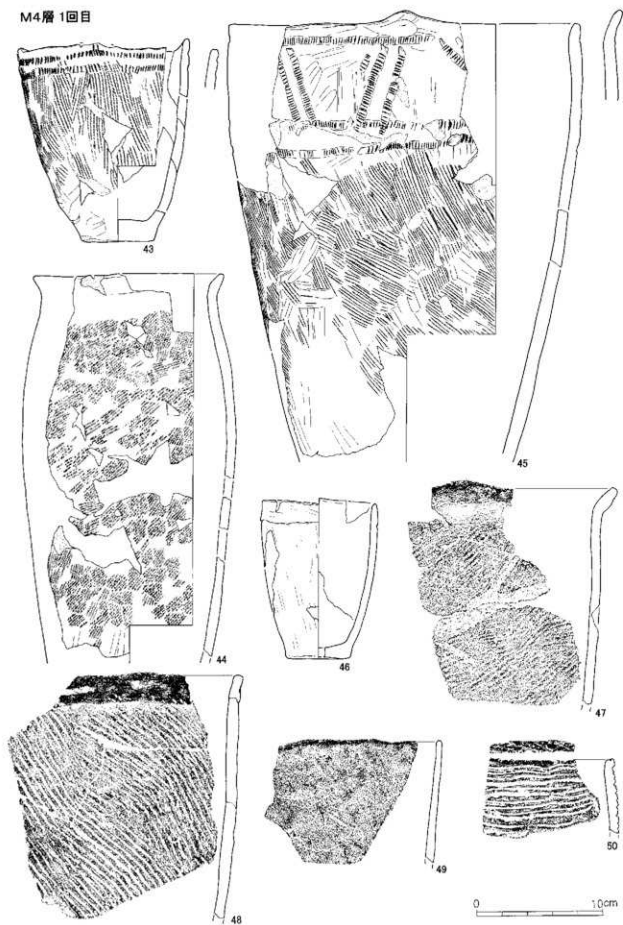
M4層 1回目



0 10cm

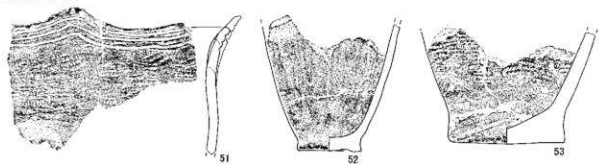
図IV-104 盛土出土の土器 (37)

M4層 1回目

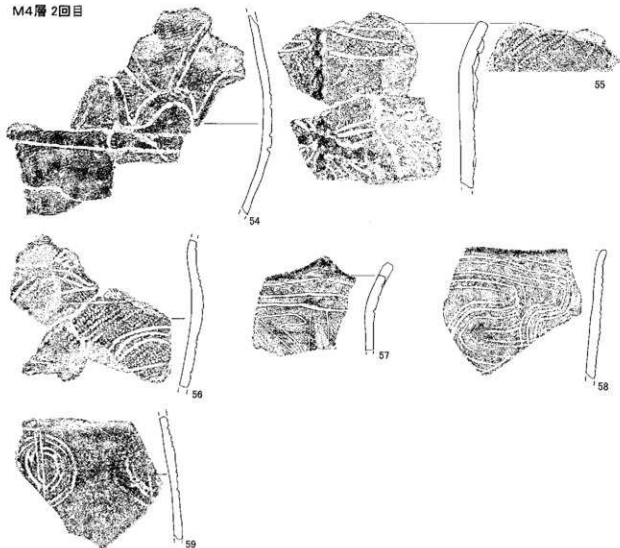


図IV-105 盛土出土の土器 (38)

M4層 1回目



M4層 2回目

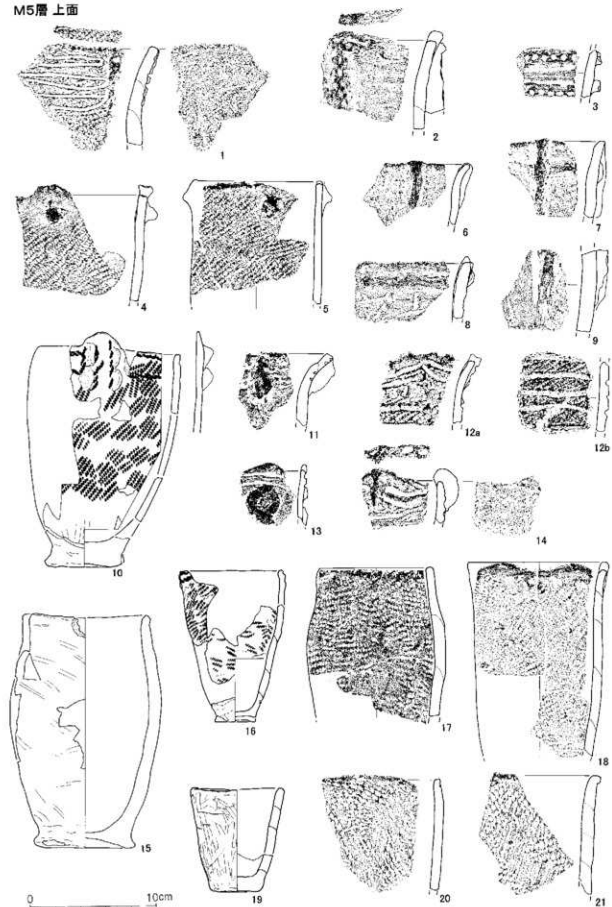


M4層 3回目



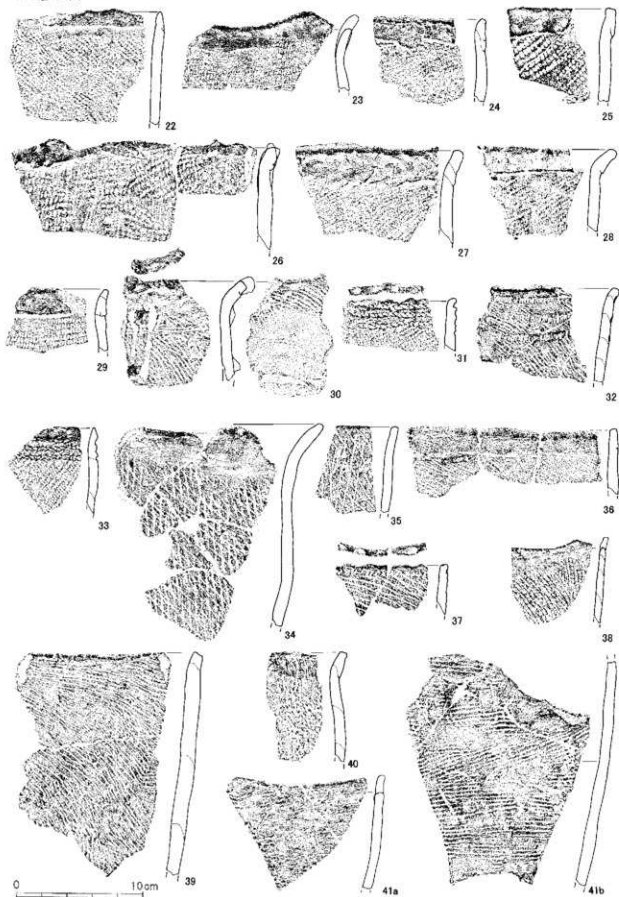
図IV-106 盛土出土の土器 (39)

M5層 上面



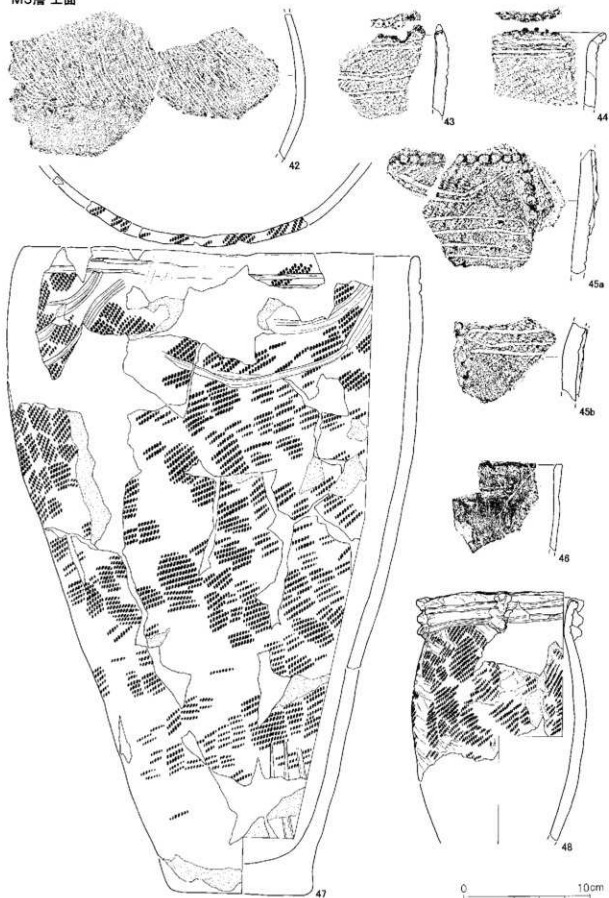
図IV-107 盛土出土の土器 (40)

M5層 上面



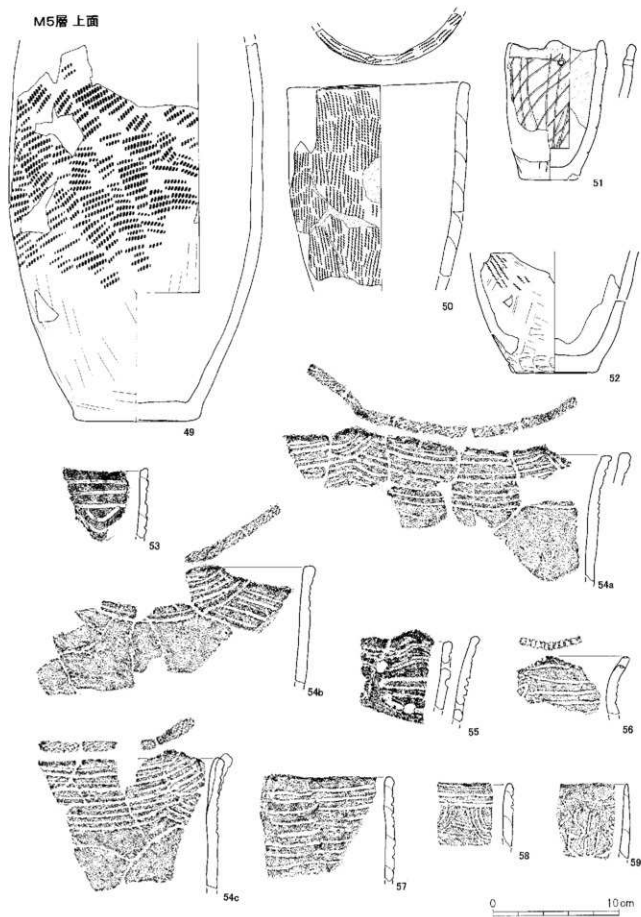
図IV-108 盛土出土の土器(41)

M5層 上面



図IV-109 盛土出土の土器 (42)

M5層 上面



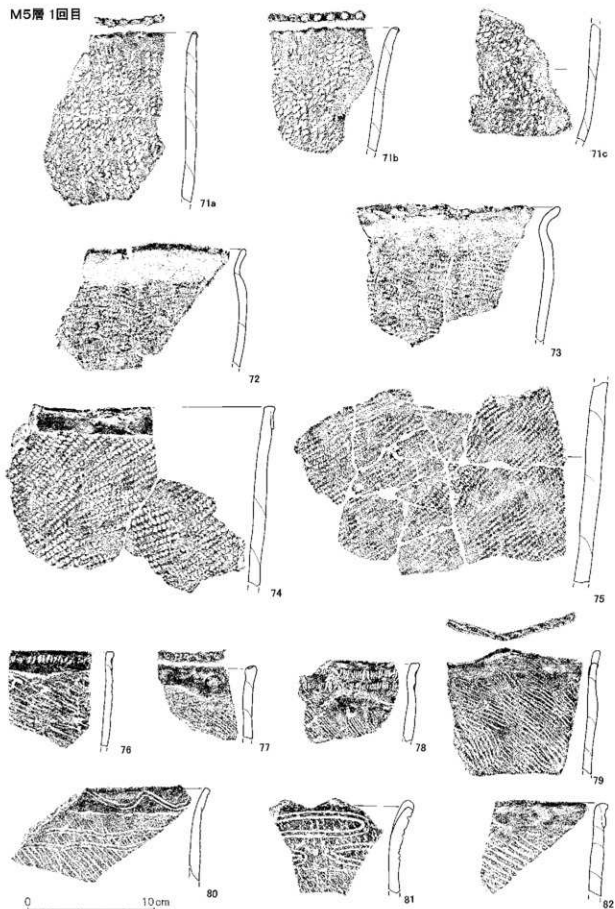
図Ⅳ-110 盛土出土の土器 (43)

M5層 1回目



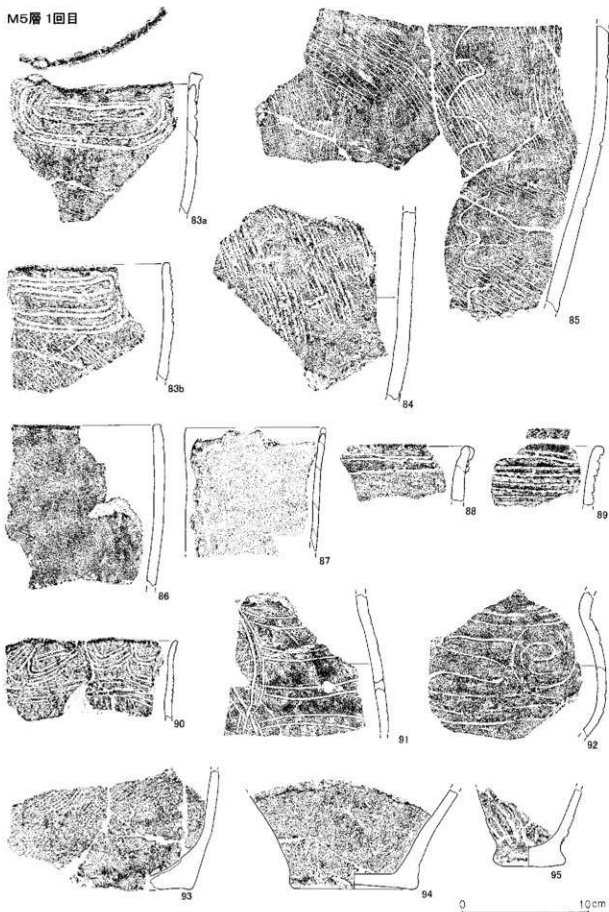
図IV-111 盛土出土の土器 (44)

M5層 1回目



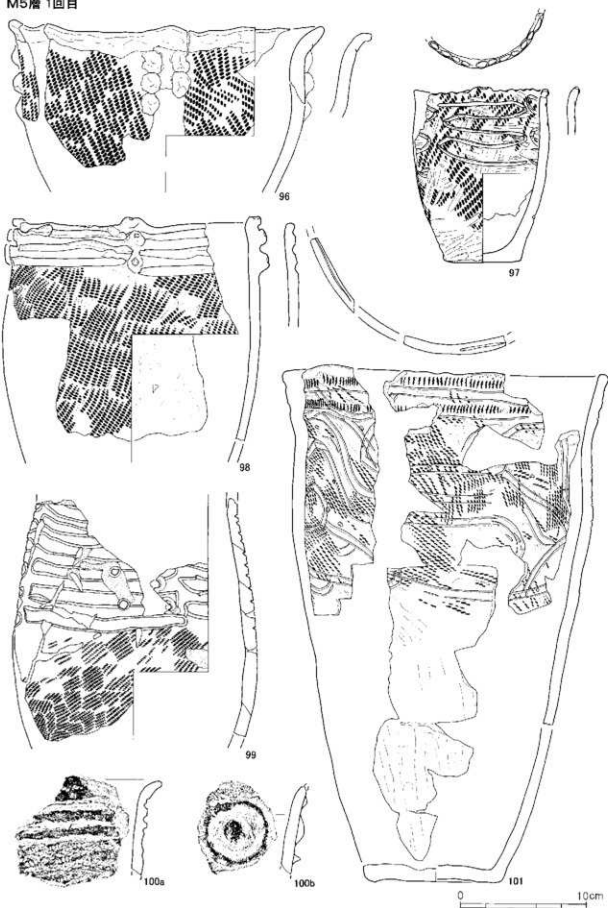
図IV-112 盛土出土の土器 (45)

M5層 1回目



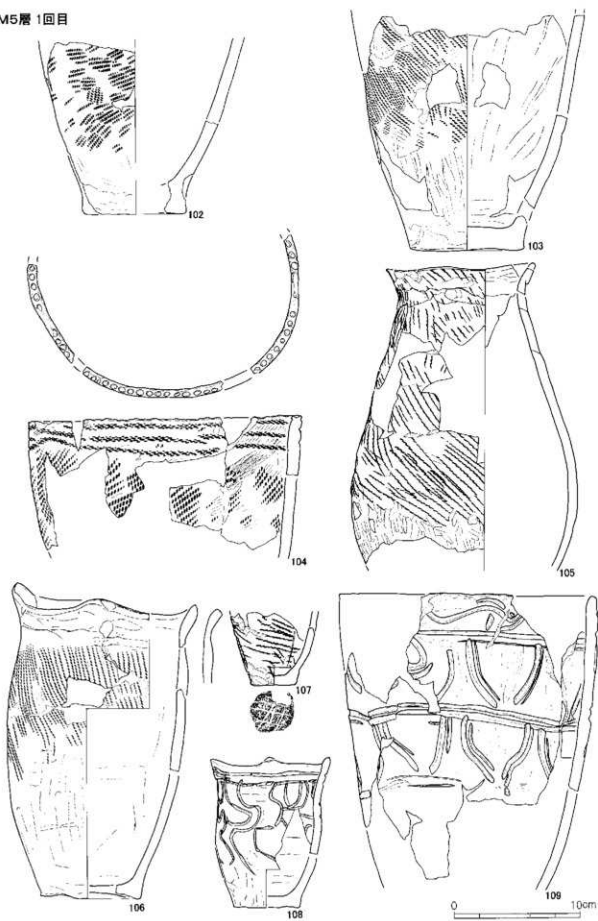
図IV-113 盛土出土の土器 (46)

M5層 1回目



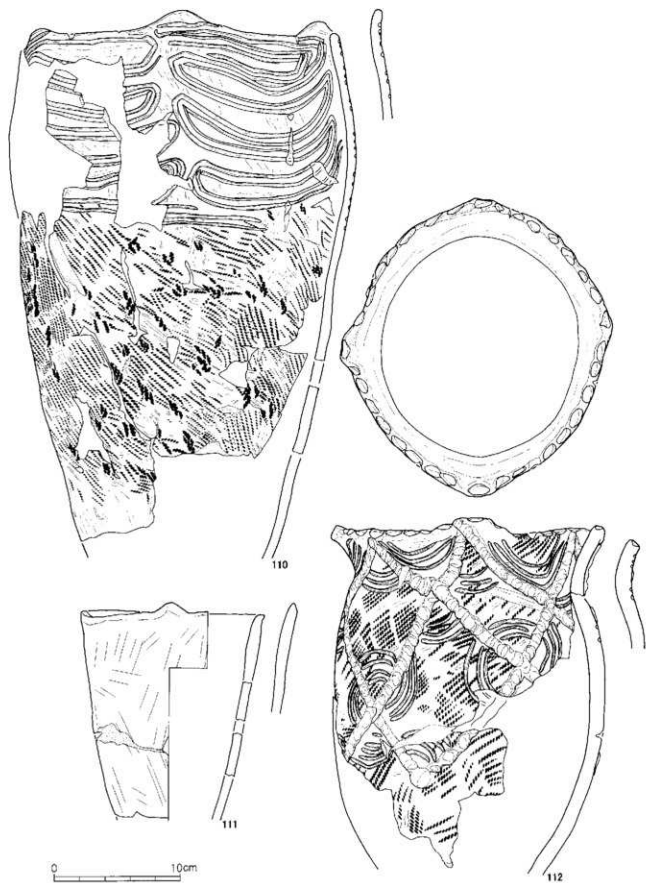
図IV-114 盛土出土の土器 (47)

M5層 1回目



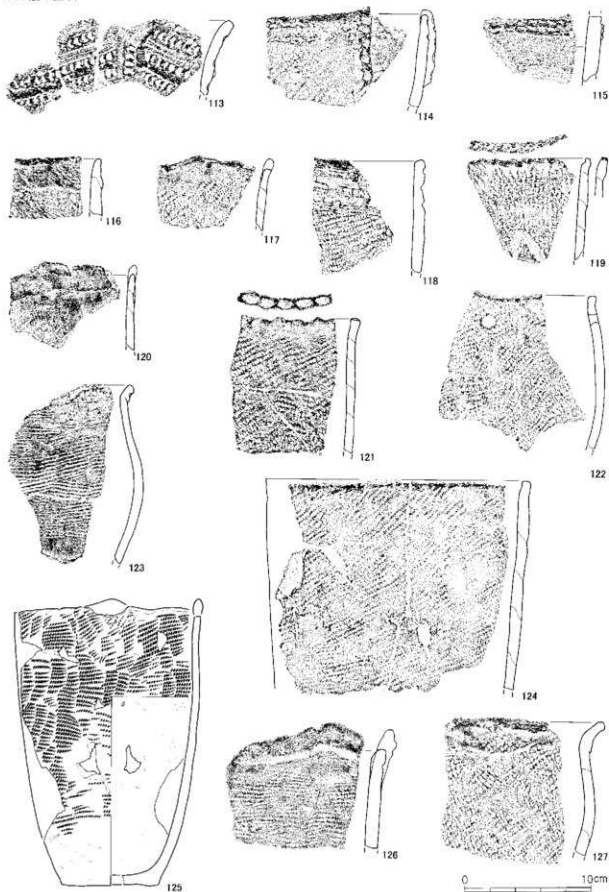
図IV-115 盛土出土の土器 (48)

M5層 1回目



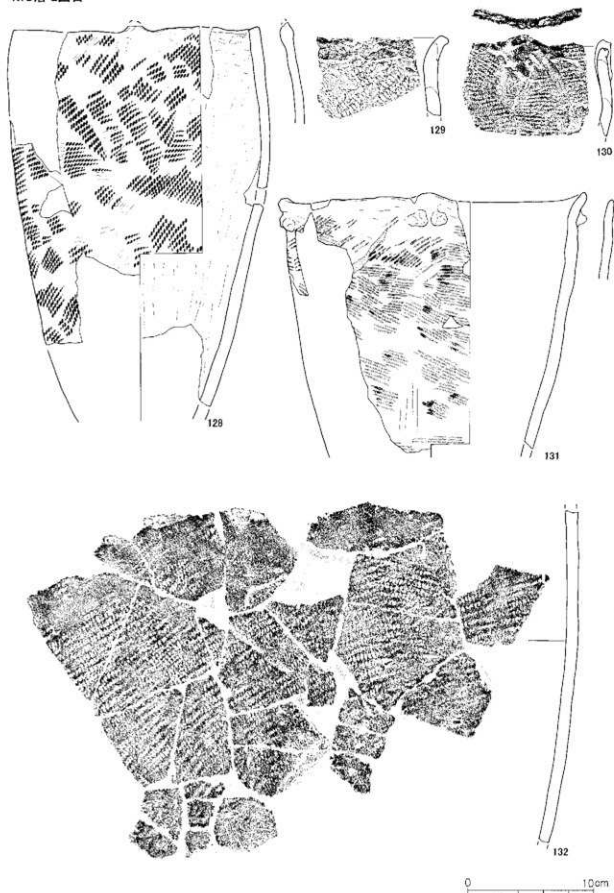
図IV-116 盛土出土の土器 (49)

M5層 2回目



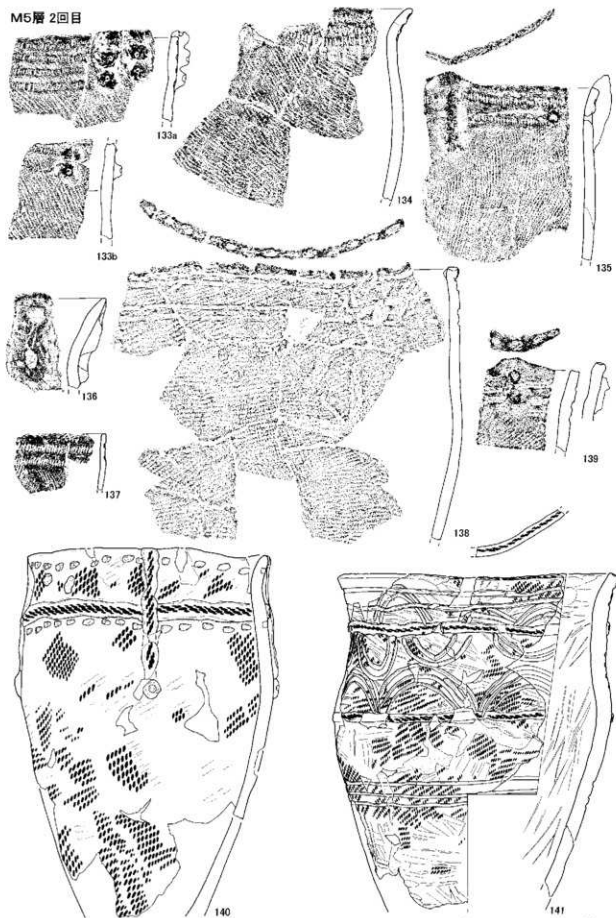
図IV-117 盛土出土の土器 (50)

M5層 2回目



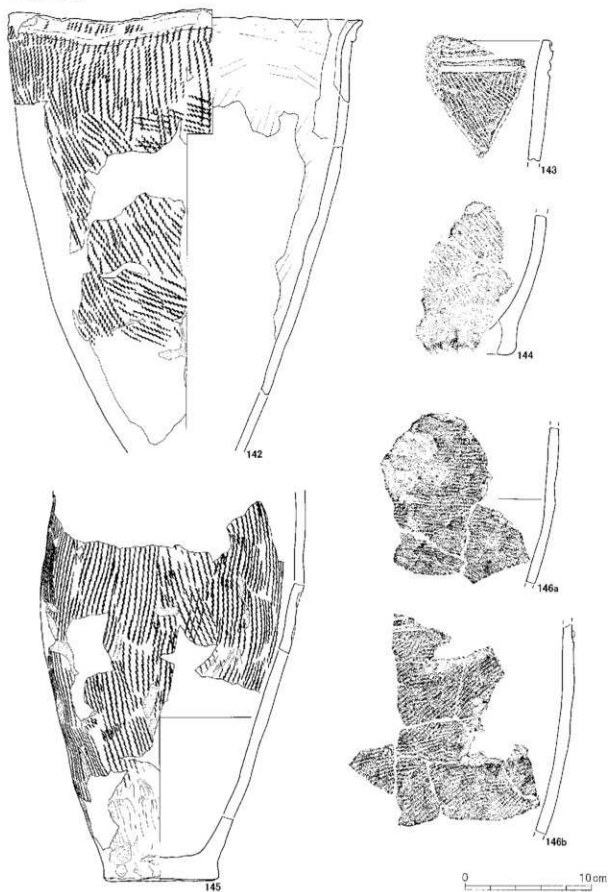
図IV-118 盛土出土の土器 (51)

M5層 2回目



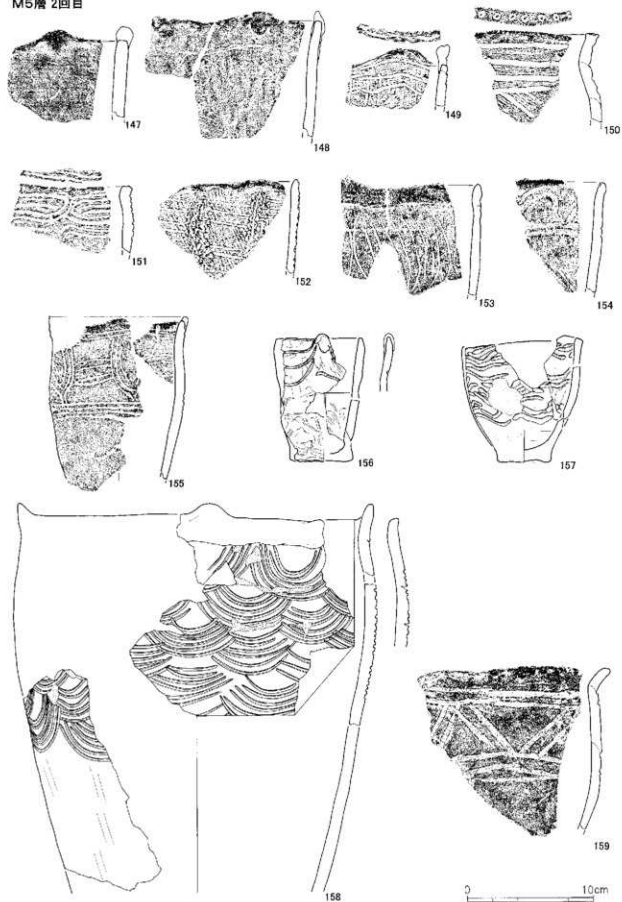
図IV-119 盛土出土の土器 (52)

M5層 2回目



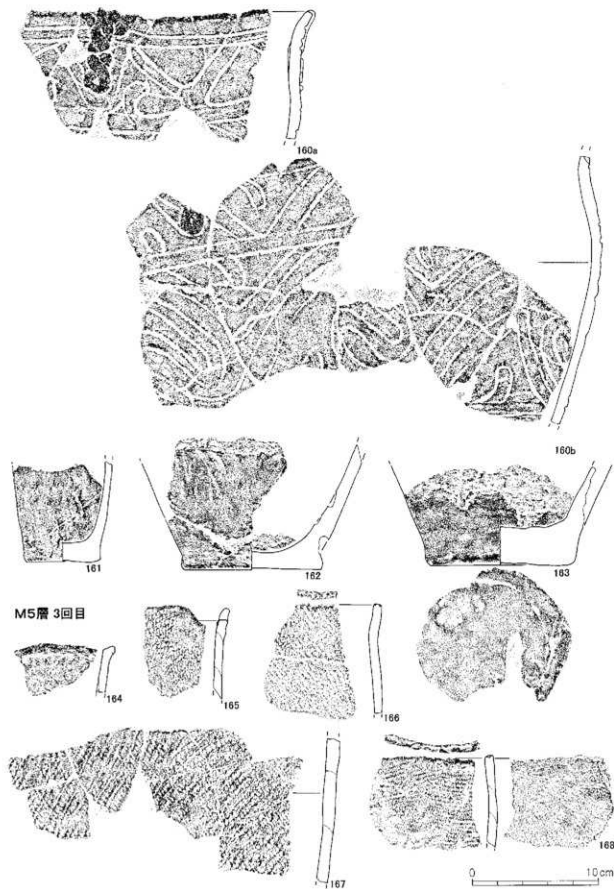
図IV-120 盛土出土の土器 (53)

M5層 2回目



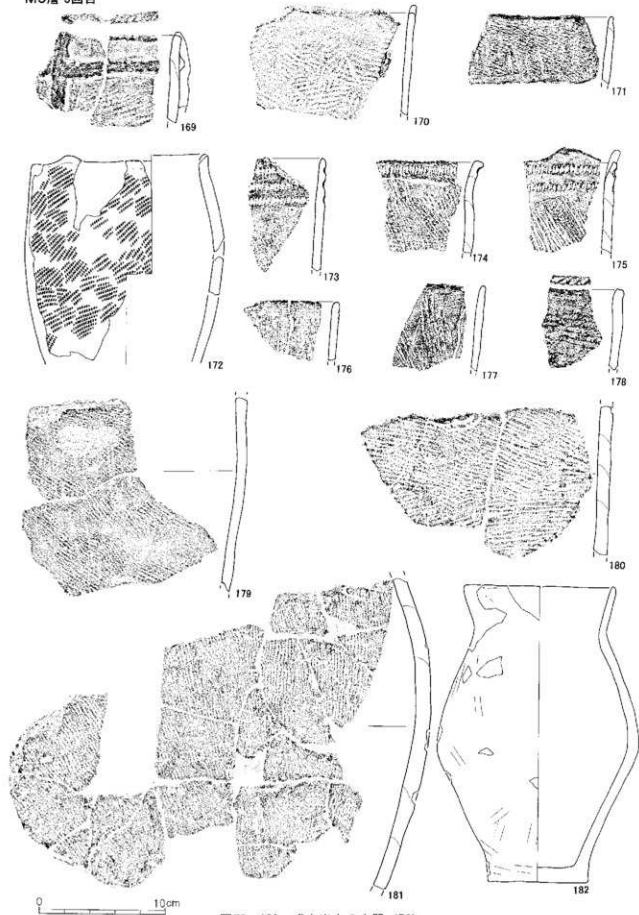
図IV-121 盛土出土の土器 (54)

M5層 2回目



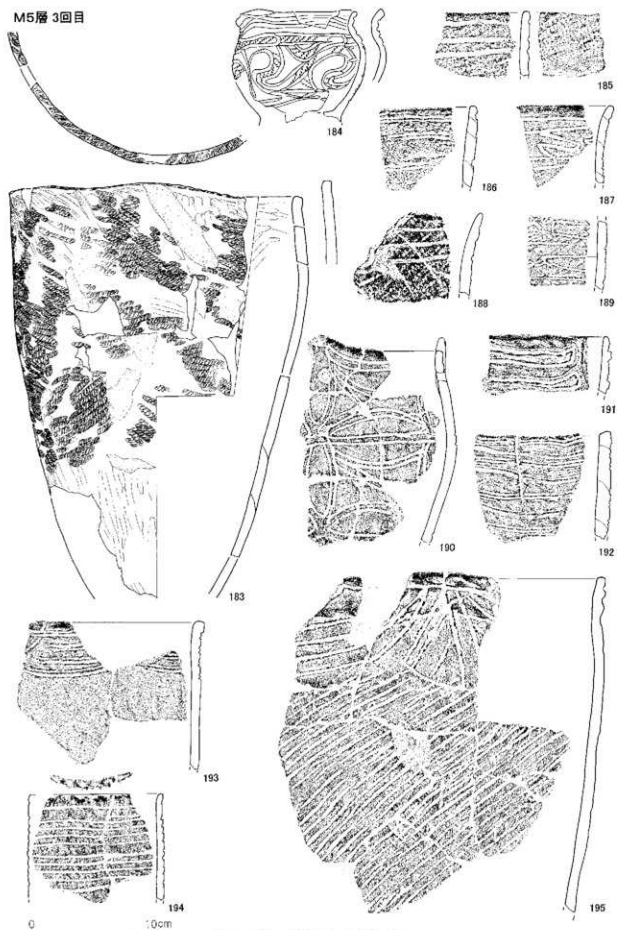
図IV-122 盛土出土の土器 (55)

M5層 3回目



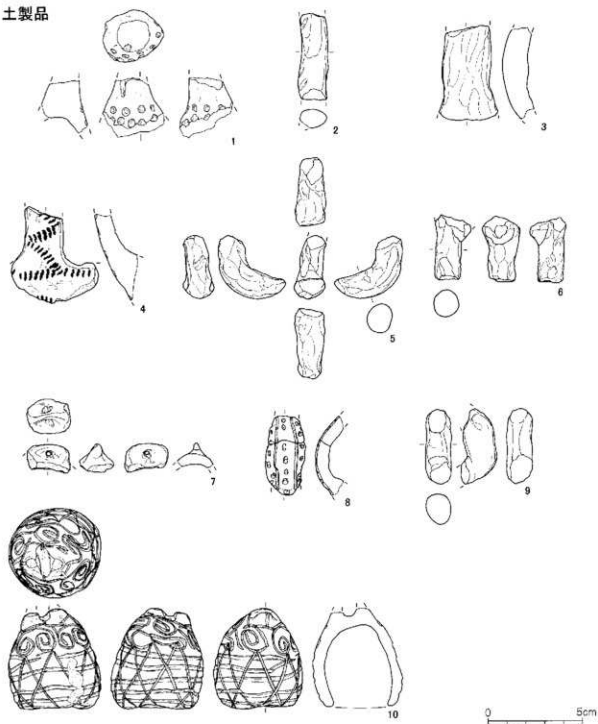
図IV-123 盛土出土の土器 (56)

M5層 3回目

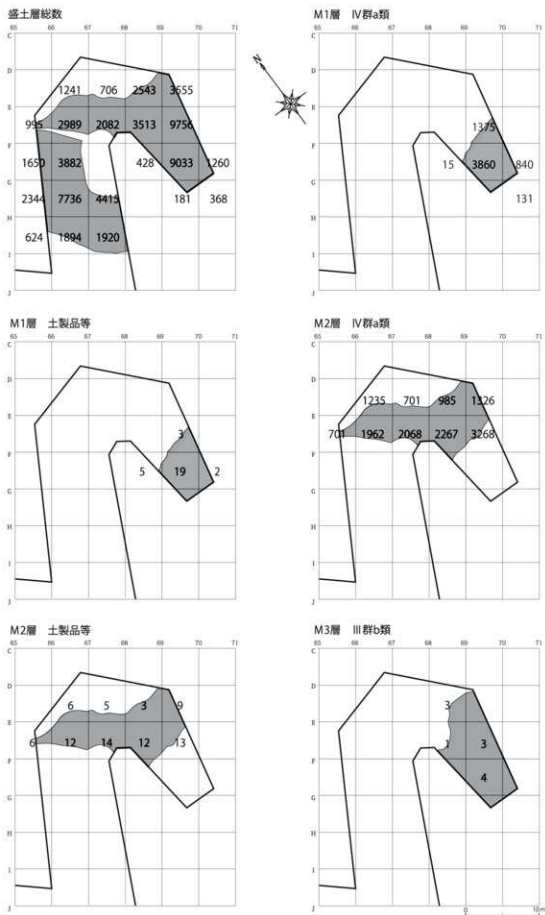


図IV-124 盛土出土の土器 (57)

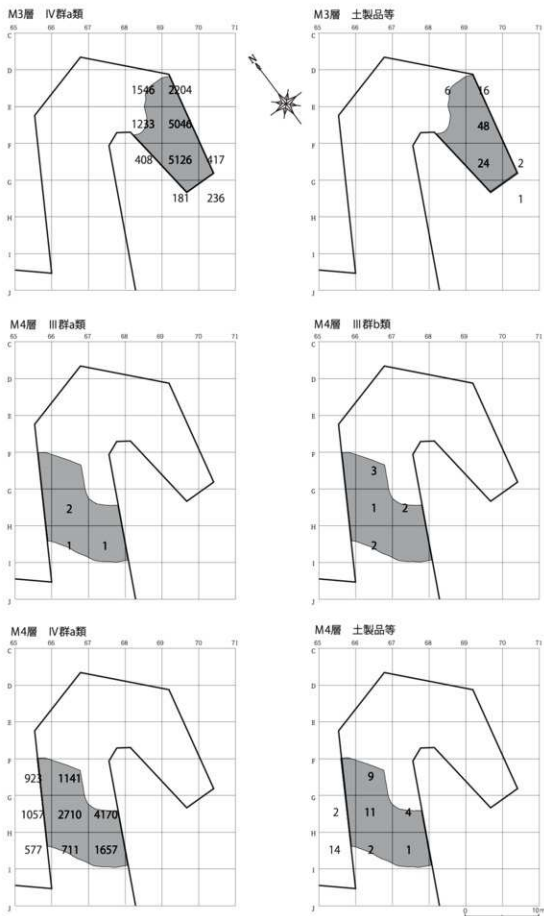
土製品



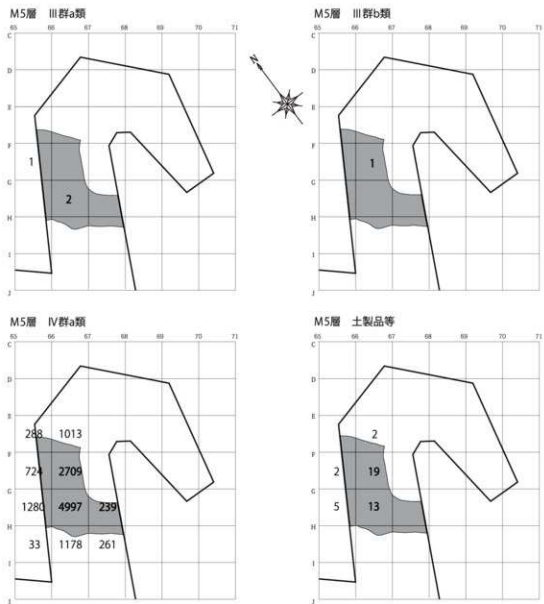
図IV-125 盛土出土の土製品



図IV-126 盛土層位別土器分布図(1)

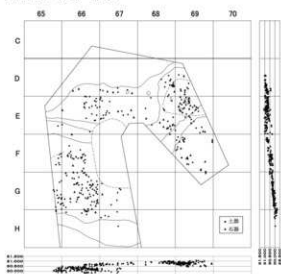


図IV-127 盛土層位別土器分布図(2)

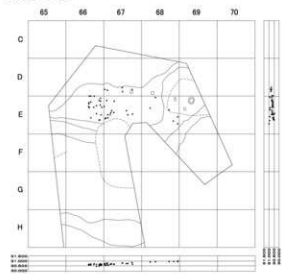


図IV-128 盛土層位別土器分布図 (3)

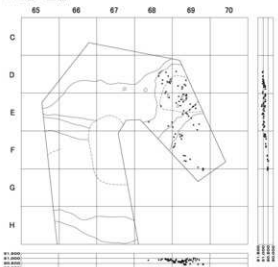
盛土全体 (土器・石器)



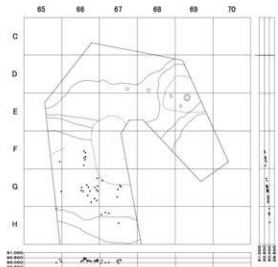
M2層 土器



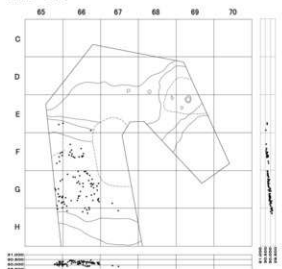
M3層 土器



M4層 土器



M5層 土器



図IV-129 盛土土器分布・エレベーション図

(2) 石器等 (図IV-130~136 表IV-5・8 図版107~108)

盛土から出土した石器は、36,201点である。このうち石斧を含む剥片石器は182点、剥片は5,623点、礫石器は266点、礫・礫片は30,126点で、全体の83%が礫・礫片である。

盛土1 (M1) 層出土の石器 (図IV-130-1~4 図版107-1~4)

4点図示した。1は頁岩の石鏃である。細身長身で全体に細かな調整が施されている。2は泥岩の両面調整石器である。両面全体を粗く調整し成形している。3は泥岩の断面三角形すり石である。2本の縁辺を使用している。4は砂岩の石製品である。いびつな楕円礫に鉢巻き状の溝が斜め掛けに一巡している。不定形な北海道式石冠の一種かもしれない。すり面と思われる部分は使用によるものか、被熱によるものか、変色しており、若干敲打痕も残る。礫の長軸上の一端にも敲打した痕がみられる。

盛土2 (M2) 層出土の石器 (図IV-130・131-1~17 図版107-1~17)

17点図示した。1~8は有茎の石鏃である。2・7は茎部の根元付近にアスファルト様物質が付着する。2は基部側縁辺が鋸歯状となっている。石材は1・2・7が頁岩、3・8が黒曜石、4・5は泥岩、6はメノウである。9・10は石槍・ナイフ類である。9は両面とも周縁にやや粗く加工が施され、正面の一部は原石面が残り、器体の厚みを残している。10は泥岩の石槍・ナイフ類の未成品、もしくは両面調整石器、あるいはヘラ状石器ともいえる石器である。両面が粗く加工され成形されるが、基部中央は厚みが残されたままである。11は頁岩の石鏃である。錐部はつまみ部より長く作出され、背面側のみ加工が施されている。12は頁岩のつまみ付きナイフである。つまみ部は欠失している。左右からの並行剥離によって、背面を覆い尽くすように加工がされた後、背面と腹面それぞれの右側縁辺にも細かな加工が施されている。背面右側縁はこれによりジグザグに仕上がっており、使用による磨減がみられ、ところどころ光沢が認められる。加工や形状の特徴から、縄文時代早期のものと思われる。13は頁岩のラウンドスクレイパーである。両面全体が加工されている。14は泥岩のヘラ状石器である。粗い加工が施される。上端は早い段階で欠失したと思われる、折れ面は他の表面と同じように風化している。15・16は石斧である。15は片岩の薄手の破片を研磨してノミ状の刃部を作している。破損した石斧片を再加工したと思われる。16は泥岩の厚みのある石斧である。全体に敲打と打ち欠きによる成形を施している。その後基部の上端と両側面を研磨している。刃部は研磨痕が若干残るが、未成となっている。17は蛇紋岩のすり切り残片である。すり切りによる折れ面は2か所ある。その両脇は溝状に深く研磨痕が残る。また素材全体にも研磨痕がみられる。また、写真掲載のみであるが、盛土2層から出土した黒曜石の剥片1点の黒曜石原材産地同定を行い、置戸産との結果を得た (VI章-7 図版1-12)。

盛土3 (M3) 層出土の石器 (図IV-132・133-1~17 図版107・108-1~17)

17点図示した。1~4は有茎の石鏃である。1・3は黒曜石、2・4は頁岩製である。5~7は石槍・ナイフ類である。いずれも石材は黒曜石で、5は黒曜石原材産地同定を行い、上土幌産との結果を得た (VI章-7 図版1-16)。5は半分が欠失している。両面に二次加工が施されている。6は有茎でかえしはゆるやかである。7は平面形が木の葉形であるが、下部両側縁に若干の抉りがある。下部先端を欠損した後被熱し、表面全体の光沢が失われている。8は頁岩のつまみ付きナイフである。背面はほぼ全面と、腹面のつまみ部周辺と右側縁に加工がみられる。9・10はスクレイパーである。9は頁岩の縦長剥片の左側縁を刃部調整している。10は平面が不定形な泥岩の剥片の下縁部に刃部調整が施され、やや鋸歯状になっている。11~13は両面調整石器である。11は両面とも左右から粗い調整がされ、中央部は厚みを残す。石材はチャートである。12は泥岩の薄手の剥片の周縁を断続的に加工している。13は泥岩の縦長素材の側縁を粗く打ち欠いている。一端は折れて欠失している。二次加工の及ばない体部は厚みを残し、ヘラ状石器の未成品、欠損品か。14・15は砂岩のすり石である。14は加工のない自然礫の側縁を使用し、幅1cmほどの使用面が

観察される。15は被熱した後に一面のみが粗い打ち欠きにより成形され、またほとんどの縁辺や角に敲打や磨滅等の痕がみられる。使用されたと思われる機能面は一縁辺のみで断続的にすり面が形成されている。16は砂岩の砥石である。礫片の両面を使用している。片面は使用による凹みがみられ、中央で幅1cm以上の2本の溝状に落ち込む。素材の砂岩は非常に脆弱で、同一個体と思われる細かな破片が47点出土している。17は軽石製の石製品である。長さ9.2cm、幅5.5cm、厚さ2.8cmの平面長方形で、6面全面を研磨している。重さは41gと軽い。

盛土4 (M4) 層出土の石器 (図IV-134-1~8 図版108-1~8)

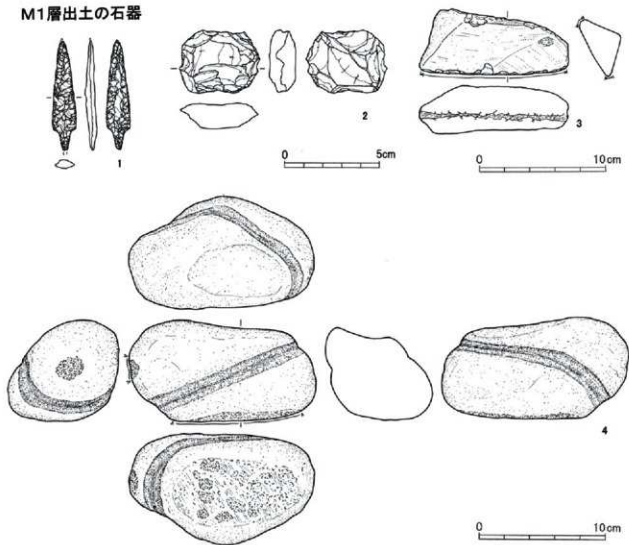
9点図示した。1~4は有茎の石鏃である。石材は2が泥岩、それ以外は頁岩である。2はかえしが不明瞭。1・3は側縁辺が鋸歯状になっている。5は頁岩のつまみ付きナイフである。つまみ部は欠失している。背面側の周縁にのみ加工がみられる。左側縁に刃部が形成されている。6・7は両面調整石器である。石材は6が頁岩、それ以外は泥岩である。6は背面の周縁と腹面の一部縁辺に加工がみられる。7・8は周縁を粗く加工しており、中央部に厚みが残る。9は砂岩の砥石である。砥面は3面あり、最も広い面は使用により皿状に凹む。また部分的に溝状になっている。

盛土5 (M5) 層出土の石器 (図IV-134-136-1~16 図版108-1~16)

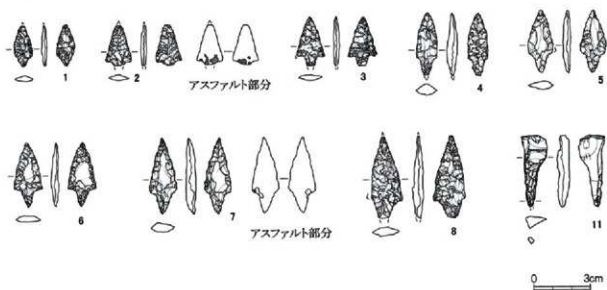
16点図示した。1~5はいずれも有茎の石鏃である。石材は2がメノウ、4は黒曜石、それ以外は頁岩である。1は先端が丸く加工されている。4は基部に左右非対称の抉りが入り、側縁辺がジグザグになっている。器体はやや厚みがあり、横断面の形状は凸レンズ状である。5は基部の根元にアスファルト様物質の付着がみられる。6は石鏃である。両面を調整し機能部と体部を成形している。石材はチャートである。7は頁岩のつまみ付きナイフである。縦長剥片の背面のみを加工し、背面右側縁に鋸歯状の刃部をもつ。つまみ部は腹面側の打点とは反対側の一端に粗く作り出されている。8は頁岩のスクレイパーである。やや縦長の不定形な剥片の背面右側縁と腹面の周縁に加工がある。9は泥岩のへら状石器の破片である。縦長の剥片の両側縁と下部端が粗い剥離調整で加工され、短冊状に成形されている。10・11は泥岩の石斧である。10は両刃で、平面形は刃部が裾広がり状の楕形である。器体全面に入念な研磨が施されている。11は未成品である。粗い打ち欠きにより石斧様に成形されている。この段階では両面調整石器あるいはへら状石器とも呼称できるが、体部が厚みを残す一方、石斧の刃部を想定していると思われる部分が薄手に加工されており、石斧とした。12は安山岩の石鏃片である。扁平な礫片の側縁を打ち欠き、直線的に加工し断面V字形の機能部を作っている。13・14は砂岩の砥石である。13は2面を使用しており、砥面の断面は皿状に凹み、段もみられる。また広い方の砥面の中央は使用により幅1cmほどの溝状に落ち込む。14は縦長礫の一部を溝状に使用したものである。15は砂岩の石皿である。長さ約51cm、幅約26cm、厚さ約10cmの縦長扁平の自然礫を利用している。片面に敲打痕、擦痕がみられる。16は三角（三脚）形石製品である。平面形は縦長の三角形で、背面側の3辺が内湾気味に加工されている。また中央には原石面が残る。腹面は平坦でなく断面はやや膨らむ。

(新家)

M1層出土の石器



M2層出土の石器



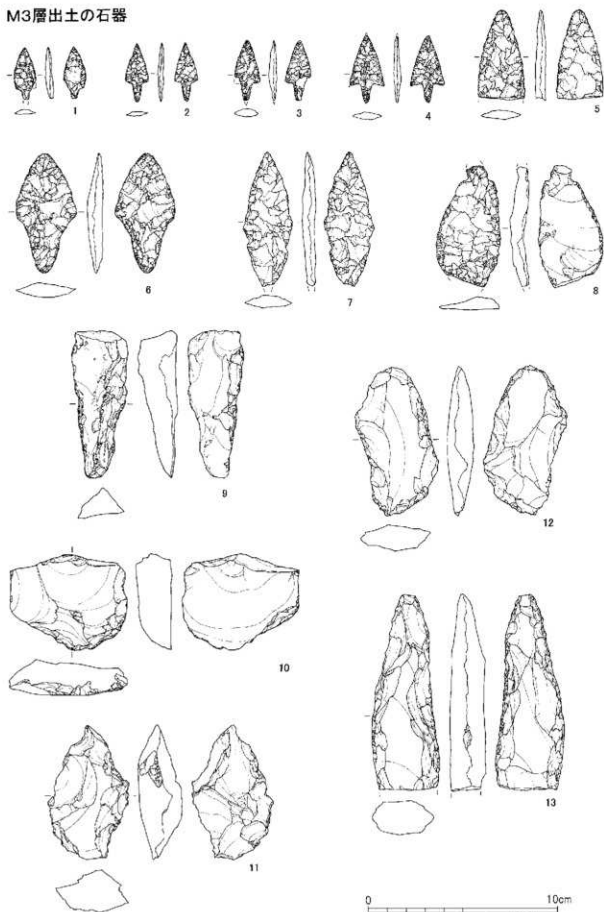
図IV-130 盛土出土の石器 (1)

M2層出土の石器



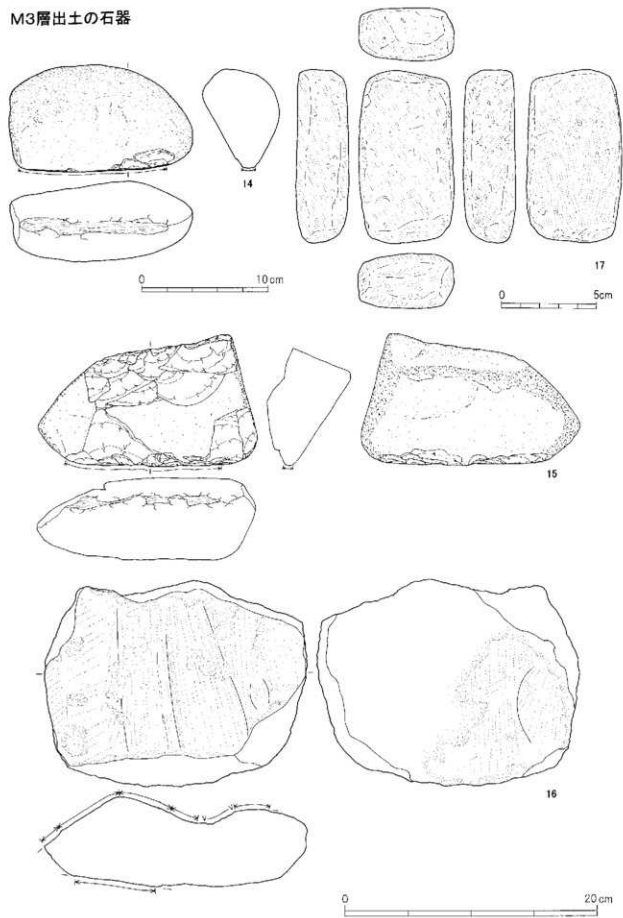
図IV-131 盛土出土の石器 (2)

M3層出土の石器



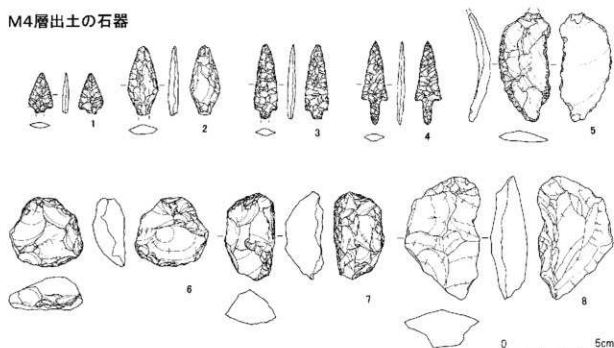
図IV-132 盛土出土の石器 (3)

M3層出土の石器

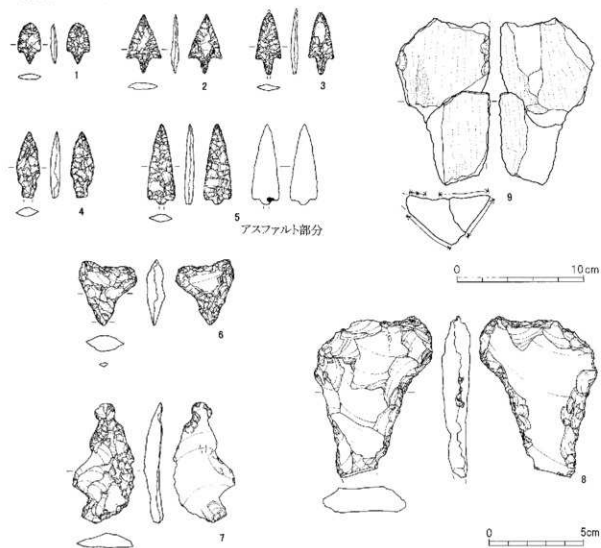


図IV-133 盛土出土の石器 (4)

M4層出土の石器

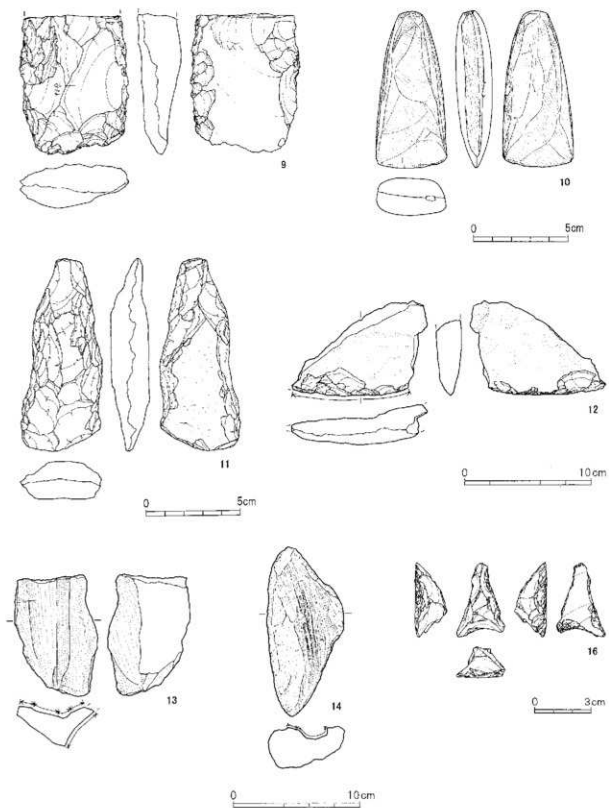


M5層出土の石器



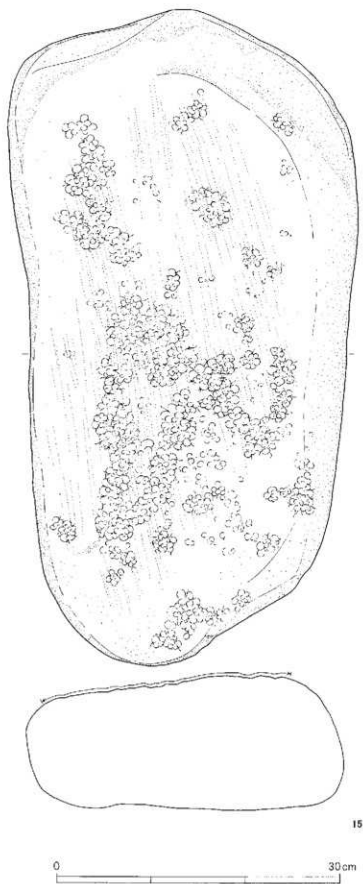
図IV-134 盛土出土の石器 (5)

M5層出土の石器

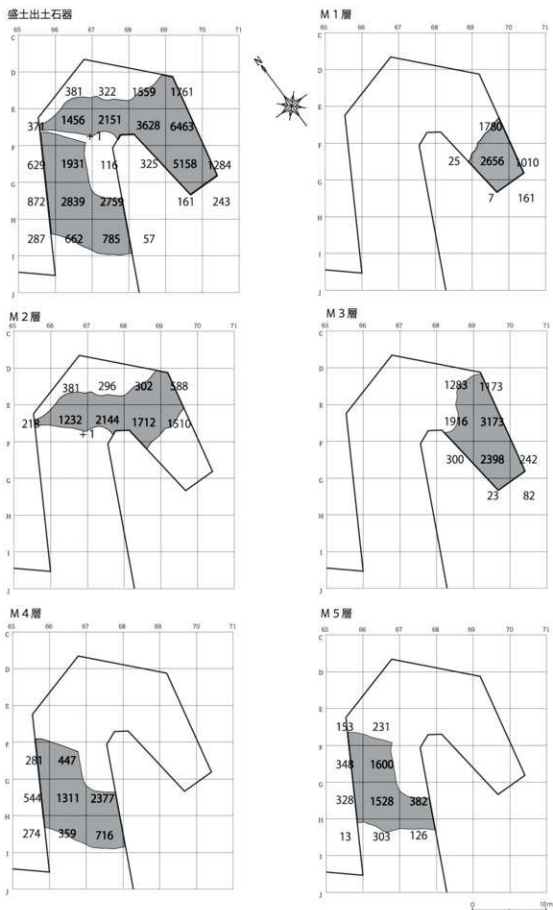


図IV-135 盛土出土の石器 (6)

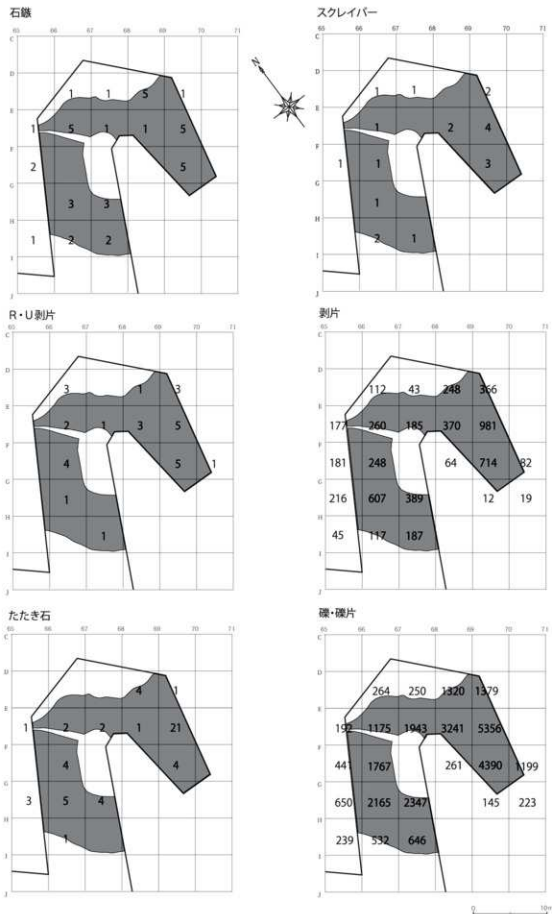
M5層出土の石器



図IV-136 盛土出土の石器 (7)



図IV-137 盛土層位別石器分布図



図IV-138 盛土器種別石器分布図

表IV-6 盛土出土掲載土器一覧

押印番号	掲載番号	写真図版	調査区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口径	底径	高さ	
IV-68	1	67	F70	M1・上		IVa	深鉢	口～胴	13.7	—	(16.2)	LR斜行縄文
IV-68	2	67	F69	M1・上		IVa	深鉢	口～底	7.6	4.2	7.7	燃糸文
IV-68	3a	67	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				LR斜行縄文
IV-68	3b	67	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	胴				LR斜行縄文
IV-68	4	67	F70	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				LR横走縄文
IV-68	5	67	F69	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-68	6	67	F69	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-68	7	67	F70	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-68	8	67	F70	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-68	9	67	F69	M1・上		IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-68	10	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				無文地
IV-68	11	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				無文地
IV-69	12	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	胴				無文地
IV-69	13	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	胴～底				—
IV-69	14	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	底				—
IV-69	15a	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				沈線文 燃糸文
IV-69	15b	68	F69	M1・上トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				沈線文 燃糸文
IV-69	16	68	F69	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				蛇行沈線文
IV-69	17	68	F69	M1・上		IVa	深鉢	口～胴	—	—	(7.4)	縄文 縄線文 ボタン状貼付
IV-69	18	68	F69	M1・上		IVa	深鉢	口				貼付文 弧線文 磨消
IV-69	19	68	F69	M1・上		IVa	浅鉢	口				帯状文
IV-69	20	68	F69	M1・上		IVa	浅鉢	胴				縞縞文
IV-69	21	68	F69	M1・上		IVa	深鉢	口				連結帯状文
IV-69	22	68	G70	M1・上		IVa	浅鉢	口				縞縞文 刺突文
IV-69	23	68	F69	M1・上		IVa	深鉢	胴～底	—	6.0	(8.6)	沈線文 帯状文
IV-69	24	68	F69	M1・上		IVa	成形	口～胴	(9.15)	—	(15.1)	縞縞文
IV-69	25	68	F69	M1・上		IVa	皿形	底				渦文 縞縞文 刺突文 赤彩
IV-70	1	69	E66	M2・上		IVa	胴					縦縞帯 刺突文 燃糸文
IV-70	2	69	E66	M2・上		IVa	口					口唇指頭王冠 横位隆帯 円形刺突文
IV-70	3	69	E66	M2・上		IVa	口					折返し口縁 LR斜行縄文
IV-70	4	69	E66	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				肥厚体 燃糸文
IV-70	5	69	E65	M2・上		IVa	口					口唇外方肥厚 LR斜行縄文 無文帯
IV-70	6	69	E69	M2・上		IVa	口					縦縞隆帯 指頭圧痕
IV-70	7	69	E69	M2・上		IVa	口					縦位隆帯 沈線文 燃糸文
IV-70	8	69	E69	M2・上		IVa	口					口唇指頭圧痕 縦位隆帯
IV-70	9	69	E68	M2・上		IVa	口					内・外面粘土紐貼付 円形刺突文
IV-70	10	69	E68	M2・上		IVa	深鉢	口～底	8.4	4.1	14.8	山形突起 2条縄線 LR斜行縄文
IV-70	11	69	D68	M2・上		IVa	深鉢	口～胴	9.6	—	(12.2)	平縁 2条縄線 LR斜行縄文
IV-70	12	69	E68	M2・上		IVa	成形	口～胴	(8.1)	—	(8.0)	平縁 2条縄線文 LR斜行縄文 (黒色付着物)
IV-70	13	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				斜行縄文 口唇刻み
IV-70	14	69	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴	(21.7)	—	(18.7)	山形突起 2条縄線 横走縄文
IV-70	15	69	E69	M2・上		IVa	深鉢	胴～底	—	(8.2)	(15.9)	斜行縄文
IV-70	16	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				斜行縄文
IV-70	17	69	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴	12.8	—	15.2	波状口縁 貼付瘤5ヶ (無文地)
IV-71	18	69	E69	M2・上		IVa	成形	口～胴	11.9	—	(23.8)	LR斜行縄文 蛇行沈線文
IV-71	19	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴	22.0	—	(32.6)	縞条体圧痕文 燃糸文
IV-71	20	70	E68	M2・上		IVa	鉢形	口～底	(8.3)	5.0	8.6	折返し 無文
IV-71	21	70	F60	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				斜行縄文
IV-71	22a	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				縦・横位燃糸文
IV-71	22b	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				縦・横位燃糸文
IV-71	23	70	D69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-71	24	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				口縁外反 燃糸文
IV-71	25	70	E68	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				縦い波状 燃糸文 補修孔
IV-71	26	70	E67	M2・上	169	IVa	深鉢	胴				燃糸文 原体結目圧痕
IV-72	27	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口	(11.6)	—	—	貼付帯 指頭圧痕 連弧文縄文
IV-72	28	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				貼付帯 指頭圧痕 滑気文 No.27と同一体?

採掘 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口徑	底径	高さ	
IV-72	29	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				絡条体圧痕文 菱形沈線文 磨消
IV-72	30	70	E66	M2・上		IVa	深鉢	口～胴	(12.8)	—	—	縄文 2条1単位沈線文 連弧文
IV-72	31	70	E68	M2・上		IVa	深鉢	口				深い横走・斜位沈線文
IV-72	32	70	E65	M2・上		IVa	深鉢	口				折返し 波状口縁 指腹押圧 弧線文
IV-72	33a	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	胴				弧線文縄文
IV-72	33b	70	E69	M2・上		IVa	深鉢	胴				弧線文縄文
IV-72	34	70	E65	M2・上		IVa	深鉢	口				櫛歯状曲線文
IV-72	35	70	E65	M2・上		IVa	深鉢	底				—
IV-72	36	70	E68	M2・上		IVa	浅鉢	口～胴				帯状文 波頂部指腹押圧
IV-72	37	70	E67	M2・上		IVa	浅鉢	口～胴				沈線文 櫛歯状帯状文
IV-72	38	71	E69	M2・上		IVa	鉢形	口～底	10.9	4.2	12.6	沈線文 櫛歯状帯状文
IV-72	39	71	E69	M2・上		IVa	鉢形	口～底	(9.5)	7.1	17.6	櫛歯状弧状沈線文
IV-72	40	71	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				櫛歯状帯状文
IV-73	41	71	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				櫛歯状帯状文
IV-73	42	71	E69	M2・上		IVa	深鉢	口～胴				2本組沈線文 クランク状
IV-73	43a	71	E69	M2・上		IVa	浅鉢	口～胴				粘土紐貼付 櫛歯状帯状文
IV-73	43b	71	E69	M2・上		IVa	浅鉢	口～胴				粘土紐貼付 櫛歯状帯状文
IV-73	44	71	E66	M2・上		IVa	浅鉢	口～胴				帯状文
IV-73	45	71	E69	M2・上		IVa	浅鉢	口～胴				粘土紐貼付 櫛歯状帯状文
IV-73	46	71	D67	M2・1	82	IVa	深鉢	口～胴	(17.6)	—	(21.7)	縄線文 横走縄文 煤状付着物
IV-73	47	72	E69	M2・1		IVa	鉢形	口～底	3.45	2.0	3.4	ミニチュア 無文
IV-73	48	71	E68	M2・1	91	IVa	深鉢	口～底	5.0	7.1	26.8	山形突起 燃糸文
IV-74	49	72	E69	M2・1		IVa	深鉢	胴～底	—	(6.0)	(8.5)	燃糸文
IV-74	50	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	胴				隆帯 刺突文 皿b?
IV-74	51	72	D69	M2・1		IVa	深鉢	口				隆帯 指頭圧痕
IV-74	52	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口				貼付瘤 隆帯 指頭圧痕 縄押捺
IV-74	53	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口				隆帯 指頭圧痕 縄押捺
IV-74	54	72	D69	M2・1		IVa	深鉢	口				隆帯 刺突 沈線文
IV-74	55	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口				隆帯 燃糸文
IV-74	56	72	E68	M2・1	111	IVa	鉢形	口				橋状把手
IV-74	57	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口				縄文 肥厚体
IV-74	58	72	E69	M2・1		IVa	深鉢	口				縄文 沈線文
IV-74	59	72	E66	M2・1		IVa	深鉢	口				沈線 燃糸文 円形刺突文
IV-74	60	72	E66	M2・1		IVa	深鉢	口				縄線文 円形刺突文
IV-74	61	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口				折返し 指頭圧痕
IV-74	62	72	D67	M2・1		IVa	深鉢	口				2条縄線文 斜行縄文
IV-74	63	72	E69	M2・1		IVa	深鉢	口～胴				7条縄線文 無文地
IV-74	64	72	E69	M2・1		IVa	深鉢	口				4条縄線文 斜行縄文
IV-74	65	72	E69	M2・1		IVa	深鉢	口				櫛歯状絡条体圧痕文
IV-74	66	72	D67	M2・1	81	IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-74	67	72	E69	M2・1		IVa	深鉢	口～胴				折返し 斜行縄文
IV-74	68a	72	E66	M2・1		IVa	深鉢	口～胴				口唇指頭圧痕 無文
IV-74	68b	72	E66	M2・1		IVa	深鉢	口～胴				口唇指頭圧痕 無文
IV-75	69	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口				無文地
IV-75	70	72	E69	M2・1	170	IVa	深鉢	口～胴				無文地
IV-75	71	72	D67	M2・1		IVa	深鉢	口～胴	(11.6)	—	—	折返し 網目状沈線文
IV-75	72	72	E67	M2・1		IVa	深鉢	口～胴				斜行縄文 波状沈線文 指頭圧痕
IV-75	73	72	E68	M2・1	87	IVa	鉢形	口～胴				櫛歯状曲線文
IV-75	74	72	E68	M2・1		IVa	浅鉢	口～胴				帯状文 磨消
IV-75	75	73	E67	M2・1		IVa	深鉢	口～胴	(18.2)	—	(19.6)	沈線区画 帯状文連結
IV-75	76	73	E68	M2・1	122	IVa	鉢形	胴	—	—	(30.8)	櫛歯状曲線文
IV-76	77	72	D69	M2・2		IVa	深鉢	口				隆帯 斜行縄文
IV-76	78	72	E67	M2・2	230	IVa	深鉢	胴				沈線文 縦・横位隆帯
IV-76	79	73	E65	M2・2		IVa	深鉢	口				隆帯 指頭圧痕
IV-76	80	73	E66	M2・2	196	IVa	深鉢	口				隆帯 縄文
IV-76	81	73	E65	M2・2		IVa	深鉢	口				燃糸文

棟号	掲載番号	写真図版	調査区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
									口径	底径	高さ	
IV-76	82	73	E66	M2・2	201	IVa	深鉢	口～底	9.6	5.3	13.0	横走縄文
IV-76	83	73	D66	M2・2	198	IVa	深鉢	口				縦縄文 煤伏付着物
IV-76	84	73	E65	M2・2		IVa		口				小波状口縁 肥厚 縄文
IV-76	85	73	E66	M2・2		IVa		胴～底			(7.3)	—
IV-76	86	73	E66	M2・2	209	IVa		口				小突起 折返し オオバコ圧痕文
IV-76	87	73	E67	M2・2	232	IVa		口				折返し 燃糸文
IV-76	88	73	D66	M2・2		IVa	深鉢	口～胴				リボン状貼付 燃糸文 穿孔
IV-76	89	73	E66	M2・2	195	IVa		口				沈線文 口唇割突
IV-76	90	73	E65	M2・2		IVa		胴				弧状沈線文
IV-76	91	73	E65	M2・2		IVa		胴				縞状曲線文
IV-76	92	73	E66	M2・2	194	IVa		胴				帯状文 磨消
IV-76	93	73	E67	M2・2	169	IVa	深鉢	口～胴	(19.3)	—	(21.5)	ループ状粘土紐貼付 沈線文 LR縄文
IV-76	94	73	D66	M2・2		IVa	深鉢	口～胴	(26.7)	—	(31.3)	縄文 環状隆帯 貼付瘤
IV-77	1	74	G70	M3・1～4		IVa		口				円形割突文 沈線文 横走縄文
IV-77	2	74	E69	M3・上		IVa		口				3条縄線文 斜行縄文
IV-77	3	74	E69	M3・上		IVa		口				2条縄線文 貼付帯 燃糸文
IV-77	4	74	E69	M3・上		IVa		口				貼付瘤 2条縄線文
IV-77	5	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口				貼付帯 縄押捺 縄文 折返し
IV-77	6	74	F69	M3・1～4		IVa		口				ボタン状貼付 燃糸文
IV-77	7	74	E68	M3・上		IVa		口				貼付瘤 沈線文
IV-77	8	74	G70	M3・1～4		IVa		口				頸状縞帯状沈線文 縄文
IV-77	9a	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				貼付瘤 円形割突文 沈線文
IV-77	9b	74	F69	M3・1～4		IVa		口				貼付瘤 円形割突文 沈線文
IV-77	10	74	E69	M3・上		IVa		口				渦状粘土紐貼付
IV-77	11	74	F69	M3・1～4		IVa		口				帯状文
IV-77	12	74	F69	M3・1～4		IVa		口				沈線文
IV-77	13	74	F69	M3・1～4		IVa		口				縄文
IV-77	14	74	F69	M3・1～4		IVa		口				縄文 沈線文
IV-77	15	74	F68	M3・1～4		IVa		口				縄文 沈線文
IV-77	16	74	F69	M3・1～4		IVa		口				帯状文
IV-77	17	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				縄線文 縄文
IV-77	18	74	E69	M3・上		IVa	深鉢	口～胴				縄線文 縄文
IV-77	19	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				縄線文 縄文
IV-77	20	74	F69	M3・1～4		IVa		口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-77	21	74	E68	M3・上トレンチ		IVa		口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-78	22	74	F69	M3・1～4		IVa		口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-78	23	74	F69	M3・1～4		IVa		口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-78	24	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				絡糸体圧痕文 オオバコ圧痕文
IV-78	25	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-78	26	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-78	27	74	E68	M3・上トレンチ		IVa		口				燃糸文
IV-78	28	74	D68	M3・上		IVa		口				燃糸文
IV-78	29	74	E69	M3・上		IVa		口				燃糸文 口唇割み
IV-78	30	74	G69	M3・1～4		IVa		口				燃糸文
IV-78	31	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-78	32	74	E69	M3・上		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-78	33	74	D68	M3・上		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-78	34	74	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-78	35	75	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-78	36	75	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-79	37	75	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-79	38	75	E69	M3・上		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-79	39	75	G70	M3・1～4		IVa	深鉢	胴～底				燃糸文 煤伏付着物
IV-79	40	75	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-79	41	75	F69	M3・1～4		IVa	深鉢	口～胴	(23.1)	—	(21.3)	燃糸文
IV-79	42	75	E69	M3・上		IVa	深鉢	口～胴	(20.5)	—	(28.0)	燃糸文

挿入 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口径	底径	高さ	
IV-79	43	75	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口~胴				燃糸文
IV-79	44	75	F69	M3・上		IVa	深鉢	胴				磨消帯状文
IV-80	45	76	D68	M3・上		IVa	浅鉢	口~底	(10.5)	7.1	19.0	入組沈線文 磨消帯状文
IV-80	46	75	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口~胴				蛇行沈線文
IV-80	47	75	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口~胴				弧状沈線文
IV-80	48	75	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口				弧状沈線文
IV-80	49	75	E69	M3・上トレンチ		IVa	深鉢	胴				蛇行沈線文
IV-80	50	75	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口~底				沈線文 円形刺突文
IV-80	51	76	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口				3条沈線文 燃糸文
IV-80	52	76	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口~胴	11.8	—	(10.7)	4条沈線文 燃糸文
IV-80	53	76	E69	M3・上		IVa	深鉢	口				4条沈線文
IV-80	54	76	G69	M3・1~4		IVa	浅鉢	口				磨消帯状文
IV-80	55	76	F69	M3・1~3		IVa	深鉢	口~胴				調文 貼付帯 指頭押捺 連弧文
IV-80	56	76	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口~胴				貼付帯 指頭押捺
IV-80	57	76	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口				帯状文
IV-80	58	76	F69	M3・1~4		IVa	深鉢	口				粘土紐貼付 円形刺突文 帯状文
IV-80	59	76	F70	M3・上		IVa	深鉢	口				円形刺突文 櫛歯状沈線文
IV-80	60	76	E69	M3・上		IVa	深鉢	口				櫛歯状沈線文
IV-80	61	76	D68	M3・上		IVa	浅鉢	口~胴				粘土紐貼付 帯状文
IV-81	62a	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口~胴				羽状調文
IV-81	62b	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口~胴				斜行・横走調文
IV-81	63	76	E68	M3・1	184	IVa	深鉢	口				斜行調文
IV-81	64	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				斜行調文
IV-81	65	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				沈線文 円形刺突文 調文
IV-81	66	76	E68	M3・1	124	IVa	深鉢	口				オオバコ庄痕文
IV-81	67	76	D69	M3・1		IVa	深鉢	口				斜行・横走調文
IV-81	68	76	D69	M3・1		IVa	深鉢	口				LR斜行調文
IV-81	69	76	D69	M3・1		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-81	70	76	D68	M3・1	315	IVa	深鉢	口~胴				調文 煤状付着物
IV-81	71	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				絡糸体庄痕文 集合沈線文
IV-81	72	76	D69	M3・1		IVa	深鉢	口				折返し 燃糸文
IV-81	73a	76	D68	M3・1	180	IVa	深鉢	口				折返し 燃糸文
IV-81	73b	76	D68	M3・1	178	IVa	深鉢	口				折返し 燃糸文
IV-81	74	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-81	75	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-81	76	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-81	77	77	E69	M3・1	243	IVa	深鉢	口~胴	17.0	—	(26.0)	絡糸体庄痕文 燃糸文
IV-82	78	77	F69	M3・1	1	IVa	深鉢	口~胴				口唇刻み 燃糸文 折返し
IV-82	79	77	E69	M3・1		IVa	深鉢	口~胴				燃糸文
IV-82	80	77	D68	M3・1	181	IVa	深鉢	口~胴	(21.8)	—	(15.8)	リボン状貼付 燃糸文 折返し
IV-82	81	77	E69	M3・1	214	IVa	深鉢	口~胴				集合沈線文
IV-82	82	77	F69	M3・1	190	IVa	深鉢	口				多段折返し 燃糸文 口唇指頭押捺
IV-82	83	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				沈線文 口唇指頭押捺
IV-82	84	76	D68	M3・1	222	IVa	深鉢	口				斜行調文
IV-82	85	77	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				折返し 無文
IV-82	86	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				調線文 円形刺突文 調文
IV-82	87	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				折返し 円形刺突文
IV-82	88	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				沈線文 貼付帯 刺突文 指頭押捺
IV-82	89	76	E69	M3・1	212	IVa	深鉢	口				折返し 櫛歯状 絡糸体庄痕文
IV-82	90	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				沈線文
IV-82	91	76	D69	M3・1		IVa	深鉢	口				沈線文 燃糸文 円形刺突文
IV-82	92	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				弧状沈線文
IV-82	93	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				弧状櫛歯状沈線文
IV-82	94	76	D68	M3・1		IVa	深鉢	口				円形刺突文 弧状沈線文
IV-82	95	76	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				ウロコ状文
IV-83	96	77	E69	M3・1		IVa	深鉢	口				蛇行沈線文

採回 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口径	底径	高さ	
IV-83	97a	78	D68	M3・1		IVa	深鉢	胴				弧状沈線文
IV-83	97b	78	D68	M3・1		IVa	深鉢	胴				弧状沈線文
IV-83	98	78	D69	M3・1		IVa		口				折返し 弧状文
IV-83	99	78	E69	M3・1	55・189	IVa	深鉢	口～胴				ループ状貼付連弧文
IV-83	100	78	E69	M3・1		IVa		口				縦位貼付 縄文
IV-83	101	78	D68	M3・1		IVa		胴				縦位貼付 縄文
IV-84	102	78	E69	M3・1	188	IVa	深鉢	口～胴	(21.2)	—	(22.5)	LR斜行縄文 蛇行・弧状沈線文
IV-84	103	78	E68	M3・1	4	IVa	深鉢	口～胴	(19.0)	—	(25.4)	2条平行沈線文 蛇行縄文
IV-84	104	78	F69	M3・1	2	IVa	深鉢	口～胴	22.2	—	(23.9)	口唇刻み 三角形区画文
IV-84	105	78	E68	M3・1	125	IVa	壺型	口～胴	13.0	—	(21.0)	沈線文 三角形区画文
IV-85	106	78	D68	M3・1	223	IVa	浅鉢	口～胴				櫛歯状帯状文
IV-85	107	78	D68	M3・1	224	IVa	深鉢	底	—	7.6	—	—
IV-85	108	78	D68	M3・1	225	IVa	深鉢	胴～底	—	6.7	—	縄文
IV-85	109	78	E69	M3・2		IVa	口					縄文 円形刺突文
IV-85	110	78	E69	M3・2		IVa	口					2条縄線 口唇刻み
IV-85	111	78	D68	M3・2		IVa	口					円形刺突文 縦貼付2条縄線文
IV-85	112	79	D68	M3・2		IVa	口					3条縄線文 燃糸文
IV-85	113	79	E69	M3・2		IVa	口					LR斜行縄文 指頭押捺
IV-85	114	79	E69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				LR横走縄文
IV-85	115	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴	(17.0)	—	(13.1)	縄文 沈線文 貼付帯 指頭押捺
IV-85	116	79	E69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				折返し 3条沈線文 斜行縄文
IV-85	117	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				2条縄線文 斜行縄文
IV-85	118	79	E69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				多段折返し 1条縄線文 無文地
IV-85	119	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	胴～底	—	7.0	(7.0)	燃糸文
IV-85	120	79	E69	M3・2		IVa	口					燃糸文
IV-85	121	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口				折返し 燃糸文
IV-85	122	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-86	123	79	E69	M3・2		IVa	深鉢	口～底	12.3	5.2	11.8	口唇刻み 短縄文
IV-86	124	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-86	125	79	E69	M3・2	192	IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-86	126	79	E69	M3・2	242	IVa	深鉢	口～底	26.3	10.3	38.4	口唇燃糸押捺 粘土紐貼付 燃糸文
IV-86	127	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				折返し 燃糸文
IV-86	128	79	E69	M3・2		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-86	129	79	D69	M3・2		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文
IV-87	130	80	E69	M3・2	241	IVa	深鉢	口～底	14.8	8.4	26.8	折返し 燃糸文
IV-87	131	80	D69	M3・2	244	IVa	深鉢	口～底	34.0	12.8	55.9	連弧文
IV-87	132	80	E69	M3・2		IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-87	133	80	E69	M3・2	215	IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-87	134	80	D69	M3・2	244	IVa	深鉢	口				折返し 蛇行沈線文
IV-87	135	80	D68	M3・2		IVa	口					弧状沈線文
IV-87	136	80	D69	M3・2		IVa	口					網目状沈線文
IV-87	137	80	D69	M3・2		IVa	口					円形刺突文 絡糸体圧痕文 沈線文
IV-87	138	80	D68	M3・2		IVa	口					集合沈線
IV-88	139	80	D68	M3・3	246	IVa	深鉢	口～底	12.5	6.3	15.5	斜行・横走縄文
IV-88	140	80	F69	M3・3	73	IVa	深鉢	口～底	16.3	8.1	20.0	横走縄文
IV-88	141	80	F69	M3・3	62	IVa	口					斜行縄文
IV-88	142	81	E69	M3・3		IVa	口					口唇縄押捺 縄文
IV-88	143	81	E68	M3・3		IVa	口					多段折返し
IV-88	144	81	E68	M3・3		IVa	口					櫛歯状沈線文 縄文
IV-88	145	81	F69	M3・3	72	IVa	口					縄文 貼付帯 指押捺 沈線文
IV-88	146	81	F69	M3・3	74	IVa	深鉢	口～胴				縄文 弧状沈線
IV-88	147	81	E69	M3・3		IVa	口					縄文 沈線文 円形刺突
IV-88	148	81	F69	M3・3		IVa	深鉢	胴				斜行縄文 連弧文
IV-88	149	81	F69	M3・3		IVa	口					縄線文
IV-88	150	81	E69	M3・3		IVa	口					オオバコ圧痕文
IV-88	151	81	E69	M3・3		IVa	口					絡糸体圧痕文 燃糸文

棟号 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
									口径	底径	高さ	
IV-88	152	81	F69	M3・3		IVa		口				絡条体圧痕文 集合沈線文
IV-88	153	81	F69	M3・3		IVa		口				絡条体圧痕文 捺糸文 折返し
IV-88	154	81	F69	M3・3		IVa	深鉢	口～胴				捺糸文
IV-88	155	81	F69	M3・3		IVa	深鉢	口				集合沈線文 煤状付着物
IV-88	156	81	F68	M3・3		IVa		口				捺糸文
IV-89	157	81	F69	M3・3		IVa	深鉢	口～胴	(17.3)	—	—	捺糸文
IV-89	158	81	F69	M3・3	14	IVa	深鉢	口～底	16.9	9.0	26.7	絡条体圧痕文 捺糸文
IV-89	159	81	F69	M3・3		IVa	深鉢	口～底	15.4	7.8	24.3	捺糸文
IV-89	160	81	F69	M3・3		IVa	深鉢	口～胴	17.9	—	(19.9)	捺糸文
IV-89	161	82	F69	M3・3	269	IVa	深鉢	口～底	15.9	7.4	23.2	絡条体圧痕文 捺糸文
IV-89	162	82	F69	M3・3		IVa	深鉢	口～胴	(17.0)	—	(13.5)	捺糸文
IV-89	163	82	F69	M3・3		IVa	深鉢	口～胴				絡条体圧痕文 捺糸文
IV-90	164	83	F69	M3・3	60	IVa	深鉢	胴～底	—	9.7	33.8	捺糸文
IV-90	165	82	F68	M3・3	278	IVa	深鉢	口～胴				捺糸文
IV-90	166a	82	F69	M3・3	270	IVa	深鉢	胴～底				捺糸文
IV-90	166b	82	F69	M3・3	270	IVa	深鉢	胴～底	—	(9.3)	(16.6)	捺糸文
IV-91	167	82	F69	M3・3	63	IVa	深鉢	口～胴				網目状捺糸文
IV-91	168	82	F68	M3・3		IVa		口				網目状捺糸文
IV-91	169	82	F68	M3・3		IVa	深鉢	口				網目状捺糸文
IV-91	170a	82	F68	M3・3		IVa	深鉢	口				網目状捺糸文
IV-91	170b	82	F68	M3・3		IVa	深鉢	口				網目状捺糸文
IV-91	171	82	F69	M3・3		IVa	深鉢	口				捺糸文
IV-91	172	83	F69	M3・3		IVa	深鉢	口				捺糸文
IV-91	173	83	F69	M3・3		IVa	深鉢	口				捺糸文
IV-91	174	83	F69	M3・3	56	IVa	深鉢	胴				捺糸文
IV-91	175	83	F69	M3・3	67	IVa	深鉢	底				集合沈線文
IV-91	176	83	F69	M3・3	268	IVa	深鉢	胴～底				縄文
IV-91	177a	83	F69	M3・3	271	IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-91	177b	83	F69	M3・3	271	IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-92	178	83	F69	M3・3	273	IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-92	179	83	F69	M3・3	68	IVa	深鉢	胴～底				無文
IV-92	180	83	F69	M3・3	65	IVa	深鉢	底				無文
IV-92	181	83	F69	M3・3	75	IVa	鉢形	胴～底				無文
IV-92	182	85	F68	M3・3	245	IVa	鉢形	口～底	(8.3)	3.6	10.5	沈線文
IV-92	183	83	F68	M3・3		IVa	浅鉢	口～胴				帯状文
IV-92	184	83	F69	M3・3		IVa	浅鉢	口				帯状文
IV-92	185	83	F69	M3・3	70	IVa	深鉢	胴				柳歯状帯状文
IV-92	186	83	F69	M3・3		IVa	深鉢	胴				捺糸文 弧線文
IV-93	187	83	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴	(27.5)	—	(32.6)	4条縄線文 LR斜行縄文
IV-93	188	84	F69	M3・4		IVa	深鉢	胴	—	—	(16.5)	LR斜行縄文
IV-93	189	85	F69	M3・4	284	IVa	深鉢	口～底	10.8	5.1	13.3	捺糸文
IV-93	190	84	F68	M3・4		IVa	深鉢	口～底	13.8	6.7	23.4	捺糸文 補修孔
IV-93	191	84	F69	M3・4	289	IVa	深鉢	口～胴	(23.0)	—	(30.2)	捺糸文 指頭押捺
IV-94	192	84	F68	M3・4		IVa	深鉢	口～胴	(33.5)	—	(48.3)	LR斜行縄文 円形刺突文 匙付筒 曇面状沈線文
IV-94	193	85	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴	(11.2)	—	(9.1)	捺糸文 2条縄線 口唇刻み
IV-94	194	84	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴	14.0	—	14.1	捺糸文 2条絡条体圧痕文 折返し
IV-94	195	84	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴	(19.2)	—	(20.1)	捺糸文
IV-95	196	85	F68	M3・4		IVa		口				捺糸文
IV-95	197	85	F69	M3・4		IVa		口				捺糸文
IV-95	198	85	F69	M3・4		IVa	深鉢	口				捺糸文
IV-95	199	85	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴				捺糸文 煤状付着物
IV-95	200	85	F69	M3・4		IVa	深鉢	胴				捺糸文
IV-95	201a	85	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴				捺糸文 折返し 補修孔
IV-95	201b	85	F69	M3・4		IVa	深鉢	胴				捺糸文
IV-95	202a	85	F68	M3・4		IVa	深鉢	口～胴				網目状捺糸文 赤彩
IV-95	202b	85	F68	M3・4		IVa	深鉢	胴				網目状捺糸文

押印 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口径	底径	高さ	
IV-96	203	85	D69	M3・4		IVa	深鉢	口				蛇行沈線文 指頭押捺
IV-96	204	85	D69	M3・4		IVa	深鉢	口				網目状沈線文
IV-96	205	85	E69	M3・4		IVa	鉢形	口				三角形沈線文
IV-96	206	84	E68	M3・4		IVa	深鉢	口				網目状燃糸文 貼付文 刺突文
IV-96	207	84	D69	M3・4		IVa	深鉢	口				線文
IV-96	208	84	E69	M3・4		IVa	成形	胴～底	—	8.6	(12.8)	蛇行・渦巻き状沈線文
IV-96	209	84	E69	M3・4		IVa	深鉢	胴～底	—	—	6.0	沈線文 刺突文
IV-96	210	84	E69	M3・4	282	IVa	深鉢	口～底	14.3	6.8	(17.3)	燃糸文 ループ状貼付文
IV-96	211a	84	E69	M3・4		IVa	深鉢	口				縦貼付帯 沈線文
IV-96	211b	84	E69	M3・4		IVa	深鉢	口				縦貼付帯 沈線文
IV-96	212	87	D69	M3・4		IVa	深鉢	口～胴	11.0	—	(10.0)	5, 6条沈線
IV-96	213	84	D68	M3・4		IVa	深鉢	口				弧状沈線文 縄文
IV-96	214	84	E69	M3・4	285	IVa	深鉢	口～胴				燃糸文 ループ状貼付
IV-97	215a	84	D69	M3・4		IVa	深鉢	胴				調整痕 無文
IV-97	215b	84	D69	M3・4		IVa	深鉢	胴				調整痕 無文
IV-97	216	87	F69	M3・4		IVa	深鉢	口～底	(13.9)	5.8	13.3	無文
IV-97	217	87	E69	M3・4		IVa	深鉢	胴～底				無文
IV-97	218	84	D69	M3・4		IVa	深鉢	底				無文
IV-97	219	84	E69	M3・5		IVa		口				縄文
IV-97	220	84	D69	M3・5		IVa		口				縄文 2条縄線文 円形刺突文
IV-97	221	84	E68	M3・5		IVa		口				縦貼付帯
IV-97	222	84	D68	M3・5		IVa		口				縦貼付帯 押くぼみ 縄線文
IV-97	223	84	D69	M3・5		IVa		口				燃糸文
IV-97	224	84	E69	M3・5		IVa		口				燃糸文
IV-97	225	84	E69	M3・5		IVa		口				燃糸文
IV-97	226	87	E69	M3・5		IVa	浅鉢	口				燃糸文
IV-97	227	87	E69	M3・5		IVa		口				折返し 燃糸文
IV-97	228	87	E69	M3・5		IVa		口～胴				折返し 燃糸文
IV-98	229	87	E69	M3・5		IVa	深鉢	口～胴				縄文
IV-98	230	87	E69	M3・5		IVa	深鉢	胴	—	—	(35.2)	燃糸文
IV-98	231	87	E69	M3・5		IVa	壺型	口～胴	(11.5)	—	(12.5)	燃糸文 粘土紐貼付
IV-98	232	87	D69	M3・5		IVa		口				3条沈線文
IV-98	233	87	E68	M3・5		IVa		口				弧状沈線文
IV-98	234	87	E69	M3・5		IVa		口				円形刺突文 横連弧文
IV-98	235	87	E69	M3・5		IVa		口				弧状沈線文
IV-98	236	87	E69	M3・5		IVa		口				折返し 網目状沈線文
IV-98	237	87	D69	M3・5		IVa		口				網目状燃糸文
IV-98	238	87	E69	M3・5		IVa		口				S字状沈線文
IV-98	239	87	E69	M3・5		IVa	浅鉢	口～底	10.0	5.2	6.5	無文
IV-98	240	87	E69	M3・5		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-98	241	88	E69	M3・5		IVa	深鉢	口～胴				多段折返し 燃糸文
IV-98	242	88	E69	M3・5		IVa	深鉢	口				燃糸文 円形刺突文
IV-98	243	88	D69	M3・5		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-99	244	88	E69	M3・5		IVa	深鉢	口～底	14.6	7.4	20.5	折返し 燃糸文
IV-99	245	88	E69	M3・5		IVa	深鉢	口～胴	(17.7)	—	(23.1)	燃糸文
IV-99	246	88	E69	M3・5	284	IVa	深鉢	口～底	13.0	7.2	17.6	燃糸文
IV-99	247	88	E69	M3・5	283	IVa	深鉢	口～底	12.8	6.5	19.7	折返し 燃糸文
IV-99	248	88	E69	M3・5		IVa	成形	口～胴	15.5	—	(31.5)	燃糸文 桶状把手 貼付帯
IV-99	249	89	E69	M3・5		IVa	深鉢	口～胴	16	—	19.0	無文
IV-100	250	89	D69	M3・6	314	IVa	深鉢	口～胴	(34.0)	—	(41.5)	LR斜行縄文
IV-100	251	89	E69	M3・6		IVa		口				燃糸文
IV-100	252	89	E69	M3・6		IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-100	253	89	E69	M3・6		IVa		口				燃糸文
IV-100	254	89	E69	M3・6		IVa		口				燃糸文
IV-100	255	89	E69	M3・6		IVa	深鉢	口				無文
IV-100	256	89	E69	M3・6		IVa	深鉢	口～胴				燃糸文

挿入 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口径	底径	高さ	
IV-100	257	89	D69	M3・6		IVa	深鉢					無文
IV-100	258	89	E69	M3・6	308	IVa	深鉢	胴～底		8.5		無文
IV-101	259	89	E69	M3・6		IVa	深鉢	口～胴	(15.2)	—	(14.1)	折返し 燃糸文
IV-101	260	89	E69	M3・6	308	IVa	変形	口～胴	14.1	—	(28.7)	橋状把手 縄文 縄線文
IV-101	261	90	D69	M3・6	316	IVa	深鉢	口～胴	(13.5)	—	(30.0)	貼付瘤 沈線 円形刺突文 斜行縄文
IV-101	262	90	E69	M3・6	317	IVa	深鉢	口～底	15.5	7.9	26.1	折返し 網目状沈線文
IV-101	263	90	E69	M3・6	312	IVa	浅鉢	口～胴	(14.1)	—	(11.5)	刺突文 弧状沈線 刻み 粘土紐貼付
IV-101	264	90	E69	M3・6		IVa	深鉢	口				リボン状粘土紐貼付 円形刺突文 沈線文
IV-101	265a	90	E69	M3・6		IVa	変形	胴				沈線区画 刺突文 赤彩
IV-101	265b	90	E69	M3・6		IVa	変形	胴				沈線区画 刺突文 赤彩
IV-102	266	90	E69	M3・7		IVa	深鉢	胴～底	—	(10.8)	(13.2)	LR斜行縄文
IV-102	267	90	E69	M3・7		IVa	口					沈線文
IV-102	268	90	E69	M3・7		IVa	口					折返し 沈線文
IV-102	269	90	E69	M3・7		IVa	深鉢	胴	—	—	(13.9)	縦歯状沈線文
IV-102	270	90	E69	M3・7		IVa	深鉢	口				縦位貼付帯
IV-102	1	91	G66	M1・上		IVa	口					貼付帯 円形刺突 指頭押捺
IV-102	2	91	G65	M1・上		IVa	胴					貼付帯 円形刺突文
IV-102	3	91	F66	M1・上		IVa	胴					斜行縄文 貼付帯 刺突文
IV-102	4	91	G66	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				折返し LR斜行縄文
IV-102	5a	91	F65	M1・上		IVa	口～胴					貼付瘤3 橋歯状沈線文
IV-102	5b	91	F65	M1・上		IVa	口～胴					貼付瘤3 橋歯状沈線文
IV-102	6	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口				折返し 斜行縄文
IV-102	7	91	H65	M1・上		IVa	胴					貼付帯 縄文
IV-102	8	91	H66	M1・上		IVa	胴					貼付帯 縄文
IV-102	9	91	H66	M1・上		IVa	口					縦位貼付帯 指頭押捺 沈線文
IV-102	10	91	F66	M1・上		IVa	口					縦位貼付帯
IV-102	11a	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				LR斜行縄文 沈線区画
IV-102	11b	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				LR斜行縄文
IV-103	12	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口				縄文 環状貼付
IV-103	13	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				折返し 弧状沈線文
IV-103	14	91	H67	M1・上		IVa	口					貼付帯 指頭押捺
IV-103	15	91	H67	M1・上		IVa	口					粘土紐貼付 沈線文 偽縄文
IV-103	16	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口				粘土紐貼付 沈線文 斜行縄文
IV-103	17	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口				縄線文 縦位貼付帯 指頭押捺
IV-103	18	91	G66	M1・上		IVa	深鉢	口				折返し 絡糸体圧痕文 集合沈線
IV-103	19	91	G66	M1・上		IVa	口					絡糸体圧痕文
IV-103	20	91	G66	M1・上		IVa	深鉢	口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-103	21	91	G66	M1・上		IVa	口					折返し 絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-103	22a	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-103	22b	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-103	23	91	G66	M1・上		IVa	口					絡糸体圧痕文
IV-103	24	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口				網目状燃糸文
IV-103	25	91	G65	M1・上		IVa	深鉢	口				網目状燃糸文
IV-103	26	91	G65	M1・上		IVa	胴					網目状沈線文
IV-103	27	91	G66	M1・上		IVa	深鉢	口～底				折返し 燃糸文
IV-103	28	91	G66	M1・上		IVa	深鉢	口				集合沈線
IV-103	29	91	G65	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-103	30	91	G65	M1・上		IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-103	31	91	G65	M1・上		IVa	深鉢	口				無文
IV-104	32a	91	G67	M1・上		IVa	口～底					無文
IV-104	32b	91	G67	M1・上		IVa	深鉢	口～底				無文
IV-104	32c	91	G67	M1・上		IVa	口～底					無文
IV-104	33	92	G65	M1・上		IVa	深鉢	胴				無文
IV-104	34a	92	G67	M1・上		IVa	深鉢	胴～底				燃糸文
IV-104	34b	92	G67	M1・上		IVa	深鉢	胴～底				燃糸文
IV-104	35	92	G65	M1・上		IVa	胴					帯状文

棟号	掲載番号	写真図版	調査区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
									口横	底径	高さ	
IV-104	36	92	G65	M・上		IVa	深鉢	口～胴	(9.9)	—	(11.7)	折返し 捺糸文
IV-104	37	92	G67	M・上		IVa	深鉢	口～底	(12.2)	6.8	(18.5)	絡糸体圧痕文 捺糸文
IV-104	38	92	F66	M・上		IVa	深鉢	口～底	14.1	7.8	19.1	横位集合沈線文
IV-104	39	92	G67	M・上	45	IVa	深鉢	口～底	(7.0)	5.5	13.3	縄文 平行沈線
IV-104	40	92	G66	M・上	96・98	IVa	深鉢	胴				沈線文 滑弧文
IV-104	41	92	G67	M・上		IVa	深鉢	口				円形刺突文 縦線帯 捺糸文
IV-104	42	92	G66	M・上		IVa	深鉢	口				沈線文
IV-105	43	92	G66	M・上	103	IVa	深鉢	口～底	13.6	5.7	16.0	絡糸体圧痕文 捺糸文
IV-105	44	93	F66	M・上	114	IVa	深鉢	口～胴	(15.0)	—	(30.5)	無筋斜行縄文
IV-105	45	93	G66	M・上	109	IVa	深鉢	口～胴	(27.6)	—	(35.5)	絡糸体圧痕文 捺糸文
IV-105	46	93	G67	M・上		IVa	深鉢	口～底	9.0	5.0	12.7	折返し 無文
IV-105	47	93	F66	M・上	115	IVa	深鉢	口～胴				斜行縄文
IV-105	48	93	G65	M・上	120	IVa	深鉢	口～胴				折返し 捺糸文
IV-105	49	93	G66	M・上	106	IVa	深鉢	口				無文
IV-105	50	93	G66	M・上	94	IVa	深鉢	口				口唇縄押捺 多重沈線文
IV-106	51	93	F66	M・上	115・121	IVa	深鉢	口				沈線文 縄文
IV-106	52	93	G67	M・上	46	IVa	深鉢	胴～底				無文
IV-106	53	93	F66	M・上	117	IVa	深鉢	胴～底				横走縄文
IV-106	54	93	G67	M・上	47	IVa	深鉢	胴				帯状文 磨酒
IV-106	55	93	H67	M・上	53	IVa	深鉢	胴				縦横貼付帯 指頭押捺 沈線文 縄文
IV-106	56	93	H67	M・上	51	IVa	深鉢	胴				LR斜行縄文 弧状沈線
IV-106	57	93	G67	M・上	50	IVa	深鉢	口				沈線文
IV-106	58	94	G67	M・上	50	IVa	深鉢	口				S字状沈線文
IV-106	59	94	H67	M・上	54	IVa	深鉢	胴				弧状沈線文
IV-106	60	93	G66	M・上		IVa	深鉢	口～胴	13.5	—	(11.2)	LR斜行縄文 沈線文
IV-106	61	94	G66	M・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				捺糸文
IV-106	62	94	G66	M・3トレンチ		IVa	鉢形	胴～底				無文
IV-107	1	94	H66	M5・ベルト		IVa	深鉢	口				斜行縄文 貼付帯 指頭押捺 沈線文
IV-107	2	94	G66	M5・上		IVa	深鉢	口				縦貼付帯 指頭押捺
IV-107	3	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	胴				横位貼付帯 円形刺突文
IV-107	4	94	G66	M5・上		IVa	深鉢	口				貼付帯 LR斜行縄文 指頭押捺
IV-107	5	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				貼付帯 LR斜行縄文
IV-107	6	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				縦貼付帯
IV-107	7	94	G66	M5・上		IVa	深鉢	口				十字貼付帯
IV-107	8	94	H66	M5・上		IVa	深鉢	口				横貼付帯
IV-107	9	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	胴				縦貼付帯
IV-107	10	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～底	(11.3)	6.0	18.4	2列縦貼付帯 縄線文
IV-107	11	94	H66	M5・上		IVa	深鉢	口				縦貼付帯 刺突文
IV-107	12a	94	G66	M5・上		IVa	深鉢	胴				縦横位貼付帯 沈線文 指頭押捺 刺突文
IV-107	12b	94	G66	M5・上		IVa	深鉢	胴				沈線文
IV-107	13	94	H66	M5・上		IVa	深鉢	口				沈線文 ループ状貼付
IV-107	14	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				縦貼付帯 歯状沈線 指頭押捺
IV-107	15	94	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～底	(10.0)	8.0	18.6	無文
IV-107	16	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～底	8.1	3.2	12.0	斜行縄文 縄線文
IV-107	17	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				横走縄文
IV-107	18	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				LR斜行縄文
IV-107	19	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～底	7.3	4.0	8.3	無文
IV-107	20	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				捺糸文
IV-107	21	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				LR斜行縄文
IV-108	22	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				捺糸文
IV-108	23	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				横走縄文
IV-108	24	94	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				折返し 斜行縄文
IV-108	25	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				折返し 斜行縄文
IV-108	26	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				折返し 横走斜行縄文
IV-108	27	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				折返し 斜行縄文
IV-108	28	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				折返し 斜行縄文

押込 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口徑	底徑	高さ	
IV-108	29	95	G66	M5・上		IVa		口				折返し 横走縄文
IV-108	30	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				貼付瘤 横糸文 沈線文
IV-108	31	95	G66	M5・上		IVa		口				斜行縄文 縄線文
IV-108	32	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				絡糸体正直文 横糸文
IV-108	33	95	F66	M5・上		IVa		口				斜行縄文 縄線文
IV-108	34	95	F65	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				網目状横糸文
IV-108	35	95	F66	M5・上		IVa		口				網目状横糸文
IV-108	36	95	G66	M5・上		IVa		口				折返し 横糸文
IV-108	37	95	F66	M5・上		IVa		口				絡糸体正直文 網目状横糸文 指頭押捺
IV-108	38	95	G66	M5・上		IVa		口				横糸文
IV-108	39	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				無節横糸文
IV-108	40	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				横糸文
IV-108	41a	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				横糸文
IV-108	41b	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				横糸文
IV-109	42	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	胴				横糸文
IV-109	43	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				円形刺突文 沈線文 斜行縄文
IV-109	44	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	口				円形刺突文 沈線文 斜行縄文
IV-109	45a	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	胴				貼付帯 指頭押捺 沈線文
IV-109	45b	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	胴				貼付帯 指頭押捺 沈線文
IV-109	46	95	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				無文
IV-109	47	96	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～底	(31.1)	(11.0)	52.0	沈線文 1R斜行縄文
IV-109	48	96	G66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴	(12.4)	—	(19.6)	貼付瘤 沈線 斜行縄文
IV-110	49	96	G66	M5・上		IVa	深鉢	胴～底	—	(10.0)	(29.5)	1R斜行横走縄文
IV-110	50	96	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴	(14.5)	—	(16.3)	横糸文押捺
IV-110	51	96	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～底	7.5	4.8	11.1	網目状沈線 穿孔×4
IV-110	52	96	F66	M5・上		IVa	深鉢	胴～底	—	6.8	(9.4)	横糸文
IV-110	53	95	F66	M5・上		IVa		口				沈線文
IV-110	54a	95	F66	M5・上		IVa		口～胴				口唇縄線押捺 多重沈線文
IV-110	54b	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口～胴				口唇縄線押捺 多重沈線文
IV-110	54c	95	F66	M5・上		IVa		口～胴				口唇縄線押捺 多重沈線文
IV-110	55	95	G66	M5・上		IVa		口～胴				弧状沈線文 穿孔
IV-110	56	95	F66	M5・上		IVa		口				沈線 刺突文
IV-110	57	95	F66	M5・上		IVa	深鉢	口				多重沈線文
IV-110	58	95	F66	M5・上		IVa		口				沈線文
IV-110	59	95	H66	M5・上		IVa		口				沈線文
IV-111	60a	95	F66	M5・1	31	IVa		口～胴				沈線文 1R斜行縄文
IV-111	60b	95	F66	M5・1		IVa	深鉢	口～胴				沈線文 1R斜行縄文
IV-111	61	95	H65	M5・1		IVa	深鉢	口～胴				貼付帯 突引文 斜行縄文 縄押捺
IV-111	62	95	F65	M5・1		IVa		口				縦貼付帯 沈線文
IV-111	63	95	G65	M5・1		IVa		口				貼付瘤 沈線文
IV-111	64	95	F66	M5・1		IVa	深鉢	口～胴				貼付瘤
IV-111	65	95	G66	M5・1	29	IVa	深鉢	口～胴				無節縄文
IV-111	66	95	G65	M5・1		IVa	深鉢	口				折返し 横糸文
IV-111	67	95	F66	M5・1	34	IVa	深鉢	胴				貼付瘤 横糸文
IV-111	68	95	F65	M5・1		IVa	深鉢	口				1R斜行縄文
IV-111	69	95	F65	M5・1		IVa	深鉢	口				1R斜行縄文
IV-111	70	95	F66	M5・1		IVa	深鉢	口				横走縄文
IV-112	71a	95	F66	M5・1	9	IVa		口～胴				円形刺突文 縄文
IV-112	71b	95	F66	M5・1	9	IVa	深鉢	口～胴				円形刺突文 縄文
IV-112	71c	95	F66	M5・1	9	IVa		口～胴				縄文
IV-112	72	95	G66	M5・1		IVa	深鉢	口				横走縄文
IV-112	73	95	G65	M5・1		IVa	深鉢	口～胴				横走縄文
IV-112	74	95	F66	M5・1	13	IVa	深鉢	口～胴				折返し 1R斜行縄文
IV-112	75	95	G65	M5・1	149	IVa	深鉢	胴				1R斜行縄文
IV-112	76	95	G65	M5・1	138	IVa	深鉢	口～胴				絡糸体正直文 横糸文
IV-112	77	98	G66	M5・1	155	IVa	深鉢	口				円形刺突文 横糸文

押印 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口徑	底徑	高さ	
IV-112	78	98	G65	M5・1		IVa	深鉢	口				絡条体庄直文 標系文
IV-112	79	98	G65	M5・1	136	IVa	深鉢	口				標系文
IV-112	80	98	F65	M5・1	130	IVa	深鉢	口				折返し 弧線文 標系文
IV-112	81	98	G66	M5・1	23	IVa	深鉢	口～胴				標系文 弧状沈線文
IV-112	82	98	G65	M5・1		IVa	深鉢	口				口縁貼付帯 標系文
IV-113	83a	98	G66	M5・1	26	IVa	深鉢					弧状沈線文 標系文
IV-113	83b	98	G66	M5・1	26	IVa	深鉢					標系文
IV-113	84	98	G65	M5・1	135	IVa	深鉢	胴				標系文
IV-113	85	98	G66	M5・1	159	IVa	深鉢	胴				標系文 蛇行沈線文
IV-113	84	98	G65	M5・1	143	IVa	深鉢	口				無文
IV-113	87	98	G65	M5・1		IVa	深鉢	口				無文
IV-113	88	98	G65	M5・1		IVa	深鉢	口				折返し 沈線文
IV-113	89	98	F66	M5・1		IVa	深鉢	口				沈線文
IV-113	90	98	G65	M5・1		IVa	深鉢	口～胴				横弧状文
IV-113	91	98	F66	M5・1	33	IVa	深鉢	胴				縦弧状文
IV-113	92	98	F66	M5・1	163	IVa	壺形	胴				渦巻文
IV-113	93	98	G66	M5・1	27	IVa	深鉢	胴～底				標系文
IV-113	94	98	G65	M5・1		IVa	深鉢	底				—
IV-113	95	98	G66	M5・1	158	IVa	深鉢	胴～底				縦沈線文
IV-114	96	98	F66	M5・1	35	IVa	浅鉢	口～胴	(25.0)	—	(13.6)	折返し 貼付帯 斜行縄文
IV-114	95	99	G66	M5・1	24	IVa	深鉢	口～底	(10.6)	6.1	13.9	刺突文 蛇行沈線文 LR斜行縄文
IV-114	98	99	F66	M5・1	8・154	IVa	深鉢	口～胴	—	—	(19.0)	貼付帯 沈線 LR斜行縄文
IV-114	99	99	F66	M5・1	10	IVa	深鉢	口～胴				弧状沈線文 斜行縄文
IV-114	100a	98	G66	M5・1		IVa	深鉢	口				折返し 貼付帯 縄線文
IV-114	100b	98	G66	M5・1		IVa	深鉢	口				環状貼付帯 貼付帯
IV-114	101	99	G66	M5・1	36・39・161	IVa	深鉢	口～底	(23.3)	10.5	40.6	絡条体庄直文 弧状沈線文 標系文
IV-115	102	99	G66	M5・1		IVa	深鉢	胴～底	—	8.0	(13.6)	斜行縄文
IV-115	103	99	G65	M5・1	147	IVa	深鉢	胴～底	—	9.1	(18.5)	標系文
IV-115	104	100	G65	M5・1	148	IVa	深鉢	口～胴				縄線文 LR斜行縄文
IV-115	105	100	G66	M5・1	160・257	IVa	壺形	口～胴	11.7	—	(23.8)	折返し 標系文
IV-115	106	100	G66	M5・1	28・164	IVa	深鉢	口～底	13.8	8.5	24.9	縦位標系文
IV-115	107	101	G65	M5・1		IVa	鉢形	胴～底	—	3.5	(5.8)	標系文 網目状沈線文
IV-115	108	101	G66	M5・1		IVa	深鉢	口～底	9.5	5.2	11.8	平行蛇行沈線文
IV-115	109	100	G66	M5・1	107・162	IVa	深鉢	口～胴	(20.4)	—	(23.2)	平行 弧状沈線文
IV-116	110	100	G65	M5・1	145・146	IVa	深鉢	口～胴	—	—	(43.0)	沈線文 標系文
IV-116	111	100	G65	M5・1		IVa	深鉢	口～胴	(14.5)	—	(17.2)	無文
IV-116	112	101	H65	M5・1	119・137	IVa	深鉢	口～胴	20.4	—	(27.8)	斜行縄文 貼付帯 指頭押捺 弧線文
IV-117	113	101	G66	M5・2		IIIa	深鉢	口				粘土紐貼付 馬蹄形庄直文 縄文押捺
IV-117	114	101	H65	M5・2		IVa	深鉢	口				斜行縄文 縄線文 貼付帯 指頭押捺
IV-117	115	101	H65	M5・2		IVa	深鉢	口				貼付帯 縄押捺
IV-117	116	101	G66	M5・2		IVa	深鉢	口				折返し 標系文
IV-117	117	101	G65	M5・2		IVa	深鉢	口				斜行縄文
IV-117	118	101	F65	M5・2		IVa	深鉢	口～胴				沈線文 LR斜行縄文
IV-117	119	101	G66	M5・2		IVa	深鉢	口				縦位縄文 円形刺突文
IV-117	120	101	G66	M5・2トレンチ		IVa	深鉢	口				折返し LR斜行縄文
IV-117	121	101	G66	M5・2		IVa	深鉢	口～胴				LR斜行縄文 指頭押捺
IV-117	122	101	G66	M5・2		IVa	深鉢	口～胴				斜行縄文 補修孔
IV-117	123	101	G66	M5・2		IVa	深鉢	口～胴				折返し 絡条体庄直文 標系文
IV-117	124	101	F66	M5・2	32	IVa	深鉢	口～胴				LR斜行縄文
IV-117	125	101	F65	M5・2	131	IVa	深鉢	口～底	(15.0)	7.6	(22.7)	横走縄文 補修孔
IV-117	126	101	G66	M5・2	264	IVa	深鉢	口				横走縄文
IV-117	127	101	G66	M5・2		IVa	深鉢	口				折返し LR斜行縄文
IV-118	128	102	G66	M5・2	42・44	IVa	深鉢	口～胴	18.1	—	(31.0)	LR斜行縄文
IV-118	129	102	G66	M5・2		IVa	深鉢	口				折返し LR斜行縄文
IV-118	130	102	G66	M5・2	38	IVa	浅鉢	口				横走縄文 粘土紐貼付 ヘラナゲ 刺突文
IV-118	131	102	G66	M5・2	25	IVa	深鉢	口～胴	(23.0)	—	(20.7)	貼付帯 無節縄文

挿入 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様・備考
									口径	底径	高さ	
IV-118	132	102	G65	M5・2		IVa	深鉢	胴				LR斜行縄文
IV-119	133a	102	G66	M5・2	250	IVa	深鉢	口～胴				貼付瘤 絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-119	133b	102	G66	M5・2	251	IVa	深鉢	口～胴				貼付瘤 絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-119	134	102	G66	M5・2	254	IVa	深鉢	口～胴				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-119	135	102	G66	M5・2	263	IVa	深鉢	口				絡糸体圧痕文 貼付帯 燃糸文
IV-119	136	102	F65	M5・2		IVa	深鉢	口				粘土紐貼付 刺突文
IV-119	137	102	G66	M5・2		IVa	深鉢	口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-119	138	102	F66	M5・2トレンチ		IVa	深鉢	口～胴(33.4)	—	—		斜行縄文 沈線文 指頭押捺
IV-119	139	102	G66	M5・2		IVa	深鉢	口				貼付瘤 沈線文 燃糸文 指頭押捺
IV-119	140	103	F66	M5・2	6	IVa	深鉢	口	19.2	—	29.0	LR縄文 貼付帯 刺突文
IV-119	141	103	G65	M5・2	141・142	IVa	深鉢	口～胴(22.2)	—	(26.4)		LR斜行縄文 貼付帯 漆文 沈線文 縄文押捺
IV-120	142	103	E65	M5・2	152	IVa	深鉢	口～胴(28.0)	—	(34.9)		折返し 燃糸文
IV-120	143	102	F66	M5・2トレンチ		IVa	深鉢	口				燃糸文 沈線文
IV-120	144	103	G66	M5・2		IVa	深鉢	胴～底				燃糸文
IV-120	145	103	G65	M5・2	164	IVa	深鉢	胴～底	—	9.1	(30.6)	燃糸文
IV-120	146a	102	G66	M5・2	256～258	IVa	深鉢	胴				横走縄文
IV-120	146b	102	G66	M5・2	257	IVa	深鉢	胴				斜行縄文
IV-121	147	103	G66	M5・2	259	IVa	深鉢	口				無文
IV-121	148	103	G66	M5・2	265	IVa	深鉢	口				沈線文 貼付帯
IV-121	149	103	G65	M5・2		IVa	深鉢	口				沈線文
IV-121	150	103	G66	M5・2	26	IVa	深鉢	口				円形刺突文 沈線文 燃糸文
IV-121	151	103	E65	M5・2		IVa	深鉢	口				弧状沈線文 燃糸体圧痕文
IV-121	152	103	F65	M5・2		IVa	深鉢	口				燃糸文 沈線文 刺突文
IV-121	153	103	G66	M5・2		IVa	深鉢	口～胴				折返し 弧状沈線文
IV-121	154	103	G66	M5・2		IVa	深鉢	口～胴				壺南状沈線文
IV-121	155	103	F66	M5・2トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				平行沈線文 縦弧状文
IV-121	156	104	G66	M5・2		IVa	深鉢	口～底(6.8)	(5.0)	10.0		弧状沈線文
IV-121	157	104	G65	M5・2	165	IVa	深鉢	口～底(9.6)	4.2	9.9		弧状沈線文
IV-121	158	104	G67	M5・2	38	IVa	深鉢	口～胴(29.0)	—	(30.8)		横位ウロコ状文
IV-121	159	103	G66	M5・2	37	IVa	深鉢	口～胴				横走沈線文 沈線文
IV-122	160a	104	G66	M5・2	108・262	IVa	深鉢	口～胴				粘土紐貼付 入組文
IV-122	160b	104	G66	M5・2	108・262	IVa	深鉢	口～胴				入組文
IV-122	161	104	G66	M5・2	19	IVa	深鉢	胴～底				—
IV-122	162	104	F66	M5・2	220・221	IVa	深鉢	胴～底				—
IV-122	163	104	F65	M5・2	132	IVa	深鉢	底				—
IV-122	164	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				口唇外方肥厚
IV-122	165	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				LR斜行縄文
IV-122	166	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				R斜行縄文 円形刺突文
IV-122	167	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	胴				LR斜行縄文
IV-122	168	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				LR斜行縄文 指頭押捺
IV-123	169	104	F66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				LR斜行縄文 縦・横位貼付帯
IV-123	170	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				無筋縄文
IV-123	171	104	H67	M5・3	305	IVa	深鉢	口				R燃糸文
IV-123	172	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴(14.0)	—	(16.3)		LR斜行縄文
IV-123	173	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-123	174	104	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-123	175	104	H66	M5・3		IVa	深鉢	口				絡糸体圧痕文 燃糸文
IV-123	176	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口				網目状沈線文
IV-123	177	105	H66	M5・3	301	IVa	深鉢	口				燃糸文
IV-123	178	105	H66	M5・3	295	IVa	深鉢	口				無筋縄文 口唇縄文押捺
IV-123	179	105	H67	M5・3		IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-123	180	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-123	181	106	F65	M5・3		IVa	深鉢	胴				燃糸文
IV-123	182	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	浅形	口～底(12.0)	8.0	23.5		無文
IV-124	183	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴(23.1)	—	32.6		無筋縄文 口唇縄文押捺
IV-124	184	105	H66	M5・3	30	IVa	浅鉢	口～胴(9.8)	—	(8.8)		入組帯状文

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
									口径	底径	高さ	
IV-124	185	105	H66	M5・3		IVa		口				横走沈線文 調文
IV-124	186	105	F66	M5・3トレンチ		IVa		口				横走沈線文 調文
IV-124	187	105	G66	M5・3		IVa		口				横走・蛇行沈線文
IV-124	188	105	H67	M5・3		IVa		口～胴				横走沈線文 調文
IV-124	189	105	G66	M5・3トレンチ		IVa		胴				弧状沈線文
IV-124	190	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				縦・横位連弧文
IV-124	191	105	H66	M5・3	299	IVa		口				横長蛇行沈線文
IV-124	192	105	H69	M5・3		IVa	深鉢	口				横走沈線文
IV-124	193	105	G66	M5・3トレンチ		IVa	深鉢	口～胴				横走・斜行沈線文
IV-124	194	105	H66	M5・3		IVa	深鉢	口				横走沈線文 指頭押捺
IV-124	195	106	H66	M5・3	267	IVa	深鉢	口～胴				沈線文 燃糸文

表IV-7 盛土出土掲載土製品一覧

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査 区	層位・回数	遺物番号	分類	器種	部位	大きさ (cm)			備考
									口径	底径	高さ	
IV-125	1	106	E67	M2・上		土製品	鐺形	吊手部	(3.1)	3.1	—	
IV-125	2	106	E68	M2・上		土製品		橋状握手	(4.6)	1.5	0.9	
IV-125	3	106	D69	M2・上		土製品		橋状握手	(4.9)	3.0	1.4	
IV-125	4	106	F65	M2・2		土製品		橋状握手	(5.2)	(4.5)	(1.5)	
IV-125	5	106	E69	M3・1		土製品		橋状握手	(4.2)	2.3	1.5	
IV-125	6	106	E69	M3・2	240	土製品	土偶		(3.4)	1.9	1.8	
IV-125	7	106	F69	M3・1～4		土製品	鐺形	吊手部	2.2	1.9	(1.3)	
IV-125	8	106	H67	M4・上		土製品		橋状握手	(4.2)	2.1	0.7	
IV-125	9	106	F65	M5・2		土製品	土偶		(3.8)	1.9	1.3	
IV-125	10	106	F66	M5・上		土製品	鐺形		3.7	2.0×1.0	5.5	

表IV-8 盛土出土掲載石器一覧

探洞 番号	掲載 番号	図版 番号	調査 区	層位・回数	遺物番号	遺物名	石材	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
IV-130	1	107	E69	M1・1		石鏃	頁岩	(5.80)	1.30	0.60	2.8	
IV-130	2	107	F69	M1・上面		両面調整石器	泥岩	3.30	4.25	1.40	25.0	
IV-130	3	107	F69	M1・上面		ナリ石	泥岩	5.2	11.75	3.9	221.5	
IV-130	4	107	F69	M1・上面		石製品	砂岩	(8.0)	(14.8)	8.85	1,240	
IV-130	1	107	D68	M2・1		石鏃	頁岩	(2.12)	0.94	0.30	0.5	
IV-130	2	107	D67	M2・2		石鏃	頁岩	(2.11)	1.34	0.30	0.6	アスファルト付
IV-130	3	107	D66	M2・上面		石鏃	黒曜石	(2.54)	(1.45)	0.30	0.7	
IV-130	4	107	E66	M2・2		石鏃	泥岩	(3.25)	1.10	0.55	1.5	
IV-130	5	107	E66	M2・上面		石鏃	泥岩	3.25	(1.35)	0.40	1.5	
IV-130	6	107	E69	M2・1		石鏃	メノウ	3.35	1.45	0.40	1.3	
IV-130	7	107	E68	M2・上面		石鏃	頁岩	3.98	1.42	0.50	2.4	アスファルト付
IV-130	8	107	E67	M2・1		石鏃	黒曜石	(4.30)	(1.66)	0.60	2.7	
IV-130	9	107	E67	M2・上面		石槍・ナイフ類	頁岩	(10.60)	3.30	1.70	32.3	
IV-130	10	107	E67	M2・3		石槍・ナイフ類	頁岩	11.35	3.25	1.55	53.3	
IV-130	11	107	D69	M2・1		石鏃	頁岩	(3.80)	1.40	0.70	2.0	
IV-131	12	107	E67	M2・1		つまみ付きナイフ	頁岩	(11.20)	4.60	1.30	35.2	
IV-131	13	107	D69	M2・1		スクレイパー	頁岩	3.40	3.25	1.10	12.1	
IV-131	14	107	E68	M2・2		ヘラ状石器	泥岩	5.30	5.20	1.95	56.1	
IV-131	15	107	E66	M2・3		石斧	片岩	(6.87)	(2.70)	0.80	22.6	
IV-131	16	107	E66	M2・3		石斧	泥岩	14.10	5.26	3.10	352.4	
IV-131	17	107	D67	M2・1		ナリ切り残片	蛇紋岩	9.20	3.70	3.10	104.6	
IV-132	1	107	E69	M3・5		石鏃	黒曜石	2.70	1.15	0.45	0.9	
IV-132	2	107	F69	M3・3		石鏃	頁岩	3.10	1.25	0.35	0.7	
IV-132	3	107	D68	M3・上面		石鏃	黒曜石	(3.14)	(1.32)	0.40	1.2	
IV-132	4	107	D68	M3・上面		石鏃	頁岩	(3.50)	(1.80)	0.40	1.4	
IV-132	5	107	F69	M3・1		石槍・ナイフ類	黒曜石	(4.75)	2.50	0.60	6.9	分析
IV-132	6	107	E69	M3・1	239	石槍・ナイフ類	黒曜石	6.30	3.20	0.95	12.0	
IV-132	7	107	G69	M3・1		石槍・ナイフ類	黒曜石	(7.00)	2.60	0.70	11.3	被熟
IV-132	8	107	F69	M3・1		つまみ付きナイフ	頁岩	(6.30)	3.40	1.00	15.3	
IV-132	9	107	F69	M3・3		スクレイパー	頁岩	7.75	3.00	2.10	32.3	
IV-132	10	107	E69	M3・4		スクレイパー	泥岩	5.05	6.25	1.90	59.7	
IV-132	11	107	E69	M3・4		両面調整石器	チャート	7.10	4.36	2.35	54.0	
IV-132	12	107	E68	M3・2		両面調整石器	泥岩	7.80	4.40	1.40	44.9	
IV-132	13	107	F69	M3・上面		両面調整石器	泥岩	(10.38)	3.60	1.90	92.0	
IV-133	14	107	E69	M3・上面		ナリ石	砂岩	8.4	14.5	6.1	921.7	
IV-133	15	108	E69	M3・1		ナリ石	砂岩	10.35	17.3	6.5	1,190.3	
IV-133	16	108	E69	M3・3	274	砥石	砂岩	16.4	20.8	7.2	2.700	
IV-133	17	108	E69	M3・2		石製品	砥石	9.20	5.50	2.80	41.0	
IV-134	1	108	G66	M4・上面		石鏃	頁岩	(2.10)	(1.30)	0.40	0.7	
IV-134	2	108	H65	M4・上面		石鏃	泥岩	(3.70)	1.60	0.65	3.2	
IV-134	3	108	G67	M4・上面		石鏃	頁岩	(4.00)	1.25	0.45	1.7	
IV-134	4	108	H67	M4・上面		石鏃	頁岩	4.40	1.40	0.40	1.5	
IV-134	5	108	G67	M4・上面		つまみ付きナイフ	頁岩	(5.74)	2.70	1.10	9.8	
IV-134	6	108	G67	M4・2		両面調整石器	頁岩	3.65	3.90	1.70	24.1	
IV-134	7	108	H66	M4・上面		両面調整石器	泥岩	4.60	2.75	2.05	25.2	
IV-134	8	108	G66	M4・1		両面調整石器	泥岩	6.45	4.0	1.95	39.6	
IV-134	9	108	H67	M4・上面		砥石	砂岩	13.1	7.45	3.9	303.3	
IV-134	1	108	H67	M5・2		石鏃	頁岩	2.10	1.25	0.35	0.7	
IV-134	2	108	E66	M5・上面		石鏃	メノウ	3.03	1.80	0.40	1.3	
IV-134	3	108	G66	M5・3		石鏃	頁岩	(3.25)	1.40	0.45	1.0	
IV-134	4	108	H66	M5・3		石鏃	黒曜石	(3.50)	1.25	0.60	2.0	

採掘 番号	掲載 番号	図版 番号	調査 区	解位・回数	遺物番号	遺物名	石材	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
IV-134	5	108	H66	M5・上面		石鏃	頁岩	(4.20)	1.50	0.50	2.5	アスファルト付
IV-134	6	108	F66	M5・上面		石鏃	チャート	3.40	3.10	1.00	7.2	
IV-134	7	108	F65	M5・1		つまみ付きナイフ	頁岩	6.40	3.30	1.00	14.4	
IV-135	8	108	G66	M5・2		スクレイパー	頁岩	(8.50)	6.20	1.50	68.6	
IV-135	9	108	F66	M5・上面		ヘラ状石器	泥岩	(7.40)	5.75	2.30	108.6	
IV-135	10	108	E66	M5・3		石斧	泥岩	8.30	3.75	1.90	94.0	
IV-135	11	108	F65	M5・2		石斧	泥岩	10.10	4.30	2.05	99.4	
IV-135	12	108	F66	M5・2		石鏃	安山岩	7.4	10.7	3.1	189.8	
IV-135	13	108	F65	M5・2		砥石	砂岩	9.6	6.5	3.2	165.1	
IV-135	14	108	F66	M5・上面		砥石	砂岩	13.3	6.0	3.2	243.5	
IV-136	15	108	H66	M5・3	302	石皿	砂岩	51.5	26.7	10.6	26,800	
IV-135	16	108	F66	M5・上面		石製品	頁岩	3.95	2.60	1.70	9.1	三角形石製品

V 包含層出土の遺物

1 概要 (図V-1~30 表V-1~5 図版109~117)

包含層出土の遺物総点数は64,433点で、土器等が16,647点、石器等が47,530点である。この他に金属製品や陶磁器など、近現代の遺物が出土している。包含層から出土した土器や石器の個別数については一覧表(表1-2~4)に示した。また、発掘区別出土点数分布図(図V-1~6)も作成した。本遺跡の包含層から出土した土器の各時期は、縄文時代早期(Ⅰ群b類)280点、前期(Ⅱ群a類)3点、中期(Ⅲ群a類)169点、(Ⅲ群b類)14点、後期(Ⅳ群a類)16,108点、晩期(Ⅴ群c類)23点、擦文文化期(Ⅶ群)12点である。主体は縄文時代後期前葉Ⅳ群a類土器が全体の95%を占める。

出土の分布を見ると調査区全体から出土しているが、B地区の56ライン付近から60ラインまでの間は出土数が少ない。Ⅳ群a類を除いた他の時期は、概ね調査区西側から出土する傾向にある。Ⅲ群b類土器14点のうち、K53区のⅡ層から北筒式の厚手の口縁部破片が1点出土した。この他にもH-4(竪穴住居跡)の覆土中からも口縁部の小型の破片が1点出土している。道南部では断片的ではあるが北筒式土器の出土例があり、類例についてⅦ章で記載した。

主体となるⅣ群a類土器は天祐寺式から涌元式、トリサキ式、大津式期にかけてのもので、白坂3式期以降のものは出土していない。後期初葉の天祐寺式または余市式に相当するものは口縁部上端に瘤状の貼付帯をもつ深鉢形土器で、これに該当するものに(13~17)がある。

涌元式には出土地点の違いなどから涌元1式と涌元2式に分けられているが、ここでは細分せずに涌元式に相当するものとして扱った。特徴は折返し口縁や貼付帯を付して折返し状にしたもの、口縁部に瘤状の貼付けが上下に付されるもの(38~40)や、口縁部に横環する縄線文を施し、蛇行沈線や弧状沈線で文様構成されるもの(50~62・87・99)などがある。地文には捺糸文と縄文の施されたものがある。

トリサキ式期のもは、口縁部に8の字形やループ状、環状の粘土紐貼付帯が付され、弧状沈線などが施されるもの(103~105・107)や、無文地に沈線文で構成されるもの(85・97)等がある。また、捺糸文や沈線文が網目状に施されたものもある(74・75)。

大津式期に相当するものは、太い沈線区画に櫛歯状文や縄文が充填され、帯状文として曲線や直線の文様が描かれているもの(108~114)がある。

2 包含層出土の遺物

(1) 土器等 (図V-1~12 図版109~112)

縄文時代早期の土器(Ⅰ群b類) (図V-7-1~3 図版109-1~3)

1a・bは東銅路Ⅲ式。縄線と短縄文で文様構成されている。2a・b、3は中茶路式。器壁が薄手で、横位平行の微隆起線文が施される。2a・bは平行する微隆起線文と細かい撚りの絡条体圧痕文で構成されている。

2bには縦位の微隆起線文が組み合わせられる。3の口縁部には低い山形突起があり、口径は約30cm、残存高が26.2cmを測る深鉢で底部を欠損する。波状や平行する微隆起線文が横環し、その間には撚りの細かい絡条体圧痕文が施されている。

縄文時代中期前半の土器(Ⅲ群a類) (図V-7-1~10 図版109-1~10)

4・5a・b・8・9は円筒土器上層b式で、口縁部には擬縄貼付文帯が施される。4は貼付瘤が付され口唇

上と器面に馬蹄形の縄文圧痕が施される。5a・bには擬縄貼付文帯で区画された内側に馬蹄形圧痕文が施され、口唇部には撫系圧痕文が付される。9はくびれのある頸部に連続する刺突文が施される。6・10はサイベ沢Ⅶ式。6は口径約18.0cm、高さ19.0cm、底径9.3cmの深鉢。口縁は平縁で口縁部が大きく外反し、最大径が口縁部にある。胴部にはやや膨らみがあり、底部は平底で地文は結束羽状縄文である。10は底部で胴部から上位を欠損する。7は見晴町式。口唇部に細かい燃りの縄文押捺が回転施文されている。

縄文時代中期後半の土器（Ⅲ群b類）（図V-7-11・12 図版109-11・12）

11は北筒Ⅱ式のトコロ6類に相当するもの。K53区のⅡ層中から出土した。口縁部には肥厚帯がめぐりその幅は約4cmを測り、器壁は約1.4cmと厚く仕上げられている。口縁部には低い山形突起がつけられ、口唇部が尖頭状で口縁部肥厚帯の断面形は三角形を呈する。肥厚帯上には断面形が四角形の押し引き文が2段連続して施文され、口唇部上にも連続する刻み目が施される。山形突起部の肥厚帯には縦位の隆起帯が貼付されており、肥厚帯がさらに厚みを帯びている。縦位の隆起帯から胴部にかけては横位の押し引き文が垂下する。また、肥厚帯直下には斜め下方から施文される円形刺突文が横環し、内面が突瘤状となっている。地文は羽状縄文である。12はノダツⅡ式。くびれの弱い胴部から頸部にかけての破片である。地文は単節の斜行縄文で、低い貼付帯を付した後に縄文が施文され、最後に押し引き気味の短刻線文が刻まれている。

縄文時代後期前葉の土器（Ⅳ群a類）（図V-7-11-13~115 図版109~112-13~115）

13~17は天祐寺式または余市式に相当するもの。口縁部上端に籬状の貼付帯をもつ深鉢形土器で、貼付帯上にも斜行縄文が施されている。13は口縁部上端に幅約1.8cmで厚みのある籬状の貼付帯が横環する。口唇部先端が切り出し状で外傾する。原体の違う斜行縄文が貼付帯上と器面に施文され、羽状をなす。14は口縁部上端の貼付帯と、地文に横回転の斜行縄文が施される。貼付帯の下位が無文となる。15は大型の深鉢で口縁部に幅約2cmの貼付帯が横環する。胴部の地文施文後に貼付帯が付される。貼付帯上と胴部の地文が羽状となるように施文される。16は口縁部貼付帯に沈線が施され、口唇の形態は平坦である。羽状となる地文施文後に貼付帯が付される。地文は同一原体で、羽状の境界に原体端の結び目の回転圧痕が線状に残る。17は器壁が約1.4cmとやや厚手で、灰白色を呈し砂礫を多く含む胎土である。口縁部には肥厚帯があり、わずかに外傾する。LR斜行縄文が施される。18は地文にLR斜行縄文が施される。19は同一原体の斜行縄文が胴部と貼付帯上に同時に施文される。施文後に貼付帯の両側を縁取るように沈線が横環する。20a・bも胴部と貼付帯に施文するもので、貼付帯を境に羽状となる。20aは横環する貼付帯に垂下する貼付帯が上位から重ねられ先端部が環状になる。20bは横環する貼付帯の両側を縁取るように縄線が廻る。21は口縁部下に貼付帯が横環し、貼付帯上には連続する刺突文が施される。貼付帯より上の口縁部は既無文帯で、器面が指頭圧痕によって凸凹となる。貼付帯上にも同一原体と考えられる縄の押捺が認められる。Ⅲ群b類の可能性もある。22~26・28は連続する円形刺突文が施されるもの。25・26は口唇部上にも刺突文が施される。25は籠状工具による浅い沈線が施され、その後刺突文が施文されている。27は口縁部が欠損する。頸部は無文帯でくびれがあり、貼付帯を挟んで縄文が施文される。貼付帯上には刺突文が施される。29~33は地文縄文のもの。31は口縁部に低い貼付帯が付され折返し状で、貼付帯の下は無文帯となる。胴部、口縁部とも同一原体による斜行縄文が施される。32は羽状縄文、33は横走気味である。34は深鉢で口径が17.5cm、胴部下半を欠損する。口縁部に4か所山形突起を有し、突起の頂部が指頭押捺によって爪痕の残る窪みが付けられる。35は口径が13.5cm、高さ13.3cmで胴部から口縁部にかけてやや膨らみのある深鉢。36は口径が17.4cm、高さ17.8cmの深鉢で器形は35とよく似ている。地文はRL斜行縄文で、口縁部上端には押し引きによる沈線が横環する。また、胴部には2条の縄端末の結び目の回転圧痕が線状に廻る。37~42は縦位の貼付帯や瘤状の貼付帯が口縁の波頂部に沿って付されるもの。41の口唇部には、爪痕を残す指頭押捺が施される。縄線は縦位の貼付帯を付した後に施されている。貼付帯上にも爪で施文

される。42は外傾する口唇とその直下に瘤状の貼付をして、そこから垂下する縦の貼付帯が付される。貼付帯上には下方から刺突文が施される。口縁部下位の2条1単位で描かれる沈線は、半截竹管状工具を用いて貼付帯を付した後に施文されている。43は外反する折返し口縁で、口唇部上には連続する刺突文が施される。地文のLR斜行縄文は折返し前に施文されている。44も口唇部上に連続する刺突文を施し、口縁部が波状となる。口縁直下は無文帯で地文は燃糸文が施される。45・46は篋状施文具による突引文が施され地文はともにRL斜行縄文。III群b類B簡式とも考えられる。45は口縁部に貼付帯が付され、2段の突引きが施される。47・48は円形刺突文が施文されるもの。47は器面と口唇上にも連続する刺突が施される。口縁最上部に積まれた輪積みの跡が、内面ではナデ消されずに隙間が残り、指頭圧痕も残る。48の円形刺突文の一つには、環状の粘土紐貼付けが付される。49・65・71は折返し口縁に燃糸文が施文される。折返し口縁部にも一部施文されている。49の口唇上には連続する刺突文が施される。50～60・62～64は口縁部や胴部にかけて横環する縄線や沈線(60)、絡条体圧痕文(51)が施されるもの。54は口縁部が外傾し、口唇上にも縄の押捺が施文される。58の口唇上には爪痕を残す指頭圧痕が施される。61は横環する2条の沈線とその下位には原体結び目の回転圧痕が残る。66～69・72・73・76～79は燃糸文が施文されるもの。70・75は網目状燃糸文。74は網目状沈線文で、口唇部は角形で外方に肥厚する。77は撚りの細かい斜行縄文で、器面には原体結び目の回転圧痕が残る。80～102は主に沈線で文様構成されるもの。地文に縄文を持つものは80・81・84・86・87・89・98・99・101がある。80・81は地文施文後に、弧状沈線が向かい合うように施文される。80は口唇部に刻み目が加えられる。99は口縁部に2条の縄線が横環し、そこから2本の蛇行沈線が垂下する。縄線の間は無文帯となる。103～105・107は口縁波頂部下に8の字形の粘土紐の貼付けや環状の貼付けが上下に施されるもの。103は波頂部に窪みがあり、2条の縄線で区画された中に斜行縄文が施される。器面には赤色顔料が僅かに付着する。上から3つ目の環状の貼付けが剥落している。104は上下2つの環状の貼付と、3条の縄線、地文には燃糸文が施される。105は頭部のくびれが強く、器壁は薄く仕上げられる。上から2つ目の環状の貼付けが剥落している。横環する横位平行の帯状文の間は無文帯となる。器面には赤色顔料が僅かに付着する。107は8の字形の粘土紐貼付け部分。106・108～114は大津式に相当する。106は口縁の突起部で内外面に粘土紐の貼付けが付されている。108の口唇部には爪による刻みが2か所付けられる。口縁部下位には2条の沈線が横環し、垂下するように2条の弧状沈線が施文されている。109は間隔の狭い2条の沈線が横環し、直交する沈線が垂下する。110・114a・bは、直線や曲線など幅広い2本組沈線で描かれた区画内に楕円状文が充填され、帯状文となる。111aは山形突起を有し口縁部が外傾する。口縁部には2条の横環する沈線と縦位の弧状沈線が施文されている。111bは胴部片で方形や直線、曲線などの沈線が施文される。112・113は2条1単位の曲線文が描かれる。113は丸みを帯びる胴部片で、上端は帯状文となる。115の底部には葉脈圧痕が残る。

縄文時代晩期の土器 (V群c類) (図V-12-116・117 図版112-116・117)

116a・bは大洞A式に並行するもの。口縁から胴部にかけての深鉢で器壁が薄く仕上げられ、胎土には砂礫を多く含む。口縁部に小突起を有し、口縁は緩やかに外反する。口縁部直下に浅い幅約3～4mmの沈線が1条めぐり、幅約1.5cmの浅く窪む頭部を挟んでその下の肩部には沈線が2～3条横環する。116bの胴部には撚りの細かい地文が見られるが判然としない。内面は黒褐色を呈する。117は台付浅鉢形土器で沈線が横環する。

縄文文化期の土器 (VII群) (図V-12-118 図版112-118)

118は縄文文化期前半の坏で体部の約半分と底部を欠損する。推定口径は14cm、器厚0.5cm、推定高が5.0cmである。口縁は平縁で浅い沈線が2条横環し、その下位には3条1単位の山形沈線が施文され横環する。内面の口縁部が一部黒褐色を呈する。

土製品 (図V-12-119・120 図版112-119・120)

119は、周縁部や両平坦面に粘土紐の貼付帯を付し、貼付帯の周縁を弧状や直線の沈線が縁取り帯状文としている。貼付帯の内側は凹型の区画となり、区画内の上部に1か所穿孔が施される。断面の形態は三角形を呈し、底部形態は楕円形で、剥離した痕跡がある。本製品の下部に本体部が存在し、そこに取り付けられていた突起(装飾)部分であることが考えられる。大津式の深鉢や浅鉢土器等の口縁突起部には、粘土紐の貼付けを内外面に付して装飾するものがあり、本土製品も類似するもので、大津式期の所産と考えられる。120は土製栓状耳飾。長径3.3cm、短径2.5cm、厚さ2.1cmである。断面の形態は椎骨形を呈し、一方が内湾する。(笠原)

(2) 石器等 (図V-13-28 表V-1・3 図版113-116)

包含層からは47,530点の石器類が出土した。このうち石斧・R剥片・U剥片・微細剥片を含む剥片石器は3,151点、礫・礫片を含む礫石器は44,369点、石製品が10点出土している。掲載した石器は110点である。

剥片石器の石材は頁岩、黒曜石、泥岩、チャートが多く、器種によって利用する石材に偏りがみられる。礫石器の石材は主に泥岩、砂岩、安山岩、凝灰岩である。加工のない自然円礫には珪質頁岩の原石も多い。礫石器44,369点のうち加工の見られない「礫・礫片」としたものは44,026点で、このうち直径5cm前後の自然円礫が39,301点あり礫・礫片の89.2%、石器全体の82.6%を占める。遺跡内でも積極的に利用された形跡は把握できず、用途は不明であるが、何らかの目的で近場の海辺、川辺から大量の転運を持ち込んでいたことがわかる。

石鏃 (図V-16-1-21 図版113-1-21)

包含層から53点出土している。石材の割合は頁岩が25点(47.1%)、黒曜石が24点(45.2%)、泥岩が4点(7.5%)で、道南という地域性からみると、黒曜石の使用率が比較的高い。分布状況は調査区北西側の堅穴住居跡や土坑が集中する範囲内と、そのやや南東側でまとまっている。

21点図示した。1~3は木の葉形、4は欠損により不明、5は基部の両側縁が内湾している。6~21は有茎である。かえしが明瞭なものは6・8・16・17で、それ以外は不明瞭である。石材は1・4・5・7・13・19・21が黒曜石、3・9が泥岩、それ以外は頁岩である。7・19・21は黒曜石原材産地同定を行い、赤井川産との結果を得た(VI章)。

石槍・ナイフ類 (図V-16・17-22~36 図版113-22~36)

包含層から28点出土している。石材の割合は黒曜石が13点(46.4%)、泥岩が9点(32.1%)、頁岩が6点(21.4%)で、黒曜石の利用率が高く石鏃とはほぼ同じ傾向がみられる。15点図示した。22・24・25・27・28は有茎、26・29~36は木の葉形である。23は基部~先端を大きく欠損している。24は丁寧に全体が加工されている。先端部は再生加工されている。先端両脇にノッチ状の加工がみられる。26は周縁から粗く加工され、一部原石面を残す。27は側縁や基部の末端部を再調整整形しており、平面形は左右非対称である。28は図には表れていないが、基部左側縁面は原石面のままである。29は端部に刃部状の加工がみられ、ヘラ状石器ともいえるが、石槍基部として分類した。破損した石槍を再加工したものが、30は加工が基部の加工が左右非対称である。下端を欠失している。31は加工が粗く施され、基部上部は薄く、下半分は厚みを残している。32は両面の周縁のみ粗く加工され、自然面を残している。未成品、あるいは両面調整石器とすることもできる。33は周縁加工が施されるが、下半分は厚みを残している。34は大まかな加工により成形され、一部自然面を残す。全体に厚みを残す。35は2つの破片が接合したものである。全体に粗い加工がされる。素材はやや弧の字に反っている。36は周縁を加工している。下半部に厚みが残る。平面形は左右非対称で、腹面左下側縁にノッチ状の加工が入る。石材は22~24・26~28が黒曜石、25が珪

質頁岩、29・30が頁岩、それ以外は泥岩である。23・24は黒曜石原産地同定を行い、赤井川産との結果を得た（VI章）。

石錐（図V-17-37 図版113-37）

包含層から2点出土している。1点図示した。37は頁岩の石錐である。錐部分のみを加工して作出している。

つまみ付きナイフ（図V-18-38~44 図版113-38~46）

包含層から21点出土している。すべて頁岩製である。分布は北西側の遺物集中区と東側盛土地区に分かれている。9点図示した。38・40~42・44~46は背面全面に丁寧な加工を施し、腹面の右側縁とつまみ部分周辺も細かく加工したものである。39は平面形が左右対称で縦横比がほぼ1:1のものである。背面の中央と腹面の左半分には加工がない。基部は非常に薄い。43は剥片の縁辺数か所と、かろうじてつまみととらえられるような消極的な挟りが左右に施されたものである。41・42は基部の一部を、45はつまみ部を欠損している。46は3つの破片が接合している。破損後、下部の破片に再加工の痕がみられる。

スクレイパー（図V-18-20-47~63 図版113・114-47~63）

包含層から64点出土している。ほぼ調査区全体から出土している。石材は泥岩が27点と最も多く、頁岩23点、黒曜石9点、その他（チャートやメノウなど）が5点である。17点図示した。47は背面全体と周縁を調整し、周縁が波状になっている。48は背面左側縁と下辺に刃部を設けている。49は背面の両側縁と下辺に直線的な刃部が作られる。50は背面が一部原石面を残し粗く加工され、部分的に周縁を加工している。素材は厚みを残し、刃部は急角度につけられている。51は薄手の剥片の背面右側縁を細かく調整している。52は背面周縁に波状の加工がみられる。53は平面形が縦長剥片の背面両側縁が加工されている。左側縁の刃部は直線的、右側縁はゆるく内湾している。54は縦長剥片の基部中央に厚みがある。左右両側縁、特に下半分に二次加工が施される。55は両面の右側縁が二次加工されており、やや波状気味になっている。56は薄手の縦長剥片の背面両側縁と腹面左側縁を加工している。57は薄手の縦長剥片の周縁を加工している。58は縦長剥片の背面周囲の側縁全体を加工している。59は縦長の剥片の背面全体と腹面左縁辺を加工している。左側面は礫面である。60は厚手の剥片の背面一側縁のみを加工する。61は横長剥片の長軸に沿う縁辺を背面側のみ加工する。62は横長剥片の長軸に沿う背面側の一縁辺のみを加工している。63は礫片を成形しないまま周縁を断続的に加工している。石材は47が黒曜石、52がチャート、55が珪質頁岩、56・58・60~63が泥岩、それ以外は頁岩である。

両面調整石器（図V-20-64~67 図版114-64~67）

包含層から10点出土している。4点図示した。石材は頁岩、泥岩、黒曜石がある。64・65は厚みのある素材の両面を粗く調整し成形している。部分的に原石面が残る。65は下端一角にへら状の加工がみられる。66は厚さが均一な剥片の周縁を丁寧に調整している。下端縁辺はへら状に加工されており、へら状石器とも分類できるかもしれない。

へら状石器（図V-21-68~70 図版114-68~70）

包含層から6点出土している。石材は頁岩と泥岩である。3点図示した。いずれもへら状の刃部側が基部の最大幅を有する。70は剥片の打点側にへら状の機能部が作出されている。石材はいずれも泥岩である。

石斧（図V-21-71~73 図版114-71~73）

包含層から22点出土している。石材は泥岩が12点、片岩が8点、砂岩が4点である。3点図示した。71・73は基部全体を入念に研磨して仕上げている。72は細かな敲打調整で全体を整形し、丁寧に仕上げている。断面が円形の厚みのある基部をもち、刃部は破損して失われている。石材は71が泥岩、72が砂岩、73が片岩である。

たたき石 (図V-22-74~77 図版114・115-74~77)

包含層から86点出土している。主に調査区北西側の堅穴住居跡周辺から出土している。石材は砂岩が29点、泥岩が20点、安山岩17点、凝灰岩が11点、花崗閃緑岩が6点、珪質頁岩が2点、礫岩が1点である。4点図示した。74は扁平な礫片の表裏両面を使用している。75は扁平な楕円礫の長軸上の一端を使用している。76はハンドル状に握り部分がある縦長扁平な自然礫をそのまま利用し、一側縁辺を機能部としている。77は縦長の自然礫の長軸上両端と側面の稜線上に使用痕がみられる。石材は74・76が泥岩、75が砂岩、77は凝灰岩である。

すり石 (図V-22・23-78~86 図版115-78~86)

包含層から61点出土している。石材は砂岩が39点、安山岩が14点、凝灰岩が5点、珪質頁岩が1点、花崗閃緑岩が1点、泥岩が1点である。9点図示した。78は縦長の楕円礫の長軸上の一端と、長軸に平行した縁辺を使用している。79は断面が円形の縦長の楕円礫の長軸と平行した一縁辺を利用している。使用面はやや黒ずみ、変色がみられる。80は細長い扁平礫の長軸に平行する一縁辺をすり面とする。礫本体は折れて破損している。81・82は扁平礫の長軸と平行した一辺を使用し、長軸上の一端には敲打痕がみられる。また81の本体の片面は砥石として使われている。83~86は断面三角形すり石である。83・85は一端が欠失している。84は図表面の一角に敲打痕がみられる。また被熱により全体に赤色化している。85はすり面に使用による変色がみられる。86は機能部以外の縁辺にも敲打痕がみられる。全体に被熱し表面が剥離している。

扁平打製石器 (図V-24・25-87~97 図版115-87~97)

包含層から47点出土している。石材は安山岩が26点、砂岩が8点、泥岩が6点、花崗閃緑岩が6点、凝灰岩が1点である。11点図示した。87~91・94~97は扁平楕円礫の長軸上の両端に打ち欠きがあり、長軸と平行する一縁辺を使用するものである。92は使用面だけでなく他の周縁も打ち欠いている。93は平面が不定形な扁平礫を使用し、機能面付近のほか両端の打ち欠きが粗く施される。92・96の使用面はやや外湾する。それ以外はほぼ直線的なすり面をもつ。

石錘 (図V-26-98~100 図版115・116-98~100)

包含層から11点出土している。扁平自然礫の両端に打ち欠きがあり、長軸に平行する一縁辺以上をすり石もしくはたたき石様に利用しているものは扁平打製石器とし、縁辺に使用痕のないものは石錘とした。石材は砂岩が6点、安山岩が2点、泥岩が1点、珪質頁岩が1点、頁岩が1点である。3点図示した。いずれも扁平礫の両端に打ち欠いた加工痕がみられる。98の素材の平面形はほぼ円形である。99は左右非対称の扁平礫で、未使用の扁平打製石器かもしれない。100は細長い楕円礫で、たたき石の可能性もある。

石鏡 (図V-26-101 図版116-101)

包含層から35点出土している。石材は安山岩が26点、砂岩が6点、凝灰岩が2点、泥岩が1点である。1点図示した。101は厚みの均一な板状の安山岩礫片の周縁を加工し、半円状に成形し、直線的な一縁辺を機能面としている。

砥石 (図V-26-102~105 図版116-102~105)

包含層から54点出土している。分布は調査区全体に広がる。石材は砂岩が35点、凝灰岩が16点、安山岩が2点、花崗閃緑岩が1点である。4点図示した。102・103は素材の両面を、104・105は片面のみを使用している。いずれも砥面は使用による凹みがみられ、102は素材が著しく摩耗して薄くなっている。105は溝状に凹む。石材は102・105が凝灰岩、103・104が砂岩である。

石皿 (図V-27・28-106~108 図版116-106~108)

包含層から12点出土している。石材は砂岩が8点、安山岩が4点である。3点図示した。106・107は大円礫の両面を使用し、106は両面とも使用により凹んでいる。108は片面のものの使用で、部分的に使用面が凹む。

石製品 (図V-28-109・110 図版116-109・110)

包含層から8点出土している。有孔自然礫(雨だれ石)や近・現代のものと思われる片岩製の石版片(3点が接合)などである。109は泥岩の礫を細長い棒状に研磨して成形している。上下端面も丁寧に研磨され、面取りしている。110は石棒様の砂岩礫片である。広い両面を研磨して成形していると思われる。幅のやや狭い方の面の一部には敲打痕がある。堅穴住居跡H-5より出土した石器(掲載No.27)はこれと同類のものかもしれない。

また、包含層から出土した黒曜石剥片4点の黒曜石原材料産地同定を行い、盛土遺構付近(D68・F66)出土の3点が白滝産、堅穴住居エリア付近(J50)から出土した1点が赤井川産との結果を得た(VI章)。(新家)

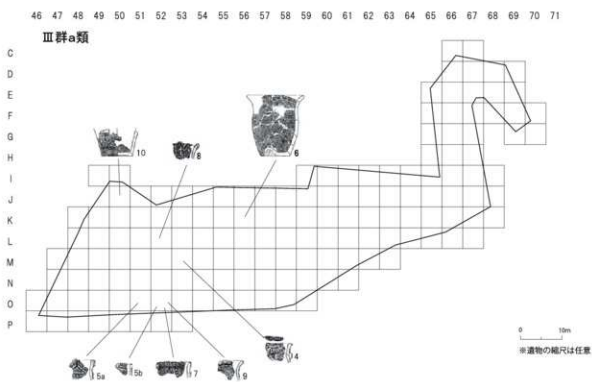
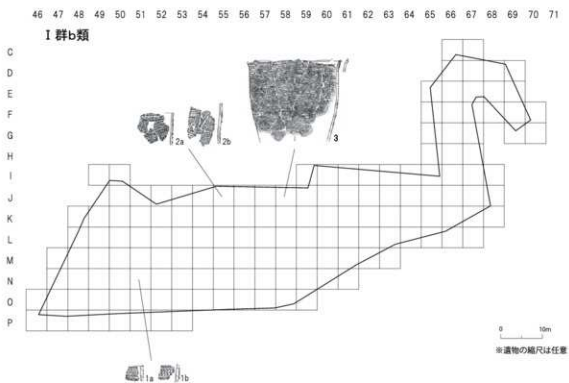
(3) 金属製品・陶磁器類 (図V-29~31 表V-1・4・5 図版117)

包含層出土の金属製品 (図V-29~30 表V-4 図版117)

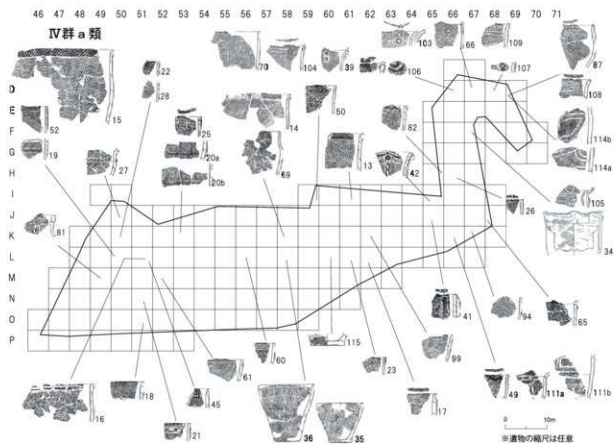
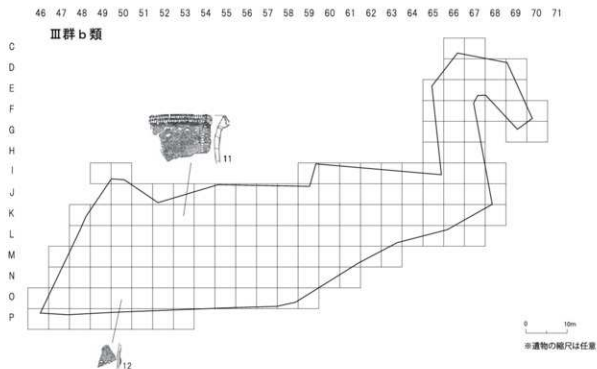
近・現代と考えられる金属製品について16点掲載した。いずれも著しく腐食が進んでおり、遺物本来の形態や種類等を判定することが困難であった。1は刀子の茎にあたる部分に類似し、両端を欠損する。目釘穴などは見られない。2a・2bは丸釘(洋釘)と思われる。2aは頭が欠損し脚部が屈曲する。2bは頭と脚部を失った基部の破片と思われる。3~8は和釘でいずれも頭の曲がった折釘である。折釘は基部と同じ幅で頭がL字に曲がるものである。このうち断面の形態が扁平で縦・横比に差違があるものを船釘とした。3は頭がL字に屈曲し残存長は約5.7cm、断面形は方形に近い形である。4~8は船釘で頭がL字に屈曲する。板と板をつなぐ際に使われるオトシキギと考えられる。4は基部から脚部が欠損する。片面には木質部が付着している。8は長さ約3寸で脚部が僅かに欠損する。9・10は握り鉞または和鉞。9はU字型に折り曲げられた片方の握り手部分から刀身部にかけてのものと思われる。10は握り手部分の破片と考えられる。12は銘版として扱った。片面にはスジ状の刻みが施されている。13は銅版の加工品。厚さ約0.7cmで片側が折り重ねられるように曲げられている。14は厚さ約7.5cmで湾曲する。鉄鍋片とした。15・16は古銭。15は全体に緑青サビに覆われているが「通」の面分が読み取れる。背文はない。16は寛永通寶で背文はない。「寶」の字の面文を見ると、貝の字の「ハ」の部分が「ス」の形に施文されているもので、いわゆる「ス貝寶」とよばれる古寛永である。

包含層出土の陶磁器 (表V-5 図版117)

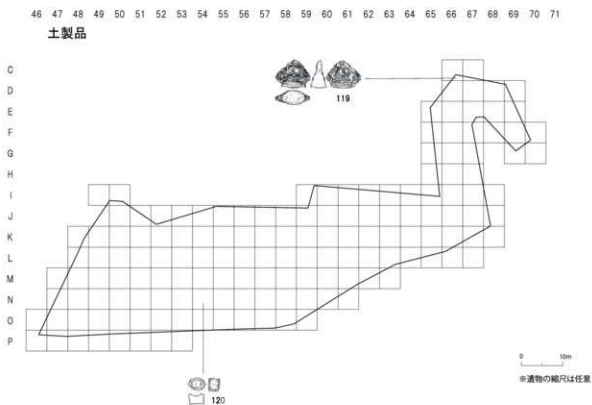
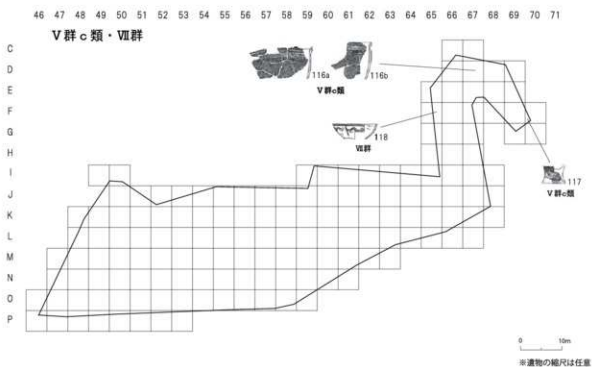
陶磁器類は包含層を主体に232点出土した。このうち染付の碗類や皿等を10点掲載した。碗類としたものは2・5a・b・6~8・10である。2・5a、は端反りのない碗。5bは下半が肉厚で高台が欠損する。10は僅かに端反りする口縁である。皿類としたものに1・4・9がある。4の呉須はやや灰色を呈した青色である。9はく字状に屈曲する。3は瓶類とした。御神酒瓶の口縁部と考えられる。(笠原)



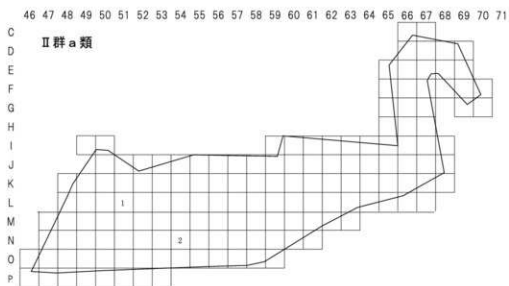
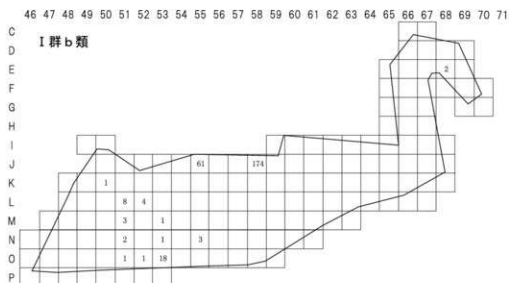
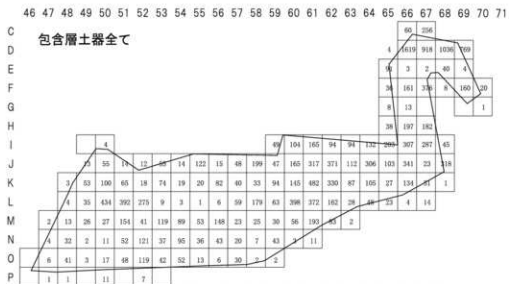
図V-1 包含層土器出土地点分布図(1)



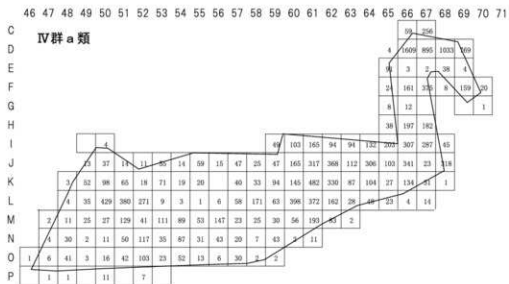
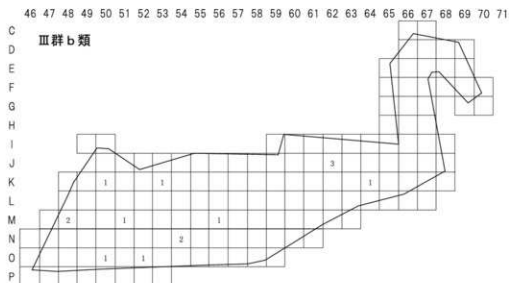
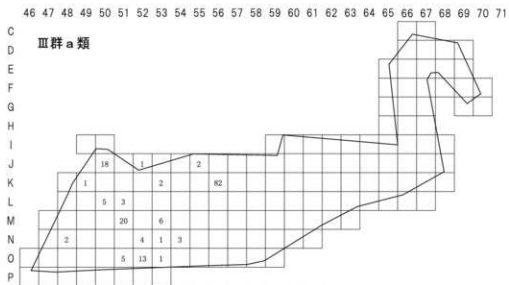
図V-2 包含層土器出土地点分布図(2)



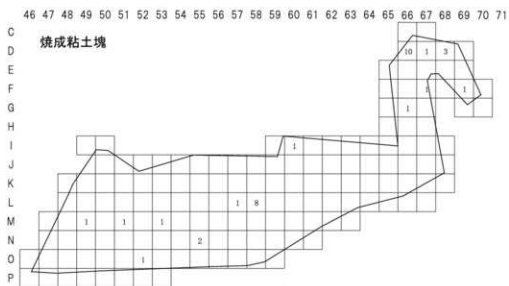
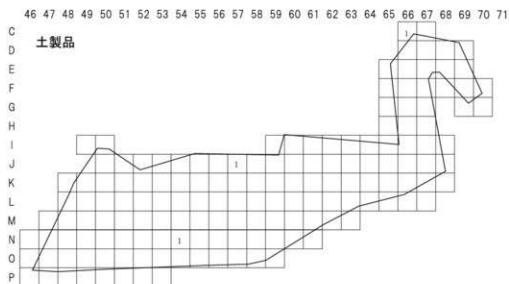
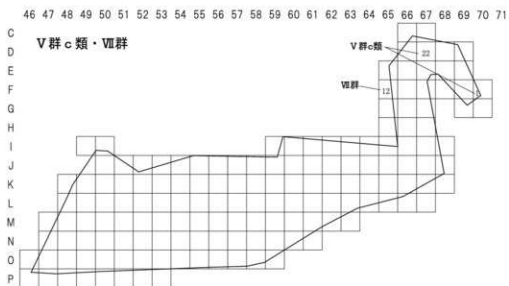
図V-3 包含層土器出土地点分布図(3)



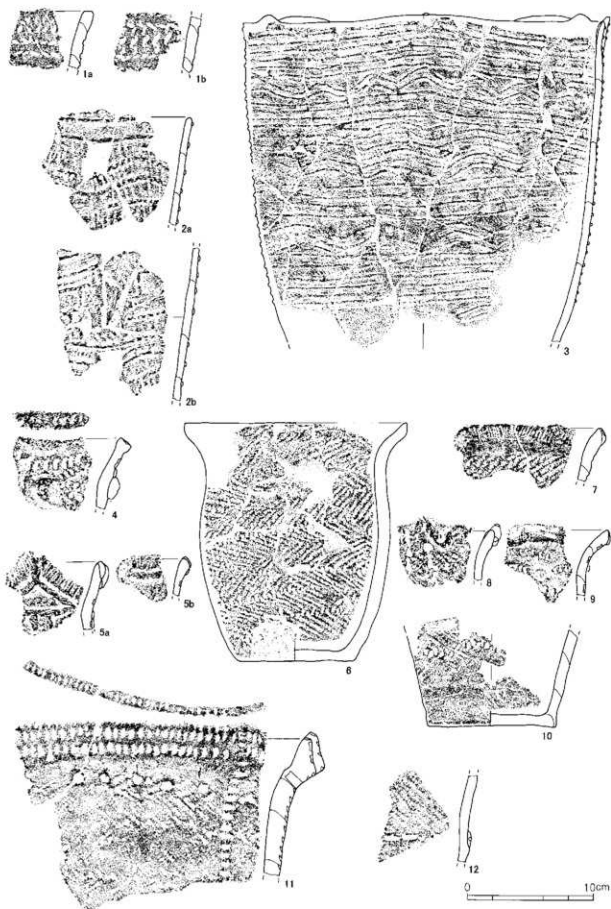
図V-4 包含層出土土器分布図(1)



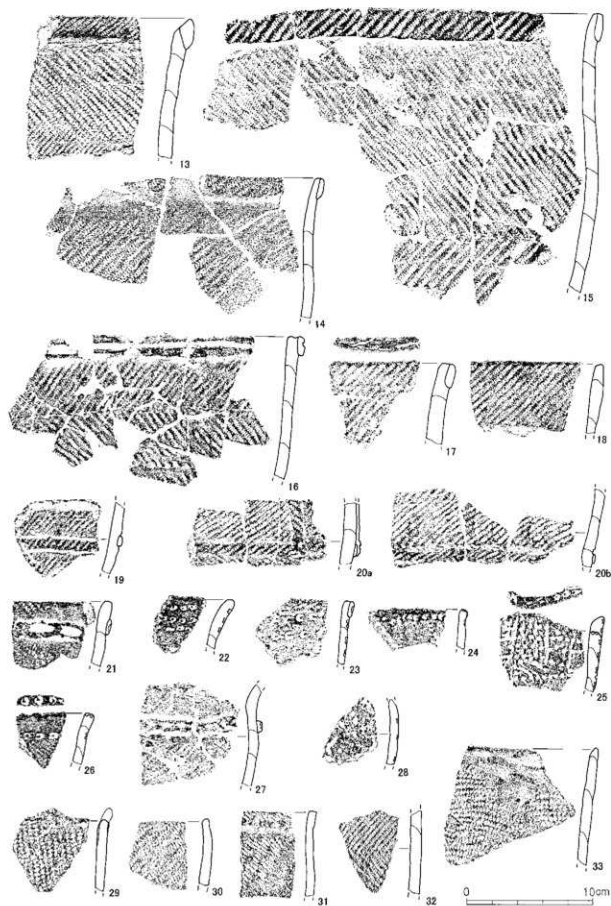
図V-5 包含層出土土器分布図(2)



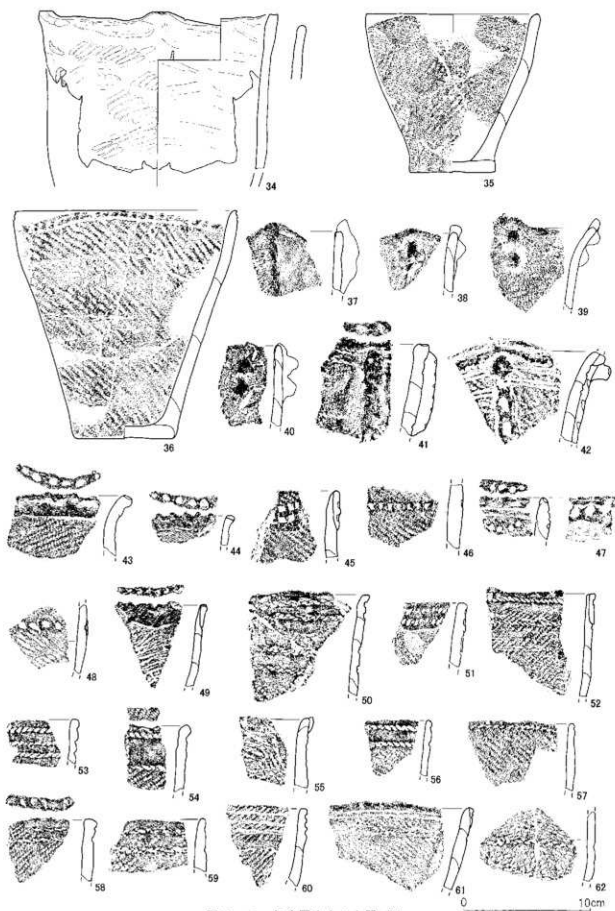
図V-6 包含層出土土器分布図(3)



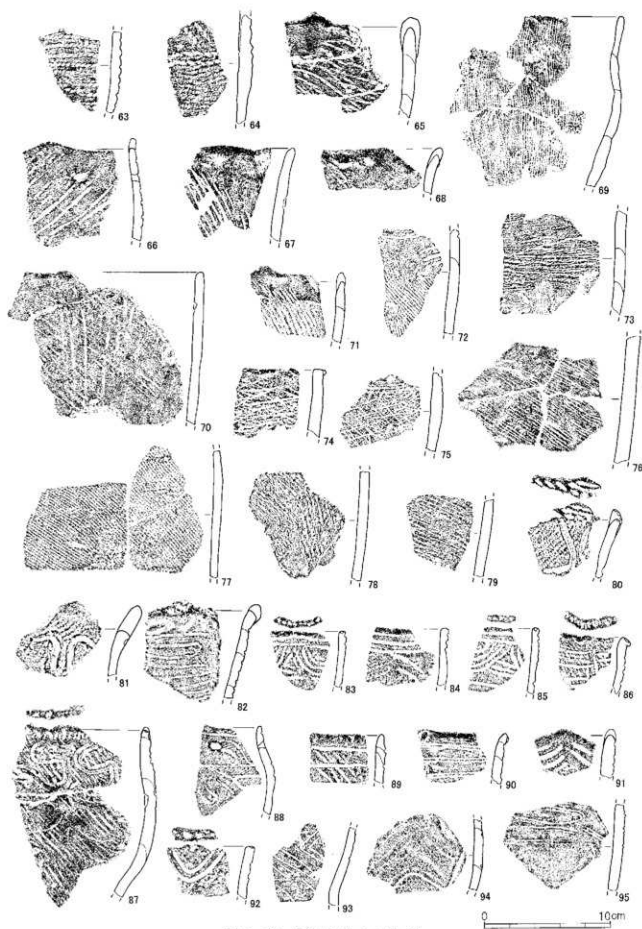
図V-7 包含層出土の土器(1)



図V-8 包含層出土の土器(2)



図V-9 包含層出土の土器(3)



図V-10 包含層出土の土器(4)

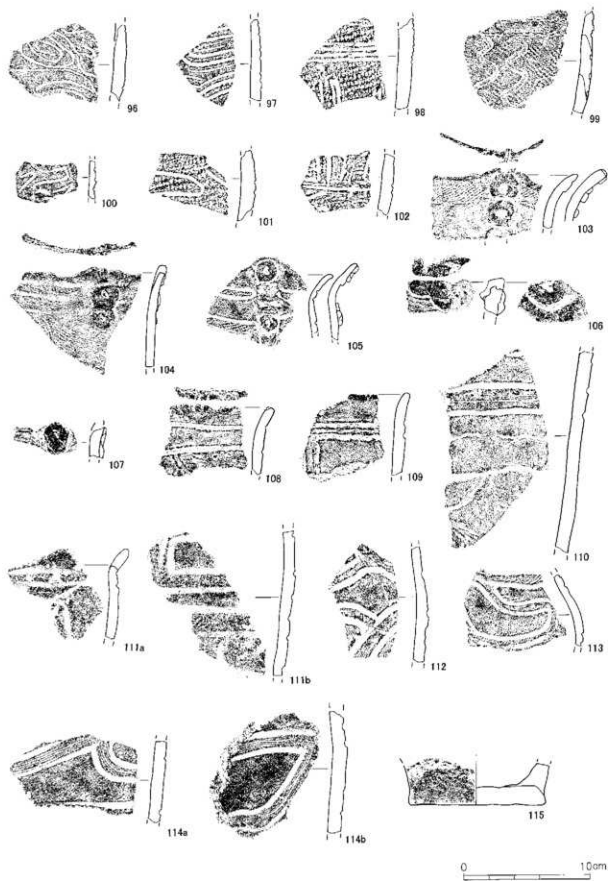
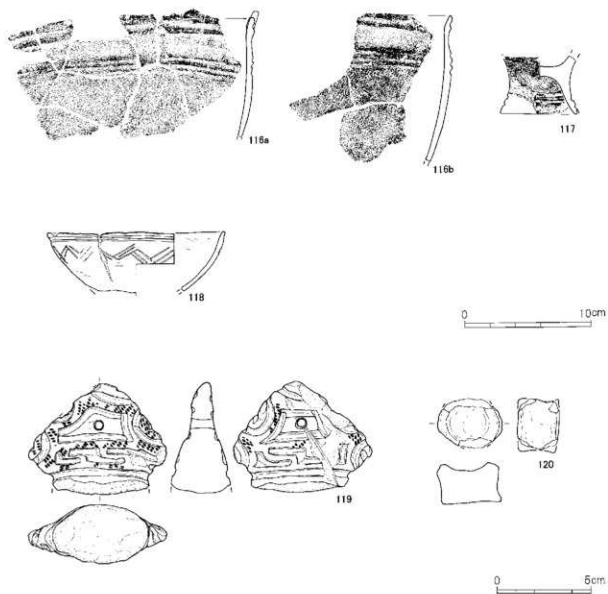
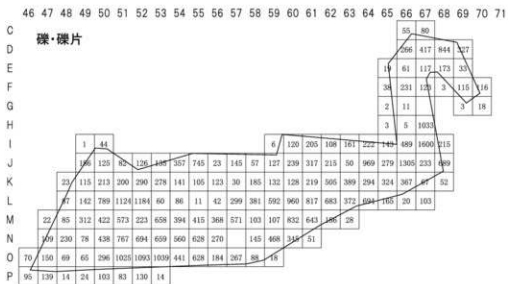
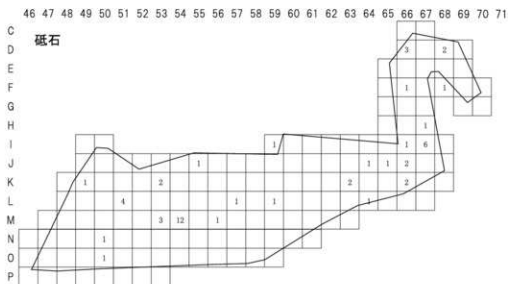
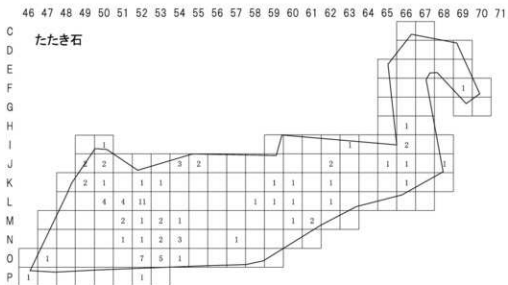


図 V-11 包含層出土の土器 (5)

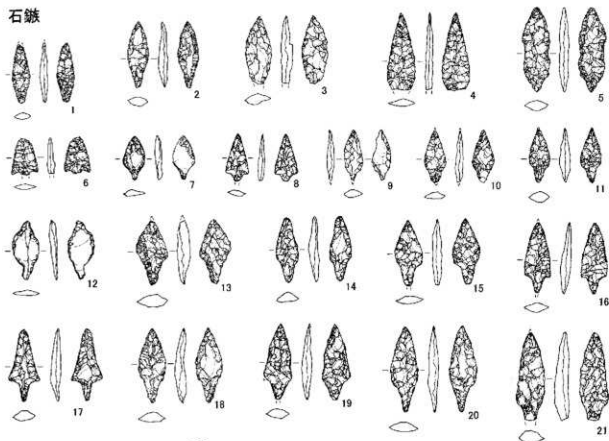


図V-12 包含層出土の土器(6)・土製品

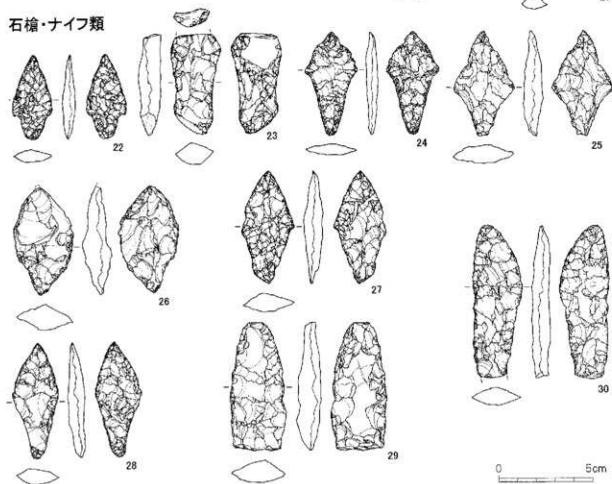


図V-15 包含層出土石器分布図(3)

石鏃

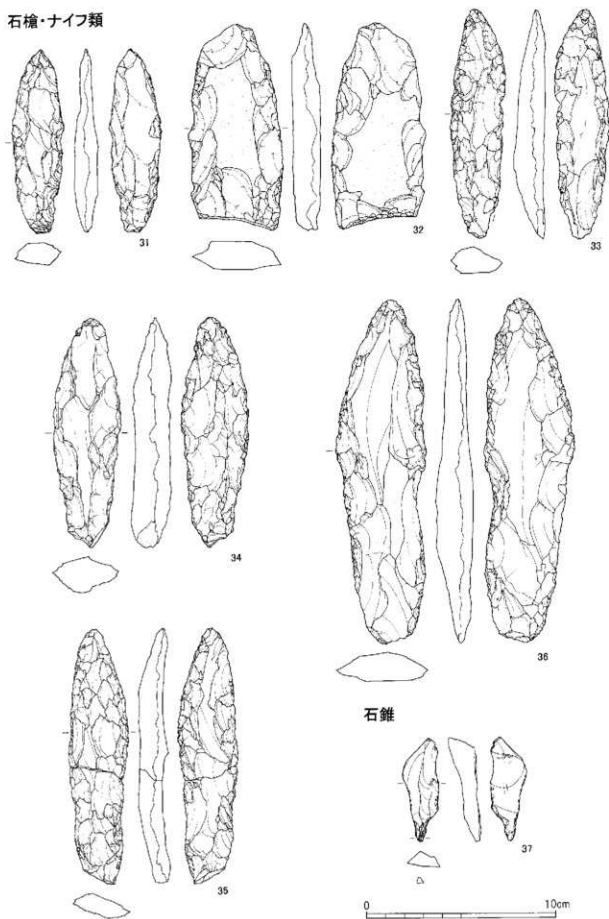


石槍・ナイフ類



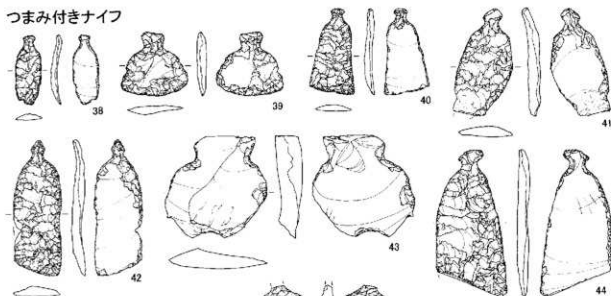
図V-16 包含層出土の石器(1)

石槍・ナイフ類

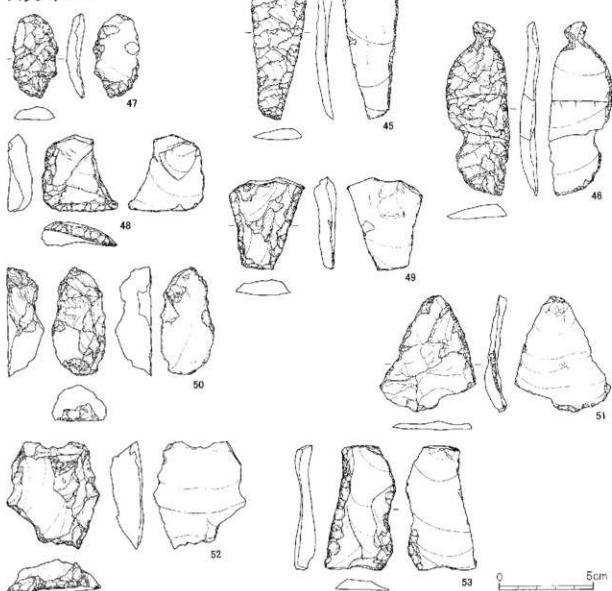


図V-17 包含層出土の石器(2)

つまみ付きナイフ



スクレイパー



0 5cm

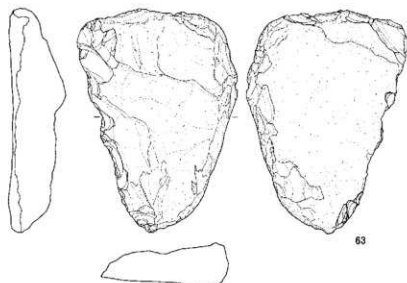
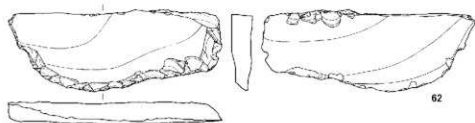
図V-18 包含層出土の石器(3)

スクレイパー

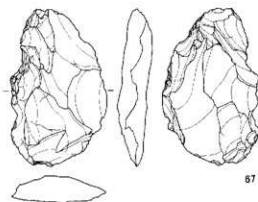
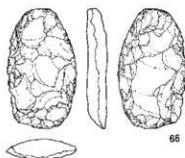
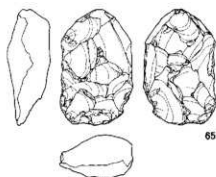
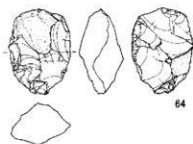


図 V-19 包含層出土の石器 (4)

スクレイパー



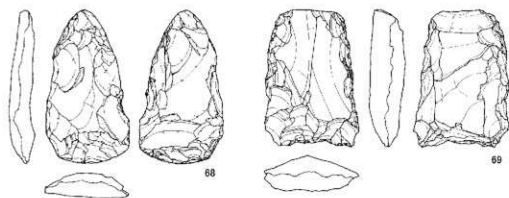
両面調整石器



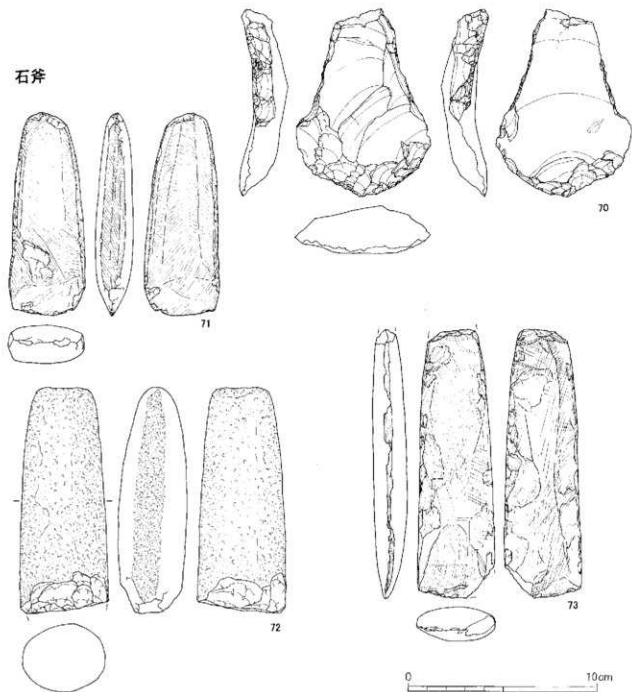
0 10cm

図V-20 包含層出土の石器 (5)

へら状石器

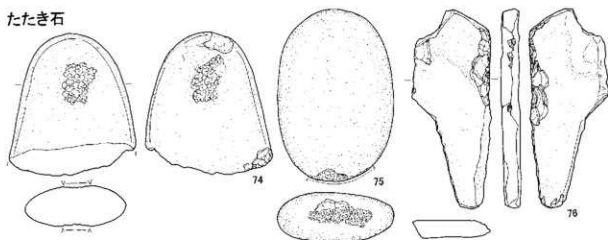


石斧

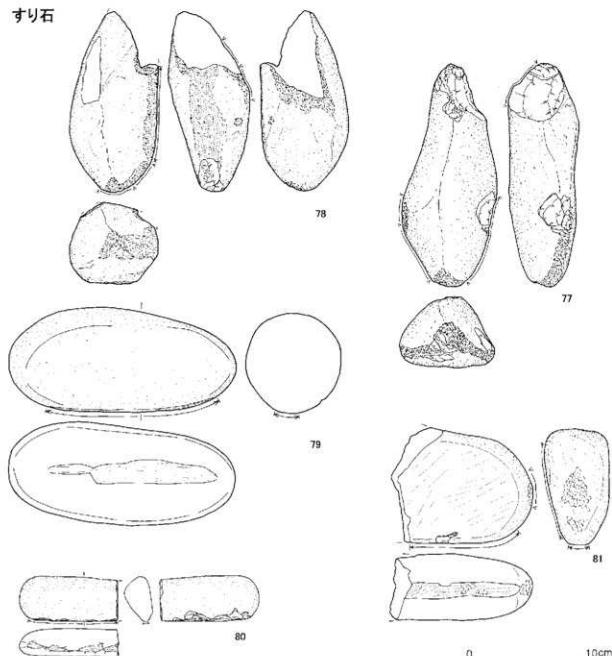


図V-21 包含層出土の石器(6)

たたき石



すり石



0 10cm

図V-22 包含層出土の石器(7)

すり石

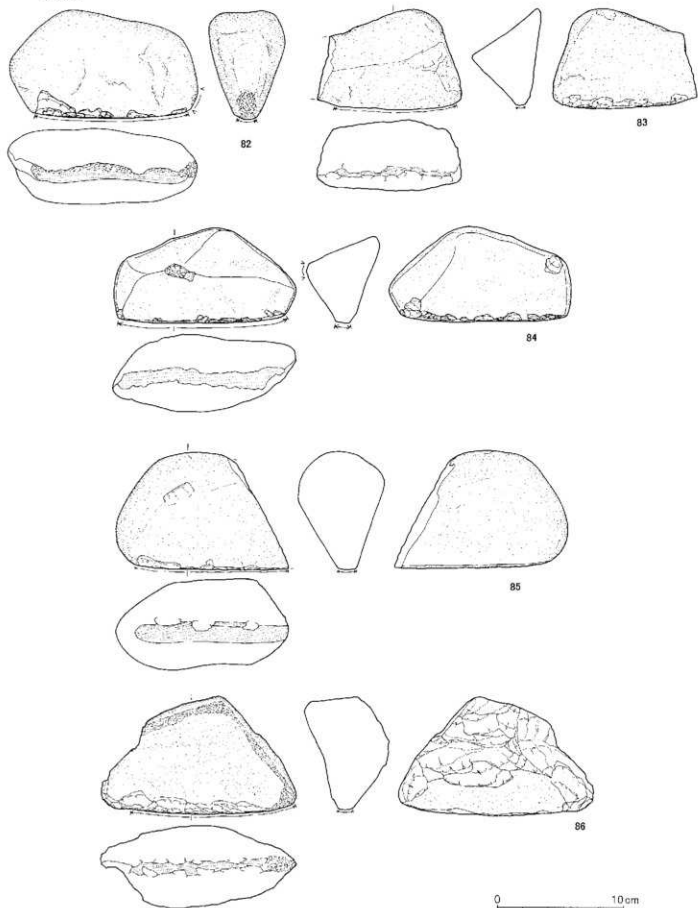
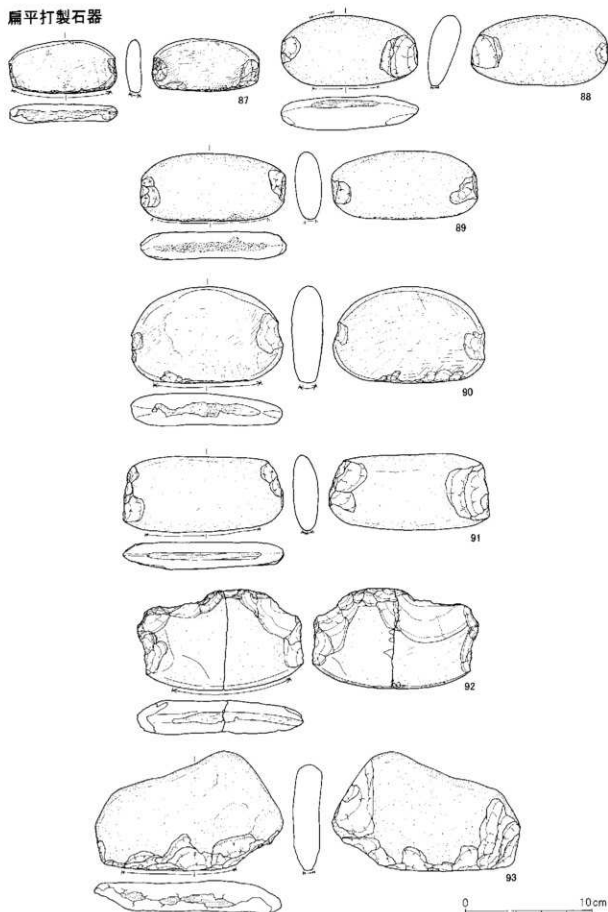


図 V-23 包含層出土の石器 (8)

扁平打製石器



図V-24 包含層出土の石器 (9)

扁平打製石器

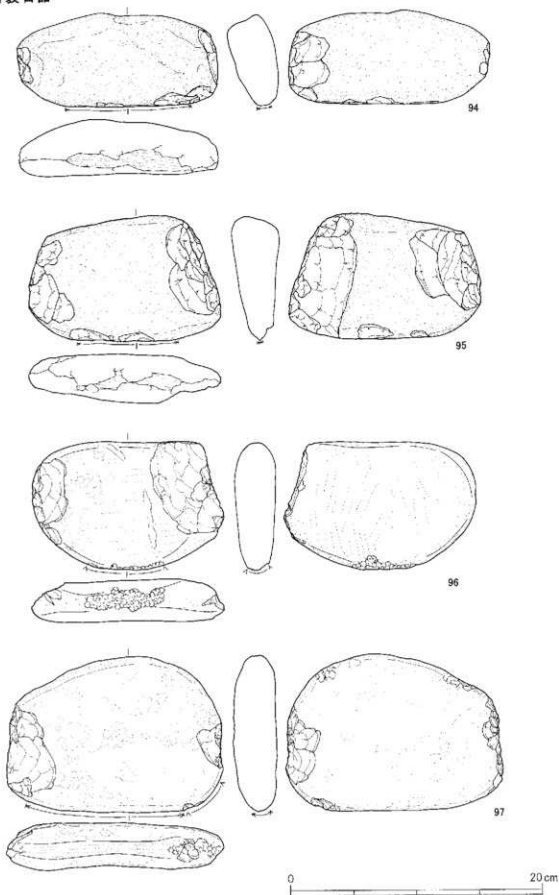
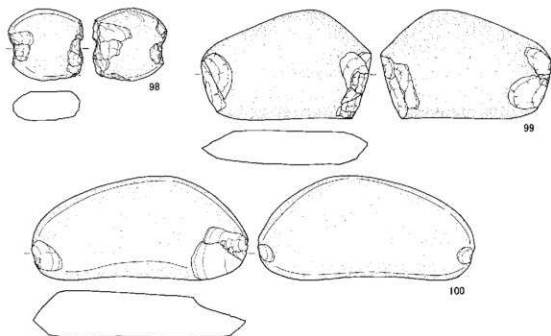
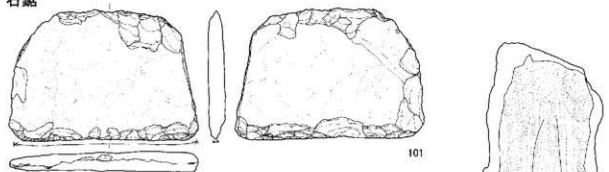


図 V-25 包含層出土の石器 (10)

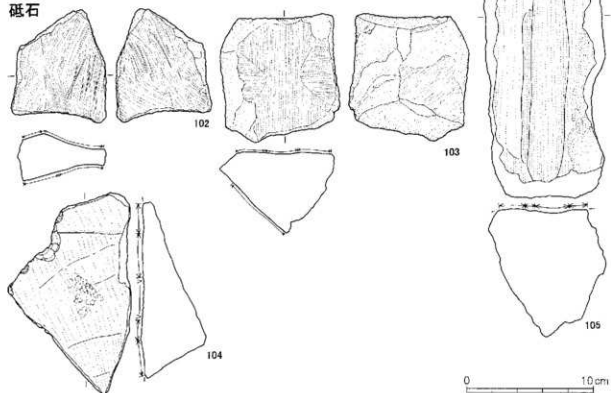
石錘



石鋸



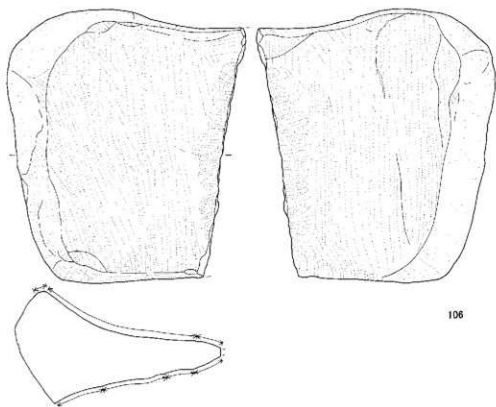
砥石



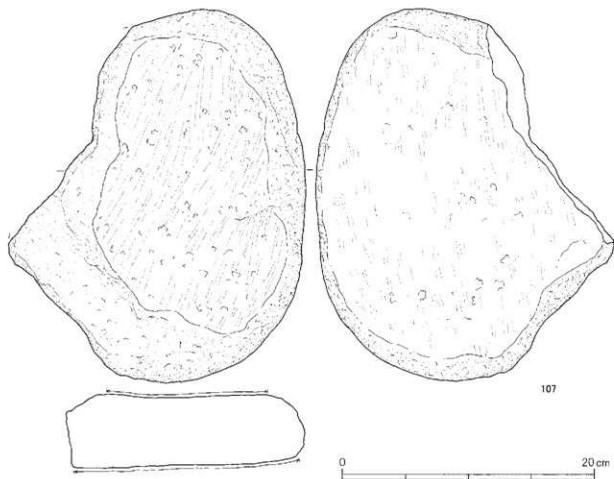
0 10 cm

図V-26 包含層出土の石器 (11)

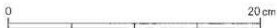
石皿



106

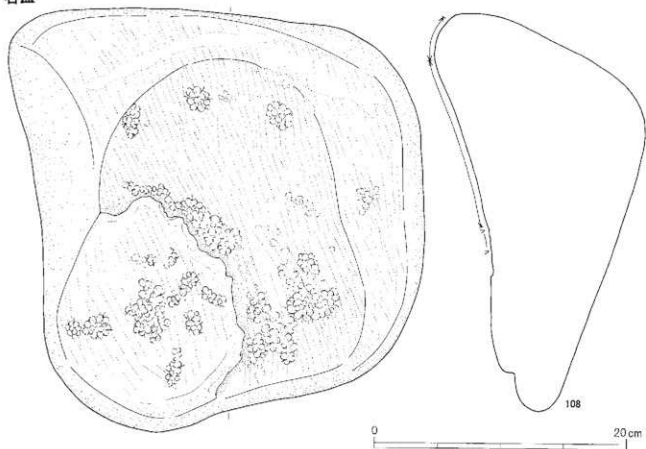


107

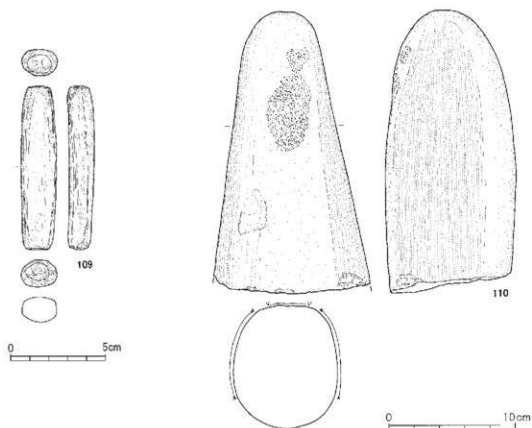


図V-27 包含層出土の石器(12)

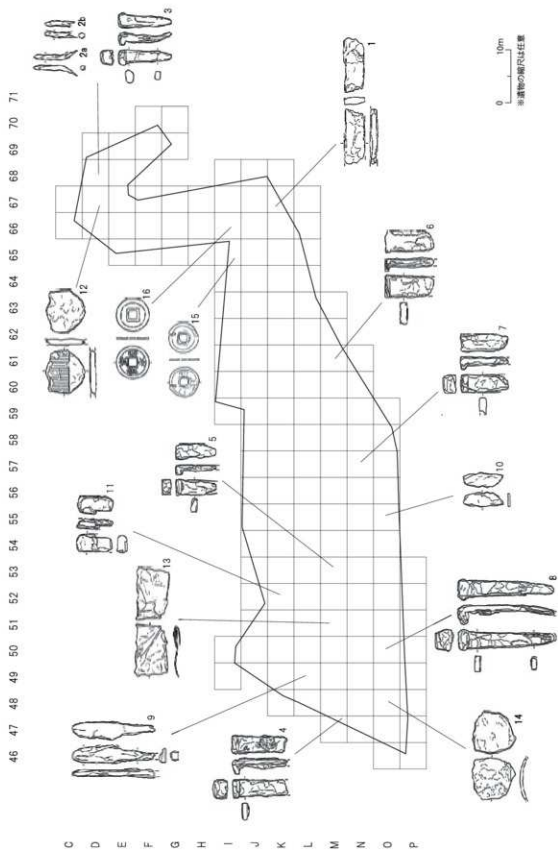
石皿



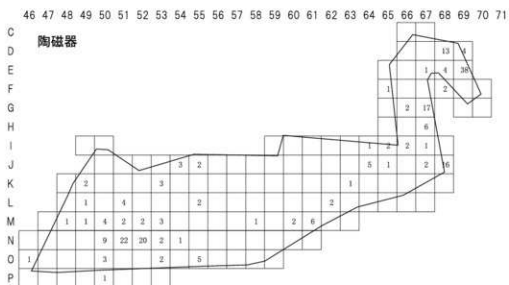
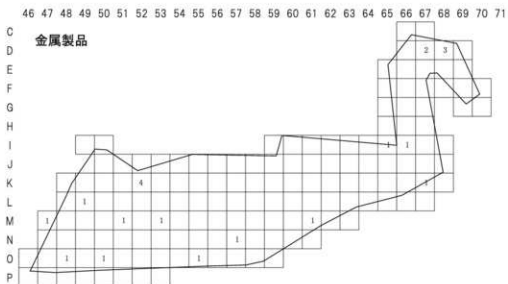
石製品



図V-28 包含層出土の石器 (13)

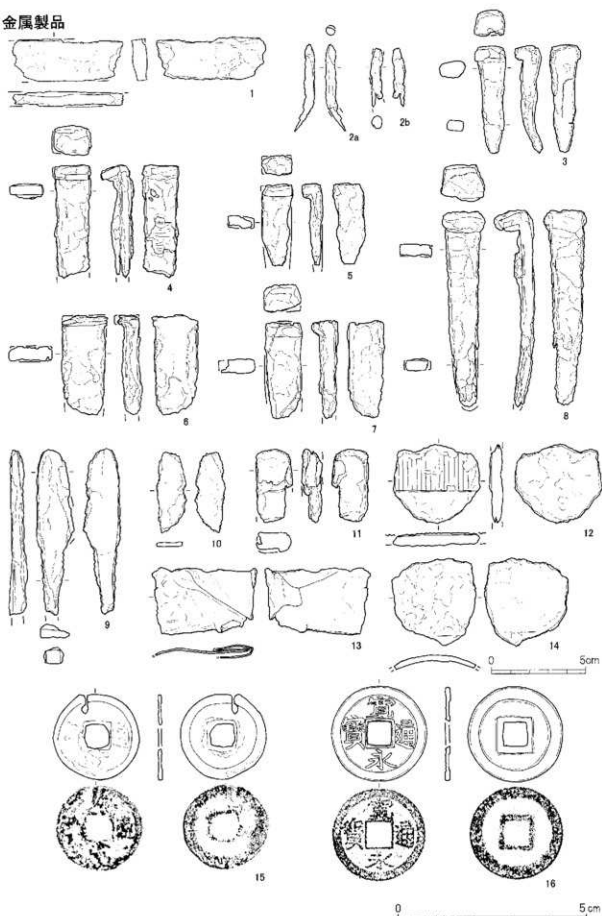


図V-29 包含屑金属製品出土地点分布図



図V-30 包含層出土金属製品・陶磁器分布図

金属製品



図V-31 包含層出土の金属製品

表V-1 包含層出土層別遺物点数一覧

分類 層位	土 器							土製品等		その他				
	I b	II a	III a	III b	IV a	V c	VI	焼成粘土 土製品	土器等 計	金属製品	陶磁器	ガラス製品	骨・貝	その他 計
I														
II	276	3	169	14	15,529	1		30	3,16,407	22	227	1	1	251
III	2				545			3	350					5
複土 表層 その他				34	22	12	2		79					
計	280	3	169	14	16,106	23	12	35	3,16,647	22	232	1	1	256

分類 層位	石 器																	石器 計	総 計							
	石鏃	石鏃 ナイフ類	石鏃	つまみ付き ナイフ	スクレイパー	両面調整 石器	ヘラ状石器	石核	R剥片	U剥片	剥片	石斧	たたき石	すり石	扁平打製 石器	石種	石楯			砥石	石皿	台石	加工痕のある 礫・礫片	礫・礫片	石製品	
I					1					2															3	3
II	52	28	2	21	60	10	6	6	36	59	2,734	22	86	59	47	11	34	52	12	12	25	43,594	8,46,890	63,164	8,46,933	1,184
III	1				3					2	96	2		2									322		629	1,184
複土 表層 その他											11							1							12	82
計	55	28	2	21	64	10	6	6	36	63	2,842	24	86	61	47	11	35	54	12	12	25	44,028	8,47,530	64,433	8,47,530	1,466

表V-2 包含層出土掘載土器一覧

補図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査区	層位	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
								口径	底径	高さ	
V-7	1a	109	N51	II	I b		口				2条縄線 単縄文
V-7	1b	109	N51	II	I b		胴				2条縄線 単縄文
V-7	2a	109	J55	II	I b		口				微隆起線文 絡条体圧痕文
V-7	2b	109	J55	II	I b		胴				微隆起線文 絡条体圧痕文
V-7	3	109	J58	II	I b	深鉢	口～胴	(30.0)	—	(26.2)	微隆起線文 絡条体圧痕文
V-7	4	109	M53	II	III a		口				貼付帯 馬蹄形圧痕文
V-7	5a	109	O51	II	III a		口				粘土紐貼付 馬蹄形圧痕文
V-7	5b	109	O52	II	III a		口				粘土紐貼付
V-7	6	109	K56	II	III a	深鉢	口～底	(18.0)	9.3	19.0	結束第一種羽状縄文
V-7	7	109	O52	II	III a		口				口唇縄文押捺 斜行縄文
V-7	8	109	L52	II	III a		口				貼付帯 刺突文
V-7	9	109	O52	II	III a		口				粘土紐貼付
V-7	10	109	J50	II	III a	深鉢	胴～底	—	10.0	—	—
V-7	11	109	K53	II	III b	深鉢	口～胴				口縁厚帯 押引文・雲帯 円形刺突文
V-7	12	109	O50	II	III b		胴				貼付帯 短絛線文 単節斜行縄文
V-8	13	109	161	II	IV a	深鉢	口～胴				口縁貼付帯 羽状縄文
V-8	14	109	K58	II	IV a	深鉢	口～胴				口縁貼付帯 斜行縄文
V-8	15	109	L50	II	IV a	深鉢	口～胴				貼付帯 羽状縄文
V-8	16	110	L50・51	II	IV a	深鉢	口～胴				羽状縄文 貼付帯 沈線文
V-8	17	110	L62	II	IV a		口				口縁厚帯 LR斜行縄文
V-8	18	110	O51	II	IV a		口				LR斜行縄文
V-8	19	110	L50	II	IV a		胴				貼付帯 沈線文 LR斜行縄文
V-8	20a	110	K53	II	IV a		胴				貼付帯 羽状縄文
V-8	20b	110	K53	II	IV a		胴				貼付帯
V-8	21	110	N51	II	IV a		口				縄文貼付帯 指圧痕

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査区	層位	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
								口径	底径	高さ	
V-8	22	110	K50	II	IVa		口				刺突文
V-8	23	110	L61	II	IVa		口				貼付帯 刺突文
V-8	24	110	I60	II	IVa						刺突文
V-8	25	110	K53	II	IVa		口				刺突文 沈線文
V-8	26	110	H66	II	IVa		口				刺突文
V-8	27	110	J50	II	IVa		胴				斜行縄文 貼付帯 刺突文
V-8	28	110	K50	II	IVa		胴				刺突文
V-8	29	110	F66	II	IVa		口				縦位縄文 波状口縁
V-8	30	110	O52	II	IVa		口				LR斜行縄文
V-8	31	110	L52	II	IVa		口				口縁貼付帯 斜行縄文
V-8	32	110	O51	II	IVa		胴				羽状縄文
V-8	33	110	D69	II	IVa		口				LR横走縄文
V-9	34	110	F67	II	IVa	深鉢	口~胴	(17.5)	—	(13.7)	斜行縄文 山形突起4
V-9	35	110	L58	II	IVa	深鉢	口~底	13.5	6.6	13.3	斜行縄文
V-9	36	110	L58	II	IVa	深鉢	口~底	(17.4)	8.0	17.8	口唇押し引き
V-9	37	110	M56	II	IVa		口				縦位貼付帯
V-9	38	110	D69	II	IVa		口				縦位貼付帯2
V-9	39	110	D66	II トレンチ	IVa		口				縦位貼付帯2
V-9	40	110	J64	II	IVa		口				縦位貼付帯2
V-9	41	110	J64	II	IVa		口				縄文 縦位貼付帯 縄線文 爪痕
V-9	42	110	I65	II	IVa		口				縄文・貼付帯 縦位貼付帯 刺突文 沈線文
V-9	43	111	F66	II	IVa		口				LR斜行縄文 折返し 口唇指頭圧痕
V-9	44	111	J58	II	IVa		口				口唇連続する窪み 燃糸文
V-9	45	111	L51	II	IVa		口				RI斜行縄文 突引文
V-9	46	111	O50	II	IVa		胴				RI斜行縄文 突引文
V-9	47	111	F66	II	IVa		口				円形刺突文 沈線 指頭圧痕
V-9	48	111	L62	II	IVa		胴				縄文 円形刺突文 環状貼付帯
V-9	49	111	K66	II	IVa		口				折返し 円形刺突文 燃糸文
V-9	50	111	L59	II	IVa		口				縄文 縄線文
V-9	51	111	J65	II	IVa		口				折返し 絡糸体 燃糸文
V-9	52	111	L50	II	IVa		口				折返し LR斜行縄文 縄線文
V-9	53	111	M61	II	IVa		口				縄線文
V-9	54	111	J50	II	IVa		口				斜行縄文 縄線文 縄文押捺
V-9	55	111	L61	II	IVa		口				燃糸文
V-9	56	111	J61	II	IVa		口				縄文 縄線文
V-9	57	111	M48	II	IVa		口				RI斜行縄文 縄線文
V-9	58	111	K64	II	IVa		口				LR斜行縄文 縄線文
V-9	59	111	D66	II トレンチ	IVa		口				LR斜行縄文 縄線文
V-9	60	111	L56	II	IVa		口				LR斜行縄文 沈線文
V-9	61	111	M52	II	IVa		口				縄文 沈線文 燃糸圧痕
V-9	62	111	L61	II	IVa		胴				縄文 縄線文
V-10	63	111	L67	II	IVa		胴				縄線文
V-10	64	111	J61	II	IVa		胴				縄文 縄線文
V-10	65	111	J68	II	IVa		口				燃糸文
V-10	66	111	D67	II	IVa		口				斜行沈線 補修孔
V-10	67	111	L62	II	IVa		口				燃糸文
V-10	68	111	F70	III	IVa		口				折返し 燃糸文
V-10	69	111	K58	II	IVa	深鉢	口~胴				縦位燃糸文
V-10	70	111	D66	II トレ	IVa	深鉢	口~胴				網目状燃糸文
V-10	71	111	D66	II	IVa		口				折返し 燃糸文
V-10	72	111	C67	II	IVa		胴				燃糸文

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査区	層位	分類	器種	部位	大きさ (cm)			文様/備考
								口径	底径	高さ	
V-10	73	111	I63	II	IVa		胴				縹糸文
V-10	74	111	I66	II トレンチ	IVa		口				網目状沈線文
V-10	75	111	D67	II	IVa		胴				網目状縹糸文
V-10	76	111	D66	II トレンチ	IVa		胴				縹糸文
V-10	77	111	O50	II	IVa		胴				斜行縄文 綾絡文
V-10	78	111	I67	II	IVa		胴				縹糸文
V-10	79	111	J58	II	IVa		胴				縹糸文
V-10	80	111	M48	II	IVa		口				斜行縄文 沈線 刺突文
V-10	81	111	M49	II	IVa		口				斜行縄文 沈線文
V-10	82	111	H65	II	IVa		口				弧線文
V-10	83	111	I66	II	IVa		口				刺突文 弧線文
V-10	84	111	L52	II	IVa		口				斜行縄文 沈線文
V-10	85	111	J66	II	IVa		口				刺突文 弧線文
V-10	86	111	D66	II	IVa		口				縄文 沈線文
V-10	87	111	D69	II	IVa	深鉢	口~胴				斜行縄文 蛇行沈線 着条体圧痕文
V-10	88	111	D66	III	IVa		口				帯縄文 波頭文 補修孔
V-10	89	111	D67	II	IVa		口				縄文 沈線文
V-10	90	111	K64	II	IVa		口				沈線文
V-10	91	111	H66	II	IVa		口				弧線文
V-10	92	111	L50	II	IVa		口				弧線文
V-10	93	111	K61	II	IVa		胴				沈線文
V-10	94	111	K67	II	IVa		胴				弧線文
V-10	95	111	C67	II	IVa		胴				弧線文
V-11	96	111	D68	III	IVa		胴				弧線文 渦文
V-11	97	111	I67	II	IVa		胴				弧線文
V-11	98	112	D69	II	IVa		胴				縄文 沈線文
V-11	99	112	K62	II	IVa		胴				蛇行沈線文 縄線文
V-11	100	112	F69	III	IVa		胴				弧線文
V-11	101	112	H66	II	IVa		胴				縄文 弧線文
V-11	102	112	D66	II	IVa		胴				弧線文
V-11	103	112	D67	II	IVa		口				環状貼付 縄線文
V-11	104	112	D66	II	IVa		口				環状貼付 縄線文 縹糸文
V-11	105	112	F67	II	IVa		口				環状貼付 帯状文
V-11	106	112	D66	II	IVa		口				粘土紐貼付
V-11	107	112	D68	II	IVa		口				粘土紐貼付
V-11	108	112	D69	II	IVa		口				沈線文 口唇爪刻み
V-11	109	112	D67	II	IVa		口				沈線文
V-11	110	112	D69	II	IVa	深鉢	胴				櫛歯状文
V-11	111a	112	K66	II	IVa		口				沈線文
V-11	111b	112	K66	II	IVa		胴				沈線文
V-11	112	112	F67	II	IVa		胴				沈線文
V-11	113	112	D66	II	IVa		胴				沈線文
V-11	114a	112	D69	II	IVa		胴				櫛歯状文
V-11	114b	112	D69	II	IVa		胴				櫛歯状文
V-11	115	112	L60	II	IVa		底	11.3			-
V-12	116a	112	D67	攪乱	Vc	深鉢	口~胴				沈線文
V-12	116b	112	D67	攪乱	Vc	深鉢	口~胴				沈線文
V-12	117	112	F70	攪乱	Vc	台付浅鉢	底				沈線文
V-12	118	112	F65	攪乱	VII	杯	口~胴	(14.0)	-	(5.0)	3条1組山形沈線文
V-12	119	112	O66	II	土製品		頭部裝飾				貼付帯 穿孔
V-12	120	112	N54	II	土製品		栓状耳飾り	3.3	2.5	2.1	

表V-3 包含層出土掲載石器一覧

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査区	層位	遺物名	石材	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
							長さ	幅	厚さ		
V-16	1	113	L63	II	石鏃	黒曜石	(3.10)	0.93	0.40	0.9	
V-16	2	113	H66	II	石鏃	頁岩	3.47	1.10	0.50	1.6	
V-16	3	113	J50	II	石鏃	泥岩	(3.58)	1.38	0.60	2.7	
V-16	4	113	L64	II	石鏃	黒曜石	(4.05)	1.46	0.40	1.9	
V-16	5	113	L51	II	石鏃	黒曜石	4.40	1.45	0.50	2.9	
V-16	6	113	D67	III	石鏃	頁岩	(1.90)	1.36	0.40	0.8	
V-16	7	113	L50	II	石鏃	黒曜石	2.28	1.15	0.33	0.69	分析
V-16	8	113	F69	II	石鏃	頁岩	2.50	1.25	0.35	0.7	
V-16	9	113	G66	II	石鏃	泥岩	(2.67)	1.00	0.40	0.9	
V-16	10	113	K62	II	石鏃	頁岩	(2.70)	1.13	0.40	0.7	
V-16	11	113	N55	II	石鏃	頁岩	2.83	1.10	0.55	1.2	
V-16	12	113	N53	II	石鏃	頁岩	3.10	1.45	0.50	1.2	
V-16	13	113	L51	II	石鏃	黒曜石	(3.30)	1.67	0.70	2.6	
V-16	14	113	M53	II	石鏃	頁岩	3.40	1.25	0.60	1.5	
V-16	15	113	M50	II	石鏃	頁岩	3.45	1.50	0.55	2.0	
V-16	16	113	G66	II	石鏃	頁岩	(3.70)	1.40	0.60	1.8	
V-16	17	113	F66	II	石鏃	頁岩	3.80	1.70	0.60	1.9	
V-16	18	113	J54	II	石鏃	頁岩	3.84	1.45	0.60	2.4	
V-16	19	113	K50	II	石鏃	黒曜石	(3.90)	(1.46)	0.56	2.05	分析
V-16	20	113	L51	II	石鏃	頁岩	4.50	1.55	0.60	2.8	
V-16	21	113	N53	II	石鏃	黒曜石	4.59	1.55	0.80	4.43	分析
V-16	22	113	N52	II	石槍・ナイフ類	黒曜石	4.50	2.20	0.80	4.3	
V-16	23	113	K53	II	石槍・ナイフ類	黒曜石	(5.30)	2.70	1.20	16.27	分析
V-16	24	113	L52	II	石槍・ナイフ類	黒曜石	5.37	2.76	0.66	6.00	分析
V-16	25	113	M59	II	石槍・ナイフ類	珠質頁岩	5.50	3.20	1.00	12.4	
V-16	26	113	F70	II	石槍・ナイフ類	黒曜石	(5.64)	3.20	1.50	16.7	
V-16	27	113	M60	II	石槍・ナイフ類	黒曜石	6.00	2.85	1.05	10.5	
V-16	28	113	L51	II	石槍・ナイフ類	黒曜石	6.15	2.50	0.95	9.7	
V-16	29	113	L51	II	石槍・ナイフ類	頁岩	6.85	3.00	1.35	28.0	
V-16	30	113	N52	II	石槍・ナイフ類	頁岩	(8.05)	2.60	1.00	21.1	
V-17	31	113	L52	II	石槍・ナイフ類	泥岩	9.70	2.85	1.35	29.7	
V-17	32	113	L52	II	石槍・ナイフ類	泥岩	11.00	5.05	1.55	103.8	
V-17	33	113	J50	II	石槍・ナイフ類	泥岩	12.08	2.90	1.60	55.7	
V-17	34	113	L57	II	石槍・ナイフ類	泥岩	12.00	3.60	2.10	88.0	
V-17	35	113	N52	II	石槍・ナイフ類	泥岩	13.48	3.20	1.60	65.5	
V-17	36	113	L51	II	石槍・ナイフ類	泥岩	18.00	4.80	2.00	168.0	
V-17	37	113	L51	II	石鏃	頁岩	5.50	2.00	1.95	9.8	
V-18	38	113	N53	II	つまみ付きナイフ	頁岩	3.70	1.40	0.65	1.7	
V-18	39	113	D66	II	つまみ付きナイフ	頁岩	3.40	3.55	0.55	4.6	
V-18	40	113	L59	II	つまみ付きナイフ	頁岩	4.55	2.45	0.60	4.2	
V-18	41	113	M48	II	つまみ付きナイフ	頁岩	(5.75)	3.20	1.00	10.5	
V-18	42	113	K52	II	つまみ付きナイフ	頁岩	7.12	2.60	0.70	10.3	
V-18	43	113	F69	II	つまみ付きナイフ	頁岩	5.40	5.50	1.45	30.4	
V-18	44	113	D69	II	つまみ付きナイフ	頁岩	(7.70)	3.80	0.70	17.5	
V-18	45	113	K52	II	つまみ付きナイフ	頁岩	(8.45)	2.88	1.00	15.6	
V-18	46	113	052 053	II	つまみ付きナイフ	頁岩	9.10	3.40	1.00	23.6	接合
V-18	47	113	162	II	スクレイパー	黒曜石	4.35	2.40	0.90	7.9	
V-18	48	113	J57	II	スクレイパー	頁岩	4.05	4.00	1.35	15.0	
V-18	49	113	J54	II	スクレイパー	頁岩	4.90	4.05	1.25	18.9	
V-18	50	113	E67	II	スクレイパー	頁岩	5.70	2.85	1.90	31.1	

V 包含層出土の遺物

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査区	層位	遺物名	石材	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
							長さ	幅	厚さ		
V-18	51	113	J52	II	スクレイパー	頁岩	6.13	5.08	1.10	16.6	
V-18	52	113	H66	II	スクレイパー	チャート	5.75	4.95	1.85	43.6	
V-18	53	113	L50	II	スクレイパー	頁岩	6.65	3.80	1.15	23.2	
V-19	54	114	K49	II	スクレイパー	頁岩	7.30	2.90	1.90	29.1	
V-19	55	114	J65	II	スクレイパー	珪質頁岩	8.30	3.80	1.80	43.5	
V-19	56	114	J51	II	スクレイパー	頁岩	8.60	4.00	1.55	32.1	
V-19	57	114	J58	II	スクレイパー	泥岩	8.40	4.90	1.30	59.8	
V-19	58	114	J57	II	スクレイパー	頁岩	(10.75)	(5.30)	1.35	42.3	
V-19	59	114	N59	II	スクレイパー	泥岩	9.65	2.60	1.85	51.9	
V-19	60	114	H66	II	スクレイパー	泥岩	7.10	7.70	2.50	107.6	
V-19	61	114	F69	III	スクレイパー	泥岩	5.20	8.98	1.70	63.2	
V-20	62	114	H67	II	スクレイパー	泥岩	4.35	11.30	1.20	82.9	
V-20	63	114	L50	II	スクレイパー	泥岩	11.70	8.50	8.00	295.5	
V-20	64	114	M51	II	両面調整石器	頁岩	4.48	3.30	2.30	23.0	
V-20	65	114	O51	II	両面調整石器	黒曜石	6.15	3.90	2.30	51.6	
V-20	66	114	J58	II	両面調整石器	頁岩	6.35	3.70	1.10	27.9	
V-20	67	114	M51	II	両面調整石器	泥岩	8.30	5.15	1.90	65.3	
V-21	68	114	K66	II	へら状石器	泥岩	8.15	4.50	1.40	46.2	
V-21	69	114	J62	II	へら状石器	泥岩	7.23	5.00	1.90	80.2	
V-21	70	114	F69	II	へら状石器	泥岩	9.70	7.10	2.50	137.9	
V-21	71	114	J50	II	石斧	泥岩	10.60	4.00	2.05	147.4	
V-21	72	114	F69	II	石斧	砂岩	(11.95)	4.70	3.70	320.7	
V-21	73	114	M55	II	石斧	片岩	(14.20)	4.10	1.80	165.5	
V-22	74	114	K49	II	たたき石	泥岩	(11.2)	(10.05)	3.2	489.2	
V-22	75	114	J55	II	たたき石	砂岩	13.6	9.2	3.9	751.3	
V-22	76	114	N51	II	たたき石	泥岩	15.75	6.25	1.5	204.2	
V-22	77	115	J54	II	たたき石	凝灰岩	17.6	7.5	5.6	746.9	
V-22	78	115	O52	II	すり石	砂岩	(14.1)	7.0	6.45	604.8	
V-22	79	115	M54	II	すり石	砂岩	8.15	18.0	8.15	1,700	
V-22	80	115	J57	II	すり石	砂岩	3.65	(7.9)	2.45	99.8	三角形
V-22	81	115	J53	II	すり石	砂岩	(9.15)	(11.2)	5.3	729.7	三角形
V-23	82	115	K53	II	すり石	砂岩	8.5	15.0	6.0	972.6	三角形
V-23	83	115	N53	II	すり石	砂岩	7.9	(11.4)	5.65	508.0	三角形
V-23	84	115	L52	II	すり石	安山岩	9.4	14.5	6.1	635.7	三角形
V-23	85	115	N53	II	すり石	砂岩	9.25	(13.65)	7.2	996.0	三角形
V-23	86	115	O54	II	すり石	安山岩	9.4	15.45	6.6	836.7	三角形
V-24	87	115	K49	II	扁平打製石器	花崗閃緑岩	4.2	8.5	1.5	96.9	
V-24	88	115	M53	II	扁平打製石器	砂岩	5.55	10.8	1.9	173.8	
V-24	89	115	O55	II	扁平打製石器	泥岩	5.3	11.5	2.15	200.0	
V-24	90	115	M51	II	扁平打製石器	花崗閃緑岩	7.48	12.05	2.55	391.8	
V-24	91	115	N59	II	扁平打製石器	砂岩	6.0	12.6	2.1	251.9	
V-24	92	115	J55	II	扁平打製石器	砂岩	7.9	13.2	2.65	367.2	接合
V-24	93	115	N53	II	扁平打製石器	安山岩	9.5	14.75	2.5	428.1	
V-25	94	115	M53	II	扁平打製石器	安山岩	7.4	15.85	4.5	645.9	
V-25	95	115	L52	II	扁平打製石器	安山岩	9.8	15.2	3.9	664.4	
V-25	96	115	K53	II	扁平打製石器	安山岩	10.05	15.2	3.4	738.4	
V-25	97	115	J55	II	扁平打製石器	安山岩	12.3	17.3	3.7	1,160	
V-26	98	115	M51	II	石錘	安山岩	5.7	(5.85)	2.3	91.1	
V-26	99	115	N53	II	石錘	砂岩	8.7	13.4	2.7	477.0	
V-26	100	116	L50	II	石錘	砂岩	8.15	17.2	3.7	715.3	
V-26	101	116	J49	II	石錘	安山岩	10.25	15.0	1.7	320.7	

挿図 番号	掲載 番号	写真 図版	調査区	層位	遺物名	石材	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
							長さ	幅	厚さ		
V-26	102	116	N50	II	砥石	凝灰岩	8.9	7.55	3.7	228.7	
V-26	103	116	O50	II	砥石	砂岩	10.1	10.4	6.4	617.4	
V-26	104	116	L51	II	砥石	砂岩	16.0	9.7	5.2	591.4	
V-26	105	116	K53	II	砥石	凝灰岩	26.6	9.6	10.2	3,280	
V-27	106	116	K49	II	石皿	砂岩	21.5	(19.0)	8.7	3,060	
V-27	107	116	L49	II	石皿	安山岩	29.5	23.5	5.9	6,300	
V-28	108	116	165	II	石皿	砂岩	33.1	32.8	16.5	24,000	
V-28	109	116	N55	II	石製品	泥岩	8.75	1.9	1.45	40.16	
V-28	110	116	M50	II	石製品	砂岩	(22.3)	(12.3)	9.7	4,000	石棒?

表V-4 包含層出土掲載金属製品一覧

挿図 番号	掲載 番号	図版 番号	調査区	層位	分類	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
						長さ	幅	厚さ		
V-29-31	1	117	K67	III	刀子	(5.80)	2.22	0.80	19.0	
V-29-31	2a	117	D68	II	丸釘	(4.55)	(1.10)	(0.45)	(2.3)	洋釘
V-29-31	2b	117	D68	II	丸釘	(3.10)	(0.70)	0.65	(1.8)	洋釘
V-29-31	3	117	D68	II	和釘	5.68	1.60	1.40	10.5	
V-29-31	4	117	M47	II	船釘	(5.90)	(1.95)	1.75	30.1	
V-29-31	5	117	M53	II	船釘	(4.30)	(1.70)	1.10	10.1	
V-29-31	6	117	M61	II	船釘	(5.18)	2.40	(1.35)	21.3	
V-29-31	7	117	N57	II	船釘	(5.10)	(2.00)	1.40	21.6	
V-29-31	8	117	O50	II	船釘	(10.20)	(2.28)	2.10	37.6	
V-29-31	9	117	L49	II	和鉄	(8.70)	(2.00)	(1.00)	22.4	
V-29-31	10	117	O55	II	和鉄	(4.20)	(1.60)	(0.25)	3.8	
V-29-31	11	117	K52	II	和釘	(3.80)	(1.95)	(1.10)	9.9	
V-29-31	12	117	D67	II	銘版	(4.10)	(4.60)	0.7	27.3	
V-29-31	13	117	M51	II	銅版	(3.55)	(5.55)	(0.70)	8.4	
V-29-31	14	117	O48	II	鉄鍋片	(4.60)	(4.40)	(7.50)	17.1	
V-29-31	15	117	165	II	古銭	2.25	2.30	0.10	1.7	寛永通寶
V-29-31	16	117	166	II	古銭	2.50	2.50	0.10	3.0	寛永通寶 (古寛永)

表V-5 包含層出土掲載陶磁器一覧

図版 番号	掲載 番号	調査区	層位	分類	重量 (g)	備考
117	1	M61	II	皿類	3.31	
117	2	M58	II	碗類	4.05	端反りのない口縁
117	3	M50	II	瓶類	4.28	御神酒瓶
117	4	L49	II	皿類	6.13	
117	5a	J68	II	碗類	3.54	端反りのない口縁
117	5b	J68	II	碗類	11.91	
117	6	J68	II	碗類	2.68	
117	7	J68	II	碗類	2.83	
117	8	I66	II (トレンチ)	碗類	2.43	
117	9	G67	II (トレンチ)	皿類	2.81	くの字に屈曲
117	10	E69	II	碗類	2.46	わずかに端反りする口縁

VI 自然科学的分析等

1 都遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1. 測定対象試料

都遺跡は、北海道久遠郡せたな町大成区上浦176-3（北緯42° 13' 35"、東経139° 49' 07"）に所在する。測定対象試料は、H-1HF-1 1層出土炭化物（No.1:IAAA-123267）、H-2HF-1 1層出土炭化物（No.2:IAAA-123268）、H-3HF-1 1層出土炭化物（No.3:IAAA-123269）、H-4HF-1 1層出土炭化物（No.4:IAAA-123270）、H-5HF-1 1層出土炭化物（No.5:IAAA-123271）、P-30坑底出土炭化物（No.6:IAAA-123272）、石組炉5 2層出土炭化物（No.7:IAAA-123273）、石組炉6 2層出土炭化物（No.8:IAAA-123274）の合計8点である（表1）。

試料No.1～4は堅穴住居跡の炉跡覆土、No.5は堅穴住居跡の炉跡、No.6は土坑の坑底、No.7、8は屋外炉として捉えられる石組炉跡より出土した。

2. 測定の意義

遺構の絶対年代を知り、遺跡の時間的成り立ちを解明する。

3. 科学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ酸（AAA:Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4. 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) δ¹³Cは、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby AgeyrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年

を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を使い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6. 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、H-1HF-1 1層出土炭化物No.1が $4130 \pm 30\text{yrBP}$ 、H-2HF-1 1層出土炭化物No.2が $3870 \pm 30\text{yrBP}$ 、H-3HF-1 1層出土炭化物No.3が $4140 \pm 30\text{yrBP}$ 、H-4HF-1 1層出土炭化物No.4が $3940 \pm 30\text{yrBP}$ 、H-5HF-1 1層出土炭化物No.5が $3690 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-30坑底出土炭化物No.6が $4480 \pm 30\text{yrBP}$ 、石組炉5 2層出土炭化物No.7が $3560 \pm 30\text{yrBP}$ 、石組炉6 2層出土炭化物No.8が $3880 \pm 30\text{yrBP}$ である。

暦年較正年代 (1σ) は、No.1が2858~2627cal BCの間に4つの範囲、No.2が2456~2296cal BCの間に3つの範囲、No.3が2864~2636cal BCの間に4つの範囲、No.4が2479~2349cal BCの間に3つの範囲、No.5が2134~2032cal BCの間に2つの範囲、No.6が3327~3096cal BCの間に3つの範囲、No.7が1946~1881cal BCの範囲、No.8が2457~2310cal BCの間に3つの範囲で示される。古い方から順に、No.6が縄文時代中期前葉から中葉頃、No.1、3が中期中葉から後葉頃、No.4が中期末葉から後期初頭頃、No.2、8が後期初頭頃、No.5、7が後期前葉頃に相当する (小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて60%以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)		$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
					(AMS)	Libby Age (yrBP)	pMC (%)	pMC (%)
IAAA-123267	No.1	H-1 HF-1 1層	炭化物	AAA	-25.26 ± 0.29	4,130 ± 30	59.83 ± 0.21	
IAAA-123268	No.2	H-2 HF-1 1層	炭化物	AAA	-24.52 ± 0.44	3,870 ± 30	61.74 ± 0.22	
IAAA-123269	No.3	H-3 HF-1 1層	炭化物	AAA	-26.63 ± 0.42	4,140 ± 30	59.71 ± 0.21	
IAAA-123270	No.4	H-4 HF-1 1層	炭化物	AAa	-26.37 ± 0.41	3,940 ± 30	61.26 ± 0.21	
IAAA-123271	No.5	H-5 HF-1	炭化物	AAA	-21.67 ± 0.54	3,690 ± 30	63.19 ± 0.21	
IAAA-123272	No.6	P-30 坑底	炭化物	AAA	-25.16 ± 0.35	4,480 ± 30	57.27 ± 0.19	
IAAA-123273	No.7	石組伊5 2層	炭化物	AAA	-27.13 ± 0.29	3,560 ± 30	64.23 ± 0.21	
IAAA-123274	No.8	石組伊6 2層	炭化物	AAA	-23.66 ± 0.37	3,880 ± 30	61.67 ± 0.21	

表 2 (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123267	4,130 ± 30	59.80 ± 0.21	4,126 ± 28	2858calBC-2830calBC (13.7%) 2823calBC-2810calBC (5.7%) 2751calBC-2723calBC (13.3%) 2700calBC-2627calBC (35.5%)	2869calBC-2803calBC (26.1%) 2778calBC-2617calBC (63.4%) 2611calBC-2581calBC (5.9%)
IAAA-123268	3,870 ± 30	61.80 ± 0.21	3,873 ± 28	2456calBC-2419calBC (19.7%) 2407calBC-2376calBC (17.2%) 2351calBC-2296calBC (31.3%)	2466calBC-2282calBC (92.1%) 2249calBC-2233calBC (2.9%) 2218calBC-2214calBC (0.5%)
IAAA-123269	4,170 ± 30	59.51 ± 0.21	4,142 ± 28	2864calBC-2834calBC (14.2%) 2818calBC-2806calBC (5.3%) 2759calBC-2663calBC (44.0%) 2648calBC-2636calBC (4.7%)	2874calBC-2623calBC (95.4%)
IAAA-123270	3,960 ± 30	61.08 ± 0.20	3,937 ± 27	2479calBC-2435calBC (36.1%) 2421calBC-2403calBC (12.4%) 2379calBC-2349calBC (19.7%)	2563calBC-2534calBC (6.0%) 2494calBC-2340calBC (89.1%) 2313calBC-2311calBC (0.3%)
IAAA-123271	3,630 ± 30	63.62 ± 0.20	3,687 ± 26	2134calBC-2080calBC (44.9%) 2061calBC-2032calBC (23.3%)	2191calBC-2181calBC (1.6%) 2142calBC-2015calBC (89.2%) 1997calBC-1979calBC (4.5%)
IAAA-123272	4,480 ± 30	57.26 ± 0.19	4,476 ± 26	3327calBC-3219calBC (50.5%) 3176calBC-3160calBC (6.8%) 3121calBC-3096calBC (10.9%)	3338calBC-3207calBC (56.1%) 3195calBC-3086calBC (33.8%) 3061calBC-3029calBC (5.5%)

表 2 (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123273	3,590 ± 30	63.95 ± 0.20	3,556 ± 26	1946calBC-1881calBC (68.2%)	2010calBC-2001calBC (1.2%) 1976calBC-1871calBC (77.6%) 1846calBC-1812calBC (10.0%) 1803calBC-1776calBC (6.7%)
IAAA-123274	3,860 ± 30	61.84 ± 0.21	3,883 ± 27	2457calBC-2417calBC (24.4%) 2410calBC-2340calBC (41.9%) 2314calBC-2310calBC (2.0%)	2466calBC-2290calBC (95.4%)

【参考値】

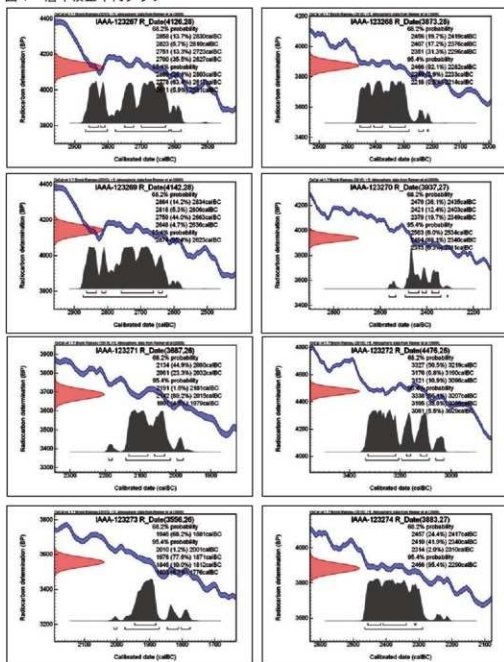
文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

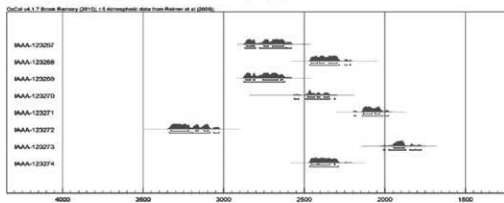
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{13}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

図1 暦年較正年代グラフ



[参考] 暦年較正年代グラフ

図2 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図)



[参考] 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図)

2 都遺跡のテフラ分析

藤根 久・中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

都遺跡は、北海道久遠郡せたな町大成区上浦175-1～190-1に所在する。本遺跡は、更新世の最終間氷期に形成された約30m標高を持つ海成段丘上に位置し、縄文時代後期の盛土遺構や堅穴住居が検出されている。

ここでは、平成24年度調査のO47区、平成25年度調査のD69区・J51区で検出されたテフラについて検討した。

2. 試料と分析方法

試料は、平成24年度調査のO47区で検出された上下2層のテフラ、D69区とJ51区において検出された2層のテフラの合計4試料である（表1）。分析は、以下の方法で行った。

表1 テフラ分析を行った試料

分析No.	試料No.	調査区	層位	層厚 (cm)	試料の特徴
1	MK-1	O47区	1-②層	11cm	暗灰黄色 (2.5Y5/1) 細粒テフラ、土壌中にレンズ状に散在
2	MK-2		1-③層	10cm	浅黄色 (2.5Y7/4) 軽石質テフラ、窪みに最大10cm程度堆積
3	MK13-1	D69区	1-③層	8cm	黄褐色 (2.5Y5/4) 軽石質テフラ、窪みに堆積
4	MK13-2	J51区	1-③層	9cm	にぶい黄褐色 (10YR6/4) 細粒テフラ、レンズ状に散在

各試料は、30g程度について超音波洗浄を行い、1φ (0.5mm)、2φ (0.25mm)、3φ (0.125mm)、4φ (0.0063mm) の4枚の篩を重ね、流水下で湿式ふるい分けを行った。それらを乾燥後、4φ篩残渣について、重液（テトラブロモエタン、比重2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。重鉱物は、封入剤カナダバルサムを用いてプレパラートを作製した。また、軽鉱物は、簡易プレパラートを作製した。

各プレパラートは、偏光顕微鏡下で鉱物粒子を同定、計数した。なお、重鉱物は、斜方輝石（主に紫蘇輝石:Opx）、単斜輝石（主に普通輝石:Cpx）、カンラン石（Ol）、角閃石類（Am）、磁鉄鉱（チタン鉄鉱を含む:Mag）、不明（Opq）に分類した。また、軽鉱物は雲母、石英、長石、火山ガラス、不明に分類した。また、火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従い、バブル型平板状（b1）、バブル型Y字状（b2）、軽石型繊維状（p1）、軽石型スポンジ状（p2）、急冷破砕型フレーク状（c0）に分類した。

4φ (0.0063mm) 軽鉱物中の火山ガラスは、横山卓雄ほか（1986）に従い、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率（n）を測定した。

3. 分析結果

以下に、各試料の軽鉱物組成と重鉱物組成、火山ガラスの形態的特徴および火山ガラスの屈折率測定結果をまとめる。

[分析No.1 (O47区、MK-1)]

この試料は、暗灰黄色細粒テフラで有機質土壌中にレンズ状に挟在する。4φ篩残渣中の重鉱物は、単斜輝石（Cpx）が最も多く34.33%、斜方輝石（Opx）が9.95%、磁鉄鉱（Mag）が30.85%、角閃石類（Am）が1.49%であった。一方、軽鉱物は、長石（Pl）が51.69%、火山ガラスが34.78%であった。火山ガラスは、軽石型スポンジ状ガラス（p2）が19.32%、次いでバブル型Y字状ガラス（b2）が9.66%、軽石型繊維状ガラス（p1）が5.80%であった（表4）。

火山ガラスの屈折率 (n) は、範囲1.4975-1.5015、平均1.4993であった (図1)。

駒ヶ岳C₁ (Ko-C₁:AD1856年) や駒ヶ岳C₂ (Ko-C₂:AD1694年) あるいは渡島大島a (Os-a:AD1741年) などが想定されるが、鉱物組成やガラスの屈折率測定では同定には至らなかった。なお、駒ヶ岳C₁テフラと駒ヶ岳C₂テフラは、共に北東方向に主軸を持つ。

表2 テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果 (上段:重量g、下段:個数%)

分析No.	試料No.	自然湿潤重量 (g)	砂粒分の粒度組成 (重量g)					重液分離 (g)	
			1φ	2φ	3φ	4φ	>4φ	軽鉱物	重鉱物
3	MK13-1	30.68	0.0002	0.1761	5.2572	3.1270	22.1195	0.1058	0.0440
			0.00	0.80	23.77	14.14	72.10	70.63	29.37
4	MK13-2	25.16	0.0017	0.0881	4.2188	2.0639	18.7875	0.0866	0.0389
			0.01	0.47	22.46	10.99	74.67	69.00	31.00

表3 テフラの軽鉱物・重鉱物組成

分類群	試料No.	軽鉱物 (粒数%)										重鉱物 (粒数%)								
		火山ガラス										合計	合計	単斜輝石 (Cpx)	斜方輝石 (Opx)	角閃石類 (Am)	カンラン石 (Ol)	磁鉄鉱 (Mag)	不明 (Opq)	合計
		雲母 (Bi)	石英 (Qu)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	破砕型 (c0)	合計									
1	MK-1			107	28	20	12	40			72	207	69	20	3		62	47	201	
2	MK-2	1		90	17		4	14	76		94	202	76	36	1		88	13	214	
3	MK13-1			118	6		1	26	54		81	205	49	13	3	2	136	1	204	
4	MK13-2		3	94	14		1	11	86		98	209	64	30	2		110	5	211	

表4 4φ篩残渣中の軽鉱物および重鉱物組成の割合

分類群	試料No.	軽鉱物 (粒数%)										重鉱物 (粒数%)								
		火山ガラス										合計	合計	単斜輝石 (Cpx)	斜方輝石 (Opx)	角閃石類 (Am)	カンラン石 (Ol)	磁鉄鉱 (Mag)	不明 (Opq)	合計
		雲母 (Bi)	石英 (Qu)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	破砕型 (c0)	合計									
1	MK-1			51.69	13.53		9.66	5.80	19.32		34.78	100.00	34.33	9.95	1.49		30.85	23.38	100.00	
2	MK-2	0.50		44.55	8.42		1.98	6.93	37.62		46.53	100.00	35.51	16.82	0.47		41.12	6.07	100.00	
3	MK13-1			57.56	2.93		0.49	12.68	26.34		39.51	100.00	24.02	6.37	1.47	0.98	66.67	0.49	100.00	
4	MK13-2		1.44	44.98	6.70		0.48	5.26	41.15		46.89	100.00	30.33	14.22	0.95		52.13	2.37	100.00	

[分析No.2 (O47区、MK-2)]

この試料は、浅黄色軽石質テフラでMK-1の下位5cmの有機質土壌を挟んで最大10cm層厚で挟んでいる。4φ篩残渣中の重鉱物は、磁鉄鉱 (Mag) が最も多く41.12%、斜方輝石 (Opx) が35.51%、単斜輝石 (Cpx) が16.82%、少量の角閃石類 (Am) が0.47%であった。一方軽鉱物は、長石 (Pl) が44.55%、火山ガラスが46.53%であった。火山ガラスは、軽石型スポンジ状ガラス (p2) が37.62%、次いで軽石型繊維状ガラス (p1) が6.93%、パブル型Y字状ガラス (b2) が1.98%であった。

火山ガラスの屈折率 (n) は、範囲1.5027-1.5077、平均1.5042であった (図1)。

鉱物組成やガラスの屈折率測定から、駒ヶ岳d (Ko-d:AD1640年) と同定される。

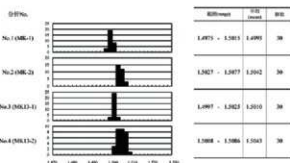


図1 4φ篩残渣中の火山ガラスの屈折率測定結果

[分析No.3 (D69区, MK13-1)]

この試料は、黄白色軽石質テフラで土壌中に挟在する。層厚は最大8cmに及ぶが連続性はない。

粒度組成では、3φ篩残渣が全体の23.77%と多い。また、重液分離では、軽鉱物が70.63%と多い(表2)。

4φ篩残渣中の重鉱物は、磁鉄鉱(Mag)が66.67%と多く、斜方輝石(Opx)が24.02%、単斜輝石(Cpx)が6.37%、角閃石(Ho)が1.47%、カンラン石(Ol)が0.98%であった。一方、軽鉱物は、長石(Pl)が57.56%、火山ガラスが39.51%であった。火山ガラスは、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が26.34%と多く、軽石型繊維状ガラス(p1)が12.68%、バブル型Y字状ガラス(b2)が0.49%であった(表3)。

火山ガラスの屈折率(n)は、範囲1.4997-1.5025、平均1.5010であった(図1)。

駒ヶ岳C₁(Ko-C₁:AD1856年)や駒ヶ岳C₂(Ko-C₂:AD1694年)あるいは渡島大島a(Os-a:AD1741年)などが想定されるが、鉱物組成やガラスの屈折率測定では同定には至らなかった。なお、駒ヶ岳C₁テフラと駒ヶ岳C₂テフラは、共に北東方向に主軸を持つ。

[分析No.4 (J51区, MK13-2)]

この試料は、浅黄色の細粒火山灰で土壌中に挟在する。層厚は最大9cmに及び、連続性が良い。

粒度組成では、3φ篩残渣が全体の22.46%と多い。また、重液分離では、軽鉱物が69.00%と多い(表2)。

4φ篩残渣中の重鉱物は、ガラスが付着した磁鉄鉱(Mag)が52.13%と多く、斜方輝石(Opx)が30.33%、単斜輝石(Cpx)が14.22%、角閃石(Ho)が0.95%であった。一方、軽鉱物は、長石(Pl)が44.98%、火山ガラスが46.89%であった。火山ガラスは、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が41.15%と多く、軽石型繊維状ガラス(p1)が5.26%、バブル型Y字状ガラス(b2)が0.48%であった。火山ガラスの屈折率(n_v)は、範囲1.5008-1.5086、平均1.5043であった(図1)。鉱物組成やガラスの屈折率測定から、駒ヶ岳d(Ko-d:AD1640年)と同定される。

4. 同定されたテフラおよび想定されるテフラの特性

本遺跡で同定されたテフラおよび同定が予想されるテフラの諸特性は以下の通りである。

(1) 駒ヶ岳d (Ko-d:AD1640年)

Ko-dは、駒ヶ岳火山から噴出した降下火山灰(afa)、降下軽石(pfa)および火砕流堆積物(pfl)からなる。

このテフラは、北西120kmの範囲に分布する。また、このテフラの主な鉱物は、重鉱物が斜方輝石(Opx)と単斜輝石(Cpx)からなり、軽鉱物は軽石型ガラスからなり、火山ガラスの屈折率(n)は、1.502-1.508である(町田・新井,2003)。

(2) 駒ヶ岳C₂ (Ko-C₂:AD1694年)

Ko-C₂は、駒ヶ岳火山から噴出した降下軽石(pfa)と火砕流堆積物(pfl)からなる。このテフラは、東北東270kmの範囲に分布し、道東まで達している。また、このテフラの主な鉱物は、重鉱物が斜方輝石(Opx)と単斜輝石(Cpx)からなり、軽鉱物は軽石型ガラスからなり、火山ガラスの屈折率(n)は、1.501-1.505である(町田・新井,2003)。

(3) 駒ヶ岳C₁ (Ko-C₁:AD1856年)

Ko-C₁は、駒ヶ岳火山から噴出した降下軽石(pfa)と火砕流堆積物(pfl)からなる。このテフラは、東北東10kmの範囲に分布する。また、このテフラの主な鉱物は、重鉱物が斜方輝石(Opx)と単斜輝石(Cpx)からなり、軽鉱物は軽石型ガラスからなり、火山ガラスの屈折率(n)は、1.501-1.503である。

(4) 渡島大島a (Os-a:AD1741年)

Os-aは、江差町の田沢の海岸段丘に乗り上げた砂丘層中に認められたKo-dの上位に二枚の薄い灰色の

細粒火山灰層が発見され、これらの火山灰が渡島大島の1741年に噴火した時の噴出物である可能性が高い(遠藤ほか,1986)。これまで、この降下火山灰層についての降灰分布や火山灰の特性などは明らかにされていない。

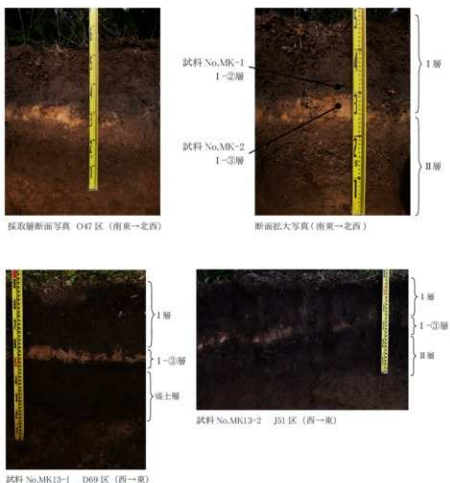
5. まとめ

都遺跡の調査において検出されたテフラ(MK-1、MK-2、MK13-1、MK13-2)の鉱物組成および火山ガラスの屈折率を調べた。その結果、分析No.2(O47区、MK-2)と分析No.4(J51区、MK13-2)は、同じ鉱物組成と屈折率を示すことから、駒ヶ岳dテフラ(Ko-d:AD1640年)と同定された。

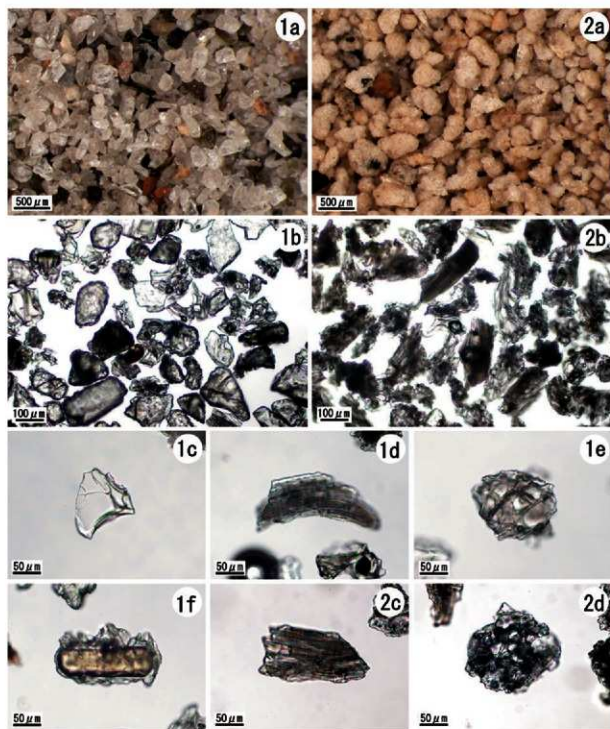
一方、分析No.1(O47区、MK-1)と分析No.3(D69区、MK13-1)は、同一のテフラと考えられるが、テフラの同定には至らなかった。なお、これらテフラは、駒ヶ岳C₂(Ko-C₂:AD1694年)や駒ヶ岳C₁(Ko-C₁:AD1856年)あるいは渡島大島a(Os-a:AD1741年)の可能性が指摘された。これらのうち、Ko-C₂とKo-C₁は、降灰分布域が異なる点と火山ガラス屈折率が若干異なる点で、可能性が低いと考えられる。ただし、一方のOs-aも、比較できるデータを欠くために同定には至らなかった。

参考・引用文献

- 町田 洋・新井房夫(2003) 新編 火山灰アトラス, 336p, 東京大学出版会
 遠藤邦彦・鈴木正章・藤井 亨(1986) 渡島半島西海岸の海岸砂丘, 『第四紀露頭集-日本のテフラ』第四紀露頭集編集委員会編, 日本地質学会, P135.
 横山卓雄・榎原 敬・山下 透(1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定, 第四紀研究, 25, 21-30.



図版1 分析試料採取層断面写真



図版2 テフラ分析試料と顕微鏡写真（数字は分析 No. に対応）

1a. 分析 No.1（試料 MK-1）の3φ残渣の実体顕微鏡写真

2b. 分析 No.2（試料 MK-2）の3φ残渣の実体顕微鏡写真

1b. 4φ篩残渣の偏光顕微鏡写真

2b. 4φ篩残渣の偏光顕微鏡写真

1c. 4φ篩残渣のバブル型Y字状ガラス (b2)

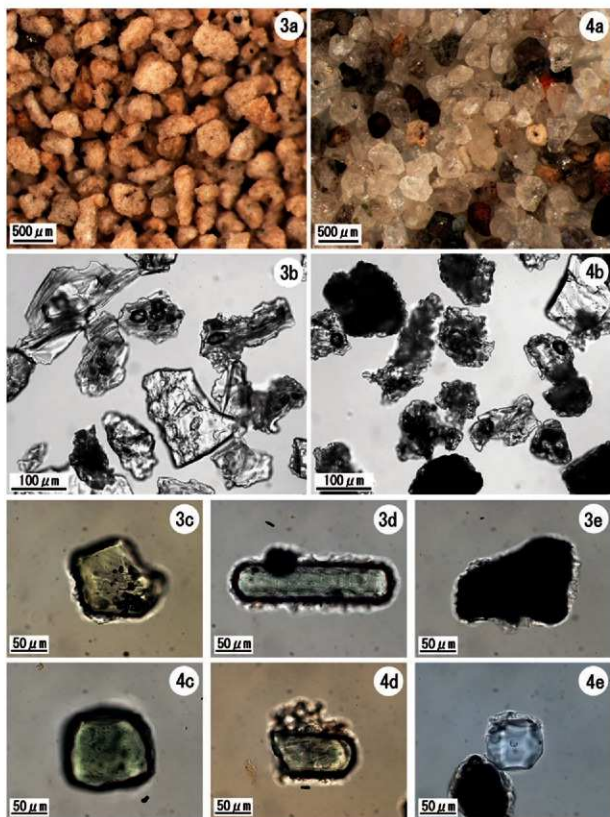
1d. 4φ篩残渣の軽石型繊維状ガラス (p1)

1e. 4φ篩残渣の軽石型スポンジ状ガラス (p2)

1f. 4φ篩残渣のガラス付着斜方輝石 (Op_x)

2c. 4φ篩残渣の軽石型繊維状ガラス (p1)

2d. 4φ篩残渣の軽石型スポンジ状ガラス (p2)



図版3 各テフラの偏光顕微鏡写真(数字は分析No.に対応)

- 3a. 分析No.3(MK13-1)の2φ残渣 4a. 分析No.4(MK13-2)の2φ残渣 3b. 軽鉱物(4φ篩残渣)
 4b. 軽鉱物(4φ篩残渣) 3c. 単斜輝石(4φ篩残渣) 3d. 斜方輝石(4φ篩残渣)
 3e. 磁鉄鉱(4φ篩残渣) 4c. 単斜輝石(4φ篩残渣) 4d. 斜方輝石(4φ篩残渣)
 4e. カンラン石・磁鉄鉱(4φ篩残渣)

3 都遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（バネオ・ラボ）

1. はじめに

北海道せたな町に所在する都遺跡では、堅穴住居跡や石組炉から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、北海道埋蔵文化財センターが行ったフローテーションで得られた炭化材から抽出したものと、1個体として取り上げられたものの2種類が含まれる。フローテーションは堅穴住居跡の焼土であるH-1HF-1、H-2HF-1、H-3HF-1、H-5HF-1、石組炉5の5遺構で行われ、得られた複数試料の中から最も大きなものを1点を抽出した。また石組炉6で出土した炭化材は1個体として取り上げられ、合計で6点の出土炭化材について同定を行った。遺構の時期は、発掘調査の所見から縄文時代中期後半～後期前葉と考えられている。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柎目）について、カミソリと手で断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製 JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行った。

3. 結果

同定の結果、広葉樹であるクリとコナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）、イボタノキ属の3分類群が産出した。コナラ節が最も多く3点みられ、クリが2点、イボタノキ属が1点みられた。同定結果を表1に示す。

表1 都遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試料No.	遺物No.	出土遺構	層位	樹種	備考
1	フローテーションNo.4	H-1HF-1	覆土1層	コナラ属コナラ節	複数試料内から最も大きいものを抽出
2	フローテーションNo.5	H-2HF-1	覆土1層	コナラ属コナラ節	複数試料内から最も大きいものを抽出
3	フローテーションNo.2	H-3HF-1	覆土1層	クリ	複数試料内から最も大きいものを抽出
4	フローテーションNo.3	H-5HF-1	覆土1層	コナラ属コナラ節	複数試料内から最も大きいものを抽出
5	フローテーションNo.6	石組炉5	覆土2層	クリ	複数試料内から最も大きいものを抽出
6	炭No.4	石組炉6	覆土2層	イボタノキ属	

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold, et Zucc. ブナ科 図版1 1a-1c (No.5)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

(2) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 2a-2c (No.2)

年輪のはじめに大型の道管が1列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靱で、切削加工はやや難しい。

(3) イボタノキ属 *Ligustrum* モクセイ科 図版1 3a-3c (No.6)

小型の道管が単独ないし2~4個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1~4列が直立する異性で、1~3列となる。

イボタノキ属にはイボタノキやミヤマイボタなどがあり、温帯から暖帯に分布する落葉または半落葉低木の広葉樹である。

4. 考察

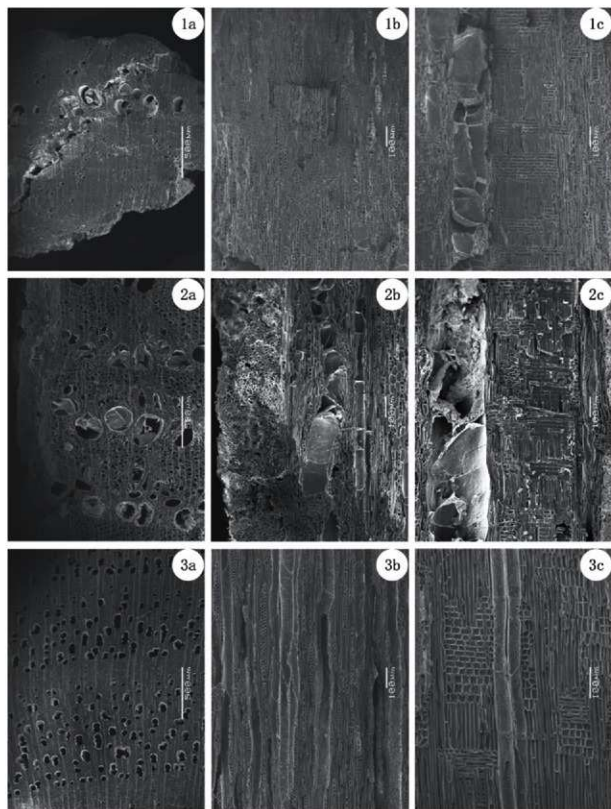
堅穴住居跡の焼土であるH-1HF-1、H-2HF-1、H-5HF-1で出土した炭化材はコナラ節、H-3HF-1と石組炉5で出土した炭化材はクリであった。また石組炉6の炭化材はイボタノキ属であった。材の用途については、堅穴住居跡の焼土と石組炉の炭化材は、共に燃料材の残渣などの可能性が考えられる。クリやコナラ節は火持ちが良く燃料材に適した樹種であり、イボタノキ属は低木で建築材にはあまり利用されない樹種である(伊東ほか,2011)。

また八雲町の野田生4遺跡で出土した縄文時代中期の燃料材とされる炭化材では、クリが最も多くみられ、長万部町のオバルベツ4遺跡で焼土から出土した縄文時代中期の燃料材とされる炭化材では、コナラ節とネリコ属が出土している(伊東・山田編,2012)。

今回産出したいずれの樹種も、遺跡周辺に生育可能な樹種である。そのため都遺跡では、遺跡周辺に生育していたクリとコナラ節、イボタノキ属を伐採して燃料材として利用していたと考えられる。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011)日本有用樹木誌,238p,青海社。
伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学,449p,青海社。



図版1 都遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ(No. 5)、2a-2c. コナラ属コナラ節(No. 2)、3a-3c. イボタノキ属(No. 6)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

4 都遺跡のプラント・オパール分析および放射性炭素年代測定

(1) プラント・オパール分析

森 将志 (バレオ・ラボ)

1. はじめに

北海道せたな町に所在する都遺跡において、プラント・オパール分析用の試料が採取された。以下では、プラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺のイネ科の植生について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、遺跡から採取された計5点である(表1)。プラント・オパール分析用の試料を採取した層準では、放射性炭素年代測定も行われており、No.1が縄文時代後半、No.3が縄文時代後期末、No.5が縄文時代後期前葉の年代値が得られている(放射性炭素年代測定の節参照)。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールピーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30ccに加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版に載せた。

3. 結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(表1)、分布図に示した(図1)。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、ネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の5種類の機動細胞珪酸体が確認できた。ササ属型機動細胞珪酸体とキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体は全ての試料で産出しており、それぞれ74,900~501,900個、27,500~92,700個、5,000~30,800個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体はNo.1とNo.3、No.4で産出しており、No.1が5,300個、No.3が2,700個、No.4が2,600個である。他のタケ亜科機動細胞珪酸体はNo.3とNo.5で産出しており、No.3が2,700個、No.5が2,500個である。

4. 考察

検鏡の結果、いずれの試料においてもササ属型機動細胞珪酸体が最も多く産出した。よって、遺跡周辺のイネ科植物相では、ササ属型のササ類が優勢であったと思われる。

ササ属型機動細胞珪酸体は上位層に向かって増加しており、時代を経るに従って遺

表1 分析試料一覧

試料No.	時期	土相
1	縄文時代後半	にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
2		にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
3	縄文時代後期末	黒褐色(10YR2/3)シルト
4		黒褐色(10YR2/3)シルト
5	縄文時代後期前葉	暗褐色(10YR3/3)シルト

表2 試料1g当たりのプラント・オパール個数

試料No.	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)
1	5,300	501,900	0	30,700	14,700
2	0	441,100	0	34,200	18,400
3	2,700	462,200	2,700	91,100	30,800
4	2,600	346,800	0	92,700	27,800
5	0	74,900	2,500	27,500	5,000

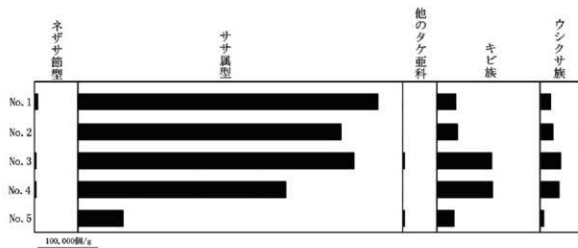


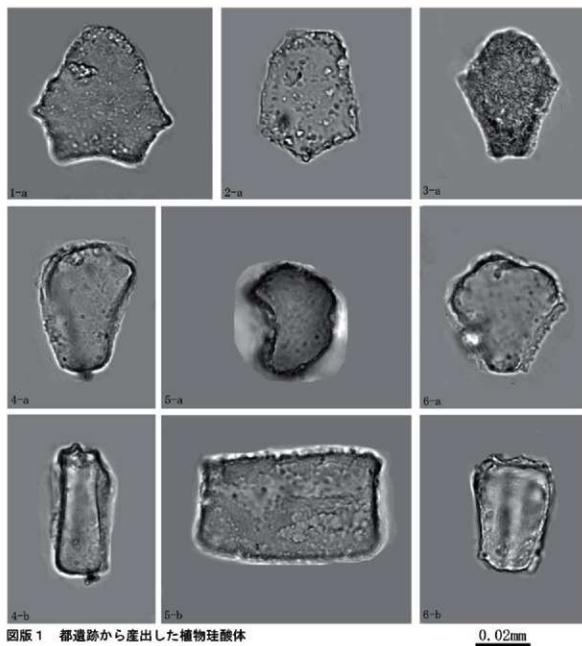
図1 都遺跡における植物珪酸体分布図

跡周辺に分布を拡大させていたと思われる。特にNo.5からNo.4にかけては産出量が著しく増加するため、縄文時代後期末に著しく分布を拡大していたと思われる。なお、北海道では植物珪酸体群変動にもとづく最終間氷期以降の植生史がまとめられており（佐瀬ほか、2004）、本遺跡に最も近い石狩低地帯南部では、樽前dテフラ（8～9ka）降下前後の層準でササ類が優勢になる。よって、本遺跡周辺におけるササ属主体のイネ科植物相は、No.5（縄文時代後期前葉）以前にすでに成立していた可能性も考えられる。

ササ属型機動細胞珪酸体以外では、キビ族機動細胞珪酸体とウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立ち、特にNo.3とNo.4において産出が多く見られた。縄文時代後期末において、遺跡周辺にはキビ族やウシクサ族も分布を広げていたかもしれない。ちなみに、キビ族やウシクサ族という分類単位には、乾燥的環境に生育する種や湿地的環境に生育する種が含まれ、さらには、キビ族にはアワやヒエ、キビといった栽培種が含まれるが、機動細胞珪酸体の形態でそれらを区別するのは難しい。

引用文献

佐瀬 隆・山縣耕太郎・細野 衛・木村 準（2004）石狩低地帯南部、テフラー土壌累積層に記録された最終間氷期以降の植物珪酸体群の変遷—特にササ類の地史的動態に注目して—。第四紀研究,43,389-400。



図版1 都遺跡から産出した植物珪酸体

0.02mm

1. ササ属型機動細胞珪酸体 (No. 2)
 2. ササ属型機動細胞珪酸体 (No. 3)
 3. 他のタケ亜科機動細胞珪酸体 (No. 3)
 4. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (No. 2)
 5. キビ族機動細胞珪酸体 (No. 2)
 6. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (No. 3)
- a : 断面 b : 側面

(2) 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林絃一
Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

北海道せたな町に所在する都遺跡では、古植生復元のために、5層準からプラント・オパール分析の試料が採取された。プラント・オパール分析用試料に時間の目盛を与えるために、断面から採取した土壌について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

土壌試料が採取された5層準のうち、最上位、中位、最下位の3層準を放射性炭素年代測定用の試料とした。土壌試料は、AAA処理を行い、土壌有機物の中でもヒューミンを対象とした。測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-25719	遺跡名：都遺跡 位置：プラント・オパール分析用試料採取断面 層位：最上位（試料No.1）	種類：土壌(hmin) 状態：dry	湿式篩分：106 μm 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：0.5N, 塩酸：1.2N）
PLD-25720	遺跡名：都遺跡 位置：プラント・オパール分析用試料採取断面 層位：中位（試料No.3）	種類：土壌(hmin) 状態：dry	湿式篩分：106 μm 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：0.5N, 塩酸：1.2N）
PLD-25721	遺跡名：都遺跡 位置：プラント・オパール分析用試料採取断面 層位：最下位（試料No.5）	種類：土壌(hmin) 状態：dry	湿式篩分：106 μm 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：0.5N, 塩酸：1.2N）

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代を、図1と2に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ: IntCal13）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を

示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{13}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{13}C 年代を暦年に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-25719	-23.69 \pm 0.18	1609 \pm 20	1610 \pm 20	406AD (30.9%) 431AD 492AD (37.3%) 530AD	397AD (51.9%) 475AD 485AD (43.5%) 535AD
PLD-25720	-22.79 \pm 0.20	3085 \pm 21	3085 \pm 20	1403BC (24.3%) 1376BC 1348BC (43.9%) 1304BC	1413BC (95.4%) 1287BC
PLD-25721	-22.81 \pm 0.20	3791 \pm 22	3790 \pm 20	2281BC (31.1%) 2249BC 2232BC (26.2%) 2198BC 2165BC (10.9%) 2151BC	2291BC (74.2%) 2190BC 2181BC (21.2%) 2141BC

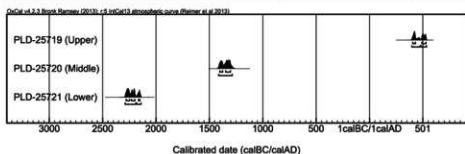


図1 暦年較正結果の分布

4. 考察

以下、2 σ 暦年代範囲（確率95.4%）に着目して、結果を整理する。暦年代範囲と考古学の編年との対応関係については、小林（2008）、工藤（2012）、臼杵・出穂編（2005）を参照した。

最上位の土壌（PLD-25719）は、2 σ 暦年代範囲が397-475 cal AD（51.9%）および485-535 cal AD（43.5%）で、4世紀末～6世紀前半の年代を示した。この年代は続縄文後半期に相当する。

中位の土壌（PLD-25720）は、2 σ 暦年代範囲が1413-1287 cal BC（95.4%）で、縄文時代後期末に相当する年代を示した。

最下位の土壌（PLD-25721）は、2 σ 暦年代範囲が2291-2190 cal BC（74.2%）および2181-2141 cal BC（21.2%）で、縄文時代後期前葉に相当する年代を示した。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 小林謙一（2008）縄文時代の暦年代. 小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」:257-269, 同成社.
- 工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—, 373p, 神泉社.
- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{13}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{13}C 年代」:3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Halldason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.
- 臼杵勲・出穂雅実編（2005）科学研究費補助金基盤研究（B）（2）北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 平成16年度研究成果報告書, 50p.

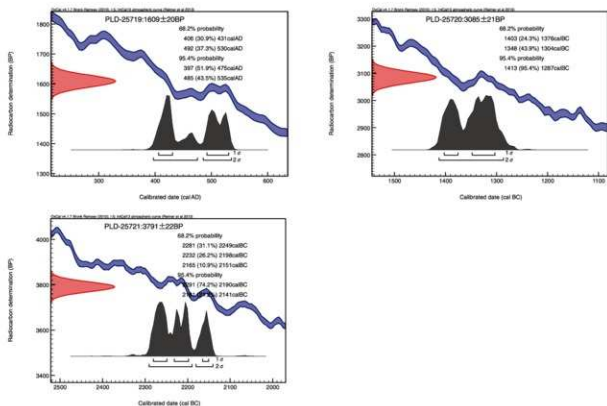
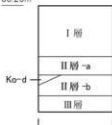


図2 暦年較正結果



H=30.20m



I層 : トレンチの左側には隣接して上浦神社があり、これに伴う客土。

II層-a : 黒褐色土 Ko-d (1640) 以降の層。

II層-b : 黒褐色土 Ko-d 降灰までの包含層。

III層 : 褐色土 漸移層

図3 プラント・オパール、AMS試料採取地点

5 都遺跡出土試料の炭化種実同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

本分析調査では、せたな町大成区都遺跡の発掘調査で出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植生や植物利用に関する資料を得る。

2. 試料

試料は、各遺構覆土の洗い出し済種実遺体28点(試料番号1~28)で、乾燥した状態で容器に入っている。各試料の詳細は、結果とともに表1に示す。

3. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)、椿坂(1993)等を参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。分析後は、種実遺体を容器に戻して返却する。

なお、委託業務実施要領に示された前処理(試料の洗浄)は、種実遺体が破壊する危険性が高いため、実施していない。

4. 結果

被子植物7分類群(アワ?, イネ科A、イネ科、スゲ属、スベリヒユ、アカザ科、ナス科?) 44個の種実遺体が同定された(表1)。8個(試料番号3、4、13、26)は同定ができなかったため、不明(不明種実・不明(種実?)を含む)としている。種実以外では、菌核が3個(試料番号7、25)確認された。また、菌核の可能性がある10個を不明(菌核?)とし、球体で形状が類似する9個を不明A(菌核?)としている。

種実遺体群は、全て草本からなる。石組5の覆土2層(試料番号27)から、アワの胚乳に似る炭化種実が1個確認され、栽培種に由来する可能性がある。その他は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群で、アカザ科が全体の8割(計35個)を占める。

本分析で同定された種実各分類群の写真を図版1に示し、形態的特徴等を以下に述べる。

- ・アワ (*Setaria italica* (L.) P.Beauv.) ? イネ科エノコログサ属

胚乳に似る種実遺体は炭化しており黒色。長さ0.7mm、幅0.8mm、厚さ0.5mmの半偏球体。背面は丸みがあり、腹面は平らであるが、出土種実には腹面の下3/4程度を欠損する。背面基部正中線上に、長さ0.2mm、幅0.4mmの半円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。出土種実の大きさはアワに近いが、胚の凹みが小さいキビ (*Panicum miliaceum* L.) の可能性も残されるため、アワに疑問符を付している。

- ・イネ科 (Gramineae)

果実は灰褐色、長さ1.7~2.2mm、幅0.7mm程度の扁平な半狭楕円形をイネ科A、長さ1.5mm、幅1.1mmの扁平な半楕円体をイネ科としている。背面は丸みがあり腹面は扁平。背腹両面の基部には径0.5~0.7mmの胚の凹みがある。果皮表面には微細な縦長の網目模様がある。

- ・スゲ属 (*Carex*) カヤツリグサ科スゲ属

果実は灰褐色、長さ2mm、幅1.6mm、厚さ0.8mm程度のレンズ状広倒卵体。頂部の柱頭部分が伸び、基部は切形。果皮表面には微細な六角形状の網目模様がある。

- ・スベリヒユ (*Portulaca oleracea* L.) スベリヒユ科スベリヒユ属

種子は黒褐色、径0.8mmのやや扁平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。臍には種柄の一部が残る。

種皮表面には鈍円錐状突起が臍から同心円状に配列する。

・アカザ科 (Chenopodiaceae)

種子は黒色、径0.9~1.4mmのやや偏平な円形。基部は凹み、中心に向かって食い込む。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様放射状に配列し、光沢がある。

・ナス科 (Solanaceae) ?

種子と考える種実遺体は灰褐色。長さ0.6mm、幅1.0mmの偏平で歪な腎臓形。基部は不明瞭で、臍を確認することができなかった。表面には微細な網目模様が確認されるが、乾燥収縮と表面の泥の付着により、詳細の確認が困難であった。

・不明種実

試料番号26で確認された種実遺体は、灰褐色、長さ0.9mm、幅1.1mmのやや偏平で歪な腎臓形。基部はやや窪む。表面には微細な網目模様があるが、ナデシコ科やナス科とは区別される。出土種実は、今後同定される可能性があるため、図版1に示している。

5. 考察

石組が5の覆土2層からは、穀類のアワに似る炭化種実が1個確認された。1個のみの出土ではあるが、当時利用された植物質食糧の可能性が指摘され、火を受けたことが推定される。今後の資料蓄積が望まれる。

その他の分類群は、アカザ科やイネ科、スゲ属、スベリヒユ、ナス科?などの、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する草本類が確認された。これらは、調査区周辺域の草地に生育していたと考えられるが、炭化は認められず、保存状態が良好である。遺跡から出土する種実のうち、低湿地以外から出土した炭化していない種実は、炭化種実と同様に扱うには問題があるとされ(吉崎,1992など)、遺構の時期の植生を反映するものであるかは課題が残る。この点に関しては、試料の履歴を慎重に検討することが望まれる。

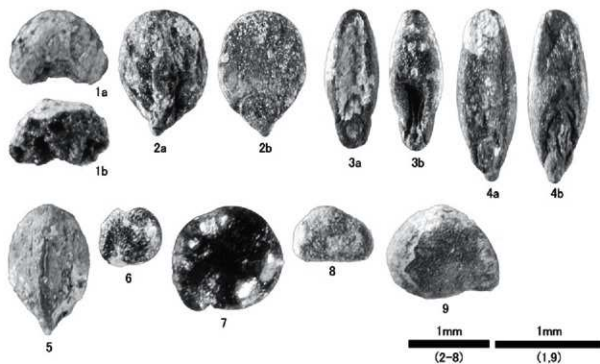
引用文献

- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大学出版会,642p.
 椿坂恭代,1993,アワ・ヒエ・キビの同定,吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」,261-281.
 吉崎昌一,1992,古代雑穀の検出,月刊考古学ジャーナル,No.355,2-14.

表1 都遺跡の種実同定結果

試料情報				同定結果					
試料番号	サンプル番号	遺構/発掘区	層位	分類群	部位	状態		個数	備考
1	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	アカザ科	種子	完形	—	1	
2	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	スベリヒユ	種子	完形	—	1	一部欠損
3	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	不明(種実?)	—	完形	炭化	1	
4	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	不明	—	破片	炭化	2	接合し完形1個
5	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
6	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
7	No. 4	H-1HF-1	覆土1層	種実ではない(菌核)	—	—	—	1	
8	No. 5	H-2HF-1	覆土1層	スゲ属	果実	完形	—	1	3面型
9	No. 5	H-2HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
10	No. 5	H-2HF-1	覆土1層	ナス科?	種子?	完形	—	1	
11	No. 5	H-2HF-1	覆土1層	イネ科A	果実	完形	—	1	細身
12	No. 5	H-2HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
13	No. 2	H-3HF-1	覆土1層	不明種実	—	破片	—	4	
14	No. 2	H-3HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
15	No. 2	H-3HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
16	No. 1	H-4HF-1	覆土1層	イネ科	果実	完形	—	1	
17	No. 1	H-4HF-1	覆土1層	アカザ科	種子	完形	—	2	
18	No. 1	H-4HF-1	覆土1層	イネ科A	果実	破片	—	1	
19	No. 1	H-4HF-1	覆土1層	イネ科A	果実	完形	—	1	細身
20	No. 1	H-4HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
21	No. 1	H-4HF-1	覆土1層	不明A(菌核?)	—	完形	—	1	
22	No. 3	H-5HF-1	覆土1層	アカザ科	種子	完形	—	23	
23	No. 3	H-5HF-1	覆土1層	イネ科A	果実	破片	—	1	上部欠損
24	No. 3	H-5HF-1	覆土1層	不明(菌核?)	—	完形	—	1	長槽円体
25	No. 6	石組5F5	覆土2層	種実ではない(菌核)	—	—	—	2	
26	No. 6	石組5F5	覆土2層	不明種実	—	完形	—	1	ナデシコ科?, ナス科?
27	No. 6	石組5F5	覆土2層	アワ?	胚乳?	破片	炭化	1	長さ0.7mm, 幅0.8mm
28	No. 6	石組5F5	覆土2層	アカザ科	種子	完形	—	9	
				不明A(菌核?)	—	完形	—	1	

図版1 都遺跡の種実遺体



- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. アワ? 胚乳?(試料番号27;右組45 フク土2層) | 2. イネ科 果実(試料番号16;H-4 HF-1 フク土1層) |
| 3. イネ科A 果実(試料番号11;H-2 HF-1 フク土1層) | 4. イネ科A 果実(試料番号19;H-4 HF-1 フク土1層) |
| 5. スゲ属 果実(試料番号8;H-2 HF-1 フク土1層) | 6. スベリヒユ 種子(試料番号2;H-1 HF-1 フク土1層) |
| 7. アカザ科 種子(試料番号22;H-5 HF-1 フク土1層) | 8. ナス科? 種子?(試料番号10;H-2 HF-1 フク土1層) |
| 9. 不明種実(試料番号26;右組45 フク土2層) | |

6 都遺跡出土試料の動物遺存体同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

都遺跡（北海道久遠郡せたな町大成区都に所在）は、縄文時代中期末～後期前葉の盛土遺構や堅穴住居跡などが検出されている。今回、調査区内から出土した骨同定を実施し、当時の動物利用に関する資料を得る。

2. 試料

試料は、H-2HF-1の覆土1層、H-4HF-1の覆土1層、石組炉5の覆土2層について実施されたフローテーションで得られた10試料（試料番号1～10）、およびH-7の覆土上位とP-12の覆土1層からハンドピックによって採取された2試料（試料番号11・12）である。試料は、全て乾燥状態にあり、1試料中に複数枚の骨片がみられる。試料の詳細については、結果とともに表示する。

3. 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

4. 結果

結果を表1に示す。検出された骨は、微細な破片となり、白色を呈しており焼骨の特徴を示す。

<試料番号1；H-2HF-1 覆土1層>

脊椎動物門の部位不明破片である。

<試料番号2；H-4HF-1 覆土1層>

哺乳綱の四肢骨・部位不明破片、および種類・部位不明破片である。

<試料番号3；石組炉5 覆土2層>

哺乳綱の部位不明破片、および種類・部位不明破片である。

<試料番号4；石組炉5 覆土2層>

哺乳綱の歯牙片である。

<試料番号5；石組炉5 覆土2層>

スズキ目/カサゴ目の可能性がある前上顎骨/歯骨、および硬骨魚綱の前鋤骨/前上顎骨/歯骨/咽頭骨片である。

<試料番号6；石組炉5 覆土2層>

タイ科の歯牙片である。

<試料番号7；石組炉5 覆土2層>

魚類の咽頭骨片である。

<試料番号8；石組炉5 覆土2層>

硬骨魚綱の右上顎骨の可能性がある破片である。

<試料番号9；石組炉5 覆土2層>

硬骨魚綱の鰭棘等・部位不明破片、およびカエル類の左橈尺骨の近位端である。

<試料番号10；石組炉5 覆土2層>

スズキ目/カサゴ目の可能性がある前上顎骨と前上顎骨/歯骨の破片、硬骨魚綱の椎骨・鰭棘等・部位

不明破片、哺乳綱の歯牙・部位不明破片、種類・部位不明破片である。

<試料番号11; H-7 覆土上位>

オットセイの可能性のある右大腿骨の近位端片である。大腿骨骨頭は化石化が弱い。

<試料番号12; P-12 覆土1層>

哺乳綱の部位不明破片、種類・部位不明破片である。

5. 考察

出土した骨は、いずれも微細な焼骨の破片で、大半が種類・部位不明破片である。多くは食糧資源として利用された後に廃棄され、焼かれたものとみられる。検出された種類の中のカエル類は、周辺に棲息していたものが混入したものであろう。硬骨魚綱では、タイ科の歯牙、スズキ目/カサゴ目の可能性のある破片（主上顎骨、前上顎骨/歯骨）、種類不明の破片（主上顎骨、前上顎骨/歯骨/咽頭骨、椎骨、鱗棘等）などがみられた。この内、種類不明の前鋤骨/前上顎骨/歯骨/咽頭骨は、大きさが 3.26×4.19 mmを測る。また、検出された椎体片の中には、推定される椎体径が6mm程度になるものも含まれる。これらは、比較的大型の硬骨魚綱に由来する可能性がある。哺乳綱では、オットセイの可能性のある右大腿骨の破片がみられた。骨頭部の化石化が弱いことから、2~3歳以下の若い個体と判断される。若い個体ほど狩猟しやすかったことも考えられる。海獣類は、北海道沿岸部に位置する遺跡からの出土事例が報告されており（例えば、宮,1977; 金子,1985; 西本,1987など）、本遺跡付近においても狩猟されていたと思われる。その他の哺乳綱としたものはエゾシカなどを含む陸獣類とみられ、四肢骨や歯牙の破片などが確認される。

今回同定を行った骨は、微細な破片であるため種類を明らかにできたものが少ない。また、破片数で見ると硬骨魚綱が90片と最も多いが、大半が鱗棘片であり、検出される地点も石組が5の覆土2層に限定されることから、漁業活動を中心とした生活であったとは限らない。硬骨魚綱、両生綱、哺乳綱などが検出されていることより多岐にわたる種類が採取されていたことが想像できる。今後とも資料を蓄積することで、より詳細が明らかになっていくことが期待される。

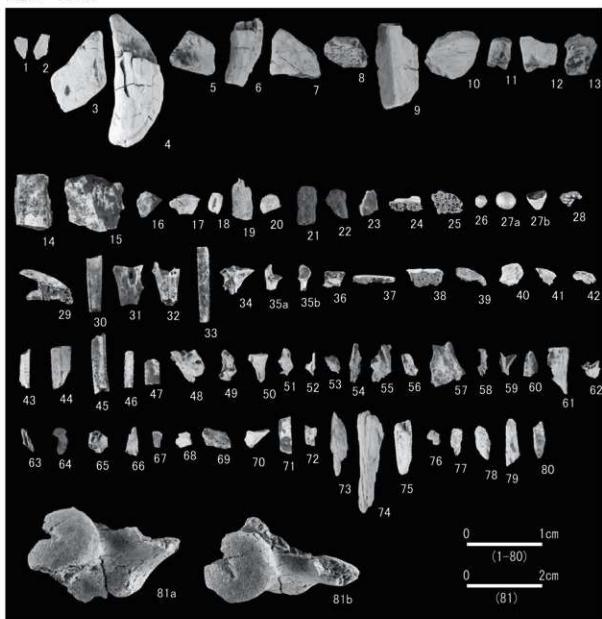
引用文献

- 金子 浩昌,1985,栄浦第一遺跡出土の動物遺存体,栄浦第一遺跡,東京大学文学部考古学研究室・文学部常呂研究室,320-327.
- 宮 文子,1977,函館空港遺跡出土の動物遺存体,函館空港第4地点・中野遺跡-函館空港拡張工事に伴う遺跡発掘調査報告書-函館市教育委員会,1247-1250.
- 西本 豊弘,1987,高砂貝塚出土の動物遺体,噴火湾沿岸貝塚遺跡調査報告2 高砂貝塚,札幌医科大学解剖学第二講座,160-166.

表1 都遺跡の骨同定結果

試料番号	遺構/発掘区	層位	採取年月	試料採取方法	種類		部位	左	右	部分	点数	重量(g)	備考
1	H-2 ⅡF-1	覆土1層	2012/8/22	フロートーシヨン	脊椎動物門	不明	不明			破片	2	0.00g	
2	H-4 ⅡF-1	覆土1層	2012/8/23	フロートーシヨン	哺乳綱	獣類	四肢骨			破片	2	0.97g	最大長17.99mm
2	H-4 ⅡF-1	覆土1層	2012/8/23	フロートーシヨン	哺乳綱	獣類	不明			破片	9	1.08g	
2	H-4 ⅡF-1	覆土1層	2012/8/23	フロートーシヨン	脊椎動物門	不明	不明			破片	5	0.07g	
3	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	哺乳綱	獣類	不明			破片	2	0.25g	最大長7.69mm
3	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	脊椎動物門	不明	不明			破片	5	0.05g	
4	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	哺乳綱	獣類	歯牙			破片	3	0.04g	最大長5.17mm
5	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	スズキ目/カサゴ目?	前上頸骨/歯骨			破片	1	0.00g	現長4.40mm
5	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	前歯骨/前上頸骨/歯骨/咽頭骨			破片	1	0.00g	3.25×4.19mm
6	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	タイ科	歯牙			破片	2	0.01g	臼歯状、直径1.63mm、2.60mm
7	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	咽頭骨			破片	1	0.00g	現長2.93mm
8	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	主上頸骨?		右?	破片	1	0.01g	現長8.07mm
9	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	不明			破片	30	0.24g	
9	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	鱗棘等			破片	1	0.01g	
9	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	両生綱	カエル類	腕尺骨	左		破片	1	0.00g	近位端幅1.84mm
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	スズキ目/カサゴ目?	前上頸骨			破片	1	0.00g	現長2.88mm
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	スズキ目/カサゴ目?	前上頸骨/歯骨			破片	2	0.01g	
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	椎骨			破片	4	0.01g	
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	鱗棘等			破片	28	0.18g	
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	硬骨魚綱	魚類	不明			破片	19	0.14g	
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	哺乳綱	獣類	歯牙			破片	1	0.00g	現長2.27mm
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	哺乳綱	獣類	不明			破片	5	0.04g	
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	脊椎動物門	不明	不明			破片	多数	0.47g	
10	右組伊5	覆土2層	2012/9/25	フロートーシヨン	砂・粘土塊等							0.03g	
11	H-7	覆土1層	2012/9/18	ハンドピッケ	哺乳綱	オットセイ?	大腿骨	右	近位端	破片	1	7.08g	
12	P-12	覆土1層	2012/8/1	ハンドピッケ	哺乳綱	獣類	不明			破片	2	0.07g	
12	P-12	覆土1層	2012/8/1	ハンドピッケ	脊椎動物門	不明	不明			破片	6	0.06g	

図版1 出土骨



1~2. 種類部位不明破片(試料番号1;H-2 HF-1 覆土1層)

5~13. 魚類部位不明破片(試料番号2;H-4 HF-1 覆土1層)

16~20. 種類部位不明破片(試料番号3;石組炉5 覆土2層)

24. スズキ目/カサゴ目? 前上顎骨/歯骨(試料番号5;石組炉5 覆土2層)

25. 魚類前歯骨/前上顎骨/歯骨/咽頭骨(試料番号5;石組炉5 覆土2層)

26~27. タイ科歯牙(試料番号6;石組炉5 覆土2層)

29. 魚類右? 主上顎骨(試料番号8;石組炉5 覆土2層)

34. 魚類部位不明破片(試料番号9;石組炉5 覆土2層)

36. スズキ目/カサゴ目? 前上顎骨(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

37~38. スズキ目/カサゴ目? 前上顎骨/歯骨(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

39~42. 魚類椎骨(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

48~66. 魚類部位不明破片(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

68~72. 種類部位不明破片(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

75~80. 種類部位不明破片(試料番号12;P-12 覆土1層)

3~4. 魚類四肢骨(試料番号2;H-4 HF-1 覆土1層)

14~15. 魚類部位不明破片(試料番号3;石組炉5 覆土2層)

21~23. 魚類歯牙(試料番号4;石組炉5 覆土2層)

28. 魚類咽頭骨(試料番号7;石組炉5 覆土2層)

30~33. 魚類鰭棘等(試料番号9;石組炉5 覆土2層)

35. カエル類左腕尺骨(試料番号9;石組炉5 覆土2層)

43~47. 魚類鰭棘等(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

67. 魚類歯牙(試料番号10;石組炉5 覆土2層)

73~74. 魚類部位不明破片(試料番号12;P-12 覆土1層)

81. オットセイ? 右大腿骨(試料番号11;H-7 覆土上位)

7 都遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展 (バネオ・ラボ)

1. はじめに

久遠郡せたな町大成区に所在する都遺跡より出土した縄文時代の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、都遺跡より出土した黒曜石製石器22点で、時期は縄文時代中期中葉から後期前葉とみられている(表1)。

表1 分析対象となる黒曜石製石器

試料番号	調査区および遺構名	遺物番号	遺物名	層位	大きさ (cm)			重量 (g)	伴うと思われる土器の時期 (縄文時代)
					長さ	幅	厚さ		
1	H-1 (住居)		石槍・ナイフ類	覆土2層	5.68	2.17	0.66	5.72	中期中葉～後葉
2	H-1 (住居)		石槍・ナイフ類	覆土2層	5.13	(2.38)	0.87	6.57	中期中葉～後葉
3	H-1 (住居)		石槍・ナイフ類	覆土1層	5.41	2.55	0.62	4.93	中期中葉～後葉
4	H-2 (住居)		石鏃	覆土1層	(1.92)	0.83	0.27	0.31	後期初頭
5	H-3 (住居)		石鏃	床面	4.36	1.75	0.77	3.47	中期中葉～後葉
6	H-4 (住居)		石製品	覆土2層	(5.63)	2.76	0.80	11.10	中期末～後期初頭
7	H-4 (住居)		石槍・ナイフ類	覆土1層	5.28	2.82	1.38	12.67	中期末～後期初頭
8	遺物集中3	3	スクレイパー	II層	6.76	5.06	2.00	44.07	後期初頭
9	遺物集中3	4	フレイク	II層	6.20	4.60	1.50	33.28	後期初頭
10	遺物集中3	5	石槍・ナイフ類	II層	6.95	4.71	1.85	49.95	後期初頭
11	遺物集中3	12	石鏃	II層	(3.54)	(2.10)	0.60	3.00	後期初頭
12	盛土 (D6)		フレイク	M2層・1回目	(2.24)	(3.02)	1.35	7.96	後期前葉
13	D68		フレイク	II層	3.68	2.07	8.50	6.85	中期末～後期前葉
14	D68		フレイク	II層	2.61	2.16	9.90	3.99	中期末～後期前葉
15	F66		フレイク	II層	(2.18)	3.07	1.65	8.79	中期末～後期前葉
16	盛土 (F69)		石槍・ナイフ類	M3層・1回目	(4.75)	2.50	0.60	6.90	後期前葉
17	J50		フレイク	II層	(1.33)	2.53	0.57	1.40	中期末～後期前葉
18	K50		石鏃	II層	(4.90)	(1.46)	0.56	2.05	中期末～後期前葉
19	K53		石槍・ナイフ類	II層	5.30	2.70	1.20	16.27	中期末～後期前葉
20	L50		石鏃	II層	2.28	1.15	0.33	0.69	中期末～後期前葉
21	L52		石槍・ナイフ類	II層	5.37	2.76	0.66	6.00	中期末～後期前葉
22	N53		石鏃	II層	(4.50)	1.55	0.80	4.43	中期末～後期前葉

試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月,1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度 (cps;count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb比率=Rb強度 \times 100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)

- 2) Sr 分率= Sr 強度 $\times 100/(Rb$ 強度 $+Sr$ 強度 $+Y$ 強度 $+Zr$ 強度)
 3) Mn 強度 $\times 100/Fe$ 強度
 4) $\log(Fe$ 強度/ K 強度)

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図（横軸Rb分率－縦軸Mn強度 $\times 100/Fe$ 強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸 $\log(Fe$ 強度/ K 強度)の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせる指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響を免れないといわれる（望月,1999）。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log(Fe$ 強度/ K 強度)の値が減少する。また、風化試料の場合でも、 $\log(Fe$ 強度/ K 強度)の値が減少する（望月,1999）。そのため、試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。分析の結果、3点が白滝1群、17点が赤井川群、1点が上土幌群、1点が所山群の範囲にプロットされた。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

22点のうち、17点が赤井川エリア産、残り5点が道東の白滝エリア、上土幌エリア、置戸エリア産という結果であった。22点の出土地点をみると、道東産の5点が調査区東端の盛土遺構周辺の出土、赤井川産の17点が調査区中央から西側の出土という傾向が明確にみられた。

表2 北日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)	
		白滝2	7の沢川支流(2)、15露頭(10)、十勝石沢露頭、八号沢、黒崎の沢、幌加林道(36)	
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)	
	上土幌	上土幌	十勝三股(4)タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山(5)	
		所山	所山(5)	
		豊浦	豊浦(10)	
		旭川	旭川	近文台(8)、南総台(2)
		名寄	名寄	忠臣布川(19)
		秋父別1	秋父別1	中山(66)
		秋父別2	秋父別2	
		秋父別3	秋父別3	
		遠軽	遠軽	社名瀧川河床(2)
		生田原	生田原	仁田布川河床(10)
青森	留辺蘂	留辺蘂1	ケシマツ川河床(9)	
		留辺蘂2		
	網路	網路	網路市営スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)	
	木道	出来島	出来島海岸(15)、鶴ヶ坂(10)	
	深瀬	八森山	阿崎浜(7)、八森山公園(8)	
	秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
			脇本	脇本海岸(4)
	岩手	北上折居1	北上折居1	北上川(9)、真城(33)
		北上折居2	北上折居2	
	山形	羽黒	羽黒	月山荘前(24)、大槌沢(10)
		柳引	たらのき代(19)	
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保1	土蔵(18)	
		秋保2		
新潟	塩塚	塩塚	塩塚(10)	
	新発田	板山	板山牧場(10)	
熊本	新津	金津	金津(7)	
	高原山	甘藷沢	甘藷沢(22)	
		七尋沢	七尋沢(3)、宮川(3)、枝持沢(3)	



図1 北日本の黒曜石原石採取地の分布図

表3 測定値および産地推定結果

試料番号	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn ¹⁰⁰ / _{Fe}	Sr分率	log ₁₀ $\frac{Fe}{K}$	判別群	エリア	試料番号
1	261.8	91.5	1638.5	608.6	284.6	301.9	623.1	33.47	5.59	15.65	0.80	赤井川	赤井川	1
2	293.6	102.5	1798.8	694.0	324.4	345.2	729.8	33.15	5.70	15.50	0.79	赤井川	赤井川	2
3	301.7	106.0	1872.8	740.2	343.6	368.8	765.8	33.36	5.66	15.49	0.79	赤井川	赤井川	3
4	223.7	75.9	1420.5	520.2	238.8	255.9	530.7	33.66	5.34	15.45	0.80	赤井川	赤井川	4
5	306.4	109.8	1909.0	752.8	350.9	372.7	771.2	33.49	5.75	15.61	0.79	赤井川	赤井川	5
6	338.6	118.1	2089.1	812.9	374.8	400.3	825.8	33.68	5.66	15.53	0.79	赤井川	赤井川	6
7	313.4	109.2	1906.0	723.7	336.0	351.4	729.4	33.81	5.73	15.70	0.78	赤井川	赤井川	7
8	272.4	96.3	1663.8	648.4	304.0	326.2	682.2	33.07	5.79	15.50	0.79	赤井川	赤井川	8
9	325.3	113.8	2009.2	758.8	352.6	374.3	790.4	33.34	5.66	15.49	0.79	赤井川	赤井川	9
10	251.1	84.9	1571.4	543.6	251.1	260.3	544.4	33.99	5.40	15.70	0.80	赤井川	赤井川	10
11	329.0	116.4	2048.6	797.8	372.2	396.8	814.6	33.50	5.68	15.63	0.79	赤井川	赤井川	11
12	233.7	68.0	1603.8	587.6	329.1	270.5	679.1	31.48	4.24	17.64	0.84	所山	釧路	12
13	289.8	85.0	1928.6	717.1	185.3	331.4	532.3	40.60	4.41	10.49	0.82	白滝1	白滝	13
14	302.4	88.1	1934.9	810.7	211.6	380.0	667.1	39.17	4.56	10.23	0.81	白滝1	白滝	14
15	290.5	90.5	2030.4	785.7	204.9	376.3	619.5	39.55	4.46	10.32	0.84	白滝1	白滝	15
16	233.0	71.8	1561.9	652.1	283.4	353.2	643.0	33.76	4.59	14.67	0.83	上土幌	上土幌	16
17	299.1	107.3	1860.6	710.1	330.4	352.1	725.7	33.52	5.77	15.60	0.79	赤井川	赤井川	17
18	286.1	102.0	1772.7	717.7	333.0	357.3	786.2	32.71	5.75	15.18	0.79	赤井川	赤井川	18
19	265.7	94.1	1620.8	664.9	315.9	335.1	695.5	33.06	5.81	15.70	0.79	赤井川	赤井川	19
20	270.9	94.9	1756.3	688.9	320.1	342.7	727.3	33.14	5.40	15.40	0.81	赤井川	赤井川	20
21	324.9	115.7	2001.4	784.6	367.2	384.4	801.1	33.57	5.78	15.71	0.79	赤井川	赤井川	21
22	351.8	123.1	2198.4	783.2	363.6	376.2	779.3	34.02	5.60	15.79	0.80	赤井川	赤井川	22

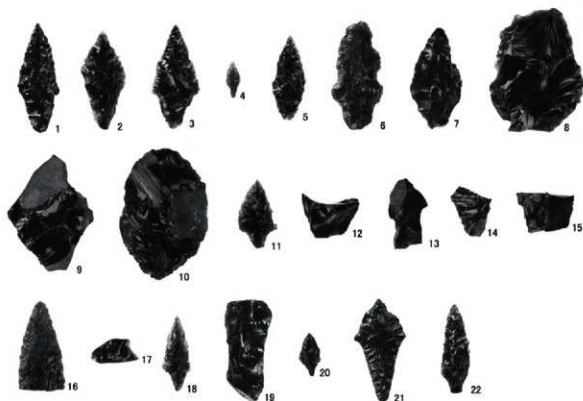
4. おわりに

都遺跡出土黒曜石製石器について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、3点が白滝エリア、17点が赤井川エリア、1点が上土幌エリア、1点が置戸エリア産と推定された。調査区東端の盛土遺構周辺出土の5点が道東産、それ以外の地点の出土17点は赤井川産という結果であった。

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定、大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」：172—179、大和市教育委員会。

図版 1 黒曜石製石器原産地分析試料



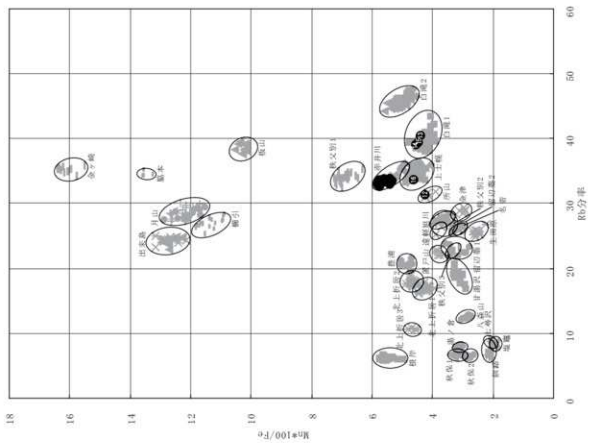


图2 黑曜石產地推定判別図(1)

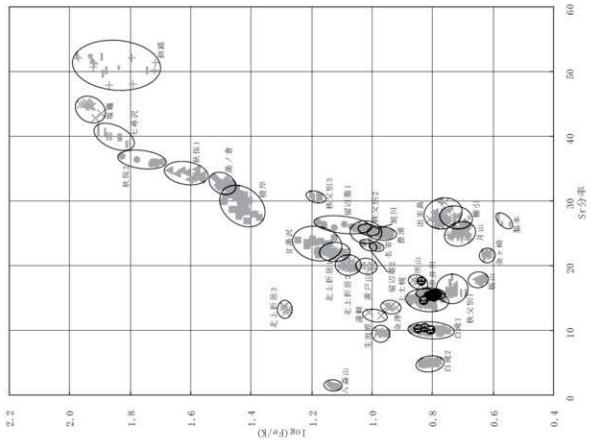


图3 黑曜石產地推定判別図(2)

Ⅶ まとめ

都遺跡では、堅穴住居跡11軒、土坑32基、柱穴様小土坑57基、石組炉9か所、焼土跡8か所、配石・集石4か所、遺物集中3か所、盛土遺構を1か所検出した。出土した遺物は計237,007点で、内訳は土器等が83,198点、石器等153,544点である。このうち、盛土遺構出土の遺物が99,316点を占めている。

検出した遺構は、縄文時代中期前葉～後期前葉にかけての時期で、盛土遺構は後期前葉の涌元式から大津式期までの所産と考えられる。包含層からは縄文時代早期の遺物も出土している（表Ⅰ-3）。

調査成果に基づき、時期毎に遺構や遺物の内容を整理し検討を行いまとめた。なお、盛土遺構出土の掲載土器は、文様構成をもとにA～Lまで12項目に分類し、層位毎の出土傾向を表した（図Ⅶ-1）。また、堅穴住居跡については年代測定の結果や平面形態などから時期毎に分け変遷図を示した（図Ⅶ-2）。

【縄文時代早期】

当該期の遺構は検出していない。包含層からⅠ群b類土器の東銅路Ⅲ式や中茶路式に相当するものが280点出土した。分布域は50～59ラインの間で、中茶路式が1個体復元された。（図Ⅴ-7-3 図版109）。この土器は口径が約30cm、残存高26.2cmを測る深鉢で、底部を欠損する。文様は波状や並行する微隆起線文に細かい撚りの絡条体圧痕文が施されている。その他、該期の遺物に包含層や盛土2（M2）層から出土したつまみ付きナイフがある。背面左側縁への丁寧な平行剥離と腹面右側縁に連続的な縁辺加工が施されるもので東銅路系土器群に伴う石器である（図Ⅴ-18-44～46 図版113）（図Ⅳ-133-12 図版107）。同形態のものが函館市豊原2遺跡や同4遺跡の遺構や包含層から東銅路系土器と伴い出土し、微隆起線の代わりに沈線が施されたものなども報告されている（中村・佐藤1994）。町内該期の遺跡では、本遺跡の南約10kmの海成段丘上に、遺物包含地として貝取淵山中遺跡が登録されている（表Ⅱ-1）。

【縄文時代中期】

Ⅲ群a類式期の遺構には土坑P-23・30がある。P-23はK50区に位置しH-3によって切られている。この住居の¹⁴C年代測定値は4,140±30yrBP（中期中葉～後葉）であることから、P-23はⅢ群a類式期の可能性もある。P-30は坑底から円筒上層b式土器が潰れた状態で出土し、¹⁴C年代測定値は4,480±30yrBP（中期前葉～中葉）であった（図Ⅲ-6-66 図版60）。また、包含層からは該期の土器が169点出土した。分布域は57ラインより西側に集中する。

Ⅲ群b類式期の遺構では、住居跡のH-1・3・6・11が該当し、土坑ではP-31がある。住居跡では切り合うものではなく、H-11を除いて調査区西側のA地区に分布する。平面形は隅丸方形を呈するものが主で、H-1・3は掘り込みのある円形の地床炉をもつ。H-1の南東の壁際には楕円形を呈する土坑が伴い、住居跡の¹⁴C年代測定値は4,130±30yrBP（中期中葉～後葉）である。隣接するH-3の¹⁴C年代測定値は4,140±30yrBP（中期中葉～後葉）でH-1と同時期の年代値を得ている。

H-6は隅丸長方形で床面中央に地床炉が伴う。H-11はD・E・68・69区の盛土下層（M3）下で確認した。調査区域外にかかるため全体のプランは不明であるが、検出状況からH-1・3・6と同様の隅丸方形である可能性が高い。また、H-11廃絶後の覆土上位に堆積するM3最下層から、折返し口縁部に縄線が施され、口頸部に橋状把手が付されたⅣ群a類の壺形土器が出土している（図Ⅳ-103-260 図版89）。

道南部の当該期の調査例では、函館市の白尻B遺跡や大船C遺跡、北斗市館野遺跡等がある。中期末の住居は平面形が楕円形から卵形を経て一端が尖る舟形に変化し、石組炉も住居の形態と共に円形から方形に変わる事が報告されている。館野遺跡の大安在B式期の例では¹⁴C年代測定値が本遺跡のH-1・3と同時期の値を示すもの（H-1・29）があるが、住居の平面形態等に違いが見られる。

土坑P-31はK49区に位置し、H-2によって切られている。H-2の¹⁴C年代測定値は3,870±30yrBP（後

期初頭)であることから、P-31は中期末から後期初頭の時期である。また、包含層の遺物では、K53区のⅡ層から北筒Ⅱ式が出土した(図V-7-11 図版109)。トコロ6類に相当するもので器壁が約1.4cmと厚く仕上げられ、口縁部には肥厚体が廻り断面形態が三角形を呈する。口縁部には2段連続する押しき文が施文され、口唇部上にも刻み目文が施される。口縁部肥厚体直下には斜め下方向から内面が突き瘤状になる円形刺突文が施されている。地文は羽状縄文である。この他にもH-4の覆土中からも断面の形態が鋭角となる口縁部破片が1点出土している(図Ⅲ-2-17 図版57)。道南部での北筒式土器の出土は稀で、過去に上ノ国町大岱遺跡の類似資料や八雲町、知内町に出土例がある。八雲町コタン温泉遺跡第3貝塚出土の資料は、地文羽状縄文で肥厚する口縁部に押しき文と内面が突瘤状になる円形刺突文が施文された資料が報告されている(八雲町教育委員会1992)。また、知内町湯の里1遺跡の包含層からも同一個体の胴部破片が2点出土している。(知内町教育委員会1979)。

【縄文時代後期初頭～前葉】

遺構は竪穴住居跡7軒、土坑29基、石組炉9基、遺物集中3か所、柱穴様小土坑57基等がある。

住居跡ではH-2・4・5・7・8・9・10が該当する。2・4・5はA地区、8～10はB地区、7はC地区で検出した。平面形は概ね楕円形を呈している。H-8～10を除いて石組炉を確認した。H-2の平面形は卵形または舟形で、長軸上の北東側に楕円形に掘り込まれた石組炉があり、石はすべて抜き取られていた。H-4の平面形は楕円形で床面中央より南側に方形の石組炉があり、石組炉の反対側には石を抜き取った痕跡のある炉跡も確認した。南東端にはHP-5が検出され、先端ピットの可能性もある。前者の¹⁴C年代測定値は3,870±30yrBP(後期初頭)、後者が3,940±30yrBP(中期末～後期初頭)である。これら2軒の住居址は、前述した函館市大船C遺跡や北斗市館野遺跡の中期末の住居形態等と類似する点がある。H-5は石組炉が中央より南側に設置され、平面形は楕円形で礎が一部残存する。¹⁴C年代測定値は3,690±30yrBP(後期前葉)である。H-7はM2層を掘り込んで構築されている。石組炉は床面北東側で検出したが礎は抜き取られていた。床面からIV群a類土器が出土している。H-8は小型の竪穴状遺構で、柱穴はない。焼土は検出したが、この場で焼かれたものではないと判断された。住居以外の機能も考えられ、形態等からこの時期に含めた。H-9は柱穴を確認したが、炉跡はない。H-10は調査区外にかかるため詳細は不明である。

該期の土坑は29基あり、確認面の径が約40～140cmと多様で、これらの土坑は主に調査区南西部に集中している。このうち平面形が円形のもの26基と多数を占め、その他卵形や楕円形を呈するものが6基見られる(P-7・14・26・28・29・31)。P-7は調査区西端で検出し、フラスコ形を呈する。配石や集石を伴うものにP-1・14が、土器を伴うものにP-12・17がある。P-17は後期初頭の天祐寺式期である。

石組炉はA地区の北西端(石組炉1・2)と、A地区からB地区にかけて(石組炉3・6～9)、C地区(石組炉4・5)に分布する。石組炉1は近接して土器が潰れた状態で出土している(図Ⅲ-6-68 図版61)。この土器は地文縄文で、口縁部の施文方向を変え羽状縄文様となるもので、天祐寺式相当である。石組炉3も天祐寺式期である。石組炉5・6は年代測定を行い、前者の¹⁴C年代測定値は3,560±30yrBP(後期前葉)、後者は3,880±30yrBP(後期初頭)であった。石組炉8は円形、9は楕円形を呈し共に多量の砂利を含んでいた。

遺物集中1・2は盛土層中から出土し、遺物集中3はB地区で検出した。集中3からは天祐寺式相当の深鉢が出土した。煉瓦台式に後続するもので地文の縄文を交互に方向を変え羽状となるように施文されている。

柱穴様ピットはC地区の盛土遺構下位で検出し、Fラインから北東側で密集して確認され、小礫を多量に含むものが多い。SP-7の覆土中からは3,757点を数える小礫が出土し、SP-9や31からも2,000点を超える小礫が充填されていた。礫の少ないものではSP-17・28・53等がある。また小礫や中型の礫を含むものに

SP-38がある。福島町館崎遺跡では、盛土遺構下位の黒色土上面で杭列が検出され、配列等から盛土の土留めと考えられる例がある。都遺跡の場合は砂利を多量に含むことに特徴があるが、機能等は不明である。

【盛土遺構】

盛土遺構の存在については、調査区西側の住居跡や土坑群調査の際に、整地や削平等土地の改変が行われた可能性が指摘されていた。その後、隣接する上浦神社への取り付け道路部分(C地区)調査の際に、多量の土器片や石器等が分布する再堆積層を確認した。盛土遺構(再堆積層)は調査区域外にも広がっているために、盛土全体の範囲は不明で、今回はその一部を調査したにすぎない。盛土遺構からは99,316点の遺物が出土した。このうち土器が63,115点、石器等が36,201点を占める。今回の調査範囲からは貝塚や魚骨層などの食物残渣は確認されず、また墓等も見つかっていない。盛土が形成される過程で、起点の一つと考えられるものにH-11の窪みがある。この住居廃絶後に凹みを埋める行為が行われ、それが繰り返され徐々に盛り上がり土手状に堆積し、他の自然地形等を埋めた再堆積層と繋がった結果、盛土が形成されたことが推測される。また、盛土2(M2)層を掘り込んで構築していたH-7は、トリサキ式～大津式にかけての住居跡で、この時期には盛土は形成途上であった。この住居も廃絶後に埋土され、覆土中からはIV群a類土器が出土している。このように、盛土が形成されその上から住居を構築し、廃絶後にまた盛土が繰り返される事例は縄文時代前期に類例があり、函館市のハマナス野遺跡や木古内町の釜谷遺跡で確認されている。釜谷遺跡では「土器捨場」が形成され、その上位に焼土群が分布し、更に住居や土坑が重複している。近年盛土遺構の調査事例が増加した事により、墓を伴う例などが報告され、単なる「捨場」ではない墓域としての空間や、祭祀や儀礼に係る要素を合わせ持つことなどが知られてきた。しかし、今回の調査範囲からはそのような明確な性格を示すものが認められず、形成途上の盛土を掘り込んで住居が作られるという一例が確認された。

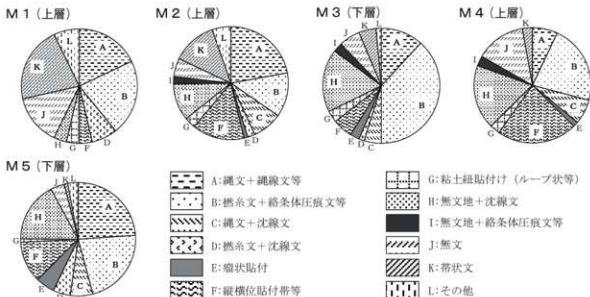
【盛土遺構出土の掲載土器】

盛土遺構から出土したIV群a類土器646点を掲載した。各層位毎の掲載点数はM1層が25点、M2層94点、M3層270点、M4層62点、M5層195点である。このうち復元個体は約160点含まれる。器形は深鉢が主体で浅鉢や壺形も見られる。掲載したもののうち、盛土の層位と文様構成をもとに12の項目に分けて図VII-1に示し、層位毎に認められる特徴を以下に記した。

M1層(上層)は調査区の南東端、69ラインより東側に堆積する。地文に燃糸文が施されるB類や、2本組沈線で区画され曲線や直線的な帯状文が施されるK類がある。次いで縄文主体のA類や、無文地のものJ類がこれに続く。この他に、地文が燃糸文で沈線が描かれるD類や口縁部にループ状の粘土紐貼付けが付されるG類、縦・横位等の貼付帯が施されるF類、無文地に沈線が描かれるH類がある。地文に関係なくループ状の貼付帯が付されるものはG類に含めた。沈線等が描かれず、地文に縄文だけが施されるものの類例には、大津遺跡B地点第7群土器I類がある。頸部がくびれ口縁部が外反する壺形や、口縁部から胴部にかけて直線的に立ち上がる深鉢は共通する器形で、地文の違いはあるがこの一群と類似する。

M2層(上層)は、E65区から東側に堆積し、M1層と接しH-7によって一部切られる。地文縄文で口縁部に縄線文等の施されるA類が最も多い。次に縦・横位等の貼付帯をもつF類がある。地文が燃糸文B類や帯状文が施されるK類が続く。無文地に沈線が施されるH類や地文縄文で沈線が施されるC類も見られる。C類やF類では、縄文地に2条1単位の連弧文を描く30や、連弧文に貼付帯を付してその上に連続する指頭押捺を施す27・28がある。類例に石狩低地帯や後志地方で出土する「手稲砂山式」がある。泊村塚遺跡出土の資料や札幌市C143遺跡7a層出土のものは器形・施文共に類似する。

M3層(下層)は、M1層下位に堆積し68ライン手前まで分布する。ここでは地文に燃糸文を持つB類が最も多い。口縁部に綫条体疋痕文が2～3条横縞するものや、折返し口縁部が無文帯で、成形時の指頭圧



図Ⅶ-1 層別別文様構成図

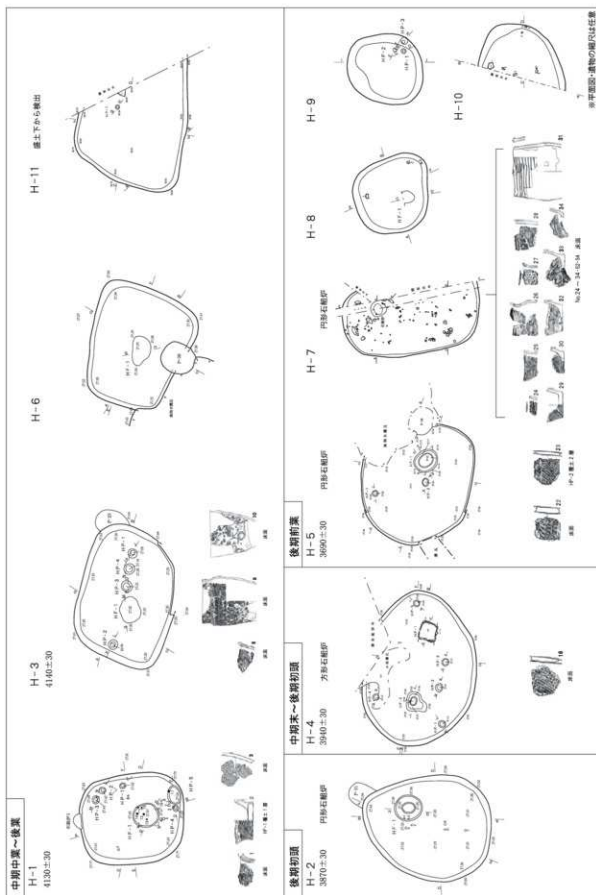
痕を残すものがある。また、網目状燃糸文もある。B類に次いで多いのが無文地に沈線が施文されるH類である。折返し口縁に網目状集合沈線が描かれるものもある。縄文主体のA類はやや少ない傾向にある。

C類やF類では、「手稲砂山式」相当の55・102・115・261がある。102は地文斜行縄文で垂下する蛇行沈線の間に2条1単位の弧状沈線が連結する。類例に堀株遺跡包含層出土資料や恵庭市南島松3遺跡B地点2号炉に大津式と共伴する例がある。115は地文斜行縄文で、波状口縁に平行沈線で区画し文様帯を縦位の隆帯と弧状沈線が連結する。同様の資料に堀株遺跡包含層一括土器や、札幌市N156遺跡第3号堅穴住居跡出土資料、入江貝塚包含層出土に類例がある。261は堀株1遺跡包含層出土のⅡ群2類に類似資料がある。G類では燃糸文との組合せが目立つ。带状文の施されるK類の中に、櫛目のない区画文で描かれる壺形の105がある。太い沈線の間に沈線が充填されるもので、大津式の古相を示すものと思われる。

M4層(上層)は、Fラインからラインにかけて確認されH-7で切られる。ここでは燃糸文の施されるB類や、縦・横位等に貼付帯が付されるF類が多い。次いで無文地に沈線が施されるH類が続く。その他L類にはオオバコ圧痕文と思われる偽縄文の施された24・66・150がある。

M5層(下層)は、概ねM4層の下位に堆積する。地文に縄文をもつA類が多く、これに燃糸文をもつB類が続く。A類では折返し口縁部が無文帯となり頭部がくびれ、口縁部が外反するものがある。B類では網目状燃糸文や絡糸体圧痕文が口縁部に施されるものがある。H類ではウロコ状文の施される158等がある。C類やF類の要素をもつものでは、「手稲砂山式」に類似する112・140・141がある。112はキャリパー形で地文斜行縄文、交差する貼付帯と弧状沈線が施文される。貼付帯上と口唇上には指頭押捺が連続する。140は縦・横位の貼付帯にボタン状の貼付がある。141は地文斜行縄文で、貼付帯を付して胴部中段までを区画し連弧文が横環する。類例に札幌市N295遺跡包含層出土資料や、洞爺湖町川上B遺跡CH32床面出土資料は貼付帯をもたないが類似するものである。口縁部に粘土紐貼付けをもつG類や带状文K類もある。

今回の調査では、トリサキ式や手稲砂山式相当の道南部と道央部の二つの要素をもつ型式が共伴して出土し、この地域での特色が表れている。本遺跡の盛土遺構は、木古内町新道4遺跡の盛土1類から2類の時期に概ね対比するものと考えられる。しかし、今回の出土資料には、垂下する細い蛇行沈線が施文されるものや斜行縄文地で口縁部に縄線文が施されるもの等、涌元式と思われるものも多い。これらを踏まえ、盛土遺構の形成は涌元式期の終末からトリサキ式を経て、大津式に至る時期と考えられる。(笠原)



図Ⅶ-2 竪穴住居跡変遷図

石器等

都遺跡からは剥片石器9,441点、石斧類86点、礫・礫石器144,002点、石製品15点、計153,544点の石器類が出土した。剥片石器には石鏃、石槍・ナイフ類、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、ヘラ状石器、石核、R剥片、U剥片、剥片がある。石斧類には完形の石斧、石斧片、すり切り残片がある。礫石器にはたたき石、すり石、扁平打製石器、石錘、石鋸、砥石、石皿、台石、加工痕のある礫、礫・礫片がある。石製品には垂飾、異形石器、三角形石製品、軽石製品、砂岩の加工品等がある。

剥片石器の石材には頁岩、黒曜石、珪質頁岩、チャート、メノウ、泥岩、砂岩、凝灰岩、花崗岩、安山岩、片岩等があり、道南に位置する遺跡としては黒曜石の出土点数が少なくなく、太平洋側の道南地区とは石器石材組成が異なるといえる。主な黒曜石製品は石鏃、石槍、スクレイパーで、つまみ付きナイフや石錐には頁岩を利用している。石斧類の石材には泥岩、片岩、蛇紋岩、砂岩、片麻岩、安山岩等がある。礫石器の石材には安山岩、泥岩、凝灰岩、砂岩、礫岩、軽石、スロリア、チャート、頁岩、珪質頁岩、メノウ、閃緑岩、石炭、片麻岩、片岩等がある。

剥片石器のうち、剥片を含めたそれぞれの点数に対し、製品として出土した点数の割合を石材別に見ると、包含層では黒曜石が14%、頁岩が12%、数は少ないがメノウが14%、盛土遺構では黒曜石が34%、頁岩が3.9%、メノウは数は少ないが33%、盛土以外の遺構では黒曜石が23%、頁岩が8.5%で、黒曜石やメノウが製品として持ち込まれた割合が高く、特に盛土遺構出土のものにその傾向が強いことがわかる。

盛土遺構の特徴として、剥片石器の出土点数が包含層より約2倍多く、また石斧類も包含層からは24点、盛土以外の遺構からは7点であるが、盛土遺構からは55点出土している。一方、盛土遺構の黒曜石製品の出土割合は、包含層やほかの遺構から見ると少ない傾向にある。

黒曜石の原材産地分析試料22点中17点が赤井川産、5点が道東産（白滝・置戸・土幌）と判明したが、道東産の5点はいずれも盛土遺構または盛土遺構周辺から出土しており、赤井川産の17点はすべて調査区中央から西側の地区で出土していることも分かった。

遺跡内の特徴的な礫の利用の仕方として、調査区中央の（Ⅵ章-7）石組炉8・9から出土した1~2万余点の小粒の円礫と、盛土遺構下から検出された数十基の柱状小土坑の覆土中に詰められた大量の円礫がある。大きさは1cmに満たないものから10cm位のものまでさまざまである。おおむね小豆粒大の円礫が多いが、中には角礫のみを入れる柱穴、礫とともに土器片を数十点入れる柱穴も見つかっており、柱穴によって礫の大きさや形状を選別していると思われる。（新家）

表Ⅶ-1 都遺跡出土の剥片石器類石材別点数一覧

石 材	遺 構			盛土遺構			包 含 層		
	剥片全体	製品	製品の占める割合	剥片全体	製品	製品の占める割合	剥片全体	製品	製品の占める割合
頁岩	245	21	8.6%	1792	70	3.9%	1025	127	12.4%
黒曜石	90	21	23.3%	29	10	34.5%	437	63	14.4%
泥岩	176	26	14.8%	3295	36	1.1%	1371	85	6.2%
チャート	16	1	6.3%	415	7	1.7%	117	4	3.4%
メノウ	2	0	—	9	3	33.3%	14	2	14.3%
その他	19	—	—	212	3	1.4%	165	6	3.6%
計	548	69	12.6%	5752	129	2.2%	3129	287	9.2%

引用参考文献

論文・報文

- 阿部昭典 2010『縄文時代の罌形土製品に関する一考察』日本基層文化論叢 雄山閣出版株式会社
- 榎本剛治 2008「十腰内Ⅰ式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄編(株)アム・プロモーション
- 大沼忠幸 2008「特殊な施文具—魚骨文とオオハコ文—」『総覧 縄文土器』小林達雄編(株)アム・プロモーション
- 大森司純 2003「渡島半島の後期前葉」『東北・北海道の十腰内Ⅰ式再検討』資料集 海峽土器編年研究会
- 金箱文夫 1984『物質文化 近世の釘』物質文化研究会
- 熊谷仁志 2003「道央部の後期初頭の様相」『東北・北海道の十腰内Ⅰ式再検討』資料集 海峽土器編年研究会
- 工藤研治 2008「北筒式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄編(株)アム・プロモーション
- 佐藤宏之 2008『縄文文化の構造変動』六一書房
- 鈴木克彦 2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版株式会社
- 鈴木克彦 2013『北日本縄文後期土器集成』弘前学院出版会
- 富永勝也「後期前葉函館湾西岸の盛土遺構と配石遺構」一般社団法人日本考古学協会2014年度大会研究発表要旨
- 羽賀憲二 1998『道央部における縄文時代後期初頭の土器』—仮称「手稲砂山式土器」について—
- 福田第二「円筒土器文化以降における集落と盛土遺構の変遷」一般社団法人日本考古学協会2014年度大会研究発表要旨
- 福井淳一「盛土遺構とは何か」『盛土遺構を掘る』北海道考古学協会2014年度研究大会予集
- 宮 宏明 1981『ノダツⅡ式土器の検討』考古学研究第28巻第3号
- 山田 央 2001『北海道西部における縄文時代中期末葉の土器について』—南北海道考古学情報交換会20周年記念論集渡島半島の考古学— 20周年記念論集作成実行委員会
- 吉田泰幸 2003『縄文時代における土製松杖耳飾の研究』名古屋大学博物館報告No.19
- 南北海道考古学情報交換 2002『情報交換2 渡島半島における縄文時代中期末から後期初頭の土器様相』第23回南北海道考古学情報交換会資料

報告書

- 青森市教育委員会2003『稲山遺跡発掘調査報告書V』
- 虻田町教育委員会1986『入江貝塚』
- 乙部町教育委員会1976『元和』
- 乙部町教育委員会1989『緑町2遺跡』
- 上ノ国町教育委員会1979『小砂子遺跡』
- 木古内町教育委員会1999『釜谷遺跡』
- 札幌市教育委員会1974『C143』札幌市文化財調査報告書
- 札幌市教育委員会1974『N107』札幌市文化財調査報告書
- 札幌市教育委員会1974『N156』札幌市文化財調査報告書
- 札幌市教育委員会1974『N293』札幌市文化財調査報告書
- 札幌市教育委員会1974『N294』札幌市文化財調査報告書
- 札幌市教育委員会1987『N295』札幌市文化財調査報告書
- 知内町教育委員会1972『涌元遺跡』
- 知内町教育委員会1979『知内川中流域の縄文時代遺跡湯の里1遺跡発掘調査報告書』
- 泊村教育委員会2004『堀株1遺跡』
- 戸井町教育委員会1994『戸井貝塚Ⅳ』
- 登別市教育委員会1982『札内台地の縄文時代集落址北海道登別市千歳6遺跡発掘調査報告書』
- 函館市教育委員会1999『石倉貝塚』

- 函館市教育委員会1994・2010『豊原2遺跡』
函館市教育委員会2003『豊原4遺跡』
函館市教育委員会2010『垣ノ島遺跡』
北海道開拓記念館1990～1995『大成町貝取調2洞窟遺跡調査報告第30～36号』
北海道開拓記念館1997『大成町貝取調2洞窟遺跡の年代とその特性』
北海道文化財研究所1992『福株1・2遺跡調査報告書第6集』
北海道第四紀研究会1974『西設』
松前町教育委員会1974『松前町大津遺跡発掘報告書』
松前町教育委員会1981『白坂』
松前町教育委員会2005『松前町東山遺跡』
南茅部町教育委員会1985・1986・1987・1988『白灰B遺跡』
南茅部町教育委員会1996・1999『大船C遺跡』
南茅部町教育委員会2002『大船C遺跡・ハマナス野遺跡vol.XⅧ』
森町教育委員会1975『島崎遺跡』
森町教育委員会1985『御幸町』
八雲町教育委員会1983『栄浜遺跡』
八雲町教育委員会1992『コタン温泉遺跡』
八雲町教育委員会1995『浜松5遺跡』
(財)北海道埋蔵文化財センター1985『加内町湯の里遺跡群』北埋調報18集
(財)北海道埋蔵文化財センター1986『登別市川上B遺跡・C地区』北埋調報27集
(財)北海道埋蔵文化財センター1987『上磯町矢不末2遺跡』北埋調報37集
(財)北海道埋蔵文化財センター1987『木古内町建川2・新道4遺跡』北埋調報43集
(財)北海道埋蔵文化財センター1988『木古内町新道4遺跡』北埋調報52集
(財)北海道埋蔵文化財センター1987『上磯町茂別遺跡』北埋調報121集
(財)北海道埋蔵文化財センター2001『八雲町栄浜1遺跡』北埋調報175集
(財)北海道埋蔵文化財センター2004『森町湯川左岸遺跡-A地区-』北埋調報208集
(財)北海道埋蔵文化財センター2009『森町石倉1遺跡(2)』北埋調報266集
(財)北海道埋蔵文化財センター2006『北斗市館野遺跡(1)』北埋調報237集
(財)北海道埋蔵文化財センター2005『石倉1遺跡(2)』北埋調報266集
(財)北海道埋蔵文化財センター2011『北斗市館野遺跡(2)』北埋調報282集
(公財)北海道埋蔵文化財センター2013『木古内町札苅6遺跡』北埋調報301集

その他

- 朝岡康二ほか1997『日本民具辞典』日本民具学会(株)ぎょうせい
小山正忠・竹原秀雄2004『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社
大成町史編集委員会1977『大成町の歩み』
大成町史編集委員会1984『大成町史』
日本貨幣商協同組合1998『日本貨幣型録』
日本ベトロジー学会編2000『土壌調査ハンドブック改訂版』(株)博友社
松浦竹四郎『東西蝦夷山川地理取調図』復刻版1983 監修 高倉新一郎(株)IK企画
水田方正1984『初版北海道蝦夷語地名解 復刻版』草風館
山田秀三1983『アイヌ語地名の研究2』草風館

写 真 图 版



1. II層上面検出状況（西から）



2. 表土除去後、II層上面検出状況（東から）

図版 2



1. 西側調査状況（東から）



2. 西側遺構検出状況（東から）



1. 基本土層断面M47・48区（南東から）



2. H-1北西～南東土層断面（南西から）

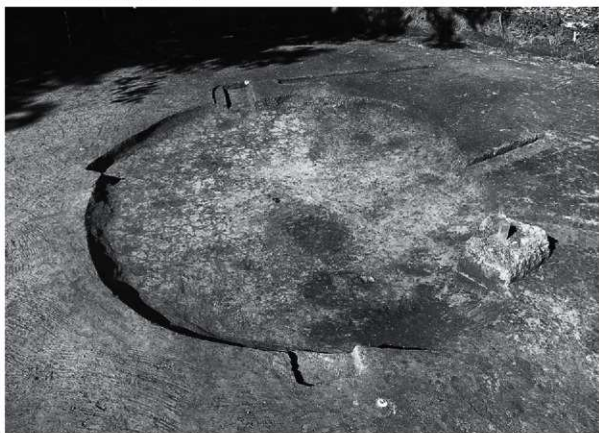


3. H-1南北土層断面（西から）

図版 4



1. H-1 遺物出土状況（南から）



2. H-1 床面検出状況（南東から）



1. H-1HF-1 遺物出土状況 (西から)



2. H-1HF-1 土層断面 (北西から)



3. H-1HP-1 土層断面 (西から)



4. H-1HP-2・3 土層断面 (南から)



5. H-1HP-4 土層断面 (南西から)



6. H-1HP-5 土層断面 (南西から)



7. H-1HP-1~3 完掘 (南西から)



8. H-1HP-4・5 完掘 (南から)

図版 6



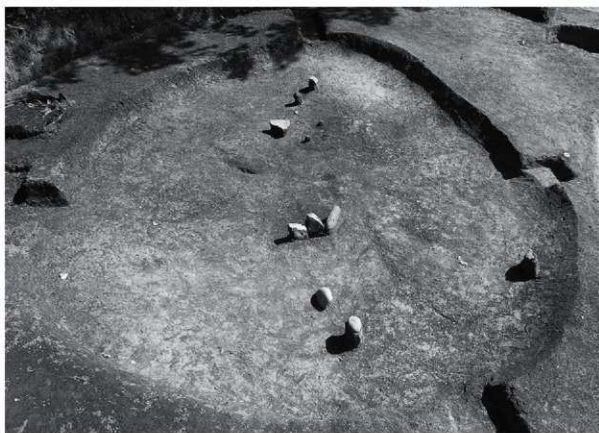
1. H-1 完掘 (南西から)



2. H-2 南西～北東土層断面 (南東から)



1. H-2 北西～南東土層断面（南西から）



2. H-2 床面遺物出土状況（南西から）

図版 8



1. H-2床面検出（南西から）



2. H-2完掘（西から）



1. H-3 北西～東南土層断面 (南西から)



2. H-3 東西土層断面 (南から)



1. H-3床面遺物出土状況（南から）



2. H-3床面遺物出土状況（南東から）



3. H-3床面遺物出土状況（南東から）



4. H-3床面遺物出土状況（南東から）



5. H-3HP-1土層断面（西から）



1. H-3床面検出 (南東から)



2. H-3HF-1土層断面 (南から)



3. H-3HF-2土層断面 (南から)



4. H-3HP-2土層断面 (南西から)



5. H-3HP-2完掘 (西から)



1. H-3HP-4 土層断面 (西から)



2. H-3HP-5 土層断面 (南から)



3. H-3HP-6 土層断面 (南から)



4. H-3HP-3・4 完掘 (南から)



5. H-3 完掘 (北西から)



1. H-4 南西～北東土層断面（南東から）



2. H-4 北西～南東土層断面（南西から）



1. H-4 床面検出 (南東から)



2. H-4 石組炉検出 (HF-1) (南西から)



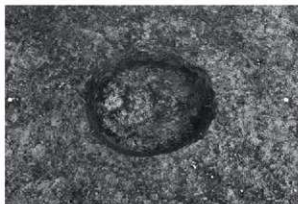
3. H-4 石組炉完掘 (HF-1) (南西から)



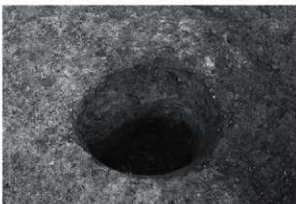
4. H-4 遺物出土状況 (東から)



5. H-4 HP-1 完掘 (東から)



1. H-4 HP-2 完掘 (南西から)



2. H-4 HP-3 完掘 (東から)



3. H-4 HP-4 完掘 (西から)



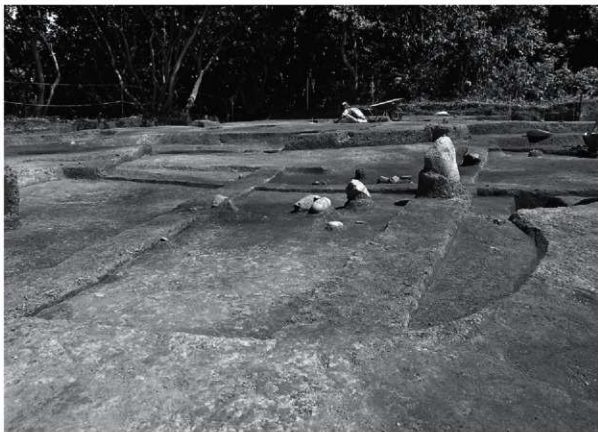
4. H-4 HP-5 完掘 (南から)



5. H-4 完掘 (東から)



1. H-5東西土層断面（南から）



2. H-5南北土層断面（東から）



1. H-5床面遺物出土状況（南西から）



2. H-5HF-1土層断面（南西から）



3. H-5HF-1完掘（南から）



4. H-5HP-1完掘（南から）



5. H-5HP-2完掘（南から）



1. H-5 完掘 (南から)



2. H-6 南東～北西土層断面 (南東から)



1. H-6 北西～南東土層断面 (南西から)



2. H-6 遺物出土状況 (西から)



1. H-6 完掘 (西から)



2. H-1 ~ 6 完掘状況 (南から)



1. H-7 南東～北西土層断面E67区 (南西から)



2. H-7 南東～北西土層断面E67区 (北東から)



1. H-7 遺物出土状況（南西から）



2. H-7 遺物出土状況（北東から）



1. H-7 石組炉検出 (西から)



2. H-7 石組炉土層断面 (西から)



3. H-7 石組炉完掘 (西から)



4. H-7HP-1 土層断面 (北西から)



5. H-7HP-2 土層断面 (南西から)



6. H-7HP-3 土層断面 (南から)



7. H-7HP-4 土層断面 (北西から)



8. H-7HP-5 土層断面 (西から)



1. H-7HP-6 土層断面 (北から)



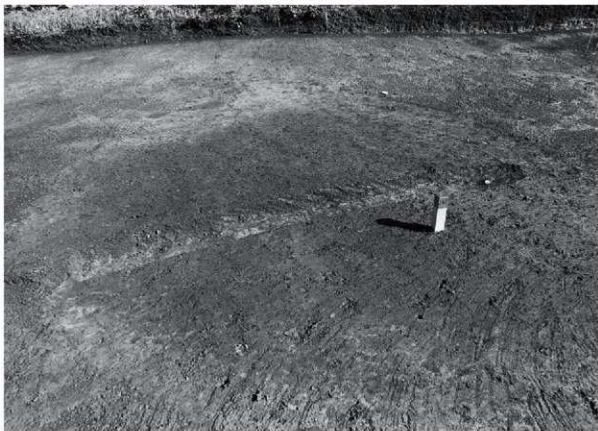
2. H-7HP-7 土層断面 (南東から)



3. H-7HP-8 土層断面 (南西から)



4. H-8HF-1 土層断面 (西から)



5. H-8 検出・土層断面 (西から)



1. H-8完掘（北東から）



2. H-9土層断面（西から）



1. H-9完掘（北東から）



2. H-10北東～南西土層断面（南東から）



1. H-10北西～南東土層断面（南西から）



2. H-10遺物出土状況（南西から）



1. H-11検出状況（北から）



2. H-11完掘（北から）



1. P-1 検出 (西から)



2. P-1 土層断面 (北東から)



3. P-2 土層断面 (西から)



4. P-2 完掘 (南西から)



5. P-3 土層断面 (東から)



6. P-3 遺物出土状況 (南東から)



7. P-4 土層断面 (南東から)



8. P-4 遺物出土状況 (南東から)



1. P-5土層断面 (南西から)



2. P-5完掘 (北西から)



3. P-6土層断面 (東から)



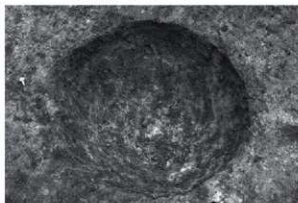
4. P-6遺物出土状況 (南から)



5. P-7土層断面 (北東から)



6. P-8土層断面 (北から)



7. P-8完掘 (北から)



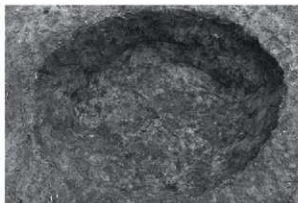
8. P-9土層断面 (東から)



1. P-9完掘（東から）



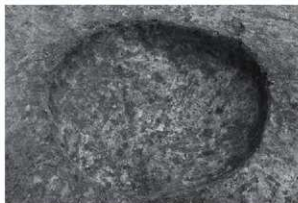
2. P-10土層断面（東から）



3. P-10完掘（南から）



4. P-11土層断面（南から）



5. P-11完掘（南から）



6. P-12土層断面（西から）



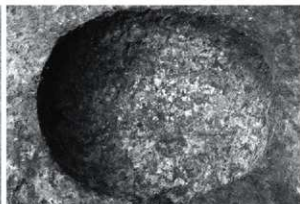
7. P-12遺物出土状況（東から）



8. P-12完掘（西から）



1. P-13土層断面 (東から)



2. P-13完掘 (西から)



3. P-14土層断面 (東から)



4. P-14遺物出土状況(東から)



5. P-15土層断面 (南西から)



6. P-15遺物出土状況 (西から)



1. P-16土層断面 (西から)



2. P-16完掘 (南東から)



3. P-17遺物出土状況 (東から)



4. P-17土層断面 (北東から)



5. P-17遺物出土状況 (南から)



6. P-18土層断面 (西から)



7. P-18完掘 (東から)



8. P-19土層断面 (東から)



1. P-19遺物出土状況（南から）



2. P-20土層断面（南西から）



3. P-20遺物出土状況（南西から）



4. P-21完掘（北西から）



5. P-22土層断面（北西から）



6. P-22遺物出土状況（南から）



7. P-22完掘（東から）



8. P-23土層断面（南から）



1. P-23完掘 (南から)



2. P-24土層断面 (西から)



3. P-24完掘 (南西から)



4. P-25完掘 (東から)



5. P-26土層断面 (南東から)



6. P-26遺物出土状況 (南から)



7. P-27土層断面 (南から)



8. P-27完掘 (南西から)



1. P-28土層断面 (南西から)



2. P-28遺物出土状況 (東から)



3. P-29土層断面 (北西から)



4. P-29遺物出土状況 (北西から)



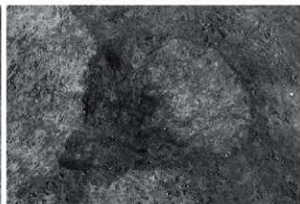
5. P-30土層断面 (北西から)



6. P-30遺物出土状況 (1) (東から)



1. P-30遺物出土状況(2)(東から)



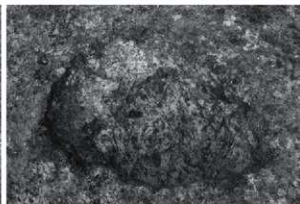
2. P-31完掘(南から)



3. P-32土層断面(南西から)



4. P-32遺物出土状況(北東から)



5. P-32完掘(南東から)



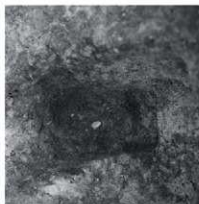
6. SP-1検出(北西から)



7. SP-1土層断面(西から)



8. SP-2検出(西から)



1. SP-3 土層断面(南西から)



2. SP-4 遺物出土状況(西から)



3. SP-5 土層断面(南西から)



4. SP-6 土層断面(南西から)



5. SP-7 土層断面(南西から)



6. SP-8 土層断面(南西から)



7. SP-9 土層断面(北西から)



8. SP-10 土層断面(南から)



9. SP-12 土層断面(東から)



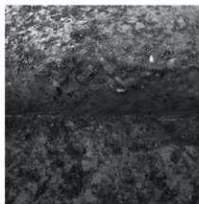
10. SP-13 土層断面(南西から)



11. SP-14 土層断面(南西から)



12. SP-15 土層断面(南西から)



1. SP-17土層断面(西から)



2. SP-18土層断面(南西から)



3. SP-20土層断面(西から)



4. SP-21土層断面(南西から)



5. SP-22土層断面(東から)



6. SP-23土層断面(西から)



7. SP-24土層断面(南西から)



8. SP-25土層断面(南西から)



9. SP-26土層断面(東から)



10. SP-27土層断面(南西から)



11. SP-28土層断面(西から)



12. SP-29土層断面(南から)



1. SP-30土層断面 (南から)



2. SP-31土層断面 (西から)



3. SP-32土層断面 (北から)



4. SP-33土層断面 (南西から)



5. SP-34土層断面 (南西から)



6. SP-35土層断面 (南東から)



7. SP-36土層断面 (西から)



8. SP-37土層断面 (南から)



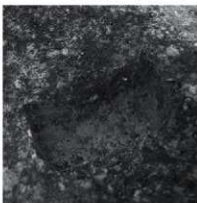
9. SP-38土層断面 (西から)



10. SP-38完掘 (東から)



11. SP-39土層断面 (南西から)



12. SP-40土層断面 (西から)



1. SP-41土層断面(南西から)



2. SP-42土層断面(南西から)



3. SP-43土層断面(北東から)



4. SP-44土層断面(北から)



5. SP-45土層断面(南西から)



6. SP-47土層断面(南西から)



7. SP-48土層断面(西から)



8. SP-49土層断面(東から)



9. SP-50完掘(南西から)



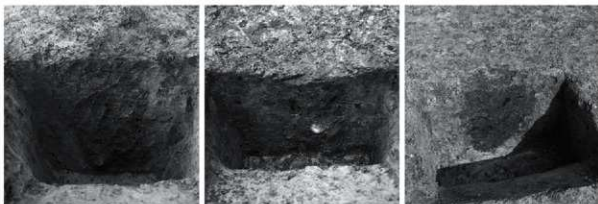
10. SP-51土層断面(北から)



11. SP-53土層断面(南西から)



12. SP-54土層断面(南から)



1. SP-55土層断面(南東から) 2. SP-56土層断面(東から) 3. SP-57土層断面(東から)



4. 石組炉1土層断面(南東から)



5. 石組炉1完掘(南から)



6. 石組炉2検出(南東から)



7. 石組炉3検出(西から)



8. 石組炉3土層断面(西から)



9. 石組炉4土層断面(西から)



1. 石組炉 4 完掘 (北西から)



2. 石組炉 5 完掘 (南西から)



3. 石組炉 6 土層断面 (南西から)



4. 石組炉 6 完掘 (南西から)



5. 石組炉 6 外焼土検出 (南西から)



6. 石組炉 6 外焼土遺物出土状況 (東から)



7. 石組炉 7 遺物出土状況 (西から)



8. 石組炉 8 検出 (西から)



1. 石組炉 8 土層断面 (西から)



2. 石組炉 8 外焼土検出 (南から)



3. 石組炉 8 完掘 (南西から)



4. 石組炉 9 土層断面 (南西から)



5. 石組炉 9 焼土検出 (南西から)



6. F-1 検出 (東から)



7. F-2 土層断面 (東から)



8. F-3 土層断面 (東から)



1. F-4 検出 (南から)



2. F-5 検出 (南から)



3. F-6 土層断面 (南から)



4. F-7 土層断面 (北から)



5. F-8 土層断面 (南から)



6. S-1 土層断面 (南西から)



7. S-2 検出 (南から)



8. S-3 検出 (南西から)



1. S-3土層断面 (西から)



2. S-4検出 (西から)



3. 遺物集中1検出 (西から)



4. 遺物集中3検出 (北から)



5. A・B地区完掘 (西から)



1. C地区表土除去後Ⅱ層上面（南西から）



2. 盛土調査状況（南西から）



1. 盛土F~H66区遺物出土状況（南から）



2. 盛土G・H67区遺物出土状況（南西から）



1. 盛土G・H67区調査状況（北から）



2. 盛土G・H67区調査状況（北西から）



1. 盛土BトレンチG・H67区遺物出土状況（北から）



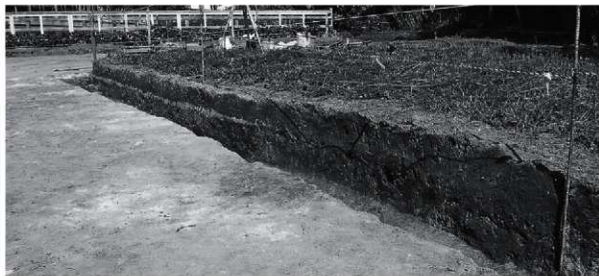
2. 盛土D68・69区遺物出土状況（北西から）



1. 盛土CトレンチF・G65区土層断面（東から）



2. 盛土BトレンチF～H67区土層断面（北から）



3. 盛土BトレンチF・G67区土層断面（南西から）



1. 盛土AトレンチE69区土層断面（南西から）



2. 盛土AトレンチE69・F70区土層断面（西から）



3. 盛土AトレンチF70区土層断面（西から）



1. 盛土E68区遺物出土状況（1）（北から）



2. 盛土E68区遺物出土状況（2）（北から）



3. M3層No.158遺物出土状況（南西から）



4. 盛土調査状況（北西から）



1. M3層No.78遺物出土状況（北から）



2. M3層No.166遺物出土状況（南から）



3. M3層No.126・130遺物出土状況（西から）



4. M3層No.191遺物出土状況（西から）



5. M3層No.131遺物出土状況（南から）



6. M3層No.262遺物出土状況（西から）



7. M3層No.210遺物出土状況（西から）



8. M3層No.77遺物出土状況（北西から）



1. M3層No.261遺物出土状況（南から）



2. M3層礫出土状況（南から）



3. M3層遺物出土状況（南から）



4. D69区M3層遺物出土状況（西から）



5. M5層No.141・145遺物出土状況（南東から）



1. A・B地区完掘（南東から）



2. C地区盛土下完掘（北から）



H-1 出土の土器



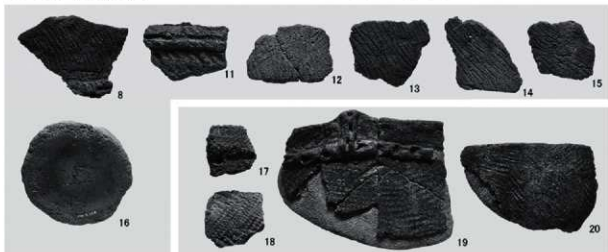
H-2 出土の土器



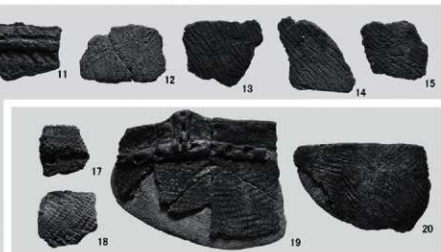
H-3 出土の土器 (1)



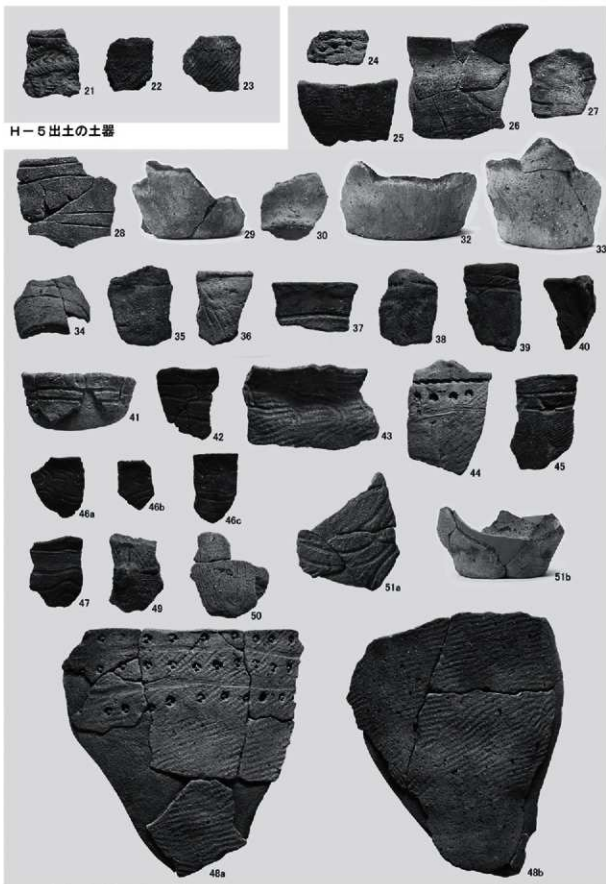
H-3 出土の土器 (2)



H-3 出土の土器 (3)



H-4 出土の土器 (4)



H-5 出土の土器

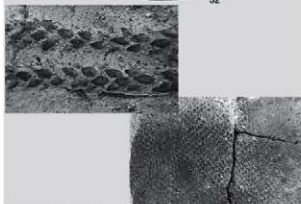
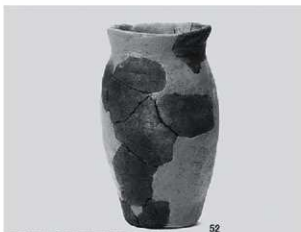
H-7 出土の土器 (1)



H-7出土の土器 (2)



H-7出土の土器 (3)



H-7出土の土器 (4)



H-7出土の土器 (5)



P-14出土の土器



P-12出土の土器



P-17出土の土器 (1)



P-17出土の土器 (2)



P-19出土の土器



P-20出土の土器



P-30出土の土器



P-29出土の土器



SP-47出土の土製品



石組炉 1 出土の土器



69

石組炉 3 出土の土器



70

石組炉 7 出土の土器



71

石組炉 9 出土の土器



74

S-3 出土の土器



72

F-2 出土の土器



73

F-4 出土の土器



75

遺物集中 3 出土の土器 (1)



76

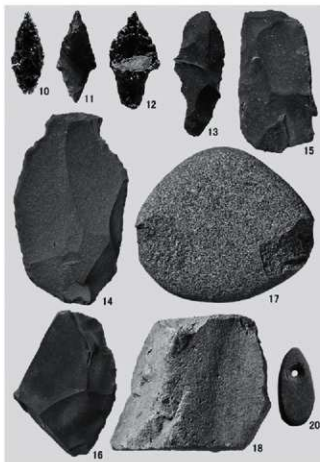
遺物集中 3 出土の土器 (2)



H-1 出土の石器



H-2 出土の石器



H-3 出土の石器 (2)



H-3 出土の石器 (1)



H-4 出土の石器



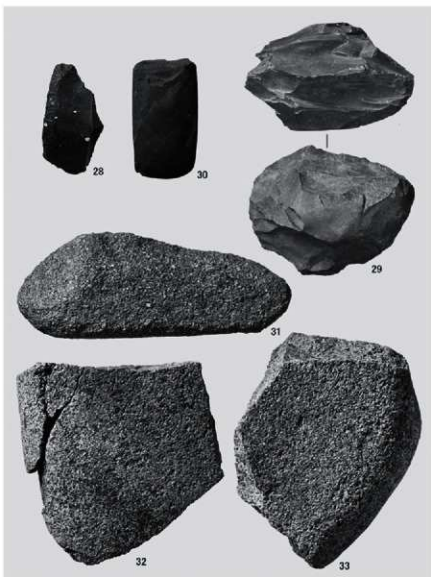
27

H-5出土の石器



34

H-9出土の石器



28

30

29

31

32

33

H-7出土の石器



35

36

H-11出土の石器 (1)



37

H-11出土の石器 (2)



40

SP-16出土の石器



P-9出土の石器



P-14出土の石器



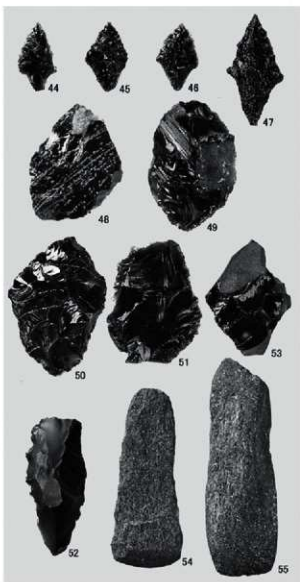
S-3出土の石器



石組炉1出土の石器



石組炉2出土の石器



遺物集中3出土の石器



SP-1



SP-2



SP-3



SP-4



SP-5



SP-6



SP-7



SP-8



SP-9



SP-10



SP-12



SP-13



SP-14



SP-15



SP-16



SP-17



SP-18



SP-19



SP-20



SP-21



SP-22



SP-23



SP-24



SP-25



SP-26



SP-27



SP-28



SP-29



SP-30



SP-31

SP出土の礫(1)



SP-32



SP-33



SP-34・35



SP-36(1)



SP-36(2)



SP-36(3)



SP-36(4)



SP-37



SP-38



SP-39



SP-40



SP-41



SP-42



SP-43(1)



SP-43(2)



SP-43(3)



SP-44(1)



SP-44(2)



SP-44(3)



SP-45



SP-46



SP-47



SP-48



SP-50



SP-53



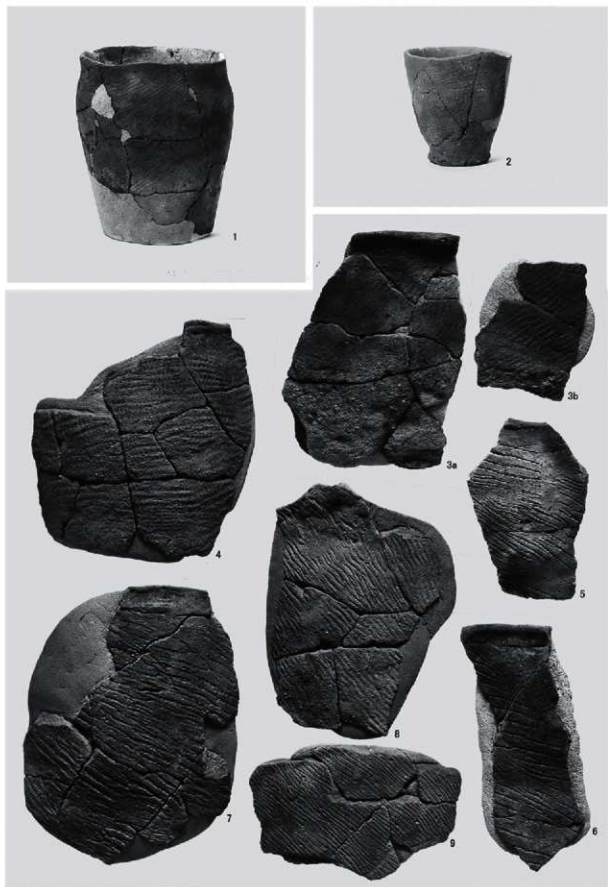
SP-54



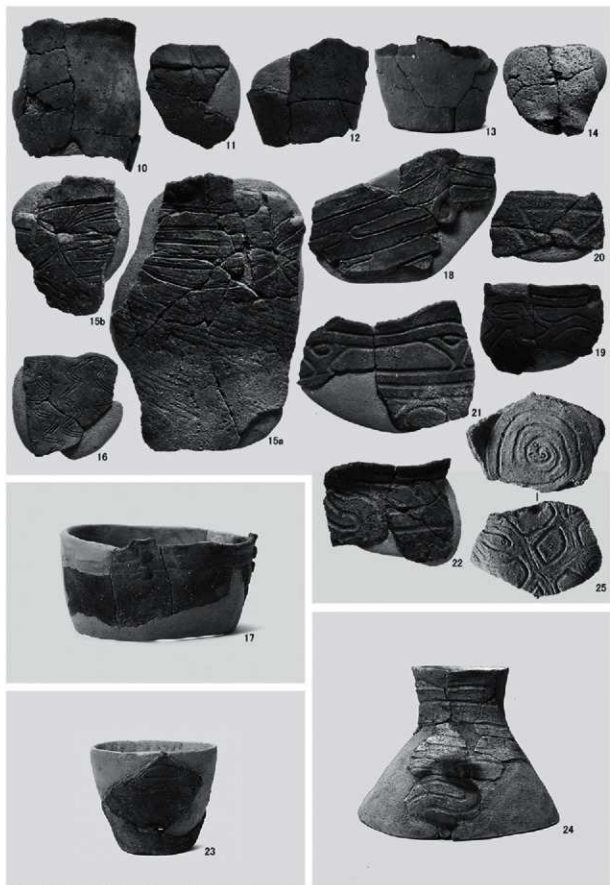
SP-55



SP-56



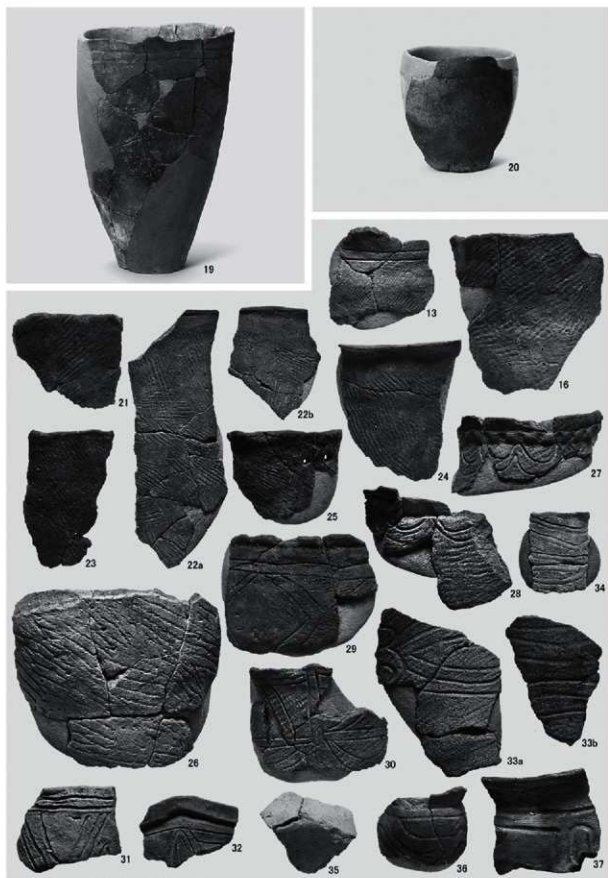
盛土 (M1) 層出土の土器 (1)



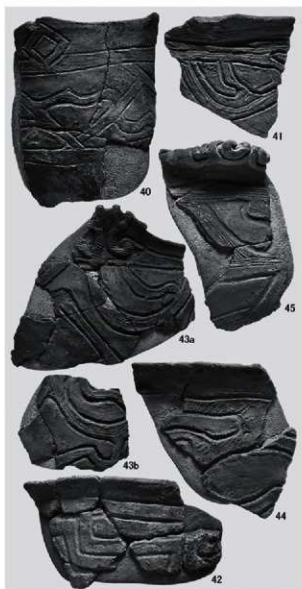
盛土 (M1) 層出土の土器 (2)



盛土 (M2) 層出土の土器 (1)



盛土 (M2) 層出土の土器 (2)



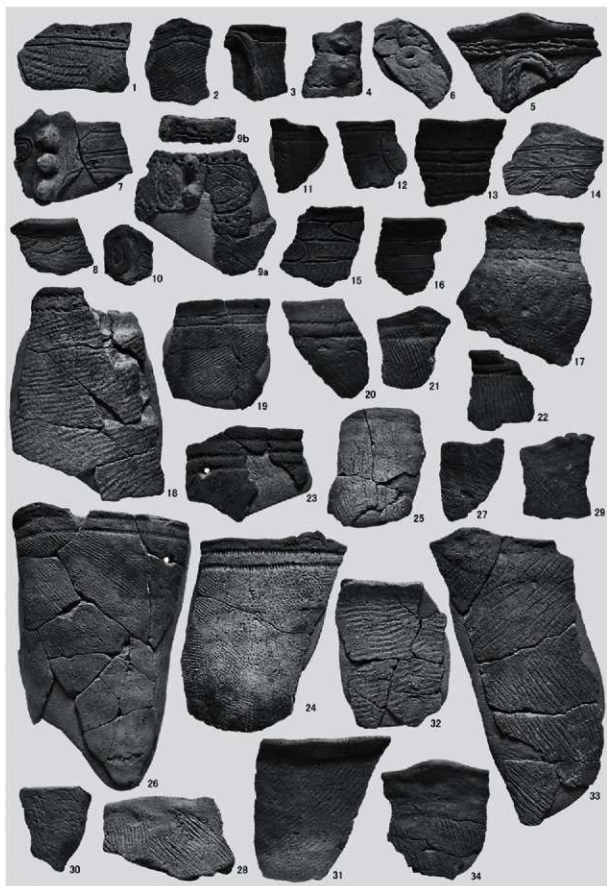
盛土 (M2) 層出土の土器 (3)



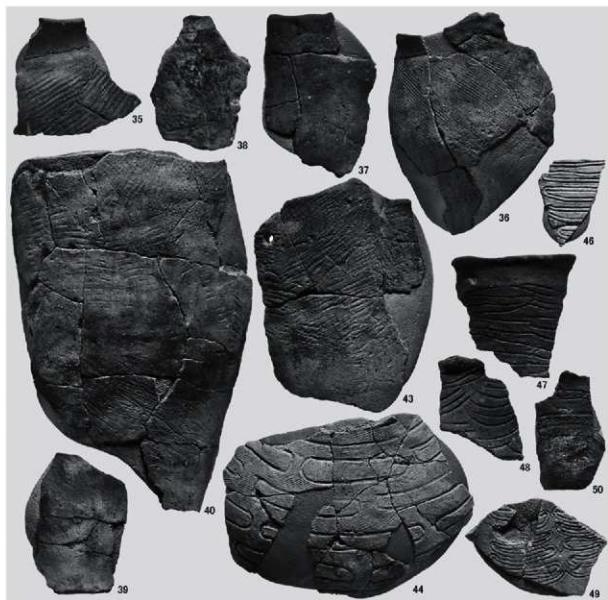
盛土 (M2) 層出土の土器 (4)



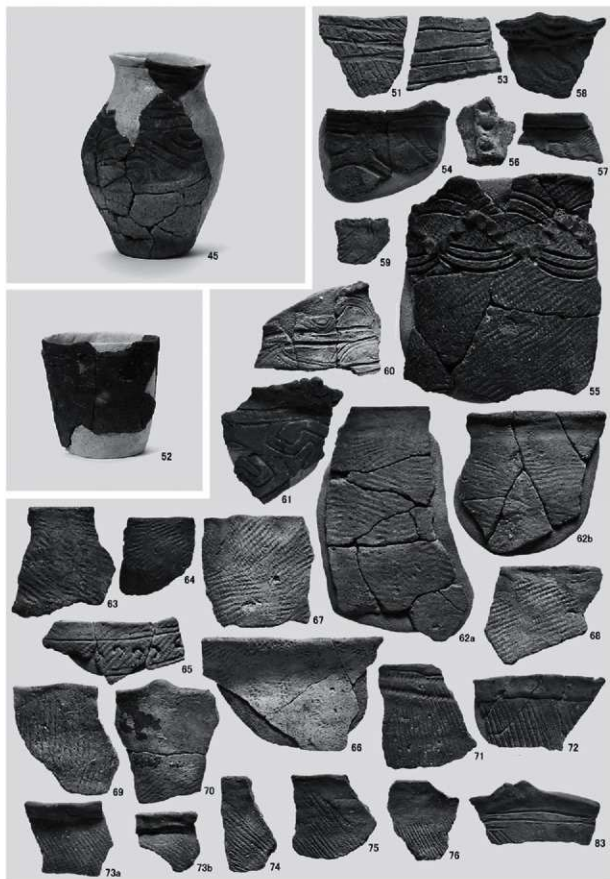
盛土 (M2) 層出土の土器 (5)



盛土 (M3) 層出土の土器 (1)



盛土 (M3) 層出土の土器 (2)



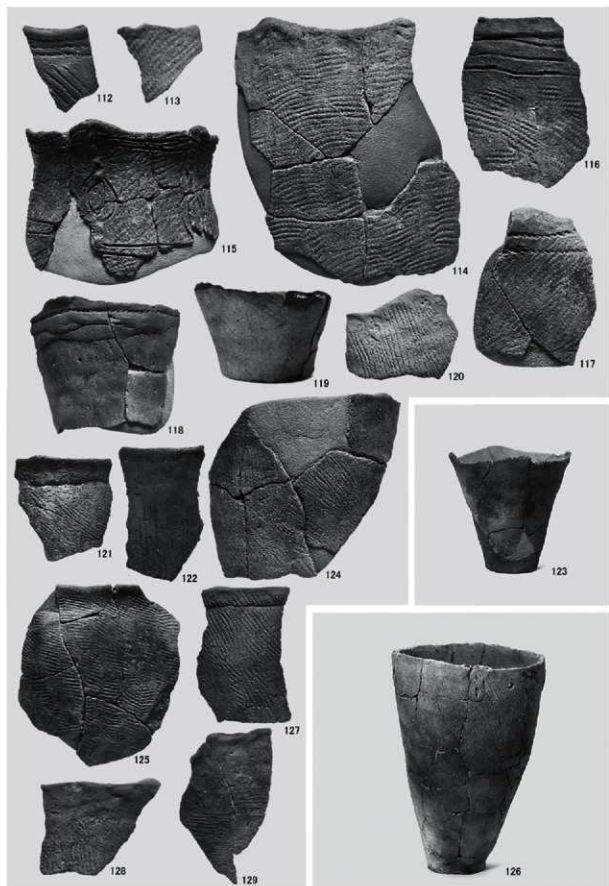
盛土 (M3) 層出土の土器 (3)



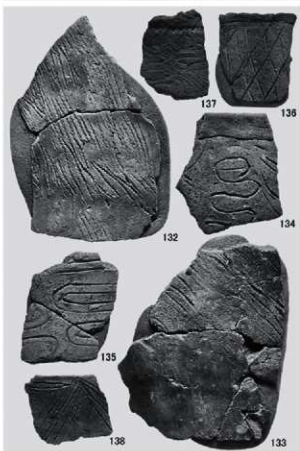
盛土 (M3) 層出土の土器 (4)



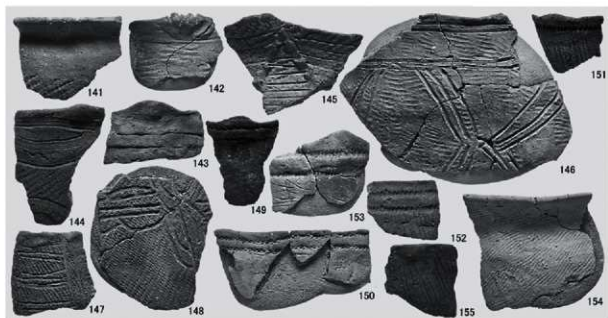
盛土 (M3) 層出土の土器 (5)



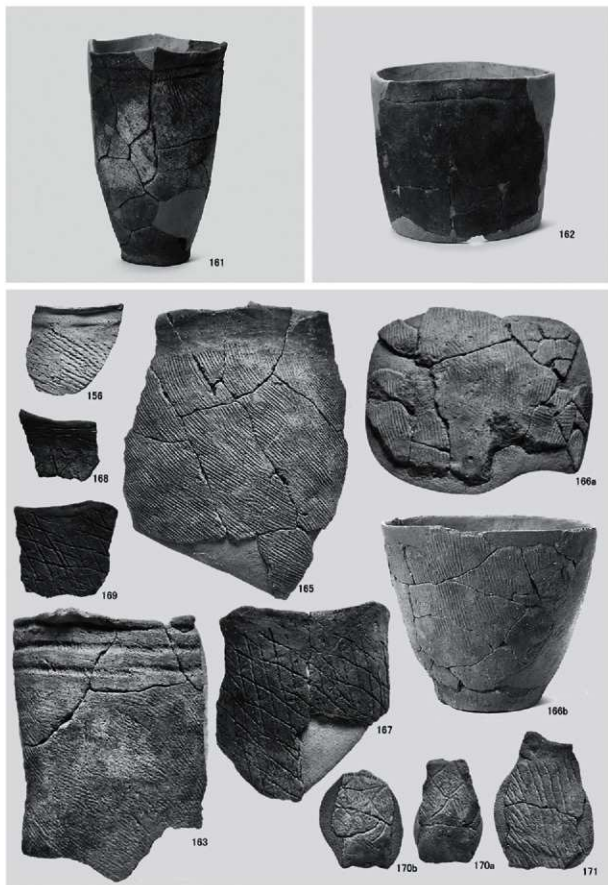
盛土 (M3) 層出土の土器 (6)



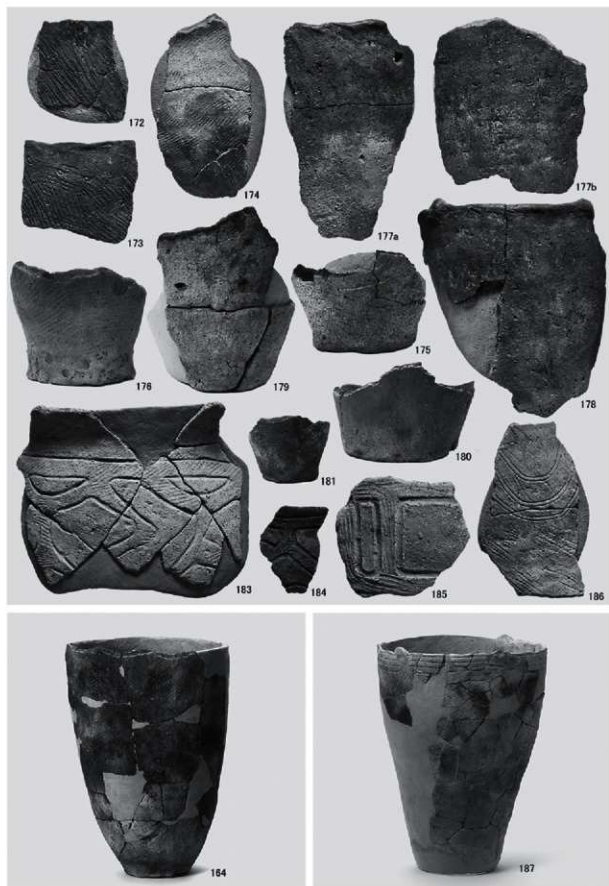
盛土 (M3) 層出土の土器 (7)



盛土 (M3) 層出土の土器 (8)



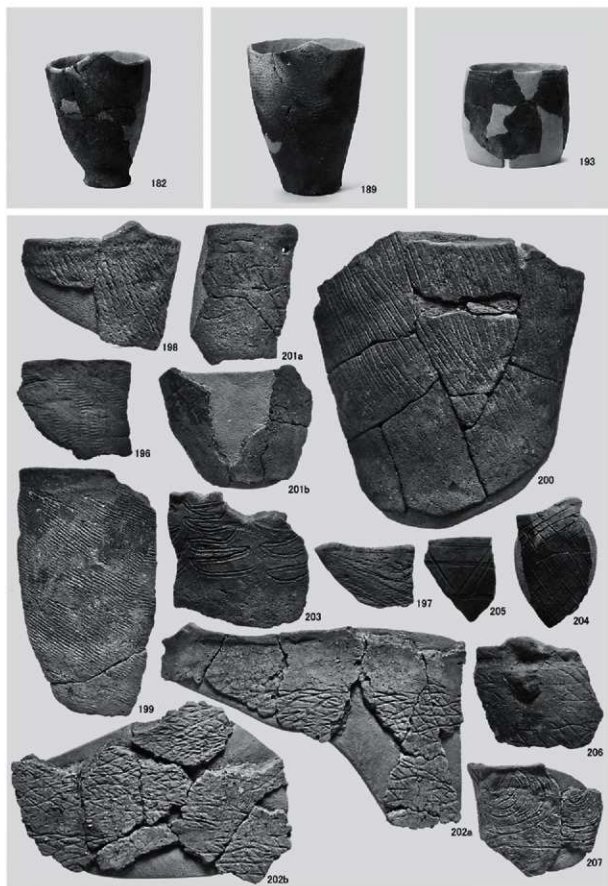
盛土 (M3) 層出土の土器 (9)



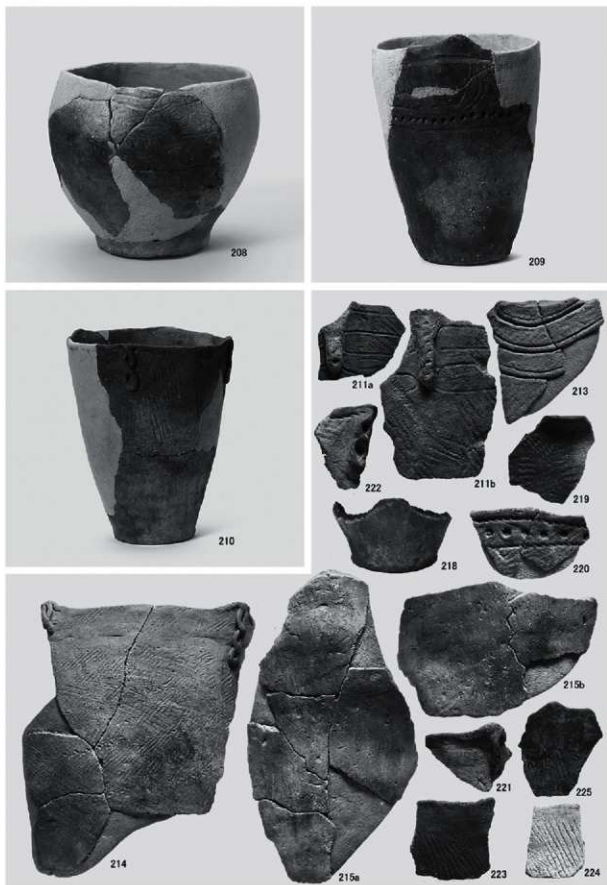
盛土 (M3) 層出土の土器 (10)



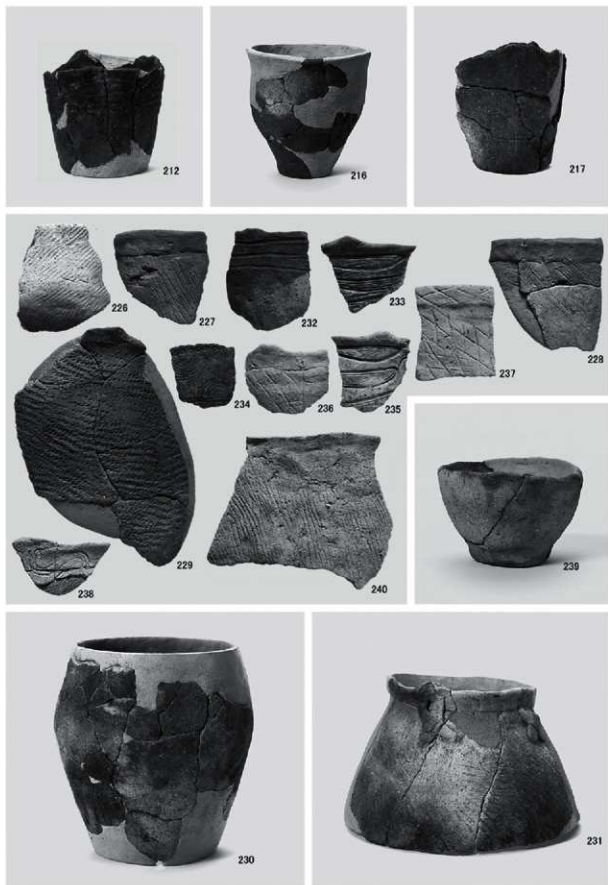
盛土 (M3) 層出土の土器 (11)



盛土 (M3) 層出土の土器 (12)



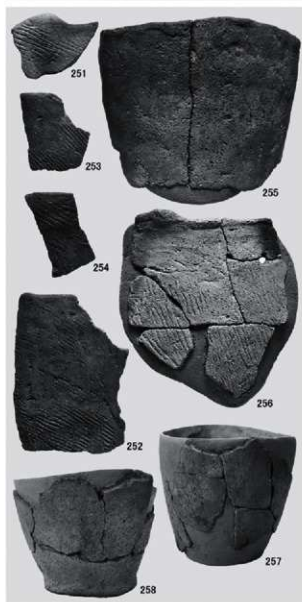
盛土 (M3) 層出土の土器 (13)



盛土 (M3) 層出土の土器 (14)



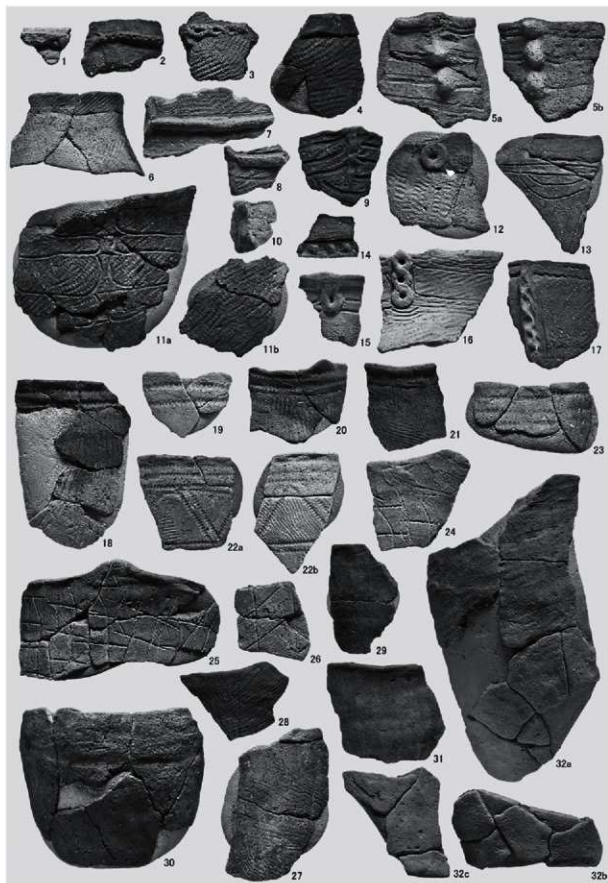
盛土 (M3) 層出土の土器 (15)



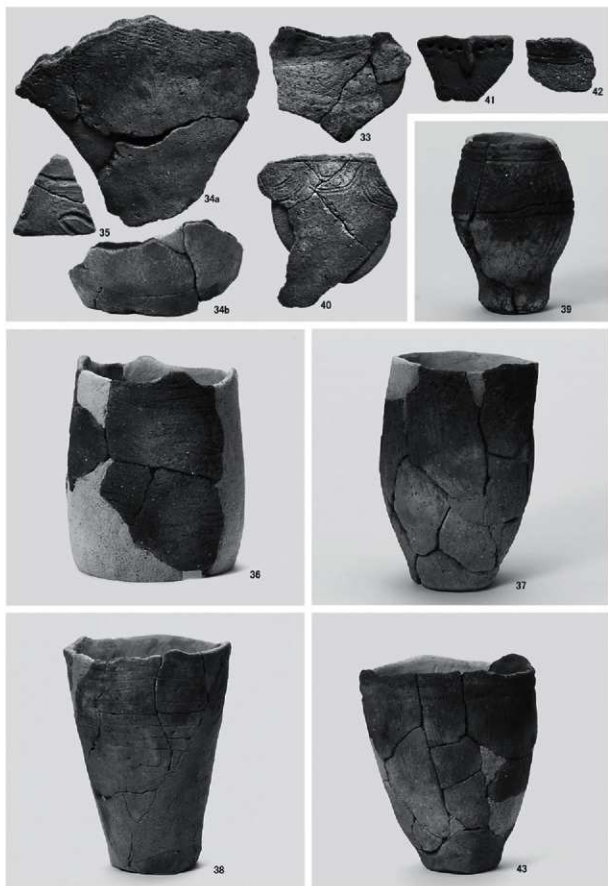
盛土 (M3) 層出土の土器 (16)



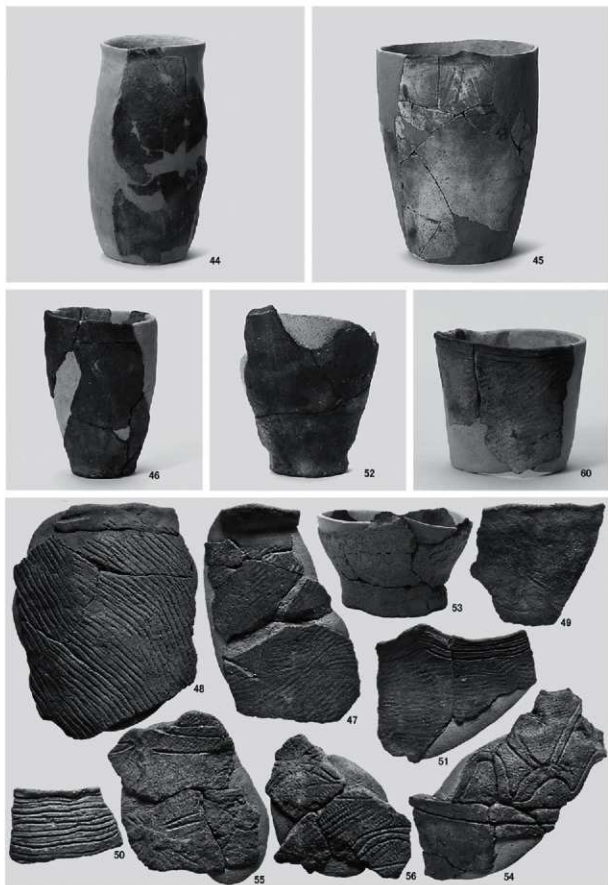
盛土 (M3) 層出土の土器 (17)



盛土 (M4) 層出土の土器 (1)



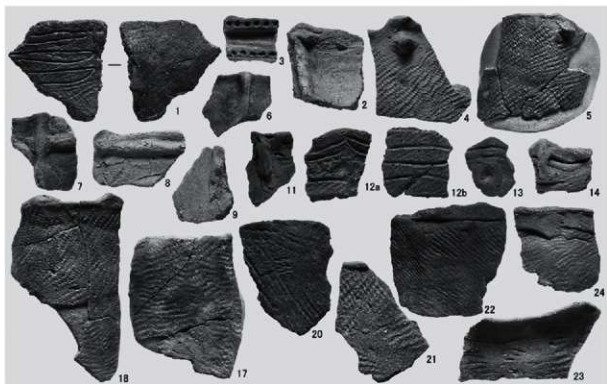
盛土 (M4) 層出土の土器 (2)



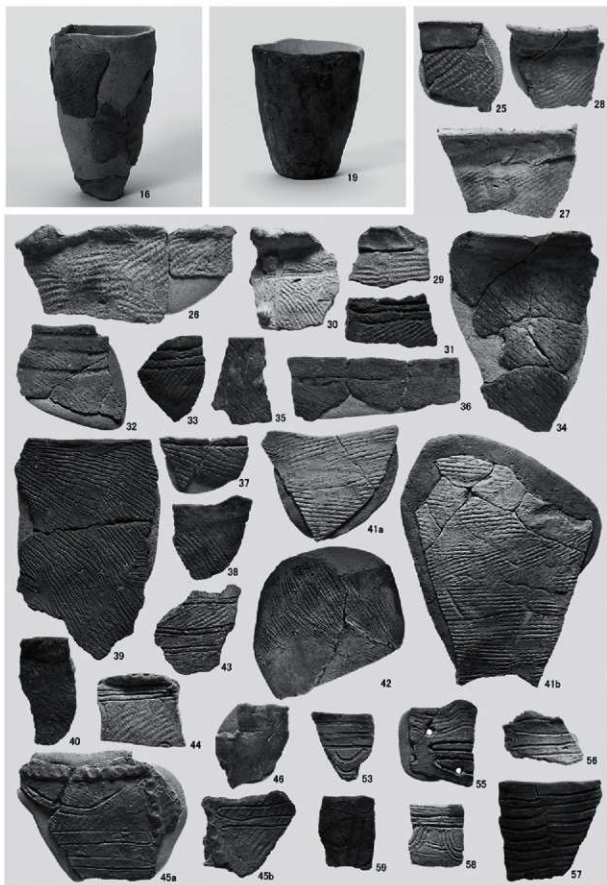
盛土 (M4) 層出土の土器 (3)



盛土 (M4) 層出土の土器 (4)



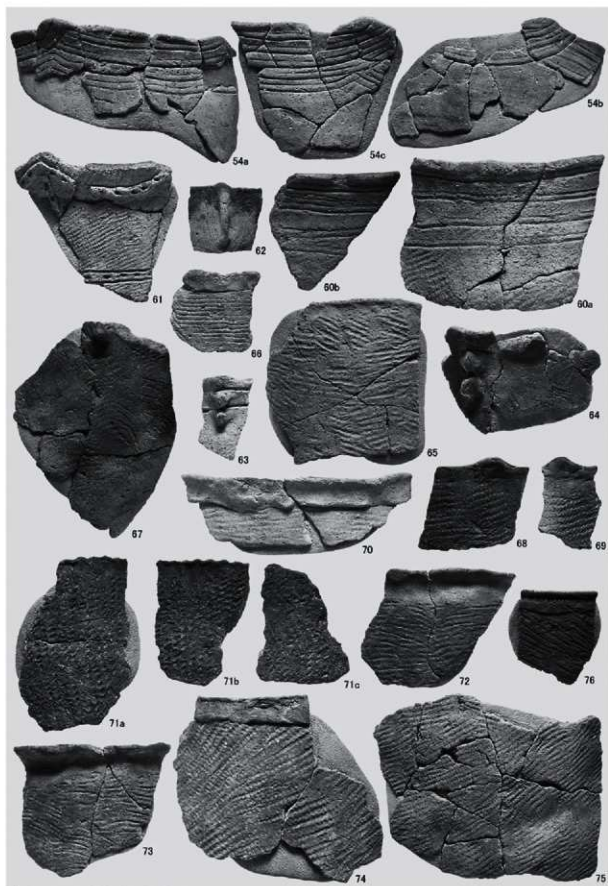
盛土 (M5) 層出土の土器 (1)



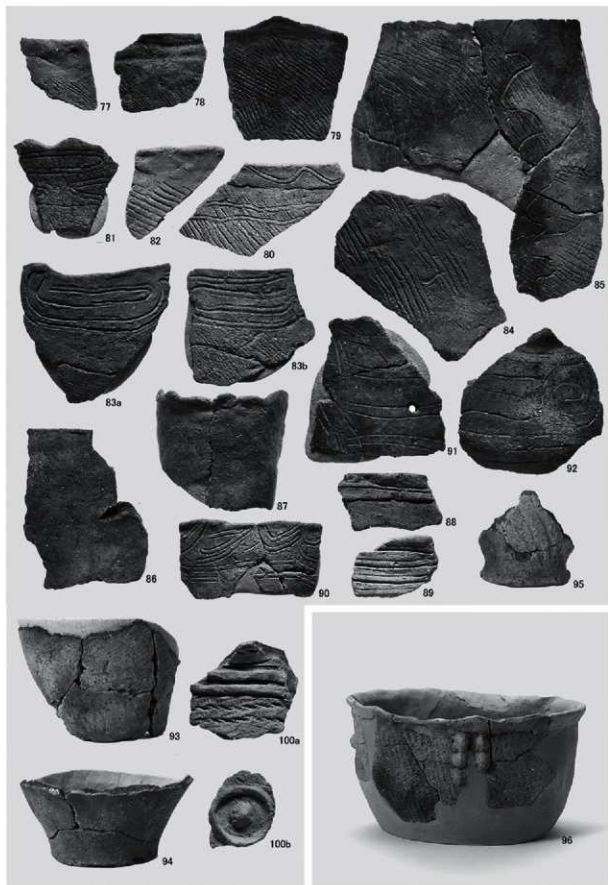
盛土 (M5) 層出土の土器 (2)



盛土 (M5) 層出土の土器 (3)



盛土 (M5) 層出土の土器 (4)



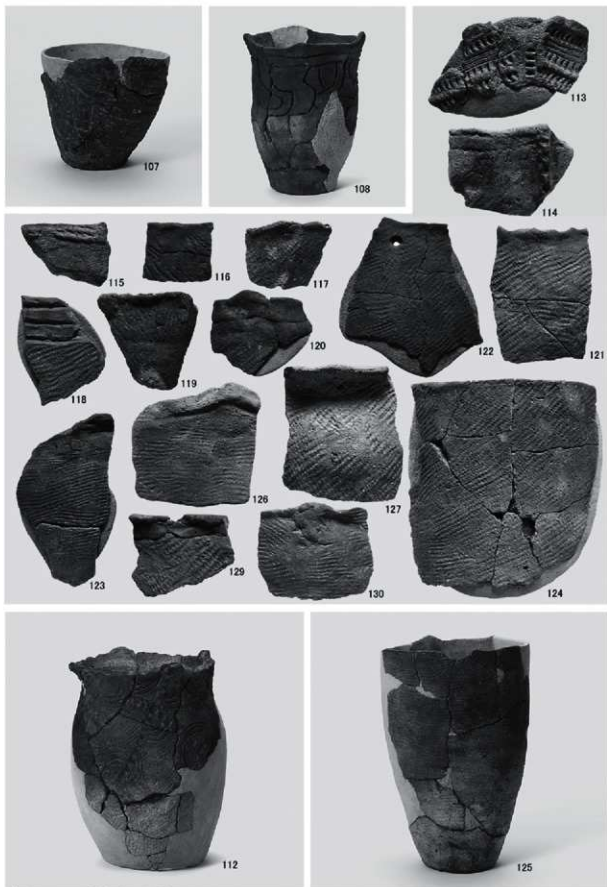
盛土 (M5) 層出土の土器 (5)



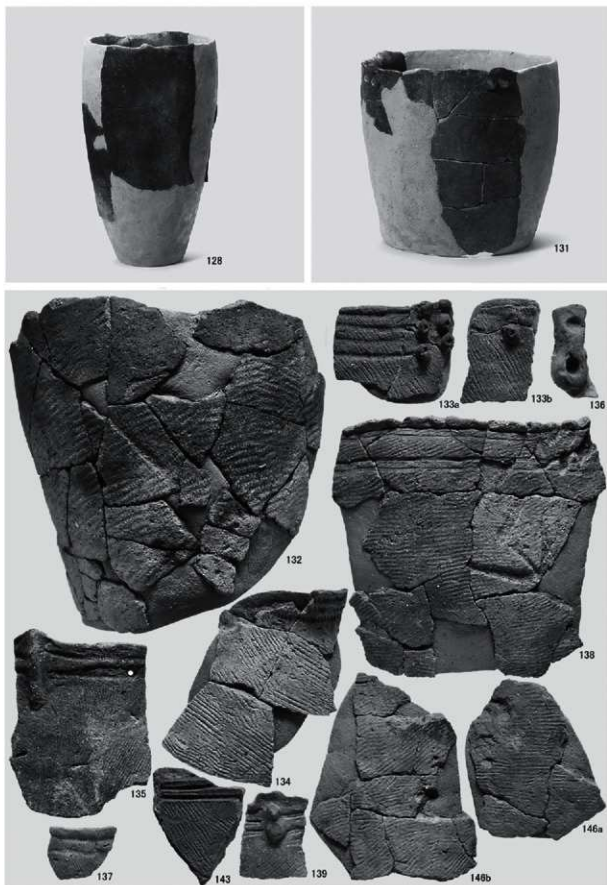
盛土 (M5) 層出土の土器 (6)



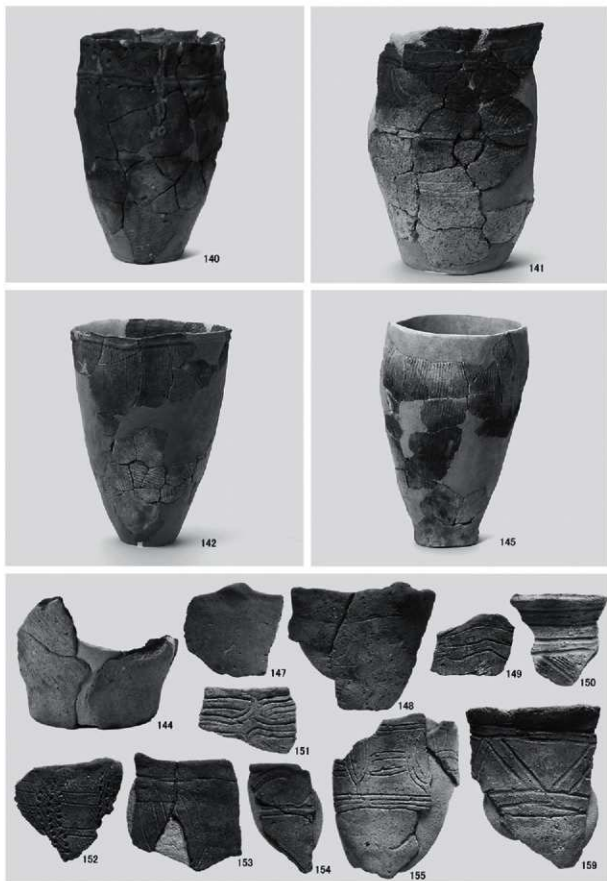
盛土 (M5) 層出土の土器 (7)



盛土 (M5) 層出土の土器 (8)



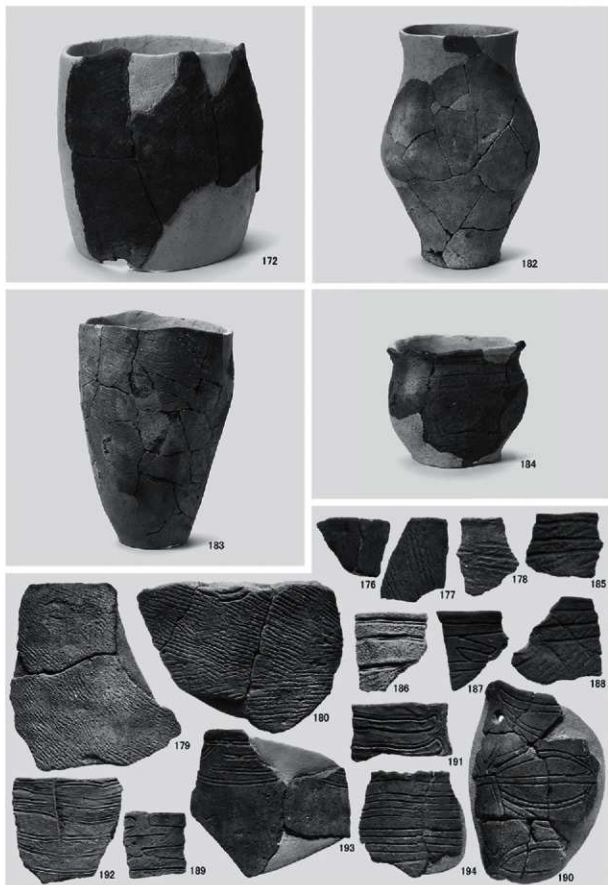
盛土 (M5) 層出土の土器 (9)



盛土 (M5) 層出土の土器 (10)



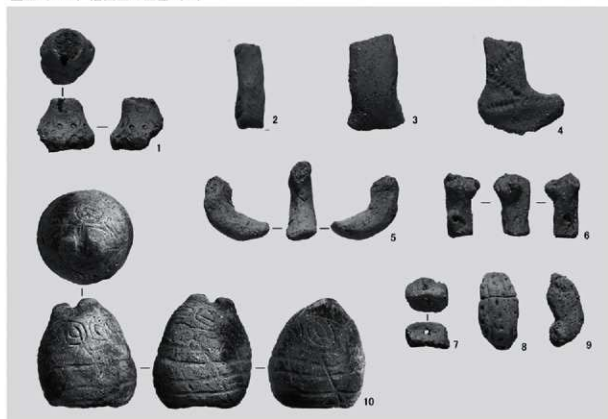
盛土 (M5) 層出土の土器 (11)



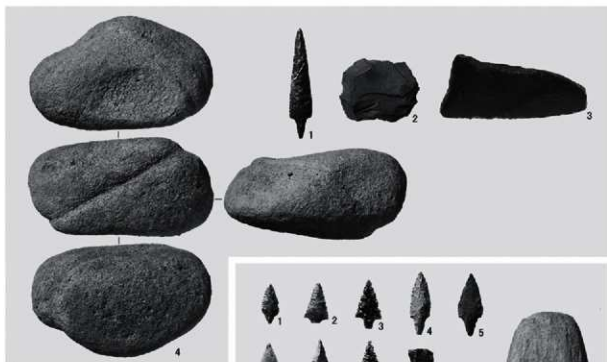
盛土 (M5) 層出土の土器 (12)



盛土 (M5) 層出土の土器 (13)



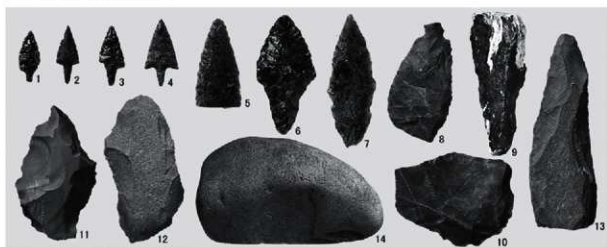
盛土層出土の土製品



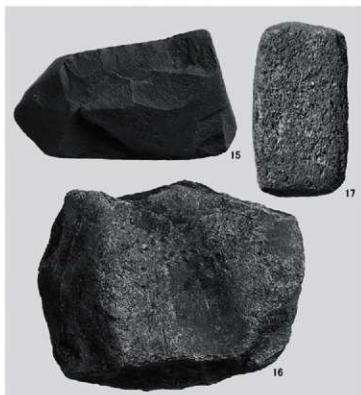
盛土 (M1) 層出土の石器



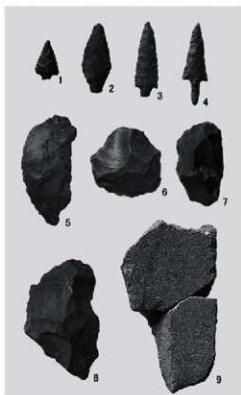
盛土 (M2) 層出土の石器



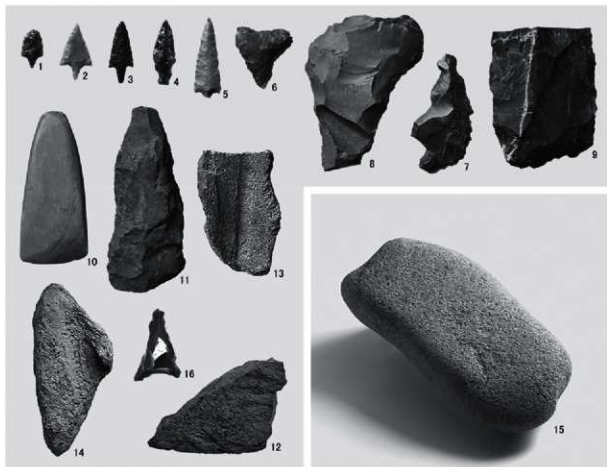
盛土 (M3) 層出土の石器 (1)



盛土 (M3) 層出土の石器 (2)



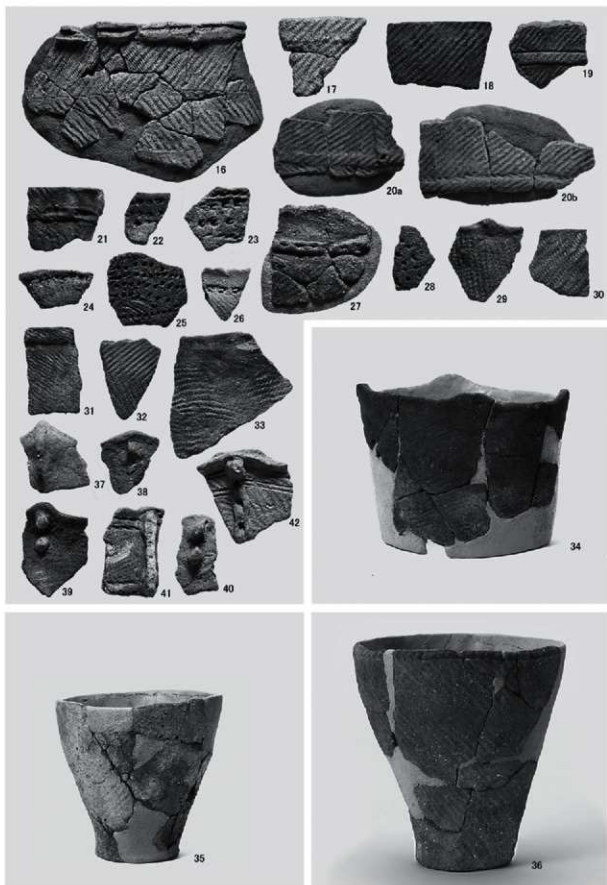
盛土 (M4) 層出土の石器



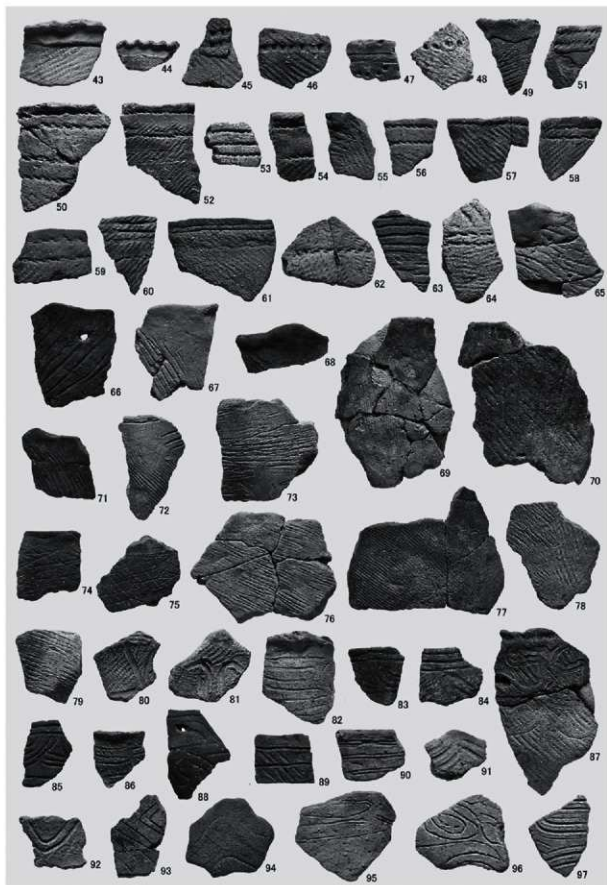
盛土 (M5) 層出土の石器



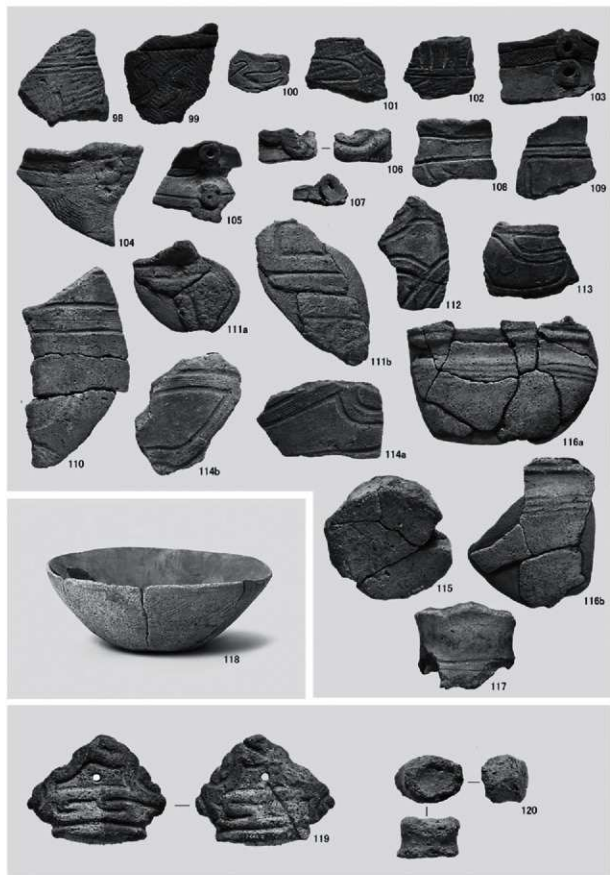
包含層出土の土器（1）



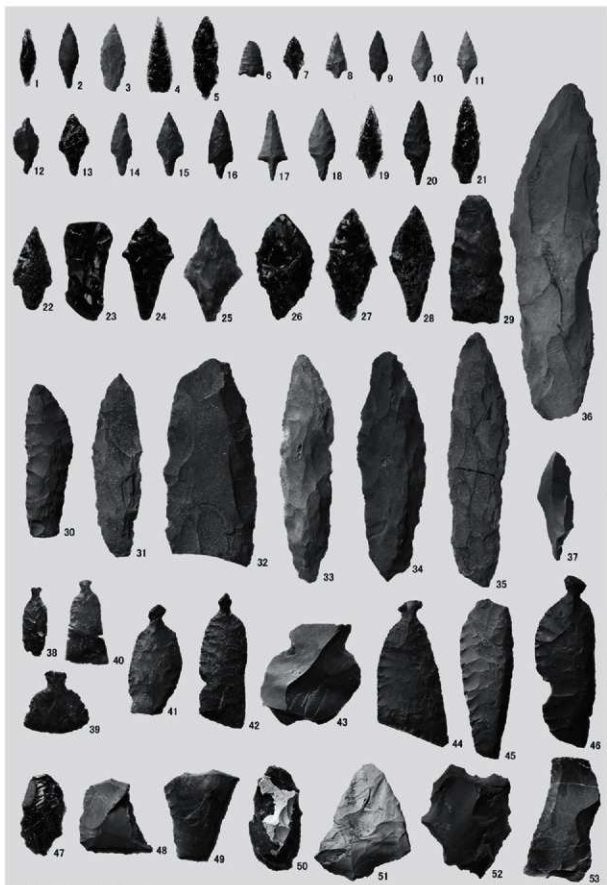
包含層出土の土器（2）



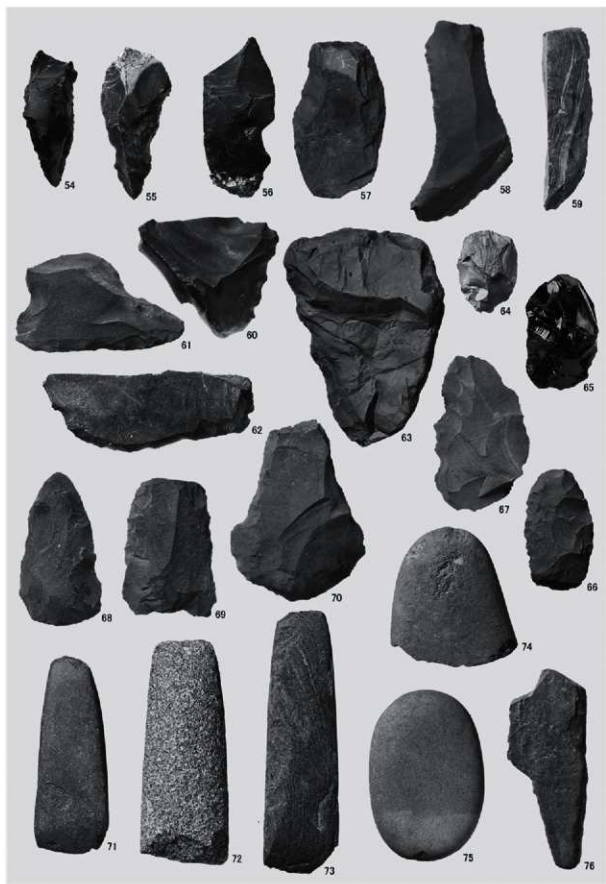
包含層出土の土器 (3)



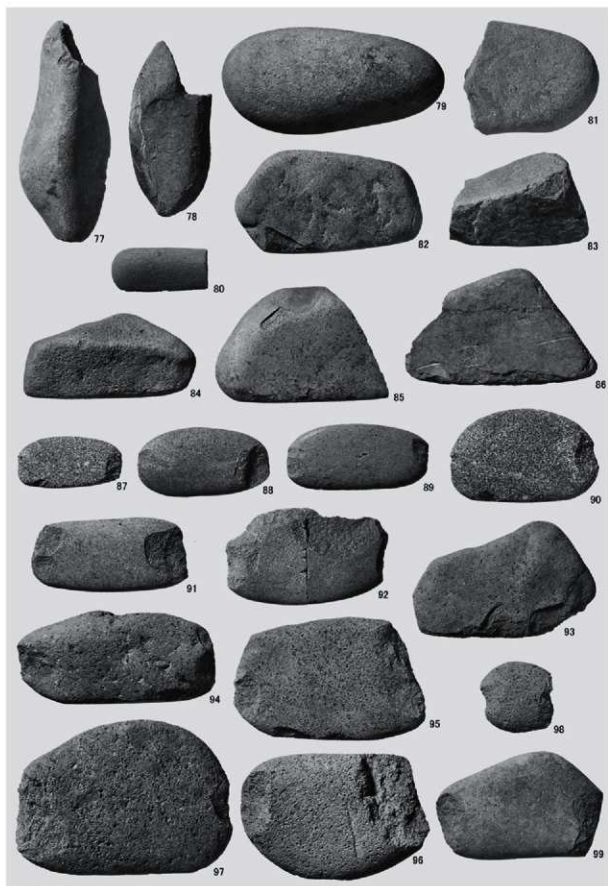
包含層出土の土器(4)・土製品



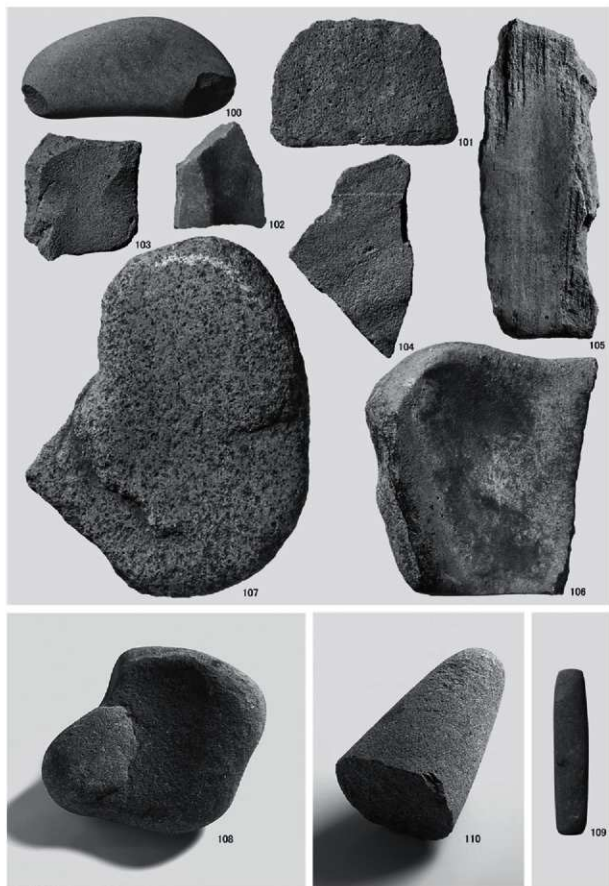
包含層出土の石器 (1)



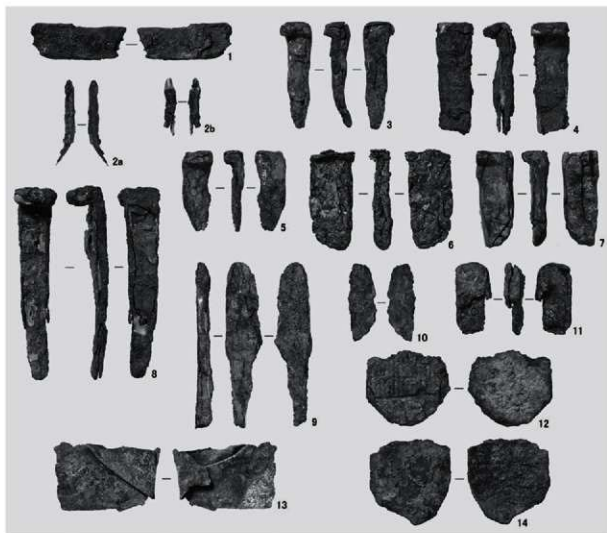
包含層出土の石器 (2)



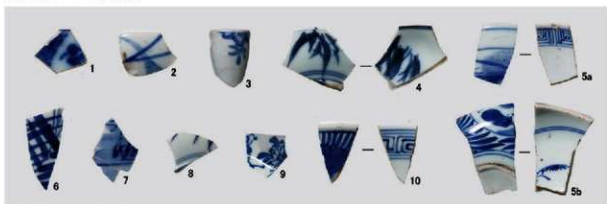
包含層出土の石器 (3)



包含層出土の石器（4）



包含層出土の金属製品



包含層出土の陶磁器

報告書抄録

ふりがな	せたなちょうたいせいく みやこいせき							
書名	せたな町大成区 都遺跡							
副書名	道道北檜山大成線（地交-68）工事埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	（公財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北理調報）							
シリーズ番号	第314集							
編著者名	笠原 興・新家水奈・佐藤 剛							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター（ http://www.domaibun.or.jp ）							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行年月日	平成27（西暦2015）年3月27日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	(M50)				
みやこいせき 都 遺跡	ほっかいどう 北海道 くしろ市 久遠郡 せたな町 大成区上浦 175-3番地外	01371	C-06-10	42° 13' 44"	139° 48' 51"	20120705 ～ 20121109	2,895㎡	道道北檜 山大成線 工事に伴 う事前調 査
種 別	集落跡							
主な時代	縄文時代中期前葉～後期前葉							
主な遺構	竪穴住居跡11軒、土坑32基、柱穴様小土坑57基、石組炉跡9か所、焼土8か所、配石・集石4か所、遺物集中3か所、盛土遺構							
主な遺物	縄文時代後期前葉（涌元式、トリサキ式、大津式ほか）の土器・石器等							
要 約								
<p>都遺跡は渡島半島西部せたな町大成区の高成段丘上に立地し、日本海に注ぐ笠島の沢川左岸の標高約27～30mにある。本報告は平成24年度に現地調査を行った2,895㎡を対象としている。</p> <p>検出した遺構は竪穴住居跡11軒、土坑32基、柱穴様小土坑57基、石組炉跡9か所、焼土8か所、配石・集石4か所、遺物集中3か所、盛土遺構が1か所である。出土した遺物の合計は237,007点を数え、内訳は土器等83,198点、石器等153,544点、その他265点である。時期は縄文時代中期前葉から後期前葉にかけてのものである。このうち、盛土遺構から出土した縄文時代後期前葉の遺物が99,316点を占めている。盛土遺構の形成は、涌元式からトリサキ式、大津式期にかけての所産である。石器は石織や扁平打製石器、台石・石皿が多く出土している。包含層から出土した縄文時代早期の中茶路式土器に伴うつまみ付ナイフは特徴的である。剥片石器に用いられる石材は頁岩が多く、黒曜石も渡島・檜山地域の中では比較的多く出土し、道東を原産地としたものも含まれていた。</p>								

(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第314集

みやこ
せたな町 大成区 都 遺跡

—道道北檜山大成線（地交-68）工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成27年3月27日 発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238
E-mail mail@domaibun.or.jp
URL <http://www.domaibun.or.jp>

印刷 株式会社 須田製版
〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1番8号
TEL (011) 621-1000 FAX (011) 621-1500

